

2015

教育要項

(医学科)

香川大学医学部

目 次

香川大学医学部の基本理念	1
教育目標・人材養成上の目的	1
香川大学医学部履修要項	2
香川大学医学部医学科編入学生の在学期間の通算等の取扱いに関する要項	23
香川大学医学部開設科目に係る欠席取扱い申合せ	35
附属病院における実習中の学生の針刺し等汚染事故発生時の対応について	43
平成27年度行事予定表	44
平成27年度授業時間割表(1～6年次生用)	46

シラバス

1年次生

医用物理学	57
医用化学Ⅰ	59
医科生物学	61
微分積分学	64
医用統計学	66
医療心理学	68
医学概論	70
早期体験学習	73
早期医学実習Ⅰ	75
医療プロフェッショナルリズムの実践Ⅰ	77
国際交流活動	81
医療と法規	83

2年次生

医用化学Ⅱ	87
細胞生物学	89
自然科学実習(物理学)	91
自然科学実習(化学)	93
自然科学実習(生物学)	95
分子遺伝学	97
分子生物学	99
医療プロフェッショナルの実践Ⅱ	101
解剖学Ⅰ	104
解剖学Ⅱ	111
生理学Ⅰ	117
生理学Ⅱ	121
生化学	126
Communicative English Ⅲ(全学共通科目)	130
早期医学実習Ⅱ	134

3年次生

医療心理学	137
医学英語	139
解剖学Ⅰ	141
内分泌学	145
病理学Ⅰ	148
病理学Ⅱ	151
免疫学	154
薬理学	158
微生物学	162
医動物学	165
臨床総論講義	168
症候論	172
消化器ユニット	175
神経筋骨格ユニット	181
精神神経ユニット	186
内分泌代謝ユニット	192
麻酔・救急ユニット	197
放射線ユニット	200
課題実習	203
Advanced English (全学共通科目)	205

4年次生

臨床英語	209
衛生学	211
公衆衛生学	215
法医学	220
循環器系、腎・尿路系 (unit3)	224
生理・薬理実習	238
感染症、血液・造血器・リンパ系、免疫・アレルギー疾患 (unit4)	242
呼吸器系 (unit5)	250
生殖機能、妊娠と分娩、乳房、成長と発達 (unit7)	256
皮膚系、眼・視覚系、耳鼻・咽喉・口腔系 (unit8)	262
臨床総論講義	272

5年次生

児童精神医学Ⅱ	277
臨床病理検討会	279
医療管理学・診断学	281
地域医療実習	284
医学実習Ⅰ	285

6年次生	
医学実習Ⅱ	287
医療総合講義	288

講義・実習時間割表

1年次生	294
2年次生	299
3年次生	313
4年次生	327
5年次生	342
6年次生	357

香川大学医学部の基本理念

- 1 世界に通ずる医学及び看護学の教育研究を目指す。
- 2 人間性の豊かな医療人並びに医学及び看護学の研究者を養成する。
- 3 医学及び看護学の進歩並びに人類の福祉に貢献すると共に地域医療の充実発展に寄与する。

教 育 目 標

- 1 医学に関する問題を的確に把握し、その問題を自主的、積極的かつ総合的に解決するために必要な基本的知識及び基本的技術を修得する。
- 2 生涯を通じて自己学習する基本的態度・習慣を身につけ、自らを正しく評価できる客観的判断能力を養う。
- 3 医療を単に疾病の治療として把握するにとどまらず、予防・リハビリテーションをも含む包括的なものとしてとらえ、その背景にある精神的・社会的諸問題と関係づけて考える総合的な視野を養う。

人 材 養 成 上 の 目 的

- 1 幅広い教養と高い倫理観を備えた人間性豊かな医師・医学研究者を育成する。
- 2 自ら課題を探求し、それを解決できる高度な専門知識と技術、科学的思考力、判断力をもった医師・医学研究者を育成する。
- 3 地域に根ざした医療人として地域医療に貢献し、かつ地域における医学・医療の中核としての指導的役割を担うことのできる医師・医学研究者を育成する。
- 4 国際交流や国際貢献のための幅広いコミュニケーション能力と国際的視野を持った医師・医学研究者を育成する。

香川大学医学部履修要項

(趣旨)

第1 この要項は、香川大学学則(以下「学則」という。)、香川大学医学部規程及び香川大学追試験及び再試験に関する規則に定めるもののほか、履修に関し必要な事項を定める。

(授業科目等)

第2 開設する授業科目、単位数及び履修年次は、医学科にあつては別表1、看護学科にあつては別表2のとおりとする。ただし、必要がある場合には教授会の議を経て、各年次配当及び単位数を変更することがある。

(授業科目の履修)

第3 授業科目は、原則として別表1及び別表2に定める年次配当順に履修するものとする。

2 学生は、別表1又は別表2に掲げる授業科目を履修しようとするときは、履修届を所定の期日までに総務課学務室(以下「学務室」という。)に提出しなければならない。

3 前項の履修届を提出したのち、履修すべき授業科目の変更又は取消しをする場合は、履修科目変更(取消)届を所定の期日までに学務室に提出しなければならない。

4 医学科の学生は、臨床実習開始前の学生評価のための共用試験(CBT 及び OSCE) (以下「共用試験」という。)に合格し、一般社団法人全国医学部長病院長会議から Student Doctor に認定されなければ、医学実習 I 及び医学実習 II を履修できない。

(単位の認定)

第4 履修した授業科目については、試験又はその他の審査を行い、合格した科目について所定の単位を認定する。また、2学年以上にまたがる科目については、それぞれ履修途中における学年末に履修段階判定を行うことがある。

(試験)

第5 試験は、定期試験、追試験及び再試験とする。

2 定期試験は、原則として学期末に一定の期間を定めて行う。

3 追試験は、定期試験終了後に、再試験は、定期試験及び追試験終了後に期間を定めて行う。

4 前2項に定める試験のほか、担当教員は学習成果の評価を随時に行うことができる。

5 医学科の学生は、学部開設科目の講義については時間数の3分の2以上、実験及び実習については原則としてすべて出席しなければその授業科目の試験を受けることができない。

6 看護学科の学生は、学部開設科目の講義及び演習については3分の2以上、臨地実習については5分の4以上出席しなければその授業科目の試験を受けることができない。

7 次の各号のいずれかの事由により定期試験に欠席した者に対しては、追試験を行う。

(1) 天災その他の非常災害(事由書添付)

(2) 交通機関の突発事故(事由書添付)

(3) 負傷又は疾病(医師の診断書添付)

(4) 3親等内の親族の死亡による忌引き(事由書添付)

(5) 就職試験の受験(事由書添付)

(6) その他医学部長が相当と認める事由(事由書添付)

8 前項による追試験の許可を受けようとする者は、欠席した試験が行われた日の翌日から起算して7日以内に、前項各号に掲げる書類を添えて医学部長に願い出なければならない。

9 再試験は、定期試験又は追試験を受験し、不合格になった場合、願い出により科目担当教員の承認を得て受けることができる。

(成績の評価)

第6 成績の評価は、次表のとおりの評点及び評語をもって表し、秀、優、良又は可を合格、不可を不合格とする。

評点	評語
90点以上	秀
80点以上 90点未満	優
70点以上 80点未満	良
60点以上 70点未満	可
60点未満	不可

ただし、医学実習Ⅱ、課題実習、早期医学実習、国際交流活動はこれらの評点及び評語によらず合格のときは了と評価することができる。

- 2 再試験の評価は、可を限度とする。
- 3 2か年以上の年次にわたって開講する科目については、その途中の各年次ごとに合又は否の履修段階判定を行うことができる。

(医学科の履修段階判定及び進級判定)

- 第7 1年次末において、当該年次に履修すべき授業科目等に不合格となった授業科目がある場合は、2年次に進級できない。ただし、不合格科目が全学共通科目のみのときは進級できる。
- 2 2年次末において、当該年次に履修すべき授業科目等に不合格となった授業科目がある場合は、3年次に進級できない。ただし、不合格科目が全学共通科目のみのときは進級できる。
 - 3 3年次末において、当該年次に履修すべき授業科目等に不合格又は否となった授業科目がある場合は、4年次に進級できない。全学共通科目についても、所定の単位以上修得していない場合は進級できない。
 - 4 4年次末において、当該年次に履修すべき授業科目等に不合格若しくは否となった授業科目がある場合、又は共用試験に不合格となった場合は、5年次に進級できない。
 - 5 5年次末において、当該年次に履修すべき授業科目等に不合格若しくは否となった授業科目がある場合は、6年次に進級できない。

(看護学科の進級判定)

第8 各学年次末において、該当学年次末までに履修しなければならない必修科目について、不合格となった授業科目がある場合は進級できない。ただし、1年次末において、全学共通科目は進級判定から除くものとし、2年次末までに修得しなければならない。

- 2 3年次末において、1年次から3年次までに履修しなければならない選択科目について、所定の単位以上修得していない場合は進級できない。
- 3 3年次編入学生については、前2項の規定は適用しない。

(成績の認定)

第9 成績の総合認定は、教授会において審議する。

(再履修)

第10 1、2、3、4、5年次に留め置かれた場合は、不合格又は否となった授業科目(実習を含む。)を再履修するものとする。ただし、選択科目については該当する授業科目のうちから再履修するものとする。

- 2 前項の再履修の方法は、担当教員の指示による。

(聴講)

第11 既に合格となった授業科目の聴講を希望する者は、当該授業科目担当教員に聴講願を出して、許可を得た上で講義を聴講することができる。

なお、聴講できる授業科目は、聴講する学生の該当する学年次以下において開講されている授業科目とする。

(試験における不正行為)

第12 試験において不正行為があったときは、教授会の議を経て次のとおり措置する。

- (1) 不正行為があった学期のすべての授業科目の成績を無効とし、原級に留め置く。
- (2) 不正行為について反省が認められない場合は、(1)の措置に加えて、学則第84条により懲戒する。

(その他)

第13 その他この履修要項の定めにより処理し難い事項及び不合理な事例が生じた場合は、学務委員会の議を経て処理する。

附 則

- 1 この要項は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 平成15年9月30日に香川医科大学(以下「旧香川医科大学」という。)に在学し、かつ平成16年3月31日に旧香川医科大学に在学する者(以下「在学者」という。)及び在学者の属する年次に編入学等する者が在学しなくなるまでの間、旧香川医科大学を卒業するために必要とされる教育課程その他教育に必要な事項は、旧香川医科大学の医学部規程その他の規程等の

定めるところによる。

附 則

この要項は、平成17年3月1日から施行する。ただし、改正後の要項第14及び別表1については、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成21年4月1日から施行する。ただし、平成21年3月31日以前に入学した学生については、なお従前の例による。

附 則

この要項は、平成21年10月21日から施行する。

附 則

この要項は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成24年4月1日から施行する。ただし、平成23年3月31日以前に入学した学生については、なお従前の例による。

附 則

この要項は、平成24年4月1日から施行する。ただし、平成23年3月31日以前に入学した学生については、なお従前の例による。

附 則

この要項は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成25年4月1日から施行する。ただし、平成25年3月31日以前に入学した学生については、なお従前の例による。

附 則

この要項は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成26年4月1日から施行する。ただし、平成26年3月31日以前に入学した学生については、なお従前の例による。

附 則

この要項は、平成26年4月1日から施行する。ただし、平成26年3月31日以前に入学した学生については、なお従前の例による。

附 則

この要項は、平成27年4月1日から施行する。ただし、平成27年3月31日以前に入学した学生については、なお従前の例による。

別表1 (平成27年度入学～)

授業科目等		単位数	履修年次						備 考		
			1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次			
全学共通科目	主題科目A	2	2						2単位修得	29単位以上修得	
	主題科目B	12	12						6単位以上修得		
	学問基礎科目								4単位以上修得		12単位以上修得
	コミュニケーション科目	大学入門ゼミ	2	2							2単位修得
		情報リテラシー	2	2							2単位修得
		既修外国語	5	4	1						5単位以上修得
		初修外国語	4	4							4単位以上修得
		健康・スポーツ実技	2	2							2単位修得
高学年向け教養科目											
専門基礎科目	医用物理学	2	2						必修		
	医用化学Ⅰ	2	2								
	医用化学Ⅱ	2		2							
	医科生物学	2	2								
	細胞生物学	2		2							
	自然科学実習	2		2							
	微分積分学	2	2								
	医用統計学	2	2								
	分子遺伝学	2		2							
	分子生物学	2		2							
	医療心理学	2	2								
早期医学	医学概論	1	1						必修		
	早期体験学習	1	1								
	医療プロフェッショナリズムの実践Ⅰ	2	2								
	医療プロフェッショナリズムの実践Ⅱ	2		2					自由		
	早期医学実習Ⅰ	1	1								
	早期医学実習Ⅱ	1		1							
	医療と法規	2	2								
学際医	医学英語Ⅰ	1			1				必修		
	医学英語Ⅱ	1			1						
	国際交流活動	1			1				自由		
基礎医学	解剖学	6		6					必修		
	生理学	4		4							
	生化学	2		2							
	内分泌学	2			2						
	病理学	4			4						
	免疫学	2			2						
	薬理学	2			2						
	生理・薬理実習	1			1						
	微生物学	2			2						
	医動物学	2			2						
社会医	衛生学	2				2			必修		
	公衆衛生学	2				2					
	法医学	2				2					

授業科目等	単位数	履修年次						備考
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
統合講義等	臨床総論講義	2		2				必修
	症候論	2		2				
	消化器ユニット	3		3				
	循環器ユニット	3		3				
	呼吸器ユニット	3		3				
	腎泌尿器ユニット	2			2			
	小児科ユニット	3			3			
	脳神経筋骨格ユニット	3		3				
	精神神経ユニット	3		3				
	生殖系ユニット	2			2			
	内分泌代謝ユニット	3		3				
	血液系ユニット	2			2			
	アレルギー・膠原病ユニット	2			2			
	皮膚感覚系ユニット	4			4			
	麻酔・救急ユニット	1		1				
	感染症ユニット	1			1			
	放射線ユニット	1		1				
課題実習	2		2					
臨床医学	医学実習Ⅰ	14			14			必修
	内科学	3			3			
	小児科学	1			1			
	精神神経医学	1			1			
	皮膚科学	1			1			
	放射線科学	1			1			
	放射線腫瘍学	1			1			
	外科学	3			3			
	脳神経外科学	1			1			
	整形外科	1			1			
	形成外科学	1			1			
	泌尿器科学	1			1			
	眼科学	1			1			
	耳鼻咽喉科学	1			1			
	周産期学婦人科学	1			1			
	小児外科学	1			1			
	麻酔学	1			1			
	救急災害医学	1			1			
	歯科口腔外科学	1			1			
	臨床検査医学	1			1			
	総合診療医学	1			1			
	地域医療学	1			1			
	児童精神医学	1				1		
	漢方医学	1				1		
臨床病理検討会	2				2			
医療管理学・診断学	2			2				
医学実習Ⅱ	8				8			
医療総合講義	1					1		
計							卒業要件188単位以上	

別表1 (平成26年度入学～)

授業科目等		単位数	履修年次						備 考		
			1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次			
全学共通科目	主題科目A	2	2						2単位修得	29単位以上修得	
	主題科目B	12	12						6単位以上修得		12単位以上修得
	学問基礎科目										
	コミュニケーション科目	大学入門ゼミ	2	2							2単位修得
		情報リテラシー	2	2							2単位修得
		既修外国語	5	4	1						5単位以上修得
		初修外国語	4	4							4単位以上修得
	健康・スポーツ実技	2	2						2単位修得		
	高学年向け教養科目										
専門基礎科目	医用物理学	2	2						必修		
	医用化学Ⅰ	2	2								
	医用化学Ⅱ	2		2							
	医科生物学	2	2								
	細胞生物学	2		2							
	自然科学実習	2		2							
	微分積分学	2	2								
	医用統計学	2	2								
	分子遺伝学	2		2							
	分子生物学	2		2							
医療心理学	2	2									
早期医学	医学概論	1	1						必修		
	早期体験学習	1	1								
	医療プロフェッショナルの実践Ⅰ	2	2								
	医療プロフェッショナルの実践Ⅱ	2		2							
	早期医学実習	1	1						自由		
学際医学	医学英語Ⅰ	1			1				必修		
	医学英語Ⅱ	1			1						
	国際交流活動	1			1				自由		
基礎医学	解剖学	6		6					必修		
	生理学	4		4							
	生化学	2		2							
	内分泌学	2			2						
	病理学	4			4						
	免疫学	2			2						
	薬理学	2			2						
	生理・薬理実習	1			1						
	微生物学	2			2						
医動物学	2			2							
社会医学	衛生学	2				2			必修		
	公衆衛生学	2				2					
	法医学	2				2					

統合講義等	臨床総論講義	2			2				必修
	症候論	2			2				
	消化器ユニット	3			3				
	循環器ユニット	3				3			
	呼吸器ユニット	3				3			
	腎泌尿器ユニット	2				2			
	小児科ユニット	3				3			
	神経筋骨格ユニット	3			3				
	精神神経ユニット	3			3				
	生殖系ユニット	2				2			
	内分泌代謝ユニット	3			3				
	血液系ユニット	2				2			
	アレルギー・膠原病ユニット	2				2			
	皮膚感覚系ユニット	4				4			
	麻酔・救急ユニット	1			1				
	感染症ユニット	1				1			
	放射線ユニット	1			1				
	課題実習	2			2				
臨床医学	医学実習 I	14				14			必修
	内科学	3				3			
	小児科学	1				1			
	精神神経医学	1				1			
	皮膚科学	1				1			
	放射線科学	1				1			
	放射線腫瘍学	1				1			
	外科学	3				3			
	脳神経外科学	1				1			
	整形外科	1				1			
	形成外科学	1				1			
	泌尿器科学	1				1			
	眼科学	1				1			
	耳鼻咽喉科学	1				1			
	周産期学婦人科学	1				1			
	小児外科学	1				1			
	麻酔学	1				1			
	救急災害医学	1				1			
	歯科口腔外科学	1				1			
	臨床検査医学	1				1			
	総合診療医学	1				1			
	地域医療学	1				1			
	児童精神医学	1					1		
	漢方医学	1					1		
	臨床病理検討会	2					2		
	医療管理学・診断学	2				2			
医学実習 II	8					8			
医療総合講義	1						1		
計									卒業要件188単位以上

別表1 (平成25年度入学～)

授業科目等		単位数	履修年次						備 考		
			1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次			
全学共通科目	主題科目A	2	2						2単位修得	14単位以上修得	29単位以上修得
	主題科目B	6	6					6単位以上修得			
	学問基礎科目	6	6					6単位以上修得			
	コミュニケーション科目	大学入門ゼミ	2	2					2単位修得		
		情報リテラシー	2	2					2単位修得		
		既修外国語	5	4	1				5単位以上修得		
		初修外国語	4	4					4単位以上修得		
		健康・スポーツ実技	2	2					2単位修得		
	高学年向け教養科目										
専門基礎科目	医用物理学Ⅰ	2	2						必修		
	医用物理学Ⅱ	2		2							
	医用化学	2	2								
	生命物質化学	2		2							
	生命有機化学	2		2							
	医科生物学基礎	2	2								
	細胞生物科学	2		2							
	形態機能生物学	2		2							
	自然科学実習	2		2							
	微分積分学	2	2								
	医用統計学	2	2								
	分子遺伝学	2		2							
	分子生物学	2		2							
	児童精神医学Ⅰ	2			2						
早期医学	医学概論	1	1						必修		
	早期体験学習	2	2								
	早期医学実習	1	1							自由	
総合保健福祉医療学	21世紀の社会・環境と医学・医療	1	1						必修		
	保健指導・福祉・カウンセリング・チーム医療の基礎	2		2							
	児童精神医学Ⅱ	1					1		自由		
	ボランティア体験学習	1			1						
学際医学	医学英語	1			1				必修		
	臨床英語	1				1					
	国際交流活動	1				1			自由		
基礎医学系	基礎医学	解剖学	6		6				必修		
		生理学	4		4						
		生化学	2		2						
	臨床基礎医学	内分泌学	2			2					
		病理学	4			4					
		免疫学	2			2					
		薬理学	2			2					
		微生物学	2			2					
	医動物学	2			2						

授業科目等		単位数	履修年次						備考
			1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
社会医学	衛生学	2				2			必修
	公衆衛生学	2				2			
	法医学	2				2			
統合講義等	神経系、運動器(筋骨格)系、精神系	6			6				必修
	内分泌・栄養・代謝系	3			3				
	循環器系、腎・尿路系	6				6			
	感染症、血液・造血器・リンパ系、免疫・アレルギー疾患	4				4			
	呼吸器系	3				3			
	消化器系	3			3				
	生殖機能、妊娠と分娩、乳房、成長と発達	3				3			
	皮膚系、眼・視覚系、耳鼻・咽喉・口腔系	4				4			
	臨床総論講義	3			3				
	生理・薬理実習	1				1			
	課題実習	2			2				
臨床医学	医学実習Ⅰ	17					17		必修
	内科学	3					3		
	小児科学	1					1		
	精神神経医学	1					1		
	皮膚科学	1					1		
	放射線科学	1					1		
	放射線腫瘍学	1					1		
	外科学	3					3		
	脳神経外科学	1					1		
	整形外科	1					1		
	形成外科学	1					1		
	泌尿器科学	1					1		
	眼科学	1					1		
	耳鼻咽喉科学	1					1		
	周産期学婦人科学	1					1		
	小児外科学	1					1		
	麻酔学	1					1		
	救急災害医学	1					1		
	歯科口腔外科学	1					1		
	臨床検査医学	1					1		
	総合診療医学	1					1		
	地域医療学	1					1		
	臨床病理検討会	2					2		
医療管理学・診断学	2					2			
医学実習Ⅱ	4						4		
医療総合講義	2						2		
計								卒業要件188単位以上	

別表1 (平成24年度入学～)

授業科目等		単位数	履修年次						備 考		
			1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次			
全学共通科目	主題科目A	2	2						2単位修得	22単位以上修得	37単位以上修得
	主題科目B	6	6					6単位以上修得			
	学問基礎科目	14	14					14単位以上修得			
	コミュニケーション科目	大学入門ゼミ	2	2					2単位修得		
		情報リテラシー	2	2					2単位修得		
		既修外国語	5	4	1				5単位以上修得		
		初修外国語	4	4					4単位以上修得		
		健康・スポーツ実技	2	2					2単位修得		
高学年向け教養科目											
専門基礎科目	医用物理学	2		2					必修		
	生命物質化学	2		2							
	生命有機化学	2		2							
	応用生物科学	2		2							
	神経生物学	2		2							
	自然科学実習	2		2							
	医用統計学	2	2								
	分子遺伝学	2		2							
	分子生物学	2		2							
	児童精神医学Ⅰ	2			2						
早期医学	医学概論	1	1					必修			
	早期体験学習	2	2								
	早期医学実習	1	1					自由			
総合保健福祉医療学	保健医療福祉看護・介護論	1		1				必修			
	21世紀の社会・環境と医学・医療	1	1								
	保健指導・カウンセリング・チーム医療の基礎	1		1							
	児童精神医学Ⅱ	1					1				
	ボランティア体験学習	1			1			自由			
学際医学	医学英語	1			1			必修			
	臨床英語	1				1					
	国際交流活動	1			1			自由			
基礎医学系	基礎医学	解剖学	6		6				必修		
		生理学	4		4						
		生化学	2		2						
	臨床基礎医学	内分泌学	2			2					
		病理学	4			4					
		免疫学	2			2					
		薬理学	2			2					
		微生物学	2			2					
		医動物学	2			2					
社会医学	衛生学	2				2		必修			
	公衆衛生学	2				2					
	法医学	2				2					

授業科目等		単位数	履修年次						備考
			1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
臨床医学	医学実習Ⅰ	内科学	6					6	必修
		小児科学	2					2	
		精神神経医学	2					2	
		皮膚科学	2					2	
		放射線医学	2					2	
		外科学	6					6	
		脳神経外科学	2					2	
		整形外科	2					2	
		形成外科学	1					1	
		泌尿器科学	2					2	
		眼科学	2					2	
		耳鼻咽喉科学	2					2	
		周産期学婦人科学	2					2	
		小児外科学	1					1	
		麻酔学	2					2	
		救急災害医学	1					1	
		歯科口腔外科学	1					1	
		臨床検査医学	1					1	
		総合診療医学	2					2	
		地域医療実習	1					1	
臨床病理検討会	2					2			
医療管理学・診断学	2					2			
医学実習Ⅱ	4						4		
医療総合講義	2						2		
統合講義等		神経系、運動器(筋骨格)系、精神系	6			6			必修
		内分泌・栄養・代謝系	3			3			
		循環器系、腎・尿路系	6				6		
		感染症、血液・造血管器・リンパ系、免疫・アレルギー疾患	4				4		
		呼吸器系	3				3		
		消化器系	3			3			
		生殖機能、妊娠と分娩、乳房、成長と発達	3				3		
		皮膚系、眼・視覚系、耳鼻・咽喉・口腔系	4				4		
		臨床総論講義	3			3			
		生理・薬理実習	1				1		
		課題実習	2			2			
計								卒業要件188単位以上	

別表1 (平成23年度入学～)

授業科目等		単位数	履修年次						備 考		
			1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次			
全学共通科目	主題科目A	2	2						2単位修得	24単位以上修得	35単位以上修得
	主題科目B	6	6					6単位以上修得			
	教養ゼミナール	2	2					選択			
	学問基礎科目	14	14					14単位以上修得			
	コミュニケーション科目	既修外国語	5	4	1				5単位以上修得		
		初修外国語	4	4					4単位以上修得		
		健康・スポーツ実技	2	2					2単位修得		
高学年向け教養科目											
専門基礎科目	医用物理学	2		2					必修		
	生命物質化学	2		2							
	生命有機化学	2		2							
	応用生物科学	2		2							
	神経生物学	2		2							
	自然科学実習	2		2							
	情報科学実習	1	1								
	医用統計学	2	2								
	分子遺伝学	2		2							
	分子生物学	2		2							
	児童精神医学Ⅰ	2			2						
医 早 学期	医学概論	1	1						必修		
	早期体験学習	3	3								
総合保健福祉 医療学	保健医療福祉看護・介護論	1		1					必修		
	21世紀の社会・環境と医学・医療	1	1								
	保健指導・カウンセリング・チーム医療の基礎	1		1							
	児童精神医学Ⅱ	1					1				
	ボランティア体験学習	1			1				自由		
医学 医学 際	医学英語	1			1				必修		
	臨床英語	1				1					
基礎医学系	基礎医学	解剖学	6		6				必修		
		生理学	4		4						
		生化学	2		2						
	臨床基礎医学	内分泌学	2			2					
		病理学	4			4					
		免疫学	2			2					
		薬理学	2			2					
		微生物学	2			2					
医動物学	2			2							
社会医学	衛生学	2				2		必修			
	公衆衛生学	2				2					
	法医学	2				2					

授業科目等	単位数	履修年次						備 考	
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次		
臨床医学	内科学	6				6		必修 医療総合講義及び医学実習Ⅰを含む。	
	小児科学	2				2			
	精神神経医学	2				2			
	皮膚科学	2				2			
	放射線医学	2				2			
	外科学	6				6			
	脳神経外科学	2				2			
	整形外科	2				2			
	形成外科学	1				1			
	泌尿器科学	2				2			
	眼科学	2				2			
	耳鼻咽喉科学	2				2			
	周産期学婦人科学	2				2			
	小児外科学	1				1			
	麻酔学	2				2			
	救急災害医学	1				1			
	歯科口腔外科学	1				1			
	臨床検査医学	1				1			
	総合診療医学	2				2			
	臨床病理検討会	臨床病理検討会	2						2
医療管理学・診断学		2					2		
医学実習Ⅱ		6						6	
地域医療実習		1					1		
(医療総合講義)								○	
必修	(医学実習Ⅰ)						○		
統合講義等	神経系、運動器(筋骨格)系、精神系	6			6			必修	
	内分泌・栄養・代謝系	3			3				
	循環器系、腎・尿路系	7				7			
	感染症、血液・造血器・リンパ系、免疫・アレルギー疾患	4				4			
	呼吸器系	3				3			
	消化器系	3			3				
	生殖機能、妊娠と分娩、乳房、成長と発達	3				3			
	皮膚系、眼・視覚系、耳鼻・咽喉・口腔系	4				4			
	臨床総論講義	3				3			
	課題実習	2			2				
計							卒業要件188単位以上		

別表1 (平成21年度入学～)

授業科目等		単位数	履修年次						備 考		
			1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次			
全学 共通科目	教養ゼミナール	2	2						選択	24単位 以上修得	35単位 以上修得
	主題科目	8	8						8単位以上修得		
	共通科目	14	14						14単位以上修得		
	健康・スポーツ科目	2	2						2単位修得		
	高学年向け教養科目										
	外国語科目	既修外国語	5	4	1						
初修外国語		4	4						4単位以上修得		
専門 基礎科目	医用物理学	2		2					必修		
	生命物質化学	2		2							
	生命有機化学	2		2							
	応用生物科学	2		2							
	神経生物学	2		2							
	自然科学実習	2		2							
	情報科学実習	1		1							
	数学解析入門	1	1								
	医用統計学	1		1							
	分子遺伝学	2		2							
	分子生物学	2		2							
児童・思春期医学	2			2							
医 早 学期	医学概論	1	1						必修		
	早期体験学習	3	3								
総合 保健 福祉 医療学	保健医療福祉看護・介護論	1		1					必修		
	21世紀の社会・環境と保健医療福祉	1	1								
	保健指導・カウンセリング・チーム医療の基礎	1		1							
	臨床心理／家族・チームケア	1					1		自由		
	時事医学	1						1			
ボランティア体験学習	1			1							
医学 学際	医学英語	1			1				必修		
	臨床英語	1				1					
基礎 医学系	基礎 医学	解剖学	6		6				必修		
		生理学	4		4						
		生化学	2		2						
	臨床 基礎 医学	内分泌学	2			2					
		病理学	4			4					
		免疫学	2			2					
		薬理学	2			2					
		微生物学	2			2					
医動物学	2			2							
社会 医学	衛生学	2				2		必修			
	公衆衛生学	2				2					
	法医学	2				2					

授業科目等	単位数	履修年次						備 考
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
臨床医学	内科学	6			6			必修 医療総合講義及び医学実習Ⅰを含む。
	小児科学	2			2			
	精神神経医学	2			2			
	皮膚科学	2			2			
	放射線医学	2			2			
	外科学	6			6			
	脳神経外科学	2			2			
	整形外科	2			2			
	形成外科学	1			1			
	泌尿器科学	2			2			
	眼科学	2			2			
	耳鼻咽喉科学	2			2			
	周産期学婦人科学	2			2			
	小児外科学	1			1			
	麻酔学	2			2			
	救急災害医学	1			1			
	歯科口腔外科学	1			1			
	臨床検査医学	1			1			
	総合診療医学	2			2			
	臨床病理検討会	臨床病理検討会	2				2	必修
医療管理学		2				2		
医学実習Ⅱ		6				6		
地域医療実習		1				1		
(医療総合講義)							○	必修
(医学実習Ⅰ)					○			
統合講義等	神経系、運動器(筋骨格)系、精神系	6		6			必修	
	内分泌・栄養・代謝系	3		3				
	循環器系、腎・尿路系	7			7			
	感染症、血液・造血器・リンパ系、免疫・アレルギー疾患	4			4			
	呼吸器系	3			3			
	消化器系	3		3				
	生殖機能、妊娠と分娩、乳房、成長と発達	3			3			
	皮膚系、眼・視覚系、耳鼻・咽喉・口腔系	4			4			
	臨床総論講義	3		3				
	課題実習	2		2				
計							卒業要件188単位以上	

別表1 (平成20年度入学～)

授業科目等		単位数	履修年次						備 考		
			1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次			
全学 共通科目	教養ゼミナール	2	2						選択	24単位 以上修得	35単位 以上修得
	主題科目	8	8						8単位以上修得		
	共通科目	14	14						14単位以上修得		
	健康・スポーツ科目	2	2						2単位修得		
	外国語科目	既修外国語	5	4	1					5単位以上修得	
		初修外国語	4	4						4単位以上修得	
専門 基礎科目	医用物理学	2		2					必修		
	生命物質化学	2		2							
	生命有機化学	2		2							
	応用生物科学	2		2							
	神経生物学	2		2							
	自然科学実習	2		2							
	情報科学実習	1		1							
	数学解析入門	1	1								
	医用統計学	1		1							
	分子遺伝学	2		2							
児童・思春期医学	2			2							
医 早 学期	医学概論	1	1						必修		
	早期体験学習	3	3								
総合 保健 福祉 医療学	保健医療福祉看護・介護論	1		1					必修		
	21世紀の社会・環境と保健医療福祉	1	1								
	保健指導・カウンセリング・チーム医療の基礎	1		1							
	臨床心理／家族・チームケア	1					1		自由		
	時事医学	1						1			
	ボランティア体験学習	1			1						
医学 際	医学英語	1			1				必修		
	臨床英語	1				1					
基礎 医学系	基礎 医学	解剖学	6		6				必修		
		生理学	4		4						
		生化学	2		2						
	臨床 基礎 医学	内分泌学	2			2					
		病理学	4			4					
		免疫学	2			2					
		薬理学	2			2					
		微生物学	2			2					
		医動物学	2			2					
分子生物学	1		1								
社会 医学	衛生学	3				3			必修		
	公衆衛生学	3				3					
	法医学	3					3				

授業科目等	単位数	履修年次						備 考
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
臨床医学	内科学	6				6		必修 医療総合講義及び医学実習Ⅰを含む。
	小児科学	2				2		
	精神神経医学	2				2		
	皮膚科学	2				2		
	放射線医学	2				2		
	外科学	6				6		
	脳神経外科学	2				2		
	整形外科	2				2		
	形成外科学	1				1		
	泌尿器科学	2				2		
	眼科学	2				2		
	耳鼻咽喉科学	2				2		
	周産期学婦人科学	2				2		
	小児外科学	1				1		
	麻酔学	2				2		
	救急災害医学	1				1		
	歯科口腔外科学	1				1		
	臨床検査医学	1				1		
	総合診療医学	2				2		
	臨床病理検討会	2					2	
医療管理学	2					2		
医学実習Ⅱ	6						6	必修
(医療総合講義)							○	
(医学実習Ⅰ)							○	
統合講義等	神経系、運動器(筋骨格)系、精神系	6			6			必修
	内分泌・栄養・代謝系	3			3			
	循環器系、腎・尿路系	7				7		
	感染症、血液・造血器・リンパ系、免疫・アレルギー疾患	4				4		
	呼吸器系	3				3		
	消化器系	3			3			
	生殖機能、妊娠と分娩、乳房、成長と発達	3				3		
	皮膚系、眼・視覚系、耳鼻・咽喉・口腔系	4				4		
	臨床総論講義	2			2			
	課題実習	2			2			必修
計							卒業要件188単位以上	

別表1 (平成18年度入学～)

授業科目等		単位数	履修年次						備 考		
			1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次			
全学 共通科目	教養ゼミナール	2	2						選択	24単位 以上修得	35単位 以上修得
	主題科目	8	8						8単位以上必修		
	共通科目	14	14						14単位以上必修		
	健康・スポーツ科目	2	2						2単位必修		
	外国語科目	既修外国語	5	4	1					5単位以上必修	
		初修外国語	4	4						4単位以上必修	
専門 基礎科目	医用物理学Ⅰ	2		2					必修		
	医用物理学Ⅱ	2		2							
	生命物質化学	2		2							
	生命有機化学	2		2							
	応用生物科学	2		2							
	神経生物学	2		2							
	自然科学実習	2		2							
	情報科学実習	1		1							
	数学解析入門	1	1								
	医用統計学	1		1							
児童・思春期医学	2			2							
医 早 学期	医学概論	1	1						必修		
	早期体験学習	3	3								
総合 保健 福祉 医療学	保健医療福祉看護・介護論	1		1					必修		
	21世紀の社会・環境と保健医療福祉	1	1								
	保健指導・カウンセリング・チーム医療の基礎	1		1							
	臨床心理／家族・チームケア	1					1		自由		
	時事医学	1						1			
	ボランティア体験学習	1			1						
医 学 際	医学英語	1			1				必修		
	臨床英語	1				1					
基礎 医学系	基礎 医学	解剖学	6		6				必修		
		生理学	4		4						
		生化学	2		2						
	臨床 基礎 医学	内分泌学	2			2					
		病理学	4			4					
		免疫学	2			2					
		薬理学	2			2					
		微生物学	2			2					
		医動物学	2			2					
分子生物学	1		1								
社会 医学	衛生学	3				3			必修		
	公衆衛生学	3				3					
	法医学	3					3				

授業科目等	単位数	履修年次						備 考
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
臨床医学	内科学	6			6			必修 医療総合講義及び医学実習Ⅰを含む。
	小児科学	2			2			
	精神神経医学	2			2			
	皮膚科学	2			2			
	放射線医学	2			2			
	外科学	6			6			
	脳神経外科学	2			2			
	整形外科	2			2			
	形成外科学	1			1			
	泌尿器科学	2			2			
	眼科学	2			2			
	耳鼻咽喉科学	2			2			
	周産期学婦人科学	2			2			
	小児外科学	1			1			
	麻酔・救急医学	2			2			
	歯科口腔外科学	1			1			
	臨床検査医学	1			1			
	総合診療医学	2			2			
	臨床病理検討会	2					2	
	医療管理学	2					2	
医学実習Ⅱ	7					7		
	(医療総合講義)						○	必修
	(医学実習Ⅰ)					○		
統合講義等	神経系、運動器(筋骨格)系、精神系	6			6			必修
	内分泌・栄養・代謝系	3			3			
	循環器系、腎・尿路系	7			7			
	感染症、血液・造血器・リンパ系、免疫・アレルギー疾患	4				4		
	呼吸器系	3				3		
	消化器系	3				3		
	生殖機能、妊娠と分娩、乳房、成長と発達	3				3		
	皮膚系、眼・視覚系、耳鼻・咽喉・口腔系	4				4		
	臨床総論講義	2			2			
	課題実習	2			2			
計							卒業要件188単位以上	

別表1 (平成16・17年度入学者の教育課程表)

授業科目等		単位数	履修年次						備 考			
			1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次				
全学 共通科目	教養ゼミナール	2	2						選択	24単位 以上修得	35単位 以上修得	
	主題科目	12	12						12単位以上必修			
	共通科目	10	10						10単位以上必修			
	健康・スポーツ科目	講義	2	2						2単位必修		3単位 修得
		実習	1	1						1単位必修		
	外国語科目	英語	5	4	1					5単位以上必修		8単位 以上修得
		ドイツ語	3	3						3単位以上必修		
専門 基礎科目	医用物理学Ⅰ	2		2					必修			
	医用物理学Ⅱ	2		2								
	生命物質化学	2		2								
	生命有機化学	2		2								
	応用生物科学	2		2								
	神経生物学	2		2								
	自然科学実習	2		2								
	情報科学実習	1		1								
	数学解析入門	1		1								
	医用統計学	1		1								
	科学表現論	2		2								
	児童・思春期医学	2			2							
医 早 学期	医学概論	1	1						必修			
	早期体験学習	3	3									
総合 保健 福祉 医療 学	保健医療福祉看護・介護論	1		1					必修			
	21世紀の社会・環境と保健医療福祉	1	1									
	保健指導・カウンセリング・チーム医療の基礎	1		1								
	臨床心理／家族・チームケア	1					1		自由			
	時事医学	1						1				
	ボランティア体験学習	1			1							
医学 際	医学英語	1			1				必修			
	臨床英語	1				1						
基礎 医学 系	基礎 医学	解剖学	6		6					必修		
		生理学	4		4							
		生化学	2		2							
	臨床 基礎 医学	内分泌学	2			2						
		病理学	4			4						
		免疫学	2			2						
		薬理学	2			2						
		微生物学	2			2						
		医動物学	2			2						
分子生物学	1		1									
社会 医学	衛生学	3				3			必修			
	公衆衛生学	3				3						
	法医学	3					3					

授業科目等	単位数	履修年次						備 考
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
臨床医学	内科学	6			6			必修 医療総合講義及び医学実習Ⅰを含む。
	小児科学	2			2			
	精神神経医学	2			2			
	皮膚科学	2			2			
	放射線医学	2			2			
	外科学	4			4			
	脳神経外科学	2			2			
	整形外科	2			2			
	形成外科学	1			1			
	泌尿器科学	2			2			
	眼科学	2			2			
	耳鼻咽喉科学	2			2			
	周産期学婦人科学	2			2			
	小児外科学	1			1			
	麻酔・救急医学	2			2			
	歯科口腔外科学	1			1			
	臨床検査医学	1			1			
	総合診療医学	2			2			
	臨床病理検討会	2					2	
	医療管理学	2					2	
医学実習Ⅱ	7						7	必修
(医療総合講義)							○	
(医学実習Ⅰ)						○		
統合講義等	神経系、運動器(筋骨格)系、精神系	8			8			必修
	内分泌・栄養・代謝系	2			2			
	循環器系、腎・尿路系	9			9			
	感染症、血液・造血器・リンパ系、免疫・アレルギー疾患	6				6		
	呼吸器系	3				3		
	消化器系	3				3		
	生殖機能、妊娠と分娩、乳房、成長と発達	3				3		
	皮膚系、眼・視覚系、耳鼻・咽喉・口腔系	3				3		
(臨床総論講義)				○				
計							卒業要件188単位以上	

香川大学医学部医学科第2年次編入学生の在学期間の 通算等の取扱いに関する要項

(趣旨)

第1 この要項は、香川大学医学部規程第8条第2項の規定に基づき、香川大学医学部医学科における第2年次編入学生(以下「編入学生」という。)の在学期間等について必要な事項を定める。

(修業年限)

第2 編入学生の修業年限は、香川大学学則(以下「学則」という。)第25条の規定にかかわらず5年とする。

(在学期間)

第3 編入学生の在学期間は、学則第26条第1項の規定にかかわらず10年を超えることができない。

ただし、第2年次、第3年次及び第4年次については6年、第5年次及び第6年次について4年をそれぞれ超えることができない。

(卒業要件)

第4 編入学生の卒業要件は、学則第59条の規定にかかわらず5年以上在学し、別表に定めるところにより、143単位以上を修得し、その修了の認定を受けるものとする。

附 則

この要項は、平成27年4月1日から施行する。

香川大学医学部医学科第2年次編入学生の在学期間の通算等の取扱いに関する要項

別表 (平成27年度入学～)

授業科目等	単位数	履修年次					備考
		2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
専門基礎科目	医用化学Ⅱ	2	2				必修
	細胞生物学	2	2				
	自然科学実習	2	2				
	分子遺伝学	2	2				
	分子生物学	2	2				
早期医学	医療プロフェッショナルの実践Ⅱ	2	2				必修
学際医学	医学英語Ⅰ	1		1			必修
	医学英語Ⅱ	1		1			必修
	国際交流活動	1	1				自由
基礎医学	解剖学	6	6				必修
	生理学	4	4				
	生化学	2	2				
	内分泌学	2		2			
	病理学	4		4			
	免疫学	2		2			
	薬理学	2		2			
	生理・薬理実習	1		1			
	微生物学	2		2			
医動物学	2		2				
社会医学	衛生学	2			2		必修
	公衆衛生学	2			2		
	法医学	2			2		
統合講義等	臨床総論講義	2		2			必修
	症候論	2		2			
	消化器ユニット	3		3			
	循環器ユニット	3			3		
	呼吸器ユニット	3			3		
	腎泌尿器ユニット	2			2		
	小児科ユニット	3			3		
	神経筋骨格ユニット	3		3			
	精神神経ユニット	3		3			
	生殖系ユニット	2			2		
	内分泌代謝ユニット	3		3			
	血液系ユニット	2			2		
	アレルギー・膠原病ユニット	2			2		
	皮膚感覚系ユニット	4			4		
	麻酔・救急ユニット	1		1			
	感染症ユニット	1			1		
	放射線ユニット	1		1			
課題実習	2		2				

臨床医学	医学実習 I	14			14		必修
	内科学	3			3		
	小児科学	1			1		
	精神神経医学	1			1		
	皮膚科学	1			1		
	放射線科学	1			1		
	放射線腫瘍学	1			1		
	外科学	3			3		
	脳神経外科学	1			1		
	整形外科	1			1		
	形成外科学	1			1		
	泌尿器科学	1			1		
	眼科学	1			1		
	耳鼻咽喉科学	1			1		
	周産期学婦人科学	1			1		
	小児外科学	1			1		
	麻酔学	1			1		
	救急災害医学	1			1		
	歯科口腔外科学	1			1		
	臨床検査医学	1			1		
	総合診療医学	1			1		
	地域医療学	1			1		
	児童精神医学	1			1		
	漢方医学	1			1		
	臨床病理検討会	2			2		
	医療管理学・診断学	2			2		
医学実習 II	8			8			
医療総合講義	1			1			
計	144			卒業要件143 単位以上			

香川大学医学部医学科第2年次第2学期編入学生の 在学期間の通算等の取扱いに関する要項

(趣 旨)

第1 この要項は、香川大学医学部規程第8条第2項の規定に基づき、香川大学医学部医学科における第2年次第2学期編入学生（以下「編入学生」という。）の在学期間等について必要な事項を定める。

(修業年限)

第2 編入学生の修業年限は、香川大学学則（以下「学則」という。）第25条の規定にかかわらず4年6月とする。

(在学期間)

第3 編入学生の在学期間は、学則第26条第1項の規定にかかわらず9年を超えることができない。ただし、第2年次第2学期、第3年次及び第4年次については5年、第5年次及び第6年次については4年をそれぞれ超えることはできない。

(卒業要件)

第4 編入学生の卒業要件は、学則第59条の規定にかかわらず4年6月以上在学し、別表に定めるところにより、127単位以上を習得し、その修了の認定を受けるものとする。

附 則

この要項は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成22年4月1日から施行する。ただし、平成22年3月31日以前に入学した学生については、なお従前の例による。

附 則

この要項は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成26年4月1日から施行する。

別表 (平成26度入学～)

授業科目等		単位数	履修年次					備 考
			2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
専門基礎科目	児童精神医学Ⅰ	2		2				必修
総合保健福祉医療学	児童精神医学Ⅱ	1				1		必修
	ボランティア体験学習	1		1				自由
学際医学	医学英語	1		1				必修
	臨床英語	1			1			
	国際交流活動	1	1					自由
基礎医学系	基礎医学	解剖学	6	6				必修
		生理学	4	4				
		生化学	2	2				
	臨床基礎医学	内分泌学	2		2			
		病理学	4		4			
		免疫学	2		2			
		薬理学	2		2			
		微生物学	2		2			
	医動物学	2		2				
社会医学	衛生学	2			2		必修	
	公衆衛生学	2			2			
	法医学	2			2			
統合講義等	神経系、運動器(筋骨格)系、精神系	6		6			必修	
	内分泌・栄養・代謝系	3		3				
	循環器系、腎・尿路系	6			6			
	感染症、血液・造血器・リンパ系、免疫・アレルギー疾患	4			4			
	呼吸器系	3			3			
	消化器系	3		3				
	生殖機能、妊娠と分娩、乳房、成長と発達	3			3			
	皮膚系、眼・視覚系、耳鼻・咽喉・口腔系	4			4			
	臨床総論講義	3		3				
	生理・薬理実習	1			1			
	課題実習	2		2				
	医学実習Ⅰ	17				17		
	内科学	3				3		
	小児科学	1				1		
	精神神経医学	1				1		
	皮膚科学	1				1		
	放射線科学	1				1		
	放射線腫瘍学	1				1		
	外科学	3				3		
	脳神経外科学	1				1		

臨床医学	整形外科学	1				1	必修
	形成外科学	1				1	
	泌尿器科学	1				1	
	眼科学	1				1	
	耳鼻咽喉科学	1				1	
	周産期学婦人科学	1				1	
	小児外科学	1				1	
	麻酔学	1				1	
	救急災害医学	1				1	
	歯科口腔外科学	1				1	
	臨床検査医学	1				1	
	総合診療医学	1				1	
	地域医療学	1				1	
	臨床病理検討会	2				2	
	医療管理学・診断学	2				2	
	医学実習Ⅱ	4				4	
	医療総合講義	2				2	
	計	129				129	

別表 (平成25年度入学～)

授業科目等		単位数	備 考					
			2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
専門基礎科目	児童精神医学Ⅰ	2		2				必修
総合保健福祉医療学	児童精神医学Ⅱ	1				1		必修
	ボランティア体験学習	1		1				自由
学際医学	医学英語	1		1				必修
	臨床英語	1			1			必修
	国際交流活動	1	1					自由
基礎医学系	基礎医学	解剖学	6	6				必修
		生理学	4	4				
		生化学	2	2				
	臨床基礎医学	内分泌学	2		2			
		病理学	4		4			
		免疫学	2		2			
		薬理学	2		2			
		微生物学	2		2			
	医動物学	2		2				
社会医学	衛生学	2			2		必修	
	公衆衛生学	2			2			
	法医学	2			2			
臨床医学	医学実習Ⅰ	内科学	6	6				必修
		小児科学	2	2				
		精神神経医学	2	2				
		皮膚科学	2	2				
		放射線医学	2	2				
		外科学	6	6				
		脳神経外科学	2	2				
		整形外科	2	2				
		形成外科学	1	1				
		泌尿器科学	2	2				
		眼科学	2	2				
		耳鼻咽喉科学	2	2				
		周産期学婦人科学	2	2				
		小児外科学	1	1				
		麻酔学	2	2				
		救急災害医学	1	1				
		歯科口腔外科学	1	1				
	臨床検査医学	1	1					
	総合診療医学	2	2					
		地域医療実習	1			1		必修
	臨床病理検討会	2			2			
	医療管理学・診断学	2			2			
	医学実習Ⅱ	4				4		
	医療総合講義	2				2		

統合講義等	神経系、運動器(筋骨格)系、精神系	6		6			必修
	内分泌・栄養・代謝系	3		3			
	循環器系、腎・尿路系	7			7		
	感染症、血液・造血器・リンパ系、免疫・アレルギー疾患	4			4		
	呼吸器系	3			3		
	消化器系	3		3			
	生殖機能、妊娠と分娩、乳房、成長と発達	3			3		
	皮膚系、眼・視覚系、耳鼻・咽喉・口腔系	4			4		
	臨床総論講義	3		3			
	課題実習	2		2			
計	129					卒業要件127単位以上	

別表 (平成24年度入学～)

授業科目等		単位数	備考						
			2年次	3年次	4年次	5年次	6年次		
専門基礎科目	児童精神医学Ⅰ	2		2				必修	
総合保健福祉医療学	児童精神医学Ⅱ	1				1		必修	
	ボランティア体験学習	1		1				自由	
学際医学	医学英語	1		1				必修	
	臨床英語	1			1				
基礎医学系	基礎医学	解剖学	6	6				必修	
		生理学	4	4					
		生化学	2	2					
	臨床基礎医学	内分泌学	2		2				
		病理学	4		4				
		免疫学	2		2				
		薬理学	2		2				
		微生物学	2		2				
	医動物学	2		2					
社会医学	衛生学	2			2			必修	
	公衆衛生学	2			2				
	法医学	2			2				
臨床医学	内科学	6		6				必修	
	小児科学	2		2					
	精神神経医学	2		2					
	皮膚科学	2		2					
	放射線医学	2		2					
	外科学	6		6					
	脳神経外科学	2		2					
	整形外科学	2		2					
	形成外科学	1		1					
	泌尿器科学	2		2					
	眼科学	2		2					
	耳鼻咽喉科学	2		2					
	周産期学婦人科学	2		2					
	小児外科学	1		1					
	麻酔学	2		2					
	救急災害医学	1		1					
	歯科口腔外科学	1		1					
	臨床検査医学	1		1					
	総合診療医学	2		2					
	臨床病理検討会	2				2		必修	
医療管理学・診断学	2				2				
医学実習Ⅱ	6					6			
地域医療実習	1				1				
	(医療総合講義)						○	必修	
	(医学実習Ⅰ)					○			

統合講義等	神経系、運動器(筋骨格)系、精神系	6		6			必修
	内分泌・栄養・代謝系	3		3			
	循環器系、腎・尿路系	7			7		
	感染症、血液・造血器・リンパ系、免疫・アレルギー疾患	4			4		
	呼吸器系	3			3		
	消化器系	3		3			
	生殖機能、妊娠と分娩、乳房、成長と発達	3			3		
	皮膚系、眼・視覚系、耳鼻・咽喉・口腔系	4			4		
	臨床総論講義	3		3			
	課題実習	2		2			
計	128		128			卒業要件127単位以上	

別表（平成23度入学～）

授業科目等		単位数	備考						
			2年次	3年次	4年次	5年次	6年次		
専門基礎科目	児童・思春期医学	2		2				必修	
総合保健福祉医療学	臨床心理／家族・チームケア	1				1		必修	
	時事医学	1					1	自由	
	ボランティア体験学習	1		1					
学際医学	医学英語	1		1				必修	
	臨床英語	1			1				
基礎医学系	基礎医学	解剖学	6	6					必修
		生理学	4	4					
		生化学	2	2					
	臨床基礎医学	内分泌学	2		2				
		病理学	4		4				
		免疫学	2		2				
		薬理学	2		2				
		微生物学	2		2				
		医動物学	2		2				
社会医学	衛生学	2			2			必修	
	公衆衛生学	2			2				
	法医学	2			2				
臨床医学	内科学	6		6				必修	
	小児科学	2		2					
	精神神経医学	2		2					
	皮膚科学	2		2					
	放射線医学	2		2					
	外科学	6		6					
	脳神経外科学	2		2					
	整形外科学	2		2					
	形成外科学	1		1					
	泌尿器科学	2		2					
	眼科学	2		2					
	耳鼻咽喉科学	2		2					
	周産期学婦人科学	2		2					
	小児外科学	1		1					
	麻酔学	2		2					
	救急災害医学	1		1					
	歯科口腔外科学	1		1					
	臨床検査医学	1		1					
	総合診療医学	2		2					
	臨床病理検討会	2					2	必修	
	医療管理学	2					2		
	医学実習Ⅱ	6					6		
	地域医療実習	1					1		
	(医療総合講義)						○	必修	
	(医学実習Ⅰ)					○			

統合講義等	神経系、運動器(筋骨格)系、精神系	6		6			必修
	内分泌・栄養・代謝系	3		3			
	循環器系、腎・尿路系	7			7		
	感染症、血液・造血器・リンパ系、免疫・アレルギー疾患	4			4		
	呼吸器系	3			3		
	消化器系	3		3			
	生殖機能、妊娠と分娩、乳房、成長と発達	3			3		
	皮膚系、眼・視覚系、耳鼻・咽喉・口腔系	4			4		
	臨床総論講義	3			3		
	課題実習	2		2			
計	129			129		卒業要件127単位以上	

平成 23 年 12 月 13 日
医学部学務委員会

香川大学医学部の学生の通学が困難となる事由が発生した場合における医学部開設授業（定期試験を含む。以下同じ。）の欠席の取扱いについて、次のとおり定める。

（定義）

第 1 この取扱いにおける各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるとおりとする。

- (1) 欠席とは、授業に出席しない場合をいう。
- (2) 休講とは、授業を取りやめることをいう。
- (3) 公欠とは、一定の条件を満たすことにより、授業に出席したものとみなす取扱いとする授業の欠席をいう。なお、公欠として取り扱う授業については、原則として補講は行わず、授業担当教員（以下「担当教員」という。）が当該授業に相当する学習を課すものとする。
- (4) 準公欠とは、担当教員の判断により、前号の取扱いに準じて授業に出席したものとみなす取扱いとする授業の欠席をいう。
- (5) 出席停止とは、学校保健安全法第 19 条に規定する出席停止をいう。

（学生が感染症に罹患した場合の取扱い）

第 2 学生が感染症に罹患した場合及び感染の拡大を防止するために医学部開設授業の一部又は全部を休講又は欠席する場合は、出席停止又は公欠とし、その取扱いは別紙 1 に定めるとおりとする。

（気象に関する警報の発表等の場合における取扱い）

第 3 気象に関する警報の発表等の場合は平成 26 年 2 月 24 日付け（全学）教務委員会申合せの定めるところにより取扱い、地震その他の非常災害により交通が困難となっている場合は休講又は公欠とし、その取扱いは別紙 2 に定めるとおりとする。

（学生の親族が死亡した場合の取扱い）

第 4 学生の親族が死亡した場合で、学生が葬儀、服喪その他親族の死亡に伴う忌引きのために通学できない場合は公欠とし、その取扱いは別紙 3 に定めるとおりとする。

（準公欠に該当する場合の取扱い）

第 5 第 1 第 4 号に該当する準公欠とは、次の各号に定めるとおりとする。ただし、実験・実習はすべて出席することを原則とし、その欠席は準公欠から除外する。なお、当該事由による欠席の取扱いについては担当教員に一任する。

- (1) 負傷又は疾病（医師の診断書を添付する。）
- (2) 就職試験の受験（事由書を添付する。）
- (3) 国際大会、全国体育大会、西日本医科学生総合体育大会、西日本コメディカル総合体育大会、及び前 2 者の西日本大会に種目のないサークルは、当該大会に相当する大会（本大会に選手登録されている場合のみを対象とし、地区大会は認めない。選手登録されている事由書を添付する。）

（欠席届の提出）

第6 学生は、公欠または準公欠の事由に該当し授業を欠席する場合は、事前（事前に届出ができないときは事後）に別紙様式「欠席届」を速やかに医学部学務室へ提出するものとする。

（一授業科目当たりの公欠及び準公欠の制限）

第7 第2から第5までの規定にかかわらず、一の授業科目についての公欠及び準公欠の扱いとすることができる回数は、当該授業科目の授業回数の5分の1を超えることができないものとする。

（その他）

第8 第2から第5までに定めるもののほか、学生の通学が困難となる事由が発生した場合であって、学務委員長が特別の事情があると認めるときの授業等の取扱いについては、医学部学務委員会の議により学務委員長が判断し措置する。

附 則

この申合せは、平成23年12月13日から施行し、平成24年4月1日から適用する。

この申合せは、平成25年4月1日から適用する。

この申合せは、平成26年5月15日から施行し、平成26年4月1日から適用する。

この申合せは、平成27年2月18日から施行し、平成27年1月1日から適用する。

別紙1 第2関係 (出席停止、公欠)

1. 学生が感染症に罹患した場合

(1) 学生が次表の感染症に罹患した場合は、医師の診断に基づき、出席停止とする。

感染症の種類	学校保健安全法施行規則第18条に規定する感染症の病名
第一種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。）及び鳥インフルエンザ（病原体がインフルエンザウイルスA属インフルエンザAウイルスであつてその血清亜型がH5N1であるものに限る。以下「鳥インフルエンザ（H5N1）」という。）新型インフルエンザ等感染症、指定感染症、新感染症
第二種	インフルエンザ（鳥インフルエンザ（H5N1）を除く。）、百日咳、麻しん、流行性耳下腺炎、風しん、水痘、咽頭結膜熱及び結核及び髄膜炎菌性髄膜炎
第三種	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎その他の感染症

(2) 出席停止の期間は、学校保健安全法施行規則第19条に規定する出席停止の期間を基準に、医師に治癒したと診断されるまでとし、医師の発行する次の項目が記載された診断書（治癒証明書）に基づき措置する。

- 一 病名
- 二 罹患期間

【学校保健安全法施行規則第19条に規定する出席停止の期間】

- 1) 第一種の感染症にかかった者については、治癒するまで。
- 2) 第二種の感染症（結核及び髄膜炎菌性髄膜炎を除く。）にかかった者については、次の期間。ただし、病状により学校医、保健管理センター医師その他の医師において感染のおそれがないと認めるときは、この限りでない。

イ インフルエンザ（鳥インフルエンザ（H5N1）及び新型インフルエンザ等感染症を除く。）にあつては、発症した後五日を経過し、かつ、解熱した後二日を経過するまで。

ロ 百日咳にあつては、特有の咳が消失するまで又は五日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで。

ハ 麻しんにあつては、解熱した後三日を経過するまで。

ニ 流行性耳下腺炎にあつては、耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後五日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで。

ホ 風しんにあつては、発しんが消失するまで。

ヘ 水痘にあつては、すべての発しんが痂皮化するまで。

ト 咽頭結膜熱にあつては、主要症状が消退した後二日を経過するまで。

- 3) 結核、髄膜炎菌性髄膜炎及び第三種の感染症にかかった者については、病状により学校医、保健管理センター医師その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで。
- 4) 第一種若しくは第二種の感染症患者のある家に居住する者又はこれらの感染症にかかっている疑いがある者については、予防処置の施行の状況その他の事情により学校医、保健管理センター医師その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで。
- 5) 第一種又は第二種の感染症が発生した地域から通学する者については、その発生状況により必要と認めたとき、学校医、保健管理センター医師の意見を聞いて適当と認める期間。
- 6) 第一種又は第二種の感染症の流行地を旅行した者については、その状況により必要と認めたとき、学校医、保健管理センター医師の意見を聞いて適当と認める期間。

2. 出席停止となった期間の授業の取扱い

学生が、出席停止となった期間に出席できなかった授業については、届出により公欠扱いとする。

3. 公欠の届出

感染症に罹患した場合は、学生が医学部学務室へ電話連絡を行い、公欠の届出は、治癒後、別紙様式「欠席届」により、学生が医学部学務室へ医師の診断書（治癒証明書（コピー可））とともに提出するものとする。

届出を受理した場合は、その写しにより担当教員へ連絡するものとする。

4. 感染の拡大を防止するために医学部開設授業の一部又は全部を休業する場合

感染症罹患者の発生に伴い、感染の拡大を防止する目的で行う休業措置は医学部長が決定するものとする。

5. 学生への連絡

休業の周知は、学内掲示、本学医学部ホームページ掲載、メール送信等により、学内及び学外実習中の学生に速やかに行うものとする。

別紙2 第3関係 (出席停止、公欠)

気象に関する警報の発表等の場合における休講措置の基準について

平成26年2月24日(全学)教務委員会申合せ
平成26年11月17日(全学)教務委員会一部改正

全ての学部及び研究科の開講科目並びに全学共通教育の開講科目に関して、特別警報及び気象警報の発表等の場合における休講の措置は、次の基準による。

なお、休講の措置については、掲示及びホームページへの掲載等により周知する。

1. 特別警報の発表による場合

各キャンパスの所在する地域に特別警報の発表があった場合は、当該キャンパスの全ての授業を直ちに中止する。

2. 気象警報の発表による場合

(1) 昼間の授業について

指定する地域に、大雨、洪水、暴風又は大雪の警報が、午前6時30分に発表されている場合は休講とする。午前6時30分以降に発表された場合は、発表された時刻以降に開始する授業を休講とする。

ただし、午前10時30分の時点で警報が解除されている場合で、かつ、それ以降に発表されないときは、午後1時以降に開始される授業を実施する。

(2) 夜間の授業(午後6時以降に開始する授業)について

指定する地域に、大雨、洪水、暴風又は大雪の警報が、午後3時に発表されている場合は休講とする。午後3時以降に発表された場合は、発表された時刻以降に開始する授業を休講とする。

(3) 前2号の指定する地域を次のとおり定める。

幸町キャンパス及び林町キャンパスは高松市とし、医学部キャンパス及び農学部キャンパスは、高松市又は三木町とする。

なお、居住地の気象状況又は交通機関の運休等により、登校できなかった学生については、補講等により個別に対応するものとする。

(4) 教育実習、臨床実習、臨地実習及びフィールドワーク科目等の授業で前各号によりがたい場合は、その都度、その授業を開講する部局の長が判断し措置する。

3. その他非常時の場合

学部、研究科及び全学共通教育の開講科目については、学部長等が判断し措置する。

附 則

- 1 この申合せは、平成26年4月1日から施行する。
- 2 この申合せの施行により、気象警報の発令等の場合における休講措置の基準について(平成22年1月6日制定)は、廃止する。
- 3 この申合せは、平成27年1月1日から施行する。

1. 公欠の届出

公欠の届出は、後日、別紙様式「欠席届」により、学生が医学部学務室へ交通機関の運行休止、道路遮断を明らかにする書類とともに提出するものとする。

教務係は、届出を受理した場合は、その写しにより担当教員へ連絡するものとする。

2. 学生への連絡

休業の周知は、学内掲示、本学医学部ホームページ掲載、メール送信等により、学内及び学外実習中の学生に速やかに行うものとする。

別紙3 第4関係 (公欠)

I. 学生が葬儀、服喪その他親族の死亡に伴う忌引きのために通学できない場合

1. 忌引きの対象となる親族の範囲

- ① 配偶者
- ② 1親等(親、子)
- ③ 2親等(兄弟姉妹、祖父母、孫)
- ④ 3親等(本人・配偶者の曾祖父母、伯父叔伯母、曾祖父母・伯父叔伯母の配偶者、甥姪、甥姪の配偶者、曾孫)

2. 忌引きの日数

- ① 配偶者の場合は、死亡した日以降の連続する7日以内(土、日、休日を含む。)
- ② 1親等の場合は、死亡した日以降の連続する7日以内(土、日、休日を含む。)
- ③ 2親等の場合は、死亡した日以降の連続する3日以内(土、日、休日を含む。)
- ④ 3親等の場合は、死亡した日若しくは死亡した翌日以降の1日(土、日、休日を含む。)

3. 公欠の届出

公欠の届出は、後日、別紙様式「欠席届」により、学生が医学部学務室へ会葬礼状等裏付ける書類とともに提出するものとする。

届出を受理した場合は、その写しにより担当教員へ連絡するものとする。

別紙様式

欠 席 届

平成 年 月 日

香川大学医学部長 殿

医学部 学科

第 年次

学籍番号 番

氏 名

連絡先TEL

下記事由により欠席します（しました）のでお届けします。

記

期間 平成 年 月 日から

平成 年 月 日まで

理由 _____

授業科目名及び担当教員

授業科目名	担当教員名	授業科目名	担当教員名
	教員		教員
	教員		教員
	教員		教員
	教員		教員
	教員		教員
	教員		教員

提出書類等（欠席届裏面）

以下の事項については、各事項に定められた証明書類を添付の上、事前（事前に届出ができないときは事後）に、この「欠席届」を速やかに医学部学務室教務係へ提出すること。

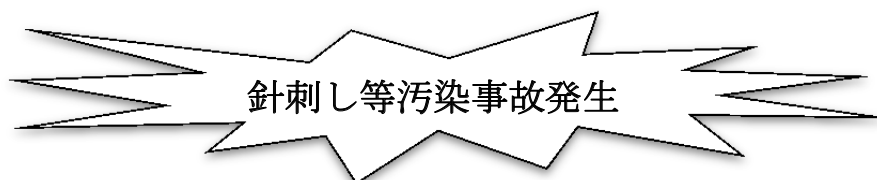
教務係は、届出を受理した場合は、その写しにより授業担当教員へ連絡する。

1. 学生が学校保健安全法施行規則第 18 条に規定する感染症に罹患した場合
 - (1) 医師の診断に基づき、出席停止とする。学生が、出席停止となった期間に出席できなかった授業については、届出により公欠扱いとする。
 - (2) 医師の診断に基づき感染症に罹患したことが判明したときは、学生が医学部学務室学生係へ届出の電話連絡を行うこと。
 - (3) 出席停止の期間は、学校保健安全法施行規則第 19 条に規定する出席停止の期間を基準に、医師に治癒したと診断されるまでとする。なお、医師の発行する診断書は次の項目が記載された診断書（治癒証明書）とする。
 - 一 病名、二 罹患期間、三 治癒したことの証明
 - (4) 公欠の届出は、治癒後、この「欠席届」に医師の診断書（治癒証明書（コピー可））を添付すること。
2. 気象に関する警報の発表等により休講となる場合には、この「欠席届」の提出はしなくてよい。地震、その他の非常災害により交通が困難となる場合の公欠の届出は、この「欠席届」に交通機関の運行休止、道路遮断を明らかにする書類を添付すること。
3. 学生が葬儀、服喪その他親族の死亡に伴う忌引きのために通学できない場合の公欠の届出は、この「欠席届」に会葬礼状等裏付ける書類を添付するとともに、死亡した親族の続柄、葬儀場所の住所（都道府県名、郡区市名）、葬祭日を明記すること。
4. 次の準公欠の事由により授業に欠席した場合は、各号の書類を添付すること。ただし、実験・実習の欠席は準公欠の取扱いから除外するものとする。
 - (1) 負傷又は疾病（医師の診断書を添付する。）
 - (2) 就職試験の受験（事由書を添付する。）
 - (3) 国際大会、全国体育大会、西日本医科学生総合体育大会、西日本コメディカル総合体育大会、及び前 2 者の西日本大会に種目のないサークルは、当該大会に相当する大会（本大会に選手登録されている場合のみを対象とし、地区大会は認めない。選手登録されている事由書を添付する。）

附属病院における実習中の学生の針刺し等汚染事故発生時の対応について

- ① 針刺事故用検査、その後の診療までの対応は、当該学生の実習を担当している指導教員が責任をもって行う。
- ② 学生教育研究災害傷害保険（学研災）の手続きは、学務室学生係が担当する。

針刺し等汚染事故発生時のフローチャート



速やかに指導教員に報告！

学生

- 皮膚の切創、粘膜汚染→石けんと流水で丁寧に洗う
- 目に曝露→コンタクトレンズを外し、水道水で洗い流す、擦らない
- 口腔→十分な含嗽を行う

指導教員は病院感染予防マニュアルに基づき迅速に以下の措置をとる

指導教員

- 感染対策室（3058）に連絡
- 汚染源患者の3ヶ月以内のHCV抗体、HBs抗原、HIV抗体を確認
- 医事課外来係(3023, 3024)に連絡し、検査部へ受付を依頼
- 3ヶ月内の検査結果がない場合→患者の同意を得て「針刺事故用検査伝票」で検査実施
- 受傷者はただちに「針刺事故用検査伝票」で検査実施
- 検体と「針刺事故用検査伝票」を検査部に提出(時間内 3676、時間外 5880)
- 指導教員は汚染源患者の感染症検査結果を確認、検査結果に応じた対応を行う
 - HBs抗原(+)またはHCV抗体(+)：消化器内科受診
 - HIV抗体(+)：HIV診療担当医師（地域包括医療学 窪田先生または感染症講座 渡邊先生）受診

学生

受診・処置後、医事課の支払い（保険診療）を終え、学務室学生係に報告

学務室学生係（2061）に事故報告書を提出。学生教育研究災害傷害保険（学研災）の手続きについて説明をうける。

平成27年度 行事予定表(医学科)

学期	学年	1	2	3
前期	4	1 水 学年始 第1学期開始	1 水 学年始 第1学期開始 授業開始・授業ガイダンス	1 水 学年始 第1学期開始 授業開始・授業ガイダンス
		4 土 入学式・ガイダンス		
		6 月 新入生ガイダンス		
		7 火 定期健康診断・修学相談会		
		8 水 授業開始		
		11 土 新入生合宿研修		
		12 日		
			15 水 定期健康診断(午前休講)	15 水 定期健康診断(午後休講)
		5 金 水曜日授業振替日	5 金	5 金
		7 木 月曜日授業振替日	7 木	7 木
後期	10	1 木 第2学期開始 大学記念日(休業)	1 木 第2学期開始 大学記念日(休業)	1 木 第2学期開始 大学記念日(休業)
		2 金 授業開始	6 火 防災訓練	
		10 土 医学部祭	9 金 前夜祭(午後休講)	9 金 前夜祭(午後休講)
		11 日	10 土 医学部祭	10 土 医学部祭
		30 金 臨時休業(香大祭前夜祭)	20 火 慰霊祭(予定)	20 火 慰霊祭(予定)
		31 土 香大祭		
		11 日 臨時休業(香大祭撤収日)		
		5 木 月曜日授業振替日	20 金 入試準備(午後休講)	20 金 入試準備(午後休講)
		21 土 推薦入試	21 土 推薦入試	21 土 推薦入試
		24 火 月曜日授業振替日	21 土	21 土
後期	11	25 金 冬季休業開始	21 月 冬季休業開始	28 月 冬季休業開始
		7 木 冬季休業終了	3 日 冬季休業終了	3 日 冬季休業終了
		8 金 授業開始	4 月 授業開始	4 月 授業開始
		15 金 センター試験準備(臨時休業)	15 金 センター試験準備(午後休講)	15 金 センター試験準備(午後休講)
		16 土 大学入試センター試験	16 土 大学入試センター試験	16 土 大学入試センター試験
		17 日	17 日	17 日
		30 土 授業予備日		
		6 土 授業予備日		
		10 水 10~17日第2学期末試験	12 金 後期定期試験	
		17 水 木曜日試験振替日		
後期	12	18 木 18~23日補講・試験予備日	22 月	
		25 木 入学者選抜試験(前期)	25 木 入学者選抜試験(前期)	25 木 入学者選抜試験(前期)
		26 金	26 金 補講期間開始	26 金
			29 月 補講期間開始	
			4 金 補講期間終了	
			7 月 春季休業開始	7 月 春季休業開始
		11 金 春季休業開始		
		12 土 入学者選抜試験(後期)	12 土 入学者選抜試験(後期)	12 土 入学者選抜試験(後期)
		13 日	13 日	13 日
		31 木 第2学期終了 学年終	31 木 第2学期終了 学年終	31 木 第2学期終了 学年終

平成27年度 医学科授業時間割表 (1年次生)

前期 (4月8日 ~ 8月5日)

曜日	I 時限 8:50~10:20	II 時限 10:30~12:00	III 時限 13:00~14:30	IV 時限 14:40~16:10	V 時限 16:20~17:50
月	全学共通科目 (幸町キャンパス)				
火	全学共通科目 (幸町キャンパス)				
水	大学入門ゼミ (西屋 他) A, D, 小D, 小E, 301, 303	医学概論 (新井・今井田) D	微分積分学 (上原) D	早期体験学習 (チュートリアル) (出口) D	
木	全学共通科目 (幸町キャンパス)				
金	医用物理学 (久富) D	医用化学 I (和田) D	医科生物学 (山本 (融)) D	医用物理学 (久富) D	

(備考)

1. 前期定期試験 7月29日(水)~8月4日(火)
[授業・定期試験予備日 8月5日(水)~8月7日(金)]
2. 9月30日(水)授業ガイダンス

後期 (10月1日 ~ 3月10日)

曜日	I 時限 8:50~10:20	II 時限 10:30~12:00	III 時限 13:00~14:30	IV 時限 14:40~16:10	V 時限 16:20~17:50
月	全学共通科目 (幸町キャンパス)				
火	全学共通科目 (幸町キャンパス)				
水	医療プロフェッショナルリズムの実践 I (岡田 他) D	早期医学実習 I Aコース (自由科目)		情報リテラシー (横井) マルチ	
木	全学共通科目 (幸町キャンパス)				
金	早期医学実習 I Bコース (自由科目)		医用化学 I (和田) D	医療心理学 (長谷) D	医科生物学 (山本 (融)) D
		医療と法規 (柴田) (自由科目) D			
	全学共通科目 (幸町キャンパス)		D	D	D

■ は医学部キャンパスで授業を実施する。

(備考)

1. 後期定期試験 2月10日(水)~2月17日(水) 2月17日(水)は木曜日の試験を行う。
[授業・定期試験予備日 2月18日(木)~2月23日(火)]
2. 教室名 A…大講義室A(講義棟1階) D…大講義室D(講義棟2階)
小D…小講義室D(講義棟2階) 小E…小講義室E(講義棟2階)
マルチ …マルチメディア実習室(看護学科棟2階)
301 …301講義室(看護学科棟3階)
303 …303講義室(看護学科棟3階)

平成27年度 医学科授業時間割表（2年次生）

前期（4月1日～5月29日）

曜日	I時限 8:50～10:20	II時限 10:30～12:00	III時限 13:00～14:30	IV時限 14:40～16:10	V時限 16:20～17:50
月	分子遺伝学 (竹崎) C	医用化学II (和田) C	自然科学実習 (物理学・化学・生物学) 実		
火	分子生物学 (神鳥) C	解剖学II (荒木) C, 実1			
水	分子生物学 (神鳥) C	分子遺伝学 (竹崎) C	医療プロフェッショナルの実践II (岡田 他) C		
木	細胞生物学 (山本(融)) C	医用化学II (和田) C	自然科学実習 (物理学・化学・生物学) 実		
金	(全学共通科目) 英語 (長井 他) A, C, 小D, 小E	細胞生物学 (山本(融)) C	早期医学実習II【正課外科目】		

前期（6月1日～6月30日）

曜日	I時限 8:50～10:20	II時限 10:30～12:00	III時限 13:00～14:30	IV時限 14:40～16:10	V時限 16:20～17:50
月	生化学 (上田) C		自然科学実習 (物理学・化学・生物学) 実		
火	生理学I (徳田) C	解剖学I (三木) C, 実1			
水	分子生物学 (神鳥) C	分子遺伝学 (竹崎) C	医療プロフェッショナルの実践II (岡田 他) C		
木	分子生物学 (神鳥) C	生理学II (平野) C	自然科学実習 (物理学・化学・生物学) 実		
金	(全学共通科目) 英語 (長井 他) A, C, 小D, 小E	解剖学I (三木) C		早期医学実習II【正課外科目】	
		細胞生物学 (山本(融)) C	早期医学実習II【正課外科目】		

※ 金曜日 上段：6月1日～6月12日、下段：6月15日～6月30日

前期（7月1日～7月17日）

曜日	I時限 8:50～10:20	II時限 10:30～12:00	III時限 13:00～14:30	IV時限 14:40～16:10	V時限 16:20～17:50
月	生化学 (上田) C		生理学II (平野) C		
火	生理学I (徳田) C	解剖学I (三木) C, 実1			
水	分子生物学 (神鳥) C	分子遺伝学 (竹崎) C	医療プロフェッショナルの実践II (岡田 他) C		
木	分子遺伝学 (竹崎) C	生理学II (平野) C	生理学I (徳田) C		
金	(全学共通科目) 英語 (長井 他) A, C, 小D, 小E	細胞生物学 (山本(融)) C	早期医学実習II【正課外科目】		

(備考)

1. 4月15日(水)午前定期健康診断(午前休講)
2. 全学共通科目英語は7月24日授業あり
3. 前期定期試験…9月7日(月)～9月25日(金)
4. 9月30日(水)授業ガイダンス

後 期 (10月1日 ~ 11月9日)

曜日	I時限 8:50~10:20	II時限 10:30~12:00	III時限 13:00~14:30	IV時限 14:40~16:10	V時限 16:20~17:50
月	補講又は試験等	生化学 (上田)			実5
火	生理学II (平野) C	生化学 (上田)			実5
水	生理学I (徳田) C	解剖学I (三木)			C, 実1
木	生理学I (徳田) C	解剖学II (荒木)			C, 実6
金	生化学 (上田) C	解剖学II (荒木)			C, 実6

後 期 (11月10日 ~ 12月18日) (1月4日 ~ 2月9日)

曜日	I時限 8:50~10:20	II時限 10:30~12:00	III時限 13:00~14:30	IV時限 14:40~16:10	V時限 16:20~17:50
月	補講又は試験等	生理学II (平野) C	解剖学I (三木)		C
火	生理学II (平野) C		生化学 (上田)		C
水	生理学I (徳田) C	解剖学I (三木)			C, 実1
木	生理学I (徳田) C	解剖学II (荒木)			C, 実6
金	生化学 (上田) C	解剖学II (荒木)			C, 実6

(備考)

1. 後期定期試験…2月12日(金)~2月22日(月)
2. 教室名 A … 大講義室A(講義棟1階) C … 大講義室C(講義棟2階)
小D … 小講義室D(講義棟2階)、小E … 小講義室E(講義棟2階)
実1…実習室1(実習棟1階) 実5…実習室5(実習棟3階) 実6…実習室6(実習棟3階)

※ 2年次生の時間割は週によって変わりますので、巻末「平成27年度講義・実習時間割2年次生」のP302~P303を確認して下さい。

平成27年度 医学科授業時間割表 (3年次生)

前 期 (4月1日 ~ 7月17日、9月7日 ~ 9月30日)

曜日	I時限 8:50~10:20	II時限 10:30~12:00	III時限 13:00~14:30	IV時限 14:40~16:10	V時限 16:20~17:50
月	免疫学 (星野) B	病理学 I (今井田) B	内分泌学 (中村 (隆)) B	微生物学(前半) (桑原) B 内分泌学(後半) (中村(隆)) B	(全学共通科目) Advanced English I 医学部キャンパス (Willey) B
火	病理学 II (上野) B	医学英語 (Willey) A B	免疫学(星野) (4月・5月) B	医動物学(新井) (4月・5月) B	
実習 (※実習日程参照)					
水	微生物学 (桑原) B	解剖学 I (三木) B	実習 (※実習日程参照)		
木	薬理学 (西山 (成)) B	薬理学 (西山 (成)) B	実習 (※実習日程参照)		
金	医動物学 (新井) B	医療心理学 (長谷) B	実習 (※実習日程参照)		

(備 考)

1. 4月15日(水) 午後定期健康診断 (午後休講)
2. 5月7日(木) は全学共通科目振替授業 (月)
3. Advanced English I は7月27日授業あり
4. 前期定期試験期間は9月7日 (月) ~9月25日 (金)
5. 9月30日(火)授業ガイダンス

* 実習日程 () 書きは講義等					
週		火	水	木	金
第1週	(4/1~)		解剖学 I 実1	内分泌学 実5	内分泌学 実5
第2週	(4/6~)		解剖学 I 実1	内分泌学 実5	内分泌学 実5
第3週	(4/13~)		定期健康診断	内分泌学 実5	内分泌学 実5
第4週	(4/20~)		解剖学 I 実1	内分泌学 実5	内分泌学 実5
第5週	(4/27~)		昭和の日	内分泌学 実5	内分泌学 実5
第6週	(5/4~)		憲法記念日振替休日	(微生物学) 大B	微生物学 実4
第7週	(5/11~)		解剖学 I 実1	微生物学 実4	(微生物学) 大B
第8週	(5/18~)		解剖学 I 実1	微生物学 実4	微生物学 実4
第9週	(5/25~)		解剖学 I 実1	(微生物学) 大B	解剖学 I 実1
第10週	(6/1~)	医動物学 実4	解剖学 I 実1	(医動物学) 大B	解剖学 I 実1
第11週	(6/8~)	医動物学 実4	解剖学 I 実1	免疫学 実4	免疫学 実4
第12週	(6/15~)	(微生物学 ・医動物学) 大B	解剖学 I 実1	免疫学 実4	免疫学 実4
第13週	(6/22~)	医動物学 実4	解剖学 I 実1	病理学 II 実6	(医動物学) 大B
第14週	(6/29~)	医動物学 実4	解剖学 I 実1	病理学 II 実6	実習 (予備)
第15週	(7/6~)	(病理学 I) 大B	解剖学 I 実1	病理学 II 実6	実習 (予備)
第16週	(7/13~)	(病理学 I) 大B	解剖学 I 実1	病理学 II 実6	実習 (予備)

後 期 (10月1日～ 10月16日)

曜日	I 時限 8:30～9:30	II 時限 9:40～10:40	III 時限 10:50～11:50	IV 時限 12:50～13:50	V 時限 14:00～15:00	VI 時限 15:10～16:10	VII 時限 16:20～17:50
月	臨床総論講義						(全学共通科目) Advanced English II (Willey) B 医学部キャンパス
火	臨床総論講義						B
水	臨床総論講義						B
木	臨床総論講義						B
金	臨床総論講義						B

後 期 (10月19日～ 11月6日) ※11月5日(木) は全学共通科目振替授業 (月)

曜日	I 時限 8:30～9:30	II 時限 9:40～10:40	III 時限 10:50～11:50	IV 時限 12:50～13:50	V 時限 14:00～15:00	VI 時限 15:10～16:10	VII 時限 16:20～17:50
月	症候論						(全学共通科目) Advanced English II (Willey) B 医学部キャンパス
火	症候論						B
水	症候論						B
木	症候論						B
金	症候論						B

後 期 (11月9日～12月25日、1月4日～2月5日) ※11月24日(火) は全学共通科目振替授業 (月)

曜日	I 時限 8:30～9:30	II 時限 9:40～10:40	III 時限 10:50～11:50	IV 時限 12:50～13:50	V 時限 14:00～15:00	VI 時限 15:10～16:10	VII 時限 16:20～17:50
月	統合講義						(全学共通科目) Advanced English II (Willey) B 医学部キャンパス
火	統合講義						B
水	統合講義						B
木	統合講義						B
金	統合講義						B

後 期 (2月8日～3月4日)

曜日	I 時限 8:30～9:30	II 時限 9:40～10:40	III 時限 10:50～11:50	IV 時限 12:50～13:50	V 時限 14:00～15:00	VI 時限 15:10～16:10	VII 時限 16:20～17:50
月	課 題 実 習 (講座配属)						
火	課 題 実 習 (講座配属)						
水	課 題 実 習 (講座配属)						
木	課 題 実 習 (講座配属)						
金	課 題 実 習 (講座配属)						

(備 考)

1. 教室名
 B … 大講義室 B (講義棟 1 階)
 実1… 実習室1 (実習棟 1 階) 実4… 実習室4 (実習棟 2 階)
 実5… 実習室5 (実習棟 3 階) 実6… 実習室6 (実習棟 3 階)

平成27年度 医学科授業時間割表（4年次生）

前期（4月1日～7月3日）

曜日	I時限 8:30～9:45	II時限 9:55～11:10	III時限 11:20～12:35	IV時限 13:30～14:45	V時限 14:55～16:10	VI時限 16:20～17:35
月	統合講義 臨1					
火	統合講義 臨1					
水	統合講義 臨1					
木	統合講義 臨1					
金	衛生学（宮武） 公衆衛生学（平尾） 臨1、実5					

4月15日（水）午後定期健康診断（午後休講）

前期（7月6日～7月24日）

曜日	I時限 8:30～9:45	II時限 9:55～11:10	III時限 11:20～12:35	IV時限 13:30～14:45	V時限 14:55～16:10	VI時限 16:20～17:35
月	臨床総論講義 臨1					
火	臨床総論講義 臨1					臨床英語 （Willey他） 臨1・A
水	臨床総論講義 臨1					
木	臨床総論講義 臨1					
金	衛生学（宮武） 公衆衛生学（平尾） 臨1、実5					

7月24日（金）は臨床総論講義を行う。

前期（8月28日～9月30日）

曜日	I時限 8:30～9:45	II時限 9:55～11:10	III時限 11:20～12:35	IV時限 13:30～14:45	V時限 14:55～16:10	VI時限 16:20～17:35
月	統合講義 臨1					
火	統合講義 臨1					臨床英語 （Willey他） 臨1・A
水	統合講義 臨1					
木	統合講義 臨1					
金	法医学（木下） 臨1、実5					

後 期 (10月1日～ 11月13日)

曜日	I時限 8:30～9:45	II時限 9:55～11:10	III時限 11:20～12:35	IV時限 13:30～14:45	V時限 14:55～16:10	VI時限 16:20～17:35
月	統 合 講 義					臨 1
火	統 合 講 義					臨 1 臨床英語 (Willey他) 臨 1・A
水	統 合 講 義					臨 1
木	統 合 講 義					臨 1
金	法医学 (木下)					臨1、実5

後 期 (11月16日～ 12月25日)

曜日	I時限 8:30～9:45	II時限 9:55～11:10	III時限 11:20～12:35	IV時限 13:30～14:45	V時限 14:55～16:10	VI時限 16:20～17:35
月	統 合 講 義					臨 1
火	統 合 講 義					臨 1 臨床英語 (Willey他) 臨 1・A
水	統 合 講 義					臨 1
木	統 合 講 義					臨 1
金	統 合 講 義					臨 1

後 期 (1月4日～ 3月4日)

曜日	I時限 8:30～9:45	II時限 9:55～11:10	III時限 11:20～12:35	IV時限 13:30～14:45	V時限 14:55～16:10	VI時限 16:20～17:35
月	共用試験 (CBT、OSCE)、臨床実習講義、共用試験再試験 (CBT、OSCE)					
火	共用試験 (CBT、OSCE)、臨床実習講義、共用試験再試験 (CBT、OSCE)					
水	共用試験 (CBT、OSCE)、臨床実習講義、共用試験再試験 (CBT、OSCE)					
木	共用試験 (CBT、OSCE)、臨床実習講義、共用試験再試験 (CBT、OSCE)					
金	共用試験 (CBT、OSCE)、臨床実習講義、共用試験再試験 (CBT、OSCE)					

(備 考)

1. 教室名 臨 1…臨床講義棟 1階講義室
 実 5…実習室 5 (実習棟 3階)
 A … 大講義室 A (講義棟 1階)

平成27年度 医学科授業時間割表（5年次生）

前期（4月1日～7月24日）

曜日	Ⅰ時限 8:30～9:45	Ⅱ時限 9:55～11:10	Ⅲ時限 11:20～12:35	Ⅳ時限 13:30～14:45	Ⅴ時限 14:55～16:10	Ⅵ時限 16:20～18:00
月	臨床実習（医学実習Ⅰ）				医療管理学・診断学(岡田 他)A ※2.「薬害被害者の声を直接聞く特別講義」	※1. 臨床病理検討会 (5・6年生合同 7回 臨2)
火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

（備考）

1. 4月14日（火）午後定期健康診断（午後休講）
2. ※1. 5月11日、18日、25日、6月1日、8日、15日、22日の計7回の月曜日は、6年次生と合同で「臨床病理検討会(CPC)」を臨2で(18:00まで)実施する。
その他の月曜日は、「医療管理学・診断学」をAで(17:30まで)実施する。
3. ※2. V時限目に6年次生と合同で「薬害被害者の声を直接聞く特別講義」を1回実施する。（予定）

前期（8月24日～9月30日）

曜日	Ⅰ時限 8:30～9:45	Ⅱ時限 9:55～11:10	Ⅲ時限 11:20～12:35	Ⅳ時限 13:30～14:45	Ⅴ時限 14:55～16:10	Ⅵ時限 16:20～17:35
月	臨床実習（医学実習Ⅰ）				医療管理学・診断学 (岡田 他)A	児童精神医学Ⅱ (中村(祐) 他)A
火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

後期（10月1日～12月25日、1月4日～3月4日）

曜日	Ⅰ時限 8:30～9:45	Ⅱ時限 9:55～11:10	Ⅲ時限 11:20～12:35	Ⅳ時限 13:30～14:45	Ⅴ時限 14:55～16:10	Ⅵ時限 16:20～17:35
月	臨床実習（医学実習Ⅰ）				医療管理学・診断学 (岡田 他) A	児童精神医学Ⅱ (中村(祐) 他)A
火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

（備考）

1. 3月7日（月）に総合試験（医学実習Ⅰ）を実施する。
2. 教室名 臨2…臨床講義棟2階講義室 A…大講義室A（講義棟1階）

平成27年度 医学科授業時間割表（6年次生）

前期（4月1日～4月24日）

曜日	I 時限 8:30～9:45	II 時限 9:55～11:10	III 時限 11:20～12:35	IV 時限 13:30～14:45	V 時限 14:55～16:10	VI 時限 16:20～18:00
月	臨床実習（医学実習Ⅱ）					
火	臨床実習（医学実習Ⅱ）					
水	臨床実習（医学実習Ⅱ）					
木	臨床実習（医学実習Ⅱ）					
金	臨床実習（医学実習Ⅱ）					

前期（4月27日～6月26日）

曜日	I 時限 8:30～9:45	II 時限 9:55～11:10	III 時限 11:20～12:35	IV 時限 13:30～14:45	V 時限 14:55～16:10	VI 時限 16:20～18:00
月	臨床実習（医学実習Ⅱ）				※2. 「薬害被害者の声を直接聞く特別講義」	※1. 臨床病理検討会 計8回 臨2 (5・6年生合同7回)
火	臨床実習（医学実習Ⅱ）					
水	臨床実習（医学実習Ⅱ）					
木	臨床実習（医学実習Ⅱ）					
金	臨床実習（医学実習Ⅱ）					

（備考）

1. 4月14日（火）午後定期健康診断（午後休講）、4月15日（水）午後臨時健康診断
2. ※1. 「臨床病理検討会（CPC）」は、2回目以降を5年生と合同で実施する。
3. ※2. V時限目に5年次生と合同で「薬害被害者の声を直接聞く特別講義」を1回実施する。【予定】
4. 6月20日（土）にAdvanced OSCEを実施する。

前期（6月29日～7月10日）、（8月24日～9月11日）

曜日	I 時限 8:30～10:10	II 時限 10:40～12:20	III 時限 13:30～15:10	IV 時限 15:20～17:00
月	医療総合講義 臨2	医療総合講義 臨2	医療総合講義 臨2	医療総合講義 臨2
火	医療総合講義 臨2	医療総合講義 臨2	医療総合講義 臨2	医療総合講義 臨2
水	医療総合講義 臨2	医療総合講義 臨2	医療総合講義 臨2	医療総合講義 臨2
木	医療総合講義 臨2	医療総合講義 臨2	医療総合講義 臨2	医療総合講義 臨2
金	医療総合講義 臨2	医療総合講義 臨2	医療総合講義 臨2	医療総合講義 臨2

（備考）

1. 教室名 臨2…臨床講義棟2階講義室
2. 卒業試験 9月14日（月）～11月13日（金）

シラバス

1 年次生

医用物理学

医用化学 I

医科生物学

微分積分学

医用統計学

医療心理学

医学概論

早期体験学習

早期医学実習 I

医療プロフェッショナルの実践 I

国際交流活動

医療と法規

授業科目名

医用物理学

(英文併記 Physics for Medicine)

科目区分 専門基礎科目 授業コード 703200 DPコード bcxM

単位数 2 時間割 前期 対象年次及び学科 1 医学科

教員名

准教授 久富 信之

授業の概要

自然科学の基礎の一つである物理学の基本法則を理解し、医学および他の基礎科目についての事象の理解に必要な基礎学力の習得を目標とします。具体的には質点力学、剛体力学、流体力学、波動、光学、熱統計力学、電磁気学、原子核物理学について学びます。静力学、慣性モーメント、変形力学は整形外科学に関連しており、また流体力学は血行力学と関連しています。熱統計力学、電磁気学、および原子物理学は化学、生物学、生化学、神経信号伝達や、生体膜の力学に関連しており、その基礎となる物理法則の解説を行います。また最近の、先進医療機器では物理学の測定手法などが応用されており、電磁気学や原子物理学を学んで、その動作原理を理解できるように解説を行います。

授業の目的

- 1) 質点や剛体の力学や運動について理解し、関連する問題を解くことができる。
- 2) 静止流体と運動する流体力学の基礎を学び、流体に関する問題を解くことができる。
- 3) 単振動、波動の基礎を学び、その応用として音波に関する性質を説明することができる。
- 4) 電磁気学における基本法則の理解と生体への応用力を身につけ、これらを生体反応へ応用する。
- 5) 温度やエネルギー、熱など熱力学的観点から、熱現象を理解し、化学反応機構について理解する。
- 6) 原子物理学や放射線科学等の基本を理解し、先端医療装置・機器の動作原理を理解する。

達成目標

将来の医学を習得するにあたり、様々な臓器の働きや検査の原理について、必要に応じて物理学的な観点から説明できる。

成績評価の方法と基準

学期末の試験、レポート、受講態度など総合的に評価する。

授業計画並びに授業及び学習の方法

講義を中心にします。講義中および終了時、演習問題を行います。

回	大項目	項目	内 容
1	はじめに	概論	物理学と医学
2	一般力学	質点の力学	運動方程式、保存則
3,4		静力学	力の釣り合いと力のモーメント、静力学の医学への応用
5,6		剛体の運動	慣性モーメント
7	固体変形	弾性変形・塑性変形	ヤング率, 体積弾性率, 生体への応用
8,9	流体力学	静止流体	自由表面、静水圧と空気圧、連続の式
10		運動流体	ニュートン流体と粘性流体, ベルヌーイの定理、 ハーゲン-ポアズイユの法則
11	振動・波動	単振動	単振動、単振動の合成、強制振動
12,13		波動	波動に関する基礎的知識、波の診断利用
14,15	音波	音波	音の3要素、音速と音圧、共鳴、音の生体への応用
16,17	振動と波動	光学	光の干渉、回折、光学器械
18,19	熱と熱力学	熱現象、熱力学	温度と熱、熱の伝達、熱力学第1、2法則、エントロピー
20		分子運動論	分子の運動と熱分布、比熱
21		熱力学の応用	自由エネルギー、化学ポテンシャルと化学平衡
22	電磁気学	電場と電位	クーロンの法則、ガウスの法則、電気双極子、電気容量
23		電流現象、静磁場、 電流と磁場	オームの法則、キルヒホッフの法則、熱起電力、ジュール熱、 磁気双極子、磁性体
24,25		電磁誘導、電磁波	ファラデーの法則、インダクタンス、インピーダンス、共振回路、 変位電流とMaxwellの方程式
26	原子	原子と原子核	黒体放射、光電効果
27		電子と原子	エネルギー準位、角運動量、粒子の波動性
28,29		原子核と素粒子	原子核、核融合、核磁気共鳴
30		X線、放射線	発生と利用、原子核の崩壊、利用例

教科書・参考書等

医歯系の物理学 赤野松太郎他著 東京教学社

オフィスアワー

月曜日午前中、火曜日終日、水曜日2限目以降、木曜日午前

メールアドレス kudomi@med.kagawa-u.ac.jp

授業科目名

医用化学 I

(英文併記 Chemistry for Medicine I)

科目区分 専門基礎科目 授業コード 703215 DP コード abxM

単位数 2 時間割 通年 対象年次及び学科 1 医学科

教員名

教授 和田 健司

授業の概要

我々の生活は、100 あまりの元素から構成される物質に囲まれている。生命体もその例外ではなく、生命現象は多様な化学反応が高度に調和し、連鎖することから成り立っている。生命現象を分子レベルで正確に理解するためには、こうした多様な物質の構造や一般的性質、物質間の相互作用や反応について、系統的に学ぶ必要がある。医用化学 I の授業では、主に物理化学や無機化学、および基礎的な有機化学の側面から、医学の基盤となる化学の系統的理解を図る。

授業の目的

授業を通じて、医学を志す諸君に必要なとされる基礎化学について理解を深める。特に、原子・分子の概念と構造、化学結合の様式、気体、液体および固体の性質、熱力学、化学平衡、酸と塩基、酸化と還元、化学反応の速度、有機化合物の構造と性質、有機化合物の反応、および立体化学の基礎について、正確かつ十分な知識を習得し、生命現象を分子レベルで理解するための能力を身につける。

達成目標

- 1) SI 基本単位系の定義と意義を説明できる
- 2) 原子や放射性同位元素、分子と分子量、モルとアボガドロ数の定義を説明できる
- 3) 周期律に従って原子の諸物性を説明できる
- 4) 原子の構造と量子数を説明できる
- 5) 化学結合の種類を説明できる
- 6) 理想気体の法則、熱力学第一・第二法則、相平衡と化学平衡、電解質溶液と電離平衡を説明できる
- 7) 一次反応、二次反応等の反応速度や、ミカエリス・メンテンの式等の速度式が説明できる
- 8) 有機化合物における結合の様式や混成軌道を説明できる
- 9) 環状構造や主な官能基の性質を説明できる
- 10) 有機化合物の命名法を説明できる
- 11) 有機化合物の立体化学について説明できる

成績評価の方法と基準

中間及び学期末に試験を実施する。試験の成績に加えて、授業への出席、宿題の提出状況と成績、小テストの成績等を総合的に評価する。

授業計画並びに授業及び学習の方法

教科書を使用する。また、必要に応じてより高度な解説および演習問題等のプリントを配布する。なお、原則として、毎回小テストを行い、宿題を出す。

回	大項目	項目	内容
1	概論		科目概要の説明、化学を学ぶ意義、科学倫理、
2	化学の基礎	量と単位	元素と元素記号、同位体、原子量とモル、 化学反応式、単位と測定値の扱い
3, 4	原子	原子の構造と性質	ボーアのモデル、電子の波動性、不確定性原理、軌道関数と電子配置、周期表、電子式
5, 6	分子	原子から分子へ	共有結合 (σ 、 π 結合)、軌道混成、配位結合、極性、水素結合
7	結晶	様々な結晶と半導体	イオン結晶、電子配置の安定性、金属結合、共有結合結晶、半導体
8	物質の状態	気体	相図、超臨界、気体の特徴、分圧、気体拡散の法則、理想気体、モル分率、実在気体
9		液体と固体	固体、液体、濃度単位、蒸気圧、理想溶液、蒸留、非理想溶液、共沸、凝固点降下、沸点上昇、浸透圧
10, 11	物質の変化	熱力学の基礎	熱力学第一法則、内部エネルギー、エンタルピー、エントロピー、ギブスの自由エネルギー変化
12, 13		化学平衡	動的平衡、平衡定数、ギブスエネルギーとの関連、平衡定数の温度依存性、ルシャトリエの原理
14		酸と塩基	酸と塩基の定義、水の解離、pH、酸解離定数、酸・塩基強度、中和、滴定、加水分解、指示薬、
15	中間まとめ		
16	物質の変化	反応速度	反応速度(式)、反応機構、反応速度の温度依存性 触媒、酵素、核化学
17	電気と化学	酸化と還元	酸化と還元の定義、酸化数、標準電極電位、ネルンストの式、濃淡電池、溶解度積
18	有機化合物の構造と性質	原子の構造と化学結合	原子の構造と化学結合、酸と塩基
19, 20		アルカンとその立体化学	命名法、異性体、反応性、立体配座
21, 22	有機化合物の反応 (1)	アルケンとアルキンの化学	命名法、電子構造、反応と反応機構
23, 24		芳香族化合物	ベンゼンの構造、命名法、反応と反応機構
25, 26	立体化学	有機化合物の立体化学	分子の対掌性、工学活性、順位則、自然界におけるキラリティー
27, 28	有機化合物の反応 (2)	ハロゲン化アルキル	ハロゲン化アルキルの命名法、求核置換反応、脱離反応、生体内における置換反応
29, 30		アルコール、フェノール、エーテル	アルコール、フェノール、エーテルの命名法、水素結合、酸性度、合成と反応

教科書

浅野、上野、大賀著、「Freshman 化学 第2版」(学術図書出版)：平易な教科書である。講義前に予習し内容を理解しておくこと

McMurry ほか著、伊東ほか訳「マクマリー有機化学概説 第6版」(東京化学同人)

参考書

Rosenberg ほか著、一國訳「マグロウヒル大学演習 一般化学」(オーム社)

化学教科書研究会著「基礎化学」(化学同人)

東京大学教養学部化学部会編「化学の基礎 77 講」(東京大学出版)

Atkins ほか著「アトキンス物理化学 (上) (下)」(東京化学同人)

Warren ほか著、野依ほか訳「ウォーレン有機化学 (上) (下)」(東京化学同人)

オフィスアワー

水曜日 午後6時～7時 ただし、事前にアポイントメントをとる場合には、随時受け付ける。

授業科目名

医科生物学

(英文併記 Medical Biology)

科目区分 専門基礎科目 授業コード 703226 DPコード bcxM

単位数 2 時間割 通年 対象年次及び学科 1 医学科

教員名

教授 山本 融 非常勤講師 永尾 幸 (保健管理センター医学部分室 講師)

授業の概要

「生命」とは何か、「生きている」とはどういうことか、を物質的側面から考察し、生命の成り立ちの必然性を概説する。次いで、生命が比較的少ない種類のパーツにより構成されていることを理解し、その物理化学的特性を把握する。さらに、これら分子群がどのように構成されて、生命の基本単位たる「細胞」を構築しているかを、その物理化学的特性に基づいて理解し、一つの動物細胞を例にして、その機能維持がどのように成し遂げられているのかを概説する。こうして得られた生命現象の物質的基盤と生命の最小単位である細胞の基本的な成り立ちについての理解を踏まえ、これら細胞群がどのように協調して組織を構築し、個体というシステムを形成していくのか、その基本について概説するとともに、この惑星上に共に生きる仲間である種々の生物相の相互作用により形成される生態系のあらましにふれる。

授業の目的

「社会人」として踏まえておくべき生物学のエッセンスと「医」の専門家として必要な現代生物学の概念および知識を習得することを目的とする。中でも、生命が現在あるシステムをとるようになっている必然性を生体分子の物性に基づいて理解し、生命の基本単位である「細胞」が採用しているシステムの実態と、細胞分裂にはじまり組織構築から個体形成にいたるメカニズムの概略を分子レベルで把握するとともに、細胞間の相互作用に基づいて形成された組織の特徴と、これがどのように維持されているのかを理解する。さらに、これら個体群の有機的な集合体としての生態系のあらましを把握する。これにより、原子・分子レベルから地球環境レベルまで、時と必要に応じた視点から、医学の広範にわたる諸問題に対処していくのに必要な素養を身につけていく上での足がかりを作ることを本授業科目の目標とする。なお、本講義で概説した事項を含む各生命現象の具体的な詳細については次年度以降の基礎医学系の講義で詳述されるので、それまでの楽しみとされたい。

達成目標

1. 生命の成り立ちを理解し、その有り様を概説できる。
2. 生命を構成している主要な物質を列記し、その構造と特性について説明できる。
3. 真核動物細胞がどのように成り立っているかを描述できる。
4. 生命維持に必要なエネルギーがどのように産生されているのかを概説できる。
5. 核酸の構造とその複製機構を説明できる。
6. 遺伝情報の複製がどのように制御されているのかを説明できる。

7. 細胞分裂の仕組みと細胞周期進行の制御機構を説明できる。
8. 細胞内の主要な情報伝達機構を説明できる。
10. 遺伝情報の発現とその制御機構を説明できる。
11. エピジェネティックな遺伝子発現制御機構とその意義について説明できる。
12. 能動的な細胞死の分子機構とその生物学的な意義について説明できる。
13. 細胞と細胞および細胞外マトリックスとの相互作用について説明できる。
14. 1個の受精卵から3種の胚葉が生じ、頭尾・背腹軸が定まる仕組みを概説できる。
15. 生命科学研究に用いられる主要なモデル生物の特徴を概説できる。

成績評価の方法と基準

中間（第8回）期末（前期・後期それぞれの終了後）におこなうテストにより、上記目標の達成を判定する。

授業計画並びに授業及び学習の方法

とりたてて予習をする必要はないが、次回の講義で講述する内容の参考書における該当領域を提示するので、あらかじめ目を通しておくとよい。なお、講義においては、講述される内容を適確に把握した上で、ノート等に整理し、以下に記す参考文献等にあたってその理解を期すことが求められる。

回	大項目	項目	内容
1	生命の物質的基礎	イントロダクション	イントロダクション - 生物学は暗記ではない -
2		細胞の基本構造	細胞の成り立ち - 生命の基本単位と「細胞」を作った日本人
3		生命の成り立ち	生命の誕生 - H ₂ O に育まれて -
4		生体物質	生命を構成する主要な物質 - たったこれだけ？
5		タンパク質の構造	タンパク質の高次構造と機能 - 体は名を表す -
6		エネルギー産生	エネルギー問題とその解決 - 勝ったのはどっち？
7		核酸の構造	核酸の構造 - 拙速がもたらした挫折と栄光 -
8		中間テスト	基本事項の確認
9	細胞の基礎生物学	これまでのまとめ	基本事項の復習
10		遺伝子の構造	遺伝子とその構造 - 君の DNA に過去の戦いの記憶が残る -
11		遺伝情報の複製	遺伝子の複製 - DNA を増やすのに RNA が要るって？ -
12		遺伝情報の発現	セントラルドグマ - 原則のあるところ例外あり -
13			転写とその制御 - 必要な情報を必要な時に -
14			RNA プロセッシングと翻訳 - RNA 修飾と翻訳の深い関係 - -
15		遺伝情報の修飾	エピジェネティクス - 氏も育ちも -

回	大項目	項目	内 容
16		前期のまとめ	前期末試験
17		細胞内情報伝達	細胞内情報伝達の基本原理 - 触ってみなけりゃわからない -
18			GPCRとRTK - この略号がわかればあなたも仲間 -
19			情報伝達と制御 - 使ってみると「足場」は便利 -
20		細胞骨格形成と制御	細胞骨格とその機能 - とても柔軟な細胞の「骨」 -
21			細胞骨格の形成制御 - 機能が似てれば仕様も類似 -
22		細胞周期と細胞分裂	DNA複製の開始制御 - DNA複製のライセンス -
23			細胞周期とチェックポイント - その先に進んで大丈夫? -
24	細胞から組織へ	非対称細胞分裂	単細胞から多細胞へ - トンビがタカを生む方法 -
25		細胞間相互作用	細胞間コミュニケーション - 「敵」から「仲間」へ -
26		細胞死	アポトーシスとその制御機構 - ほんとうに「自殺」か? -
27		初期発生	原腸陥入 - 1個の受精卵から個体形成への第一歩 -
28	個体と環境	群集と生態系	種の多様性とその維持機構 - 短絡的思考の墓場 -
29	生命科学と創薬	創薬科学	「おくすり」を創りかた - 「合理的」探索とセレンディピティ -
30	特別講義	漢方医学概論	漢方医学とは - 日本の伝統医学を知ろう - (担当: 永尾)

教科書・参考書等

1を参考書・図版集として随時利用するので持参されたい。2も参考書として使用する。なお、2は、本講義で取り上げる内容の相当部分を網羅しているのみならず、今回は触れることのできない詳細についても平易に解説されており、自習・復習用にお勧めしたい。なお、訳書が原書と大差のない価格で提供されている。3はやや高度な内容まで含まれた世界標準の参考書であり、講義で用いる図版等は、その多くをこの参考書から利用している。本講義や参考書2に物足りない諸君は、原文で関連項目を読破されることをお勧めする。訳書も存在するが高価である。

1. 「理系総合のための生命科学・第3版」羊土社 ISBN:978-4-7581-2039-5
2. 「プロッパ 細胞生物学」化学同人 ISBN:978-4-7598-1533-7
(原書:「Principles of Cell Biology」 ISBN:978-1-4496-3751-4)
3. 「Molecular Biology of the Cell 5th edition」Garland Science ISBN:978-0-8153-4106-2
(訳書:「細胞の分子生物学 第5版」ニュートンプレス ISBN:978-4-3155-1867-2)

オフィスアワー

随時受け付けるので、講義棟3Fの居室へ気軽に立ち寄られたい。なお、不在の場合も多いので、あらかじめ在室をメール (tohru@med.kagawa-u.ac.jp) で確認されると確実である。

授業科目名

微分積分学

(英文併記 Calculus)

科目区分 専門基礎科目 授業コード 703204 DPコード bcxM

単位数 2 時間割 前期 対象年次及び学科 1 医学科

教員名

非常勤講師 上原正宏

授業の概要

微積分の基本的な概念について、演習を交えながら講義する。この授業の前半では、ほぼ同じ内容の高校での一変数関数の微積分であるが、見方、考え方を少し変えるだけでおおざっぱな思考から微積分の精密さに気付く、と同時に数学の理論の奥深さが理解できる。また、後期の医用統計学への準備の一部である二変数関数の微積分の簡単な事項について具体的に紹介する。

授業の目的

取り扱う内容が同じでも、少し角度を変えて考えると、簡単な事柄から、高度な数学が理解できることを知る。また、数学の持つ厳しさ、美しさを体験する。決められた事柄を守り、与えられた条件から、新しい概念や結果を得るために、指示された通りに実践できるかどうかということは、専門性を追求するすべての分野に通じる手法である。何事にも、初心者が自分流の理論を展開しては、ほとんどの場合に失敗する。その典型がこの微分積分学にある。結果として、新しい概念についての、定義、定理の理解を優先することの重要性を知る。

達成目標

- Landau 記号が理解できる。
- 微分の意味が分かる。
- 平均値の定理が理解でき、極限值が求められる。
- 微分積分学の基本定理が理解できる。
- 積分計算が出来る。
- 二変数関数の微分が分かる。
- 偏微分、全微分が計算できる。
- 条件付きの境値問題が解ける。
- 二重積分の計算ができる。
- 縦線型の領域での積分や、積分の変数変換ができる。
- 線積分が計算できる。
- Gauss-Green の定理が理解できる。

成績評価の方法と基準

レポート、演習、中間試験、定期試験などにより総合的に判断する。

授業計画並びに授業及び学習の方法

これまでに学習した微積分の基本的な概念を本質から見直し、改めて、数学の基礎概念を理解し、知識の拡充を図る。随時、演習の時間を設けるので、その日のうちに習ったことは、その日のうちに理解するように努力すること。演習の時間は、友達と話し、数学の理解を深める事も許される。

一変数の微積分については、導入部分を除いては特別に目新しい内容は含んでいないが、それが自然に二変数関数の微積分の理解に有効であることを確認する。理論を理解する事で、知識を知性に広げて行く事が望まれる。

期末試験の前にはプレ試験を設けることがある。

回	大項目	項目	内 容	担当者
1~6	一変数関数の 微分積分学		微分とは何か、微分積分学の基本定理など	上原
7			前半のまとめと中間試験	上原
8~15	二変数関数の 微分積分学		偏微分と全微分、条件付き極値問題の解法、二重積分の概念と計算	上原
16			学期末試験	上原

教科書・参考書等

教科書

特にはない。授業前に関連するプリントを配布する。

参考書

試験前には、自分のノートが最善の参考書になる。

オフィスアワー

特には設けない。時間のある時にアポイントメントを取り来室すること。

講義実習棟 3F 306 非常勤講師室

e-mail: uehara@med.kagawa-u.ac.jp

授業科目名

医用統計学

(英文併記 Medical Statistics)

科目区分 専門基礎科目 授業コード 703250 DPコード bcdM

単位数 2 時間割 後期 対象年次及び学科 1 医学科

教員名

非常勤講師 上原正宏

授業の概要

今世紀はある意味で、情報との戦いである。就中、情報処理への関心度は、従来に比して非常に高まるであろう。適当にサンプリングされたデータから、客観的な事実を指摘し、データの本質的な中身を知る推定や、従来データとの比較である検定の手法は欠かせないものになる。推定や検定の基本的な概念を理解することは、その情報との戦いにとって非常に有効な手段である。確率変数、積率母函数の例を二項分布、正規分布に見て、推定、検定の理論を具体的な演習問題を交えながら統計学の初歩を手短に講義する。積率母函数は、他の本には余り見られない内容であるが、多くの利便性を有する函数であるので、微積分の延長の意味も込めて取り扱っている。

授業の目的

統計学の数学的理論を理解し、実践的な能力を涵養するために、基本的な数学の概念を含む、統計の基本的な事項を修得し、統計学の必要性を理解して、具体的なデータの客観的な評価の仕方、方法、特に様々な検定の仕方を身につける。

達成目標

- ・ 統計における基本的な概念を説明し、それらの相互関係を示すことができる。
- ・ 確率変数の意味が分かる。
- ・ 二項分布、正規分布の基本的な性質が分かる。
- ・ どの統計量がどの分布に従うかが理解できる。
- ・ 推定、検定の初等的な内容を知り、演習を通じて、基本的な操作に慣れることができる。
- ・ 積率母函数の意味が分かり、積率の計算ができる。
- ・ 不偏分散の意味がわかる。
- ・ 平均、分散などの区間推定ができる。
- ・ 両側検定、片側検定の違いがわかる。
- ・ 平均の検定、カイ二乗検定、t 検定、F 検定ができる。
- ・ 適合度・独立性の検定ができる。
- ・ データの取り扱いに付いての重要性を理解し、慎重かつ正直な応接ができる。

成績評価の方法と基準

レポート、演習、中間試験、定期試験などにより総合的に判断する。

授業計画並びに授業及び学習の方法

基礎的な数学の概念を用いて、統計学の理論、定理の内容、公式の意味を理解するための講義をする。講義内容の理解を深めさらなる関心を持つために、また、統計学に現れる基本的な概念の具体的な利用法を身につけるために、適宜、演習問題を課す。

演習時には速やかな計算のため、電卓を使用する。各自忘れないように準備すること。試験時にも必ず持参すること。電卓の貸与はしない。

期末試験前にプレ試験を実施する事もある。

回	大項目	項目	内 容	担当者
1～6	統 計 学	確 率 分 布	確率変数、確率分布の基本的な性質	上原
7			前半のまとめと中間試験	上原
8～15	推 測 統 計 学	推 定 と 検 定	推定と検定の基礎とそれらの応用	上原
16			学期末試験	上原

教科書・参考書等

教科書

新統計入門 小寺平治著 裳華房

授業前に関連するプリントを配布する。

参考書

ゼロから学ぶ統計解析 小寺平治著 講談社

基礎数学統計学通論（第2版） 北川敏男、稲葉三男共著 共立出版

オフィスアワー

特には設けない。時間のある時にアポイントメントを取り来室すること。

講義実習棟 3F 306 非常勤講師室

e-mail: uehara@med.kagawa-u.ac.jp

授業科目名

医療心理学

(英文併記 Medical Psychology)

科目区分 専門基礎科目 授業コード 703432 DPコード bdxM

単位数 2 時間割 後期 対象年次及び学科 1 医学科

教員名

非常勤講師 長谷 綾子 (臨床心理士)

授業の概要

私たちは日々、他者と関わり合い、そして他者との違いを感じながら生きている。また同時に他者との共通点を感じながらも生きている。心理学は人間の行動と心の過程に関する規則性と独自性を、どこまでも追求する学問である。「心」は目に見えるものではない。抛ってその研究対象は「心」の表れとしての行動や言語となる。そしてその過程は脳のはたらきと深いつながりがある。

本講義ではまず「心」がいかにして構成され、いかなる過程をたどって、行動や言語でいかように表出されるか、人間に共通してみられる規則性を学習する。その上でその共通性が社会や個人をとりまく環境によっていかに影響を受け、人格を形成していくか、社会的な視点と発達の視点から独自性を持つ人間を理解することを習得する。

今後、職業人として、家庭人として、そしてひとり人間として生きていく上でも、今、心理学について学ぶことで自身の心の特性や人格形成の成り立ち、社会や身近な人たちとの関わりあいについて深く考える機会としてほしい。

授業の目的

人間の行動と心理を理解するための基礎的な知識と考え方を学ぶ。

達成目標

- 1) 行動と知覚、学習、記憶、認知、言語、思考、性格との関連を概説できる。
- 2) 様々な学習行動とその過程について説明できる。
- 3) 動機づけの種類や過程、欲求と葛藤、防衛との関連を説明できる。
- 4) 発達の原理とライフサイクルの各段階における特徴を概説できる。
- 5) 人格理論の諸説について説明できる。
- 6) 社会や人間関係における諸問題、コミュニケーションの様相について概説できる。

成績評価の方法と基準

出席点、学期末試験、講義内レポート、小テストにより総合的に評価。

授業計画並びに授業及び学習の方法

主に指定の教科書を使用しながらパワーポイント，資料で補足して講義を進める。

1. オリエンテーション～心とは何か
2. 知覚 ～刺激の受容と選別
3. 記憶 ～記銘・保持・想起そして忘却
4. 認知・思考 ～情報の統合と応用
5. 動機づけ ～行動の源泉
6. 学習① ～無意識的反応と意識的反応
7. 学習② ～経験による行動の変化
8. ストレス ～適応への脅威，それへの対応
9. 人格① ～こころの独自性
10. 人格② ～臨床上の問題と対応
11. 発達① ～発達理論と乳児期から幼児期
12. 発達② ～学童期から老年期
13. 対人関係① ～社会に生きる
14. 対人関係② ～コミュニケーション

教科書・参考書等

講義は教科書を使用しながら進める。参考書は必要に応じた理解の補足として挙げておく。

教科書

金城辰夫監修. 図説現代心理学入門[三訂版]. 培風館, 2006.

参考書

今田寛・宮田洋・賀集寛共編. 心理学の基礎[三訂版]. 培風館, 2003.

オフィスアワー

a.hase.kaisei@gmail.com

授業科目名

医学概論

(英文併記 Outline of Medicine)

科目区分 早期医学 授業コード 703700 DPコード dcbM

単位数 1 時間割 前期 対象年次及び学科 1 医学科

教員名

学長 長尾省吾
教授 今井田克己(医学部長、副コーディネータ)
教授 横見瀬裕保(病院長)
教授 秦利之(周産期学婦人科学)
教授 芳地一(薬剤部長)
教授 徳田雅明(国際交流委員長)
教授 横井英人(医療情報部長)
教授 鈴木康之(消化器外科)
教授 木下博之(法医学)
看護師 筒井茂子(看護部長)
准教授 松原修司(卒後臨床研修センター)
講師 永尾幸(保健管理センター)
講師 舩形尚(医療安全管理部)
非常勤講師 岩井敏恭(小豆総合事務所)
非常勤講師 長安めぐみ(群馬大学)
准教授 新井明治(コーディネータ)

授業の概要

今日、私たちの周囲を取りまいている環境をみまわすと、テレビや家庭医学書において見られるような形での医学情報が氾濫しており、一般の人々は見方によってはかなり豊かな医学的知識をもっている。そして、そのような人々の頭のなかに、病気の征服的な医学のイメージ、あるいは、「日進月歩」的な医学のイメージが成立しているようにみえる。そのような輝かしい「業績」は、西洋医学の一面の真実をあらわしており、賞賛に値することであるが、しかしながら、そのような状況のなかでは、より医学の根本にかかわる事柄、たとえば、「病むとはなにか」、あるいは「病気とはなにか」などについては、本格的に議論される機会はすくない。

医学概論とは、これから医学を学ぶことを志す人たちに、早わかり的な「医学のあらまし」をてっとり早く知ってもらうことを目的とする科目ではなく、「医学とはなにか」について考える科目である。

また、医学は隣接する諸学科と密接に関連しながら発展している人間の総合科学である。

そのために医師は、たんに個々の臓器障害を治療するだけでなく、高い倫理性と社会的使命の自覚をもつことが要請されている。とくに近年、医学・医療技術の発展はいちじるしく、極度に専門化された科学的知識と人間性を正しく統

合し、医療や医学研究に従事する必要がある。

医学概論は、こうした広い視野にたって、医師となるための基本的な素養を身につけることを目的としている。

授業の目的

- 1) 医学をこころざす者にとって最も基本的な事柄を理解するために、医学と関連する諸科学の事柄、たとえば、生命とはなにか、医学とはなにか、医の倫理、精神と身体、医療と社会などについての知識を修得する。
- 2) 将来、よき医師、あるいは医学研究者になるためには、学生時代にどのような態度で医学を学ばなければならないかについて理解するために、基礎医学における研究・臨床医学における研究および診療活動はどのように行われているか、その実例を知る。

達成目標

- 1) 医の倫理について説明することができる。
- 2) チーム医療について説明することができる。
- 3) 胎児のこころについて説明することができる。
- 4) 医療従事者に求められるものについて説明することができる。
- 5) 乱用薬物の基礎知識について説明することができる。
- 6) 医学部生の心と体の健康について説明することができる。
- 7) 医療と地域社会の関係について説明することができる。
- 8) 国際化する医学教育について説明することができる
- 9) 医師としての生涯設計を説明することができる。
- 10) ITと医療の関係を説明することができる。
- 11) 医療安全について説明することができる。
- 12) インフォームドコンセントについて説明することができる。
- 13) 安楽死と尊厳死について説明することができる。
- 14) 大学生のジェンダー意識と互いの性の尊重について説明することができる。

成績評価の方法と基準

レポート（A～Cの3段階評価）、出席、受講態度などから総合的に評価する。

授業計画並びに授業及び学習の方法

まず、講義の内容を理解することである。そのうえで、興味をもった事柄については、積極的に関連の本を読むことをすすめる。そのためには、図書館を有効に利用することである。興味をもって積極的に取り組むことにより、理解が深まるだろう。

難解な本にも一度は挑戦しなければならない。予備知識不足のため、理解できないかもしれない。しかしながら、医学は人類の歴史とともにあり、豊穡で奥が深いということぐらいはわかるだろう。同時に、医学は、本来的に、西洋の論理から生まれた学問体系の一種であることがわかるだろう。

一部の授業は、3大学連携事業の一環として実施する。

回	大項目	内 容	担当者
1	医学概論	医療に携わった先輩からのメッセージ	長尾 省吾
2		医の倫理	今井田 克己
3		チーム医療	横見瀬 裕保
4		胎児のこころ	秦 利之
5		医療従事者に求められるもの	筒井 茂子
6		乱用薬物の基礎知識	芳地 一
7		医学部生の心と体の健康	永尾 幸
8		医療と地域社会	岩井 敏恭
9		国際化する医学教育：香川大学の現状と展開	徳田 雅明
10		医師としての生涯設計	松原 修司
11		I Tと医療	横井 英人
12		医療安全	舛形 尚
13		インフォームドコンセント	鈴木 康之
14		安楽死と尊厳死	木下 博之
15		大学生のジェンダー意識と互いの性の尊重	長安 めぐみ

教科書・参考書等

必要な場合は、講義の時に、参考図書、文献を紹介する。

オフィスアワー

随時実施（あらかじめメール等で照会を行うこと。）

授業科目名

早期体験学習

(英文併記 Early Exposure to Medicine)

科目区分 早期医学 授業コード 703730 DPコード cbxM

単位数 1 時間割 前期 対象年次及び学科 1 医学科

教員名

臨床系教員・基礎系教員

授業の概要

入学当初から臨床医学を体験学習することにより、1年生で学ぶ教養教育や2年生以降に学ぶ基礎医学、さらに臨床医学の大切さを理解し、勉学のモチベーションを高める。

医学の発展に伴い必要とする知識技能も膨大になってきており、従来の知識伝授型の教育ではそれに対応することが難しくなっているところから、将来のあるべき医師の態度を学び、新しい教育法であるチュートリアル教育（課題探求型自己学習法）を早期から経験することで、自ら勉強する習慣を身に付ける。

授業の目的

- 1) 医療の実際について理解する。
- 2) 臨床の初歩体験学習を通じて勉学に対するモチベーションを自ら高める。
- 3) チュートリアル教育法を学ぶことで、課題を見付け、自己で学習する習慣を養う。

達成目標

- 1) 医師としてのマナーを身につけることができる。
- 2) 患者への適切な対応をすることができる。
- 3) 救命救急法を身につけることができる。
- 4) 大学附属病院各部署の業務内容を把握することができる。
- 5) チュートリアル教育法によって自己学習を習慣づけることができる。

成績評価の方法と基準

病院見学実習アンケート、チュートリアル教育入門チュートリアル評価による。
特に出席を重視する。

授業計画並びに授業及び学習の方法

4月8日より、毎週水曜日3時限目から5時限目。ガイドブックは別に配布する。

(1) オリエンテーション

4月8日	3時限目～4時限目	医学部附属病院内各部署の案内・説明
4月15日	3時限目～4時限目	(場所 講義実習棟2階大講義室D) 救急救命蘇生法体験 (場所 看護学科教育研究棟6階603地域・精神看護学実習室)
4月8日	5時限目	情報メディアガイダンス・図書館分館ガイダンス (看護学科教育研究棟2Fマルチメディア実習室)
4月22日	4時限目～	(予備)

(2) チュートリアル教育入門

5月13日～7月15日	毎週水曜日4・5時限目はチュートリアルを行う。 詳細については第1回目のチュートリアル・オリエンテーション(大講義室D)にて、説明と小冊子を配布する。
-------------	--

教科書・参考書等

必要な場合は、講義の時に、参考図書、文献を紹介する。

オフィスアワー

随時実施(あらかじめメール等で照会を行うこと。)

授業科目名

早期医学実習 I

(英文併記 Early Medical Institute Training I)

科目区分 早期医学 授業コード 703741 DPコード cbaM

単位数 1 時間割 後期 対象年次及び学科 1 医学科

教員名

教授 上田 夏生 (コーディネータ)

教授 岡田 宏基 (コーディネータ)

授業の概要

医学科1年次の諸君の中には、1年次のうちから専門教育の学習を始めたいと考えている学生も少なくないと思われる。また、研究や実際の診療現場に興味を抱いている学生もいることと思う。本授業科目はそのような学生を対象とし、1年次後期に自由科目として開講する。受講者は基礎医学系の講座を中心とした研究室のいずれかひとつを選択し、医学に関連した特定の研究分野の実験・調査・専門書や文献の講読などを行うことで最新の医学に接し、研究の面白さを体験することができる。また、医学部附属病院で初診患者への案内、必用に応じた誘導、お世話などボランティア活動を行うことで医療現場に触れるコースも設ける。受入れ研究室・研究室ごとの受入れ人数・実習テーマ・内容などをまとめたガイドブックを6月頃に配布した上で、受講希望者を募る。火曜日3・4限に開講するAコースと金曜日1・2限に開講するBコースがあるが、ひとりで複数のコースを受講することはできない。研究室ごとの受入れ人数に限りがあるため、募集人数を越える希望者がいる場合は調整を行う。自由科目ではあるが、継続して出席することが強く求められる。

授業の目的

早期に医学研究や医療現場を体験することで、医学研究の重要性および医療現場での課題に気付くとともに課題探究能力を養うことを目的とする。

達成目標

- 1) 医学研究や医療現場体験を行うことの意義を説明できる。
- 2) 与えられた研究テーマについて目的、背景、方法、結果を説明し、考察することができる。
- 3) 病院ボランティア実習では、初診患者の抱える戸惑いや不安などを把握し説明することができる。

授業及び学習の方法

6月頃に配布予定のガイドブックを参照してください。

成績評価の方法と基準

出席状況、実習態度、レポートなどにより総合的に判断する。「了」をもって合格とする。

教科書・参考書

オフィスアワー

授業科目名

医療プロフェッショナルリズムの実践Ⅰ

(英文併記 Practice of Medical Professionalism I)

科目区分 早期医学 授業コード 703815 DPコード acdM

単位数 1 時間割 後期 対象年次及び学科 1 医学科

教員名

教授 木下 博之 (法医学)
教授 徳田 雅明 (細胞情報生理学)
教授 岡田 宏基 (医学教育学)
准教授 西屋 克己 (医学教育学)
准教授 新井 明治 (国際医動物学)
講師 依田 健志 (公衆衛生学)
病院助教 泉川 美晴 (血液・免疫・呼吸器内科学)
教務職員 住谷 和則 (医学教育学)
非常勤講師 村主 節雄 (前香川大学准教授)
菅原 英次 (高梁市川上医療センター長)
三宅 敬二郎 (敬二郎クリニック院長)
乗松 尋道 (香川大学医学部名誉教授)
大麻 陽子 (四国医療専門学校)
花房 順子 (四国医療専門学校)
川口 郁代 (附属病院地域医療連携室)

協力施設

- ・高松市医師会会員および木田地区医師会会員とその所属する医療機関
- ・高松市とその周囲の介護老人保健施設

授業の概要

諸君はこれから医学部医学科の教育において医師となるべき基礎を学んでいくことになる。社会に認められる医師になるためには十分な医学的知識に加えて、専門職としての医師に必要な態度 (プロフェッショナルリズム) を身につける必要がある。本授業では講義・実習を通して医療プロフェッショナルリズムの基礎を学び実践していく。

本授業では、これら今日の医学・医療を取り巻く諸事情、特に高齢化に関する課題、地域医療の実情とそこに潜在する問題、在宅医療のあり方、また、リハビリテーションを含んだ補完医療について、更に、医師の生き方にも関連したワーク・ライフバランス等について、それぞれの専門家から講義を受け、今日の医学・医療が抱える課題について理解を深める。さらに、地域医療と高齢者の介護の現状を体験的に理解するために、高松市およびその周囲の医療機関、および介護老人保健施設での臨地実習を行うことにより医師としてのあるべき姿勢を学んでいく。実習内容はe-ポートフォリオとしてまとめ、また全体で発表会を行い、体験を互いに共有する。加えて、

国際的視野を広める目的で、本学の国際交流と渡航に際しての注意点を講義する。

授業の目的

まず、以降の講義を理解しやすくするために、人体の基本的構造と機能、および日常的によく見られる疾患についての知識を習得する。次いで、今日の社会環境から生じた、医学・医療における諸課題について学ぶ。特に高齢者の医療における問題点、都市部における在宅医療や山間部における高齢者医療について具体的な事例を通じて学習する。さらに、医療を補完するリハビリテーションや、スポーツ医学、鍼灸治療についても基本的事項を学習する。実習では地域医療、介護福祉の現場に触れて、医師としてのあるべき姿勢を学んでいく。また国際交流についての理解と、渡航に当たって必要な事項について学ぶことにより「グローバルマインド」を涵養していく。

達成目標

1. 身体の大まかな構造と機能を説明できる。
2. 日常的によく遭遇する疾患について簡単に説明できる。
3. 疾患をもたらすような自然界の生物について説明できる。
4. 高齢者医療福祉の特徴を介護・福祉の現場を通じて理解し、また孤独死について説明できる。
5. 在宅医療および山間部における高齢者医療について概説できる。
6. ワーク・ライフバランスについて概説できる。
7. リハビリテーションおよび、鍼灸治療など補完医療について概説できる。
8. 地域医療の現場に接し、医師となるための基本的な心構えを習得する。
9. 本学の国際交流について理解し、渡航に際する注意事項を述べることができる。

成績評価の方法と基準

出席毎のミニレポート、学習態度、および実習のレポート等により総合的に評価する。

なお、グループワーク、実習、学外実習発表会準備、学外実習発表会の参加は必修である。

授業計画並びに授業及び学習の方法

講義は必要最小限とし、まずグループワークを通じて、学外実習の意義、医療機関や介護老人保健施設を訪問する際のマナー、礼節、および個人情報の保護などについて基本的事項を習得する。

学外実習は午前半日 2 週×2 回行う。全体を半分に分け、前 2 回と後 2 回（医療機関 2 週→介護老人保健施設 2 週、又は介護老人保健施設 2 週→医療機関 2 週）としていずれも体験する。

実習場所は、インターネットなど様々な情報を自分で取得し、自主的に実習先を決定する。実習後は、そこで学んだことを個々にレポートとしてまとめ、それを基にして講義の最後で全体発表会を行い、個人の経験をできる限り全体として共有する。

実習以外の授業では、学内外の講師から、現在の医療を取り巻く環境、特に高齢者医療・福祉について、さらに代替補完医療について講義を受け、そこで、学んだことを毎回ミニレポートとして提出する。

回	大項目	項目	内容	担当者
1	身体と疾患の基礎知識	オリエンテーション／からだを知ろう	本講義についてのオリエンテーション／身体の基本的構造	岡田／住谷
2		病気を知ろう	「家庭の医学」レベルの疾患の知識	岡田
3	医療プロフェッショナルリズムの実践と学習課題	学外実習の説明	実習の意義と、実習先、およびその選択の仕方、e-ポートフォリオについての説明	岡田、西屋
4		高齢者の福祉施設	高齢者の福祉施設についての解説	川口
5、6		実習場所の選択	候補となっている実習先について様々な情報源から情報を得て、実習先を決める	岡田、西屋、住谷
7、8		グループワーク	実習先で必要な、医療安全、プライバシー保護など、および実習で学ぶべきことについてグループワークを通じて習得	岡田、西屋、住谷
9		山間部の高齢者医療	中山間地域の地域包括ケア	菅原
10		海外の学術調査について	代表的な病原寄生虫についての学術調査	村主
11、12		学外実習1-1	各実習先で研修	現地
13、14		学外実習1-2	同上	現地
15		ワーク・ライフバランス	生涯医師を続けていくための支援とは	泉川
16		孤独死	法医学から見た孤独死	木下
17、18		学外実習2-1	各実習先で研修	現地
19、20		学外実習2-2	同上	現地
21		実習まとめ	実習で学んだことを整理	岡田、西屋
22		リハビリテーション概説	リハビリテーションの概要	乗松
23		補完医療としての鍼灸	鍼灸治療概説と実習	大麻
24		スポーツ医学	競技スポーツと健康作りの現場	花房
25、26		在宅医療	在宅医療の現状と実践例	三宅
27		学外実習発表会準備	実習で学んだことを発表用にまとめる。	岡田、西屋、住谷
28		国際交流・渡航医学	国際交流の紹介と、渡航に当たっての注意点	徳田、新井、依田
29、30		学外実習発表会	実習施設ごとに体験を発表する	関連教員

教科書・参考書等

各担当講師が必要に応じて提示する。

オフィスアワー

水曜日 16:30 ～ 17:30 (第3水曜を除く)

授業科目名

国際交流活動

(英文併記 International Exchange Activities)

科目区分 学際医学 授業コード 703920 DPコード acdM

単位数 1 時間割 集中 対象年次及び学科 全学年(医学科・看護学科)

教員名

教授 徳田 雅明(コーディネータ) 教授 日下 隆 (コーディネータ)
教授 横井 英人(コーディネータ) 教授 谷本 公重(コーディネータ)

授業の概要

香川大学医学部の国際交流の理念は、『国際交流をととして、グローバルスタンダードを有した「学生」「医師」「看護師」「研究者」の育成を行うとともに、人類の福祉や地域への貢献を行う。』としている。この理念のもとに、全学年を通して、学生には様々な国際交流活動に参加する機会が与えられている。こうした活動に積極的に参加することで、国際的感覚を涵養し、国際社会の一員としての自覚に目覚めることは、これからのグローバル社会において重要であり、医学・看護学の面でもグローバルスタンダードを自覚するためのまたとないチャンスである。本プログラムでは、①事前の十分な準備を行うこと、②実習を自主的かつ勤勉に行うこと、③報告書を提出すること、④報告会において発表すること、を求めている。対象となる活動は、香川大学医学部が交流をしている協定校において開設されるプログラムに参加するものに限る。また一部協定校からの学生受入れに関連する活動も含める。それぞれのプログラムについては、活動の時期、内容、定員が異なるため、それらに対応する準備や勉強が求められる。いずれのプログラムにおいても、語学(英語)は重要であり、一定程度の語学力が求められる。また医学部の提供する語学プログラム(上級英語など)への参加が望ましい。

授業の目的

学生の中に、海外での経験を積むことにより、世界に通用する広い視野を涵養する。また他国での医学や看護学の状況を見聞することで日本の医学や看護学について考える機会とすることを目的とする。

達成目標

- 1) 派遣先の大学で、医学もしくは看護学の研修(実習、講義、見学など)に自主的に参加することができる。
- 2) 派遣先の大学で行われている、医学もしくは看護学の現状を理解し、日本の医学もしくは看護学と比較・分析できる。
- 3) 派遣先の大学の学生や教員と交流ができ友好を深める行動ができる。

授業及び学習の方法

対象となる派遣は以下のものに限る。

- ・春季・夏季休業中：チェンマイ大学での研修(医学科・看護学科)
- ・春季・夏季休業中：ブルネイ・ダルサラーム大学での研修(医学科)

- ・ 春季・夏季休業中：中国医科大学、河北医科大学もしくは第四軍医大学での研修（医学科・看護学科）
- ・ 春季・夏季休業中：国立シンガポール大学での研修（医学科）
- ・ 協定校から受け入れた留学生については、本学での研修（医学科・看護学科）

ただし協定校等との新規プログラムが始まった際にはこれを追加できる。

上記の派遣において以下のとおりの活動を行うこと。

- 1) 事前の十分な準備を行うこと。
- 2) 実習を自主的かつ勤勉に行うこと。
- 3) 報告書を提出すること。
- 4) 報告会において発表すること。

成績評価の方法と基準

- 1) 派遣先の大学もしくは受け入れ部署で発行する修了証、および香川大学医学部所定の評価表を先方に記入してもらおう。
- 2) 報告書および報告会での発表の評価。

以上より判断し「了」をもって合格とする。

教科書・参考書等

特にないが、上級生の報告書を参考にすること。

オフィスアワー

各コーディネータで随時受け付ける。

あらかじめアポイントメントを取り相談に行くこと。

授業科目名

医療と法規

(英文併記 Medicine and Law)

科目区分 自由科目

授業コード

DPコード dcbM

単位数 2 時間割 後期 対象年次及び学科 1 医学科

教員名

教授 三谷 忠之 (香川大学院 香川大学・愛媛大学連合法務研究科)
教授 井口 秀作 (香川大学院 香川大学・愛媛大学連合法務研究科)
教授 柴田 潤子 (香川大学院 香川大学・愛媛大学連合法務研究科)
教授 平野 美紀 (香川大学法学部)
准教授 鹿子嶋 仁 (香川大学院 香川大学・愛媛大学連合法務研究科)
准教授 大山 徹 (香川大学院 香川大学・愛媛大学連合法務研究科)
准教授 溝渕 彰 (香川大学院 香川大学・愛媛大学連合法務研究科)
准教授 松久 和彦 (香川大学院 香川大学・愛媛大学連合法務研究科)
非常勤講師 馬淵 勉 (元香川大学院 香川大学・愛媛大学連合法務研究科教授・元裁判官)
非常勤講師 小早川 龍司 (香川県弁護士会所属・元検事)
非常勤講師 田岡 直博 (香川県弁護士会所属)

授業の概要

近年、高度医療の発達と共に患者の権利意識の高まりを背景として、医療と法の学際領域は広がりを見せ、また、医療過誤訴訟が増加するなど医療者の側にも法的な知識を身につける必要性が高まっている。

本講義では、専門を異にする法律の実務家および研究者が、医療者にとって有用と思われるそれぞれの専門分野について、概説する。

授業の目的

法律に関する基本的知識を習得した上で、医療臨床現場で役立つ法的知識やその背景を理解し、医療をめぐる様々な法的問題を考察する能力を身につける。

達成目標

- ・ 法律に関する基本的知識を習得すること。
- ・ 医療臨床現場で役立つ法的知識を身につけることができる。

成績評価の方法と基準

レポート (各教員が出す課題のうちから選択して提出する)

詳細は初回授業で説明する。

授業計画並びに授業及び学習の方法

医療に関する様々な広範囲の法律分野を扱うため、予習は特に必要としない。全講義を受講することによって、医師として必要とされる多種多様の法知識を理解するように要望する。各講義、それぞれの項目のポイントをしっかりと押さえ理解ができるように講義を進める。

回	大項目	項目	内容	担当者
1	法律の基礎/ 医療と行政	法学の基礎 感染症予防法	感染症予防法を題材として、国や地方公共団体の果たす役割と医療機関及び市民との関係を解説する。	鹿子嶋
2	憲法と医療	患者の自己決定権	エホバの証人輸血拒否事件	井 口
3	刑事過失論概論 ①	医療過誤における 過失認定と立法	医療過誤の際に問題となる刑法 211 条の業務上過失致死傷罪の成立	大 山
4	刑事過失論概論 ②	医療過誤における 過失認定と立法	悪質な医療過誤のみを捕捉する刑罰法規の新設について	大 山
5	医療事故と刑事 法	医療過誤と医師の 届出義務	医師法 17 条の異状死の届出義務と医師の自己不罪特権	小早川
6	医療者と患者の 法的関係①	医療関係における 医師の義務	医師法上の医師の義務、説明義務、守秘義務とその例外としての虐待発見時の通告義務や第三者に危険が及ぶ恐れがある場合	平 野
7	医療者と患者の 法的関係②	患者の権利	患者の自己決定権としての生命終結（安楽死・尊厳死や輸血拒否）、自己決定能力の低下した場合など（高齢者・小児）、精神科医療における強制入院制度	平 野
8	精神医療と法	刑事司法と触法精神 障害者処遇制度	医療観察法と、触法行為を行った障害者の処遇	平 野
9	人の生命と法	生命の始期・終期と法	人工妊娠中絶、臓器移植と法	平 野
10	家族関係と法	生殖補助医療、GID、 親子関係	生殖補助医療や性別適合手術など医療と身分・家族関係と医療が接近する問題について	松 久
11	医療事故訴訟の 諸問題	証拠保全、立証責任、 定期金賠償	医療事故に基づく損害賠償請求訴訟が提起された場合の判例の検討	三 谷

12	医療事故訴訟	損害賠償請求訴訟	インフォームド・コンセント, 医師の注意義務・過失, 過失と損害の因果関係	馬 洵
13	医療機関組織の仕組み	医療法人の仕組みと株式会社立の病院	医療法39条にいう医療法人の仕組みと、構造改革特区における株式会社が開設する病院の是非	溝 洵
14	刑事手続きにおける精神鑑定	刑事手続き 精神鑑定	責任能力の意義及び判断方法 刑事手続の概要及び精神鑑定の在り方	田 岡
15	医療と法	医療と独禁法/まとめ	医療と競争政策の関係を検討	平野/柴田

教科書

指定しない

オフィスアワー

質問は授業の前後に歓迎する。

シラバス

2 年次生

医用化学Ⅱ

細胞生物学

自然科学実習(物理学)

自然科学実習(化学)

自然科学実習(生物学)

分子遺伝学

分子生物学

医療プロフェッショナルの実践Ⅱ

解剖学Ⅰ

解剖学Ⅱ

生理学Ⅰ

生理学Ⅱ

生化学

Communicative English Ⅲ (全学共通科目)

早期医学実習Ⅱ

授業科目名

医用化学Ⅱ

(英文併記 Chemistry for Medicine II)

科目区分 専門基礎科目 授業コード 703216 DPコード abxM

単位数 2 時間割 前期 対象年次及び学科 2 医学科

教員名

教授 和田 健司

授業の概要

生命体の大部分は、炭素、水素、酸素、窒素などの少数の元素からなる有機化合物で占められる。また、多様な生命現象を分子レベルで理解するためには、有機化合物の構造や一般的性質、反応機構等に関する知識が必要不可欠である。医用化学Ⅱの授業では、医用化学Ⅰに引き続いて有機化学を系統的に講述するとともに、スペクトロスコピーの基礎について学び、さらに生体に存在する基本的な物質を有機化合物の観点から解説する。

授業の目的

授業を通じて、有機化学及び関連する諸分野の化学について理解を深める。特に、電子の動きによる官能基の反応性、種々の置換反応、脱離反応と付加反応、構造決定法、および生体内の有機化学の基礎について、正確かつ十分な知識を習得し、生命現象を分子レベルで理解できるようになるための基礎能力を身につける。

達成目標

- 1) 電気陰性度と電子の動きによる官能基の反応性を説明できる
- 2) 置換反応、脱離反応と付加反応を説明できる
- 3) 質量分析法、X線回折、紫外可視分光法、赤外分光法、および核磁気共鳴分光法の基礎を説明できる
- 4) 種々の生体内の低分子物質及び高分子物質の構造と機能、および反応機構を説明できる

成績評価の方法と基準

授業期間末に試験を実施する。試験の成績、授業への出席、小テストの成績等を総合的に評価する。

授業計画並びに授業及び学習の方法

教科書を使用する。また、必要に応じてより高度な解説および演習問題等のプリントを配布する。なお、原則として、毎回小テストを行う。

回	大項目	項目	内容
1, 2	ガイダンス、医用化学Ⅱ 概論		医用化学Ⅱについて、科目概要の説明、高度な有機化学や分光学を学ぶ意義
3, 4	構造決定	分光学的手法による有機化合物の構造決定法	質量分析法, 赤外分光法, 紫外分光法, 核磁気共鳴分光法の概要
5, 6	有機化合物の反応	アルデヒドとケトン	アルデヒドとケトンの命名法、合成、求核付加反応
7, 8		カルボン酸とその誘導体	カルボン酸とその誘導体の命名法、性質、カルボン酸の酸性度、合成と反応
9, 10		カルボニル化合物	カルボニル化合物の α 置換反応と縮合反応
11		アミン	アミンの命名法、性質、合成と反応
12	生体内の有機分子	炭水化物	炭水化物の化学
13		アミノ酸, ペプチド, タンパク質	アミノ酸の構造と性質、たんぱく質・酵素
14		脂質と核酸	脂質・油脂、核酸
15		代謝	代謝経路の有機化学

教科書

McMurry ほか著、伊東ほか訳「マクマリー有機化学概説 第6版」(東京化学同人)

参考書

McMurry ほか著、長野ほか訳「マクマリー生化学反応機構—ケミカルバイオロジー理解のために—」(東京化学同人)

Silverstein ほか著、荒木ほか訳「有機化合物のスペクトルによる同定法 第7版」(東京化学同人)

Warren ほか著、野依ほか訳「ウォーレン有機化学 (上) (下)」(東京化学同人)

オフィスアワー

前期 木曜日 午後6時～7時 ただし、事前にはアポイントメントをとる場合には、随時受け付ける。

授業科目名

細胞生物学

(英文併記 Cell Biology)

科目区分 専門基礎科目 授業コード 703350 DPコード bcxM

単位数 2 時間割 前期 対象年次及び学科 2 医学科

教員名

教授 山本 融

授業の概要

生命の基本単位である「細胞」と組織・個体の成り立ちについて、医科生物学で把握した基礎的な細胞像をもとに、具体的に解説する。特に、ダイナミックで非平衡な開放系である細胞内外の秩序が、どのような分子群の相互作用により形成されているのかを詳述する。

授業の目的

「生命」を構成する分子群が、その物理化学的な制約をどのように乗り越え、あるいは利用して、細胞とその有機的な集合体である組織・個体というシステムを成り立たせているのかについて、具体的な描像を得ることを目的とする。「病気」には、こうしたシステムの「ちょっとした」異常により生じているものも多く、薬剤の多くは異常を来したシステムの一部に干渉して作用する。基礎・臨床医学の各論の背後に共通して存在しているシステムの正常状態における成り立ちの基本を、分子レベルで把握・理解することを目指す。

達成目標

1. 脊椎動物における個体発生の分子機構を説明できる。
2. 体節・四肢・器官形成の分子機構を説明できる。
3. 組織の構築と維持の分子機構を、例を挙げて説明できる。
4. 細胞内における物質産生とその品質保証システムの概要を説明できる。
5. 細胞内におけるオルガネラ間の物質輸送とその制御の分子機構を説明できる。
6. 細胞の形態形成と細胞移動の制御機構を説明できる。
7. 生命科学研究に用いられる主要なモデル生物の特徴を概説できる。

成績評価の方法と基準

全講義終了後のテストにより、上記目標の達成を判定する。

授業計画並びに授業及び学習の方法

とりたてて予習をする必要はないが、次回の講義で講述する内容の参考書における該当領域を提示するので、あらかじめ目を通しておくとよい。なお、講義においては、講述される内容を適確に把握した上で、ノート等に整理し、以下に記す参考文献等にあたってその理解を期すことが求められる。

回	大項目	項目	内容
1	細胞の社会学	イントロダクション	前年度のまとめ
2		初期発生	原腸陥入と体軸形成 - 多様な組織形成の第一歩 -
3		形態形成	哺乳類の初期発生 - トリとマウス どっちがヒト? -
4			位置情報と区画化 - アナログ情報のデジタル化をハエに学ぶ
5			体幹の区画化 - 体制はリズムで決まる -
6		組織形成	四肢の形成 - ダーウィンの驚き -
7		組織の維持	中枢神経系を例にして - 特別視されがちな臓器の成り立ち -
8			組織の新陳代謝と形態維持の分子機構 - 安全装置と発がん -
9			生殖系列
10	細胞の分子生物学	細胞内物質輸送	核輸送 - 今いるところは核の内?それとも外? -
11		品質管理	オルガネラへのタンパク質輸送 - 脂質二重膜を越えて -
12			小胞輸送機構とその制御 - 積み荷は常に満タン -
13			分泌小胞とエンドソーム - 放浪するリソソーム酵素 -
14		細胞形態形成と移動	タンパク質の品質管理 - 細胞の不要品処理システム -
15		細胞形態形成と移動	細胞形態形成制御機構 - 細胞の手足のつくりかた -
16			細胞移動と形態形成 - 細胞が動かない細胞移動? -
17	まとめ	まとめ - 60 兆分の 1 に思いを馳せよう -	

教科書・参考書等

1を参考書として利用し、不足を2で補う。一部は3を援用する。

1. 「Molecular Biology of the Cell 5th edition」 Garland Science ISBN:978-0-8153-4106-2
(訳書:「細胞の分子生物学 第5版」 ニュートンプレス ISBN:978-4-3155-1867-2)
2. 「プロッパパー 細胞生物学」 化学同人 ISBN:978-4-7598-1533-7
(原書:「Principles of Cell Biology」 ISBN:978-1-4496-3751-4)
3. 「理系総合のための生命科学・第3版」 羊土社 ISBN:978-4-7581-2039-5

オフィスアワー

随時受け付けるので、講義棟3Fの居室へ気軽に立ち寄りたい。なお、不在の場合も多いので、あらかじめ在室をメール (tohru@med.kagawa-u.ac.jp) で確認されると確実である。

授業科目名

自然科学実習（物理学）

（英文併記 Experimental Methods in Natural Sciences (Physics) ）

科目区分 専門基礎科目

授業コード 703230

DPコード bcxM

単位数 2（物理学・化学・生物学） 時間割 前期 対象年次及び学科 2 医学科

教員名

准教授 久富 信之

授業の概要

物理実験を通し基礎的な実験技術を習得する。また、内容と原理を理解した上で収集したデータについてまとめかつ報告する技術を習得するよう実習を行う。

授業の目的

- (1) 基礎的な計測器の使用を通して実験技術を習得する。
- (2) 実践を通して科学的な思考方法を体得し、自然現象の本質的な理解を深める。
- (3) 機器の操作や技術の原理を習得する。

達成目標

- (1) オシロスコープ、発振器等の計測器の操作ができる。
- (2) 電気、磁気、温度および光等に関する測定ができる。
- (3) X線技術に触れ、その性質が説明できる。
- (4) 電気回路を理解し、作製することができる。
- (5) コンピューターによるデータ処理ができる。

成績評価の方法と基準

実習毎にレポート提出。レポート、実習中の態度を総合的に評価して成績を判定します。

授業計画並びに授業及び学習の方法

実験機器を使い実習を行います。実験手順書を配布します。これにしたがって実験を実施します。

- (1) 前半基礎コース（全員）で3テーマ、
- (2) 後半1テーマ+発表会のアドバンスコース（選択）の実験・実習を行う。

回	大項目	項目	内容	担当者
1	実習講義	実験の心得	器具の取り扱いと注意	久富
2-4	基礎コース	サーミスターによる温度計	サーミスターを使って温度計を制作	久富

		分光計による屈折率の測定	分光計と放電管を使い、プリズムの屈折率を測定	久富
		オシロスコープによる振動数測定	オシロスコープを使い、振動数を測定する	久富
5-7		X線による撮影	X線を使った撮像法について	久富
		画像処理	簡単な医用画像処理	久富
		放射線計測	自然放射線の計測	久富

教科書・参考書等

資料を配布

オフィスアワー

月曜日午前中、火曜日終日、水曜日2限目以降、木曜日午前

電子メールアドレス kudomi@med.kagawa-u.ac.jp

授業科目名

自然科学実習（化学）

（英文併記 Experimental Methods in Natural Sciences (Chemistry) ）

科目区分 専門基礎科目 授業コード 703230 DPコード abxM

単位数 2（物理学・化学・生物学） 時間割 前期 対象年次及び学科 2 医学科

教員名

教授 和田 健司

授業の概要

基礎的な化学実験を通して種々の化学反応を活かした分析法を学び、原理を理解して応用できる力を習得する。特に、医薬品原料や医療材料として活用されている有機化合物の合成と分析法についても実習する。

授業の目的

授業を通じて化学反応の基礎的概念の理解を深めるとともに、実験器具の取り扱い方や、実験ノートの付け方、実験データの解析法、及びレポート作成法を習得する。これらの基礎的な知識の統合によって、有機化合物の合成や分析に関する基礎的な能力を身につける。

達成目標

- 1) 化学実験における心得と実験器具の取扱いについて説明できる
- 2) 酸・塩基滴定による定量分析を行うことができる
- 3) イオン交換法による定量分析を行うことができる
- 4) 吸光光度法分析による定量分析を行うことができる
- 5) 各種クロマトグラフィーによる定性分析を行うことができる
- 6) 基礎的な有機合成反応を理解し、有機化合物を合成し、分析することができる

成績評価の方法と基準

実習毎にレポートの提出を求める。実習への出席状況、レポート、実習態度等を総合的に評価する。なお、原則として実習への欠席を認めない。

授業計画並びに授業及び学習の方法

適宜プリント等を配布する。実験法や実験ノート記載に関する講義に加えて、計6回の実習を行う。

回	大項目	項 目	内 容	担当者
1	全体講義 (物理実験・生物実験と合同で実施)	実習講義	科目概要の説明、実験の心得、実験ノート・レポート作成法、実験器具の取り扱いと注意	和田ほか
2	実習	酸・塩基滴定	塩酸を用いた酸・塩基滴定、マイクロピペット使用法	和田
3		イオン交換法	イオン交換樹脂を用いた定量分析	和田
4		吸光光度法分析	o-フェナントロリン法による定量分析	和田
5		有機合成・クロマトグラフィー	指示薬の合成、ペーパークロマトグラフィー、薄層クロマトグラフィーによる有機化合物の分析	和田
6		抽出	コーヒーや紅茶、緑茶からのカフェインの抽出、薄層クロマトグラフィーによるアミノ酸の分析	和田
7		蛍光物質の合成	固体酸触媒を用いたクマリン誘導体、フルオレセイン等の蛍光物質の合成と分析	和田

教科書

特に指定しない。実習毎にプリントを配布し、実習の手順を解説する。

白衣および以下の実験ノートを使用するので、準備しておくこと。

コクヨ リサーチラボノート エントリーモデル ノ-LBB205S

参考書

Day ほか著、鳥居ほか訳「定量分析化学」(培風館)

後藤ほか著「有機化学実験の手引き」(化学同人)

京都大学大学院人間・環境学研究科化学部会著「基礎化学実験」(共立出版)

東京化成工業(株)編「取扱注意試薬ラボガイド」(講談社サイエンティフィック)

Silverstein ほか著、荒木ほか訳「有機化合物のスペクトルによる同定法 第7版」(東京化学同人)

泉ほか著「機器分析の手引き」(化学同人)

日本分析化学会九州支部編「機器分析入門」(南江堂)

オフィスアワー

前期 木曜日 午後6時～7時 ただし、事前にアポイントメントをとる場合には、随時受け付ける。

授業科目名

自然科学実習（生物学）

（英文併記 Experimental Methods in Natural Sciences (Biology) ）

科目区分 専門基礎科目 授業コード 703230 DPコード cbxM

単位数 2（物理学・化学・生物学） 時間割 前期 対象年次及び学科 2 医学科

教員名

教授 山本 融

准教授 中村 丈洋

教務職員 豊島 哲彦

授業の概要

実際に自分の目と手で生物を観察すると、ステレオタイプな知識だけでは想像できなかった様々な現象が見えてくる。これが実習の醍醐味である。まず、動物としてのヒトの生理をマクロな観点から、自身を検体として観察する。ついで、顕微鏡を用いて小動物・組織のミクロな形態を観察し、生物の、微細でありながらも機能的な形態の一端に触れるとともに、個体が形成されていく発生の過程を観察する。最後に、こうしたミクロな観点からもう一度離れ、我々の生活する環境中に存在する病原体媒介昆虫の生態を探る。広大な生き物の領域のごく一部ではあるが、自らの目と手で整理・把握する喜びを体験する。

授業の目的

実習を通して、データ解析とこれに基づいた推論や、網膜に映った事象の把握と表現法を学ぶことを目的とする。

達成目標

- (1) 簡単な医療機器や顕微鏡といった測定・観察器具を正しく取り扱うことができる。
- (2) ノイズが存在する生データを適切に扱い、測定結果を正しく評価することができる。
- (3) データに基づいた適切な推論を行うことができる。
- (4) 観察した結果を適切に表現・伝達することが出来る。
- (5) 動物の発生・形態・機能・生態について、自らの経験をもとに例を挙げて説明することができる。

成績評価の方法と基準

実習は出席が必須要件であり、原則として欠席は認められない。実習態度と実習ごとに課すレポートを総合して合否判定を行う。

授業計画並びに授業及び学習の方法

各回の実習の目的は何であるか、どのような知見に基づいているのか、またどのような手技が必要とされるのかをよく理解して臨むことが大切である。これらは、各実習の最初に参考資料とともに講述されるので、留意しておくこと。また、データ解析の結果、当初予想されたものと異なる結果であった場合は、直ちに失敗とするのではなく、なぜそうなったのかを考察することが重要である。なお、医療の現場のみならず、医学研究においてもチームワークが大切である。グループで行われる実習では、どのように協力して実験をおこなうかについてコミュニケーションをとりあうことも大事である。

回	大項目	項目	内容	主担当
	自然科学実習 (生物学)	実習説明	イントロダクション (物理・化学・生物)	
1		身近な生物学 (マクロ)	人体の機能を観察する (循環器系)	中村
2		身近な生物学 (マクロ)	人体の機能を観察する (神経系)	中村
3		身近な生物学 (ミクロ)	顕微鏡の取り扱いと小昆虫の観察	豊島
4		身近な生物学 (ミクロ)	神経系の観察	山本
5		個体の発生と形態形成	個体発生過程の観察	山本
6		環境と生態	伝染病媒介昆虫の野外調査	豊島

第1回から第4回までは全体を2グループにわけて、第5回・6回は3グループにわけて実習をおこなう。詳細は全体で行うイントロダクション時に説明する。

教科書・参考書等

教科書

特に指定はしない。実習ごとにプリントを配付し、留意点等を解説する。

参考書

各回実習開始時の講述時に適宜指定する。

オフィスアワー

適宜受け付けるので、講義棟3Fの居室へ気軽に立ち寄りたい。不在の場合も多いので、あらかじめ在室をメールで確認されると確実である。

山本：tohru@med.kagawa-u.ac.jp

中村：tanakamu@kms.ac.jp

豊島：tetsu@kms.ac.jp

授業科目名

分子遺伝学

(英文併記 Molecular Genetics)

科目区分 専門基礎科目

授業コード 703213

DPコード bxxM

単位数 2 時間割 前期 対象年次及び学科 2 医学科

教員名

教授 竹崎 直子

准教授 岩間 久和

授業の概要

遺伝情報についての基本的な知識、伝達様式、遺伝的変異についての解説、これを用いた疾患遺伝子の探索方法などについての紹介を行う。ゲノムプロジェクトの進行とともに得られる、様々な遺伝的データについての基礎的知識を得る。

授業の目的

遺伝情報およびその伝達の機構、遺伝的変異、遺伝情報の変化、疾患遺伝子の探索方法などについて学習する。

達成目標

- 1) 遺伝情報およびその伝達の仕組みを理解することができる。
- 2) 遺伝情報と表現型の関係を理解する。
- 3) 細胞分裂、染色体についての基本的知識を得る。
- 4) 遺伝的変異の創成、維持などのメカニズムについて理解することができる。
- 5) 遺伝的多型を用いた疾患遺伝子探索方法を理解し説明できる。
- 6) 多因子疾患等のモデルについて理解し、疾患にあてはめて説明できる。
- 7) ゲノムやそれに関連する新しい遺伝的データを理解し活用できる。

成績評価の方法と基準

中間試験、期末試験を実施する。また、必要に応じて、宿題や小テストを行い、理解度を判定する。

授業計画並びに授業及び学習の方法

- 1) 教科書を特に指定しないが、準備した資料を参考にしながら、講義内容の復習をすることを基本とする。
- 2) 単なる用語の暗記ではなく、遺伝情報伝達の仕組み、方法論に至る考え方の理解を深める。

回	大項目	項目	内容	担当者
1		遺伝情報伝達のしくみ	遺伝情報伝達の基本的仕組み	竹崎

2		遺伝情報と表現型 I	遺伝情報と表現型との関係	竹崎
3		遺伝情報と表現型 II		竹崎
4		細胞分裂	体細胞分裂と減数分裂	竹崎
5		ヒトの染色体	染色体の構造、常染色体と性染色体	竹崎
6		染色体異常	染色体レベルの異常と表現型への影響	竹崎
7		突然変異	DNA レベルの突然変異	竹崎
8		集団の遺伝情報の変化	ヒトの起源・進化、集団/種間の違い	竹崎
9		中間テスト		竹崎
11	連鎖解析	連鎖解析の基礎	連鎖解析の基礎概念	岩間
12		連鎖解析の応用	連鎖解析による病因遺伝子の探索	岩間
13	多因子遺伝	量的形質座位 (QTL)	QTL と相加的ポリジーンモデル	岩間
14		多因子疾患	多因子疾患における遺伝因子と環境因子の関係	岩間
15		遺伝様式/リスク評価	遺伝様式と家系におけるリスク算定	岩間
16		多数小家系の遺伝解析	多数の小家系を用いた病因遺伝子探索	岩間
17	関連解析	ハプロタイプと連鎖不平衡	ハプロタイプと連鎖不平衡の概念	岩間
18		関連解析と SNP	SNP を利用した関連解析	岩間
19		ゲノムワイドな解析	ゲノムレベルの網羅的解析の方法論	岩間

参考書

D. L. ハートル/ジョーンズ共著 布山善章・石和貞男監訳 「エッセンシャル遺伝学」 培風館
 徳永勝士編 人類遺伝学ノート 南山堂

オフィスアワー

金曜日、午後 4 時半～5 時半とします。また、メールで連絡を頂ければ、お返事します。

(takezaki@med.kagawa-u.ac.jp、iwama@med.kagawa-u.ac.jp)

授業科目名

分子生物学

(英文併記 Molecular Biology)

科目区分 専門基礎科目 授業コード 704260 DPコード bcxM

単位数 2 時間割 前期 対象年次及び学科 2 医学科

教員名

教授 神鳥 成弘 准教授 吉田 裕美

授業の概要

今日の分子生物学の進歩はめざましく、医学の発展にも大きく貢献している。ここでは、分子生物学の基礎となる、生体分子の分子構造とそれらが持つ機能との関係、および、分子レベルでの遺伝子の構造、複製、修復、組換え、転写、翻訳、発現の調節、についての講義を行う。

授業の目的

生命現象の基本原則を分子レベルで理解し、医学・薬学的応用を易とするために、生体分子の構造と機能との関係、遺伝情報の伝達と発現について習得する。

達成目標

1. 分子生物学の学術用語を説明することができる。
2. 生体分子の構造について理解することができる。
3. ミオグロビン・ヘモグロビン、筋肉収縮、抗体の構造と機構について分子レベルで理解することができる。
4. 生命現象における分子生物学のセントラルドグマを理解することができる。
5. 遺伝子の構造・発現調節機構について理解することができる。

成績評価の方法と基準

1. 中間および学期末筆記試験を行い、学習達成度を評価する。
2. 理解度を評価するため、レポート提出を求めることもある。

授業計画並びに授業及び学習の方法

授業の復習に重点をおくこと。授業中、理解不足な箇所は、教科書・参考書を活用して自学自習すること。中間・期末テスト範囲のバランスをとるため、授業の開講順は、以下の順番と異なるので、講義・実習時間割をよく確認しておくこと。

回	大項目	項目	内容	担当者
1	生体分子	アミノ酸とタンパク質の一次構造	アミノ酸の化学とペプチド	神鳥
2		タンパク質の三次元構造	タンパク質の高次構造とフォールディング	神鳥

3		核酸の構造	DNA らせん, 染色体の構造	神 鳥
4		タンパク質の機能	ミオグロビンとヘモグロビン, 筋肉収縮, 抗体	神 鳥
5		単糖と多糖	単糖, 多糖, 糖タンパク質	神 鳥
6		脂質と生体膜	脂質の化学, 生体膜	神 鳥
7		膜輸送	能動輸送, 受動輸送	神 鳥
8		酵素触媒	酵素の一般的性質と触媒反応機構	神 鳥
9		酵素反応速度論	反応速度, 酵素の阻害	神 鳥
10		シグナル伝達	ホルモン, 受容体タンパク質	神 鳥
11		中間テスト	前半の学習範囲での筆記試験	神 鳥
12	遺伝子の発現 と複製	DNA: 複製, 修復, 組換え (1)	DNA 複製の諸酵素	吉 田
13		DNA: 複製, 修復, 組換え (2)	原核・真核細胞の DNA 複製と修復	吉 田
14		DNA: 複製, 修復, 組換え (3)	DNA の修復と組換えと可動遺伝子要素	吉 田
15		転写と RNA プロセッシング (1)	タンパク合成における RNA の役割, RNA ポリメラーゼ転写制御と転写後修飾	吉 田
16		転写と RNA プロセッシング (2)	転写制御と転写後修飾	吉 田
17		翻訳 (1)	遺伝暗号, 転移 RNA, リボソーム	吉 田
18		翻訳 (2)	真核生物の翻訳制御, 翻訳後修飾	吉 田
19		遺伝子発現の調節 (1)	原核生物の遺伝子発現調節	吉 田
20		遺伝子発現の調節 (2)	真核生物の遺伝子発現調節	吉 田
21		予備日		神鳥・吉田

教科書・参考書等

教科書

D. Voet, J. G. Voet, P. Charlotte 著, ヴォート基礎生化学第4版, 東京化学同人, 2014年第1刷発行, (日本語訳, 田宮・村松・八木・遠藤 訳)

参考書

D. Voet, J. G. Voet 著, ヴォート生化学第4版(上)・(下), 東京化学同人, 2012年第1刷発行, (日本語訳, 田宮・村松・八木・吉田・遠藤 訳)

オフィスアワー

水曜日の昼休み

ただし, メールにてアポイントメントをとる場合は, この限りではなく随時受付ける。

e-mail : kamitori@med.kagawa-u.ac.jp (神 鳥)

h.yoshi@med.kagawa-u.ac.jp (吉 田)

授業科目名

医療プロフェッショナルの実践Ⅱ

(英文併記 Practice of Medical Professionalism Ⅱ)

科目区分 早期医学 授業コード 703814 DPコード dcbM

単位数 2 時間割 前期 対象年次及び学科 2 医学科

教員名

教授 岡田 宏基 (医学教育学、コーディネータ)

教授 清水 裕子 (看護学科成人看護学)

准教授 西屋 克己 (医学教育学)

教務職員 住谷 和則 (医学教育学)

非常勤講師 宮前 義和 (香川大学教育学部)

竹森 元彦 (香川大学教育学部)

中田 敬司 (神戸学院大学現代社会学部)

堀井 洋一 (NHK 高松放送局)

西村 和宏 (演出家・四国学院大学社会学部)

協力者 医学部附属病院看護部、薬剤部、理学療法部、栄養管理室、地域連携室

協力施設 徳島文理大学香川薬学部 (二宮 昌樹教授他)

香川県立保健医療大学 (那須 滋教授他)

授業の概要

諸君は1年次の医療プロフェッショナルの実践Ⅰにおいて、地域医療・介護老人福祉施設実習を通して医療者に必要な知識・技能・態度を習得するための基本を学んできた。医療プロフェッショナルの実践Ⅱにおいては、医療プロフェッショナルの実践Ⅰでの学びを踏まえて、医療に必要なコミュニケーション、多職種連携(チーム医療)について講義と実習を通して学びを深めていく。

I、医療コミュニケーション教育

医療コミュニケーションを学ぶためには、まず日常における自らのコミュニケーション能力について振り返る必要がある。講義ではカウンセリングや行動科学の基本について学んでいく。前半のコミュニケーション実習では、NHK高松放送局の堀井洋一先生をお招きして、放送現場に従事する立場から、日本語の言語・音声特性や、それを意識した上での、より理解しやすい表現や会話の構築などを学んでいく。後半のメディカルパフォーマンス実習では、演出家・四国学院大学社会学部の西村和宏先生をお招きして、演劇の手法を活用したワークショップを通して、自己を表現する力を養成していく。

II、多職種連携教育

実際の医療現場では患者を中心として様々な職種が関わっている。我々はこの医療チームの一員として互いを尊重しながら医療を実践していかなければならない。このパートでは、まず医学部附属病院の看護部、薬剤部、理学療法部、栄養管理室、地域連携室の先生をお招きして附属病院における各職域の実際について学んでいく。香川県立保健医療大学と徳島文理大学香川キャンパスの実習では、本学に設置されていない助産、臨床検査、理学療法、診療放射線、薬学などの実際について学んでいく。附属病院における実習では、多職種連携の実際とし

て看護職の仕事を体験し、チーム医療の重要性を学んでいく。また、災害・救急医療におけるチーム医療の実践として、神戸学院大学現代社会学部の中田敬司先生をお招きし、チーム医療に必要なスキルや態度について学んでいく。

達成目標

- 1、医療プロフェッショナリズムの定義を説明できる。
- 2、カウンセリングの理論について説明し、カウンセリングの実際について説明できる。
- 3、日本語の言語・音声特性について説明できる。
- 4、理解しやすい表現や会話の構築を実践できる。
- 5、演劇を通して自己を表現できる。
- 6、多職種連携の意義について説明できる。
- 7、医療に関わる様々な職種について説明できる。
- 8、災害・救急医療におけるチーム医療に必要なスキルや態度を身につける。

成績評価の方法と基準

講義、実習や自己学習における、出席、ミニレポート、実習態度等により総合的に評価する。なお、実習の出席は必須である。

授業計画並びに授業及び学習の方法

医療コミュニケーションと多職種連携に関する講義と実習より本授業は構成される。

回	大項目	授業形態	内容	担当
1	医療コミュニケーション	講義	オリエンテーション	岡田
2		講義	カウンセリングの概要	竹森
3		講義	行動科学概説	宮前
4		講義	コミュニケーション実習概論	西屋
5、6		実習	コミュニケーション実習①	堀井、岡田、西屋、住谷
7、8		実習	コミュニケーション実習②	堀井、岡田、西屋、住谷
12		講義	医療におけるコミュニケーションスキル	岡田
16		実習	メディカルパフォーマンスオリエンテーション	西村、岡田、西屋、住谷
18		実習	メディカルパフォーマンス実習①	西村、岡田、西屋、住谷
20		実習	メディカルパフォーマンス実習②	西村、岡田、西屋、住谷
23、24		実習	メディカルパフォーマンス実習③	西村、岡田、西屋、住谷
9、10		多職種連携	実習	香川県立保健医療大学における実習
11	講義		チーム医療の実際①	附属病院講師
13、14	実習		徳島文理大学香川キャンパスにおける実習	二宮

15		講義	看護・介護の基礎	清水
17		講義	チーム医療の実際②	附属病院講師
19		講義	チーム医療の実際③	附属病院講師
21、22		実習	チーム医療実習（看護）①	看護部
25、26		実習	チーム医療実習（看護）②	看護部
27、28		実習	チーム医療実習（看護）発表会準備	岡田、西屋、住谷
29、30		実習	チーム医療実習（災害・救急）	中田
31、32		実習	チーム医療実習（看護）発表会	看護部、岡田、 西屋、住谷

教科書・参考書等

各教官によりその都度指示する。

オフィスアワー

水曜日 16:30 ～ 17:30 医学部教育センター（講義棟2階）：第3水曜日を除く

授業科目名

解剖学（I）

（英文併記 Human Anatomy I ）

科目区分 基礎医学 授業コード 704101 DPコード bcxM

単位数 3 時間割 通年 対象年次及び学科 2 医学科

教員名

教授 三木 崇範

助教 鈴木 辰吾

助教 太田 健一

授業の概要

解剖学は、人体の正常な構造を明らかにする学問である。解剖学 I では、中枢神経学、末梢神経学、発生学、脈管学、内臓学の各講義および、系統解剖学実習、脳実習を担当し、マクロのレベルで人体の構造を教授する。講義や教科書による座学で得る知識だけではなく実習を通して立体的な知識を身につけ、臨床医学直結した正確な人体の構造を修得するものである。更に、人体の構造が精緻で巧妙であることや、進化の末に目的に叶った形態を呈する私たちの体のつくりや生命現象の基本原則を理解してもらいたい。

系統解剖実習は全て御遺体を用いて行うことになるので、医学生が大学に入学して最初に人体に接する機会となる。ご遺体と向き合うことを通じて、生とは何か、死とは何かを考える機会とし、医学生として「豊かな人間性」を培ってもらいたい。

下記の要項によって実施する。

1) 解剖学総論

解剖学は、生物学的視点から純粋に生命活動を司る体のつくりを学ぶ科目である。しかし一方で、医学の一分野でもある。医学教育における解剖学は、ヒトの構造を単に生物学的に理解するだけでは不十分である。解剖学総論では、解剖学教育を通じて、「豊かな人間性」を培うことが出来る講義を供する。解剖実習の供されるご遺体や、その家族・本人の篤志を十分理解したり、将来医師・研究医になる医学生として、医の倫理や生命観について考える機会を供する。

ヒトの基本的な構造と機能について概説し、本格的な解剖学の講義・実習が始まる前に、ヒトの体の成り立ちや精巧さについて、またかたちの所以・理由についての講義を通じて、人体を俯瞰した理解ができるように講義を行う。また、臨床解剖学講義においては、十分な臨床医学の知識がなくとも、Common disease と称される疾病の病態についての理解は重要である。これを、解剖学的見地から講義し、医学へのモチベーションを高める契機としたい。また、必要に応じて学外からの講師の講義を依頼する。

2) 中枢神経学

中枢神経系を構成する神経細胞さらにグリア細胞をまず取り上げ、次いで髄膜・血管・脳脊髄液・大脳・小脳・脳幹・脊髄などの形態と機能を説明する。さらに、脳の特定領域と代表的な疾患との関連性も取り上げ、総括的に脳を理解できるようにする。また、講義と実習内容を出来る限り並行するようにして、実際の脳の構造を理解

しやすくしている。特別な分野については特別講義として学外講師による講義を行う。

3) 末梢神経学

脊髄神経・脳神経について系統解剖実習前に把握しておかなければならない基本事項（成分・走行・名称・支配領域等）を各成分に分けて総括的に講義する。また講義と実習をリンクさせるため系統解剖実習中にも講義中の関連部位の説明を適宜行い、詳細な末梢神経の走行・分布を実際にご献体で同定しながら細部まで学習する。従って講義は配布資料とスライドにて行い、配布した資料を実習中にも用いながら末梢神経系を理解する。

4) 発生学

人体の正常発生過程を、女性の生殖サイクルも含めて、受精から胚子期、胎児期を経て出生までを講義する。更に、胎盤・胎膜や、先天異常についての講義を行う。また、特徴的講義として、先天異常に関する新聞記事を教材として取り入れ、豊かな人間性を培う契機としている。

5) 脈管学

脈管の構造や走行の種類などに関する基礎的知識を習得するとともに、頭頸部、上肢、下肢、胸部、腹部、骨盤部における脈管の走行、体内の器官と脈管の関係、さらに脈管同士のつながりを正確に理解することを目的とする。また、系統解剖学実習と連携することにより、概念的な脈管の結合への知識だけではなく、脈管の具体的な走行までを理解できる知識を養う。

6) 内臓学・筋学

内臓全般と筋肉についての講義を行う。講義は系統解剖実習の進行に並行して行われる。内臓学では、胸部臓器、腹部臓器、更に骨盤内臓器の構造と機能について講義を行うが、末梢神経学や脈管学で教授した内容と絡めて統合的に講義を進めることに重きを置いている。また、必要に応じて発生学的見地からの説明を行い、人体のかたちの成り立ちと必然性を理解し、人体構造の巧妙さが自ずと理解できるような講義を行う。筋学では、骨格筋の名称・作用、支配神経等について概説する。一部は、学生に割り当ててプレゼンテーション能力を養う機会としている。

7) 系統解剖学実習および脳実習

医学生が将来立派な良い医者になって頂くことを願い、全くの善意で自らの体を献体して下さった方々の無言の状態を解剖学実習室で目のあたりにする。医学生は将来この方々の尊い御意志に報い立派な医師になろうという決意を新たにすべきである。長い医学教育過程にあって、自らの手で人体を解剖することができるのはこの系統解剖学実習と脳実習の時だけである。学生はこの機会に献体に対する感謝の気持ちを十分持って人体構造の知識の習得にあたるとともに、献体された方々の期待に応えるよう努力しなければならない。実習では講義の総括として正確な立体的知識を体得できるように配慮している。

8) 予習ノート

実習に際し、予習することなしに解剖を行うことは厳禁している。毎回、実習時に教員による予習ノートのチェックをし、内容の評価を行っている。

9) 出席について

規定の出席日数が必要である。ただし、実習では特別な理由がない限り欠席を認めない。

授業の目的

人体の基本的構造を学習し、中枢・末梢神経系の機能や発生・発育過程および心血管系の循環機構を理解する能力を身につける。さらに、将来臨床医学においてCT、MRI等の画像読解に必要不可欠である人体の立体的構造解析の基礎知識を修得する。

達成目標

将来、臨床医・研究医になるに相応しい「豊かな人間性」を培うと同時に、ヒトの体のつくりや仕組みや生命の基本原理を理解する。

1. 医の倫理や生命倫理、医学生・医師に課される社会的責任を自覚する。
2. 神経細胞・グリア細胞および脳の構造と主な神経路および神経機能を説明できる。
3. 脊髄神経・脳神経の成分、走行および分布を説明できる。
4. 人体の正常発生のメカニズムについて説明できる。
5. 心臓の構造と循環機構を説明できる。
6. 脈管の構造と全身における走行を正しく理解し、脈管系とからだの機能との有機的な関係を説明できる。
7. 人体を構成する骨・筋・靭帯をはじめ消化器系、呼吸器系、泌尿器生殖器系、内分泌系等の諸器官の形態と機能を述べることができる。

成績評価の方法と基準

1. 中枢神経学，末梢神経学，脈管学，発生学，内臓学・筋学等のペーパー試験を行なう。
2. 系統解剖実習試験，脳実習試験を行なう。
3. 予習ノートおよび出席等も評価に入れる。

授業計画並びに授業及び学習の方法

解剖学は生理・生化学などとは異なり形態学であるので、系統解剖実習などを中心に授業が行われ、講義は総論のみである。それゆえ、学生は実習を行いながら自ら積極的に学習すべきである。発生学では一つの細胞が増殖、分化し、種々の臓器・組織が形成され、一個体となるまでを学習するが、この過程を十分に理解しておかなければ、正常人体の構造や将来臨床科目において種々の疾病を理解する際に余分の時間と労力を費やすことになる。発生学は実習がなく講義のみであるので、特に授業を大切に、自らも参考書、図譜を参照して十分に勉強すべきである。

系統解剖実習および脳実習では、下記参考書のうち、解剖実習の手引き（南山堂）・ネッター解剖学アトラス（南江堂）が必須である。

回	大項目	項目	内容	担当者
1	解剖学総論	献体と倫理	献体団体について（ビデオ供覧）、医学の倫理	三木
2		体の仕組み	人体構造の概観	三木
3		体の働き	人体の機能の概観	三木
4		特別講義	未定	三木
5		臨床解剖学（1）	呼吸器・消化器・尿路生殖器疾患と臨床解剖学	三木
6		臨床解剖学（2）	心臓・神経疾患と臨床解剖学	三木

1	中枢神経学	総論	神経細胞とグリア細胞、中枢神経系の概要	鈴木
2		脳室と脈管	脳室、脳脊髄液、中枢神経系の動静脈	鈴木
3		大脳	大脳の脳回・脳溝、大脳新皮質	太田
4		大脳	大脳基底核、大脳辺縁系	太田
5		間脳	間脳（視床・視床下部）	太田
6		脳幹（1）	中脳：上丘・下丘・黒質・赤核・脳神経核	三木
7		脳幹（2）	橋：橋腹側部と背側部の神経核と橋網様体 延髄：後索核・下オリーブ核群、延髄網様体	三木
8		小脳	細胞構築、入力線維と出力線維、小脳の機能とその障害	三木
9		伝導路	上行性・下行性神経路と神経機能、疾患との関連性	三木
10		脊髄	脊髄の構造と脊髄神経との関係	鈴木 太田
1	末梢神経学	総論	末梢神経の構成、中枢神経との関連性	太田
2		脊髄神経	頸神経叢、腕神経叢	太田
3		脊髄神経	腰神経叢、仙骨神経叢	太田
4		自律神経	交感神経・副交感神経総論	太田
5		自律神経	交感神経・副交感神経各論	太田
6		脳神経	脳神経総論	太田
7		脳神経	脳神経各論	太田
8		脳神経	脳神経各論	太田
9		脳神経	脳神経各論	太田
1	脈管学	総論・体表の脈管	血液循環、動静脈の主幹、体表の脈管	鈴木
2		上肢・下肢の脈管	上肢・下肢の動静脈	鈴木
3		胸部の脈管	胸部臓器と動静脈	鈴木
4		心臓の構造	心臓の位置と構造、胎児循環、刺激伝導系	鈴木
5		リンパ系・腹部の脈管（1）	リンパ節の位置とリンパ液の流れ、腹部内臓と脈管	鈴木
6		腹部の脈管（2）	腹部内臓と動静脈	鈴木
7		頭頸部の脈管	頭頸部の動静脈	鈴木
1	発生学	総論（1）	概論、生殖器の解剖と生理	三木
2		総論（2）	生殖形成（精子発生、卵子発生）、受精～着床まで	三木
3		総論（3）	二層性胚盤	三木
4		総論（4）	三層性胚盤、胎盤・胎膜、先天異常学	三木
5		各論（1）	心臓血管系の発生	三木
6		各論（2）	消化器系の発生	三木

7		各論 (3)	尿生殖系の発生	三木
8		各論 (4)	神経系・外皮系の発生	三木
9		各論 (5)	頭頸部・鰓弓器官の発生	三木
10		各論 (6)	感覚器(視覚・平衡聴覚)・筋骨格系の発生	三木
1	内臓学・筋学	循環器系	循環器系－心臓, 血管系, リンパ系	三木
2		呼吸器系	呼吸器系－気管・肺	三木
3		消化器系(1)	消化器系 (1)－食道, 胃, 十二指腸, 小腸, 大腸	三木
4		消化器系(2)	消化器系 (2)－肝臓, 胆嚢, 膵臓	三木
5		尿路系	尿路系－腎臓, 尿管, 膀胱, 尿道	三木
6		生殖器系	生殖器系－会陰, 男性生殖器, 女性生殖器	三木
7		筋学	総論: 上肢・下肢と体幹・臀部の筋肉	三木
1	脳実習		髄膜と血管, 脳神経	全員
2			脳の表面(回, 溝), 大脳内側の血管	全員
3			大脳内側面, 大脳の内部構造,	全員
4			小脳, 脳幹 (1)	全員
5			脳幹 (2)、脊髄	全員
6			総括	全員
7			中枢神経学・脳実習試験	全員
1	系統解剖実習		§ 1 首・胸・腹部の体表観察と皮切り, § 2 広頸筋と乳腺, § 3 胸腹部の皮静脈と皮神経, § 4 大胸筋と外腹斜筋, § 53 下肢の皮静脈と皮神経	全員
2			§ 5 頸神経叢の枝と胸鎖乳突筋, § 8 首のやや深層, § 30 単径部と側腹筋群, § 31 腹直筋鞘, § 32 横筋筋膜と腹膜 (前半部分のみ)	全員
3			§ 9 胸部の深層と腋窩, § 10 鎖骨下動静脈とその枝	全員
4			§ 11 腕の皮切りと腕神経叢, § 54 大腿筋膜と大殿筋, § 55 大腿前面の深層, § 59 下腿前面と足背	全員
5			§ 12 上腕屈側の筋と神経, § 13 肩甲骨の前面の筋, § 16 前腕屈側の浅い層, § 55 大腿前面の深層 (2回目), § 59 下腿前面と足背 (2回目)	全員
6			§ 6 背中 of 皮切り, § 7 背中 of 浅深筋, § 14 上腕伸側と肩 甲骨背面の筋, § 15 上肢の切り離し, § 56 殿部深層, § 57 大腿後面の深層, § 58 膝窩と下腿後面	全員
		§ 26 胸腰筋膜と固有背筋, § 27 後頭下の筋, § 28 脊髄, § 60 足底, § 61 下腿の最深層	全員	

7		§ 29 胸壁, § 35 胸腔を開く, § 36 胸膜と心膜, § 37 肺, § 38 くびの根もとの深層, § 39 縦隔, § 40 心臓の外景, § 17 前腕の伸側と手背, § 18 手のひらの皮切りと手掌腱膜, § 19 § 20 手のひらの浅い層・深い層	全 員
8		§ 41 心臓の内景, § 42 縦隔の深部, § 32 横筋筋膜と腹膜 (後半部分), § 33 臍, § 34 腹部内臓の原位置での観察, § 43 腹部内臓の位置, § 44 腹膜と腹膜腔, § 45 腹部内臓に分布する血管と神経	全 員
9		総括-1	全 員
10		§ 46 空腸と回腸と結腸, § 21 上肢の血管と神経のまとめ, § 22 肩の関節と周辺, § 23 肘の関節, § 24 手首の関節, § 25 手と指の関節, § 62 膝の関節, § 63 足の関節	全 員
11		§ 47 胃, § 48 肝臓, § 49 十二指腸・膵臓・脾臓, § 50 腎臓と副腎, § 51 後胸壁と後腹壁, § 72 首の深層	全 員
12		総括-2	全 員
13		§ 37 肺 (内部構造), § 48 肝臓 (内部構造), § 52 横隔膜と腰神経叢, 下半身切り離し, § 64 膀胱とその周辺, § 78 頭蓋の内面, § 79 頭の切半と口腔, § 80 鼻腔と咽頭鼻部, § 81 咀嚼筋と下顎管, § 82 顎関節と側頭下窩	全 員
14		§ 65m 男性の外陰部と精巣, § 65f 女性の外陰部, § 66m 男性の会陰, § 66f 女性の会陰, § 67 骨盤の切半, § 83 舌と口蓋と扁桃, § 84 副鼻腔と翼口蓋神経節	全 員
15		§ 68m § 70m 男性の骨盤内臓の位置, § 68f § 70f 女性の骨盤内臓の位置, § 69 骨盤の血管と神経, § 71 骨盤壁の筋と股関節, § 85 眼球を前から見る, § 86 眼窩の内容, § 87 眼球など	全 員
16		総括-3	全 員
17		§ 88 舌下神経管と頸静脈孔, § 91 翼突管と頸動脈管と耳神経節	全 員
18		総括-4	全 員
19		§ 89 外耳と中耳, § 90 内耳	全 員
		全総括	全 員
		全総括	全 員
		系統解剖実習試験	全 員

教科書

- 寺田春永 ほか、解剖実習の手引き、11 版、南山堂、2004.
- 寺島俊雄、カラー図解神経解剖学講義ノート、金芳堂、2011.
- Richard L. Drake ほか、グレイ解剖学(原著第 2 版)、エルゼビア・ジャパン、2011.
- 安田峯生ら訳、ラングマン人体発生学、メディカルサイエンスインターナショナル、第 10 版、2010

アトラス

- Duane E. Haines ほか、ハインズ神経解剖学アトラス、第 4 版、メディカル・サイエンス・インターナショナル、2013.
- Frank H. Netter、ネッター解剖学アトラス、第 5 版、エルゼビア・ジャパン、2011.
- 坂井建雄、プロメテウス解剖学アトラス 総論/運動器系、第 2 版、医学書院、2011
- 坂井建雄、プロメテウス解剖学アトラス 頭頸部/神経解剖、第 2 版、医学書院、2014
- 坂井建雄、プロメテウス解剖学アトラス 口腔・頭頸部、医学書院、2012
- 坂井建雄、プロメテウス解剖学アトラス 胸部/腹部・骨盤部、第 2 版、医学書院、2014

参考書等

- 伊藤 隆ほか、解剖学講義、改訂 3 版、南山堂、2012.
- 松村譲児、イラスト解剖学、第 8 版、中外医学社、2014.
- M.J.T. フィッツジェラルドほか、臨床神経解剖学—機能的アプローチ、第 6 版、西村書店、2013
- Moore, Keith L. ほか、ムーア人体発生学、原著第 8 版、医歯薬出版、2011.
- 坂井建雄ほか、カラー図解人体の正常構造と機能、全 10 巻、改訂第 2 版、日本医事新報社、2012.

(注意) ●で記した教科書やアトラスは、本授業が開始されるまでに各個人で用意しておくこと

オフィスアワー

当講座は必ず勤務時間内に教員がいるので随時可能。

授業科目名

解剖学（Ⅱ）

（英文併記 AnatomyⅡ）

科目区分 基礎医学

授業コード 704102

DPコード bcaM

単位数 3 時間割 通年 対象年次及び学科 2 医学科

教員名

教授 荒木 伸一

准教授 三宅 克也

助教 江上 洋平

助教 川合 克久

授業の概要

解剖学は正常な人体の構造を研究する学問であり、医学の体系の中でも基礎中の基礎となる領域です。将来、臨床医になる人も基礎医学研究者になる人も、まず解剖学（Anatomy）で人体の形態と構造を学び、生理学（Physiology）で役割と機能を学ぶことから医学の学習が始まる。人体の正常な構造と機能の正確な理解によって、異常な状態、病気の成り立ちを知ることができ、その診断や治療へとつながる。

解剖学は大きく分けて、肉眼解剖学、組織学（顕微解剖学）、神経解剖学、発生学に分けられる。解剖学Ⅱでは、骨学（Osteology）と組織学（Histology）を分担する。骨学は、肉眼解剖学の一部をなすもので、実習室での人骨標本の観察から、個々の骨の形態、名称、身体の支柱、運動器としての骨格系の働きを学ばせる。

組織学では、人体の構造、成り立ちを肉眼レベルから光学顕微鏡レベルさらに分子レベルへと追究し、人体組織の構造及び機能との関連を講義と実習を通じて学ばせる。組織学の講義内容は、総論と各論に区分される。総論では、生命体の構成単位となる細胞についてと、細胞と細胞間質の特徴的な配列によって構成される基本的な組織の構造、特性について理解させる。各論では、総論で学習した組織の知識をふまえ、さらにその組み合わせによって構成されている全身の器官・臓器について個々の構造を解説し、なぜそのような構造をしているのかを、その器官・臓器の働きと関連づけて理解させる。

授業の目的

人体の構造、成り立ちについての知識を習得すると共に機能や臨床医学との関連を考察する。

骨学実習、組織顕微鏡実習を通じ、観察力、医学的洞察力を培う。

達成目標

1. 骨格系の概要、個々の骨の形態、名称、人体における配置、はたらきを説明できる。
2. 人体を構成する細胞、組織の基本構造と特性を説明することができる。
3. 正常な人体の各部の形態や構造を肉眼レベルから顕微鏡レベルまで理解し、機能と関連づけることができる。
4. 顕微鏡を自ら操作し、顕微鏡下で組織細胞の観察・同定を行うことができる。

授業及び学習の方法

一回完結方式、すなわち、講義で学習した内容を同日実習室で実物標本の観察を行うことで、得た知識を自らが確認し、定着させる教育方法をとっている。

講義は、PowerPoint で行なう。プリントは、PowerPoint の内容に準拠しており、授業中にワークシート形式で書き込む。講義のファイルは、Web でダウンロード閲覧できるので予習・復習、出席できなかった場合に利用すること。

授業計画並びに成績評価の方法と基準

1. 骨学実習試験（主として骨標本を用いた質問。ラテン語問題を含む）
2. 組織学総論試験（ペーパー筆記）
3. 組織学各論試験（ペーパー筆記）
4. 組織学実習試験（組織標本・写真による）
5. その他、組織実習スケッチ、授業および実習の態度、出席状況を考慮し、総合的に評価する。
6. 再試験は、全範囲で一度だけ行う。（骨学実習試験合格者は、骨学範囲の問題を免除する）

量が多いので、すべての学生に求める到達レベルはやや低めに設定し、基本事項に重点をおいている。何が重要で本質的なものかは、講義実習で学習した内容が理解できれば自然にわかるはずである。

回	大項目	項目	内 容	担当者
1	前期 解剖学講義	解剖学総論	解剖学の定義, 解剖学の内容, 解剖学の方法 医学における解剖学の発達, その意義, 骨学総論, 関節学, 靭帯学	荒木
2	骨学講義	椎骨と脊柱	脊柱を構成する骨, 椎骨の基本的形状, 頸椎, 胸椎, 腰椎, 仙骨, 尾骨, 椎骨相互の連結, 脊柱の弯曲, 脊柱の運動性, 動物の脊柱との比較	荒木
		胸郭	胸郭を構成する骨, 胸骨, 肋骨, 胸骨と肋骨の連結, 肋骨と胸椎の連結, 胸郭の概観	荒木
3	骨学実習	椎骨と脊柱 胸郭		荒木他
4	骨学講義	上肢帯 自由上肢骨	鎖骨, 胸骨と鎖骨の連結, 肩甲骨, 肩甲骨と鎖骨の連結 上腕骨, 上腕骨と肩甲骨の連結, 橈骨, 尺骨, 上腕骨・橈骨・尺骨の間の連結, 手根骨, 手根の連結, 中手骨, 手根骨と中手骨の連結, 手の指骨, 中手骨と基節骨の連結, 手の指骨の間の連結	荒木 荒木
5	骨学実習	上肢帯・ 自由上肢骨		荒木他

6	骨学講義	下肢帯と骨盤	寛骨, 腸骨, 坐骨, 恥骨, 仙骨と腸骨の連結, 恥骨間の連結, 骨盤	荒 木
		自由下肢骨	大腿骨, 寛骨と大腿骨の連結, 膝蓋骨, 脛骨, 大腿骨・膝蓋骨・脛骨の連結, 腓骨, 脛骨と腓骨の連結, 足根骨, 距骨と下腿骨の連結, 足根骨の間の連結, 中足骨, 足根骨と中足骨の連結, 足の指骨, 足の骨格の概観	荒 木
7	骨学実習	下肢帯と骨盤・自由下肢骨		荒木他
8	骨学講義	頭蓋の概観	頭蓋の構成, 脳頭蓋の概観, 顔面頭蓋の概観, 頭蓋の構成, 脳頭蓋の概観, 顔面頭蓋の概観, 頭蓋の規準位	三 宅
		顔面頭蓋	頭蓋冠の外側, 頭蓋冠の内側, 頭蓋冠の断面, 内頭蓋底, 外頭蓋底, 環椎と後頭骨の連結	三 宅
9	骨学実習	顔面頭蓋		三宅他
10	骨学講義	脳頭蓋	眼窩, 頬骨弓, 鼻腔, 副鼻腔, 骨口蓋, 翼口蓋窩を中心として, 下顎骨, 側頭骨と下顎骨の連結	三 宅
		個々の頭蓋骨	前頭骨, 頭頂骨, 後頭骨, 蝶形骨, 側頭骨, 篩骨, 下鼻甲介, 鋤骨, 鼻骨, 涙骨, 上顎骨, 頬骨, 口蓋骨, 下顎骨, 舌骨	三 宅
11	骨学実習	脳頭蓋・個々の頭蓋骨		三宅他
12	骨学実習	復習		荒木他
13	骨学実習	実習試験	骨標本を用いての試験	全 員
	後期			
1	組織学講義	組織学総論	組織学序論	荒 木
2	組織学講義	細胞①	細胞質, 細胞膜, 小胞体, ゴルジ装置	荒 木
3	組織学実習	細胞	顕微鏡実習, 顕微鏡および顕微鏡標本の貸与	荒木他
4	組織学講義	細胞②	エンドゾーム, ライソゾーム, ペルオキシゾーム	荒 木
5	組織学講義	細胞③	細胞骨格, 核, 細胞分裂,	荒 木
6	組織学実習	細胞	顕微鏡実習	荒木他
7	組織学実習	予備		全 員
8	組織学講義	上皮組織	上皮細胞の分化, 上皮組織の分類とそれぞれの構造	江 上
9	組織学講義	上皮組織	上皮細胞の分化, 上皮組織の分類とそれぞれの構造	江 上
10	組織学実習	上皮組織	顕微鏡実習	江上他
11	組織学講義	結合組織①	結合組織の細胞要素, 非細胞要素	荒 木
12	組織学講義	結合組織①	結合組織の細胞要素, 非細胞要素	荒 木
13	組織学実習	結合組織①	顕微鏡実習	荒木他
14	組織学講義	結合組織②	結合組織の分類とそれぞれの構造	川 合

15	組織学講義	結合組織②	結合組織の分類とそれぞれの構造	川 合
16	組織学実習	結合組織②	顕微鏡実習	川合他
17	組織学講義	軟骨組織	軟骨組織	三 宅
18	組織学講義	軟骨組織	軟骨組織	三 宅
19	組織学実習	軟骨組織	顕微鏡実習	三宅他
20	組織学講義	骨組織	骨組織	三 宅
21	組織学講義	骨組織	骨組織	三 宅
22	組織学実習	骨組織	顕微鏡実習	三宅他
23	組織学講義	筋組織	平滑筋, 横紋筋, 心筋	荒 木
24	組織学講義	筋組織	平滑筋, 横紋筋, 心筋	荒 木
25	組織学実習	筋組織	顕微鏡実習	荒木他
26	組織学講義	神経組織	神経細胞, 神経線維, シナプス, 神経膠細胞	荒 木
27	組織学講義	神経組織	神経細胞, 神経線維, シナプス, 神経膠細胞	荒 木
28	組織学実習	神経組織	顕微鏡実習	荒木他
29	組織学講義	血液	血液の構成成分と白血球の分類	三 宅
30	組織学講義	骨髄	骨髄および造血	三 宅
31	組織学実習	血液	顕微鏡実習	三宅他
32	試 験	組織学総論試験	ペーパー試験(神経組織まで)	全 員
33	組織学実習	骨髄	顕微鏡実習	三宅他
34	組織学講義	脈管系	動脈, 静脈, 毛細血管, リンパ管	三 宅
35	組織学講義	脈管系	動脈, 静脈, 毛細血管, リンパ管	三 宅
36	組織学実習	脈管系	顕微鏡実習	三宅他
37	組織学講義	防御系	リンパ節, 扁桃, 脾臓, 胸腺	三 宅
38	組織学講義	防御系	リンパ節, 扁桃, 脾臓, 胸腺	三 宅
39	組織学実習	防御系	顕微鏡実習	三宅他
40	組織学実習	予備	顕微鏡実習	全 員
41	組織学講義	消化器系①	口腔, 歯, 舌, 口蓋, 咽頭	荒 木
42	組織学講義	消化器系①	口腔, 歯, 舌, 口蓋, 咽頭	荒 木
43	組織学実習	消化器系①	顕微鏡実習	荒木他
44	組織学講義	消化器系②	食道, 胃, 小腸	荒 木
45	組織学講義	消化器系②	食道, 胃, 小腸	荒 木
46	組織学実習	消化器系②	顕微鏡実習	荒木他
47	組織学講義	消化器系③	大腸, 虫垂, 唾液腺(耳下腺, 顎下腺, 舌下腺)	荒 木
48	組織学講義	消化器系③	大腸, 虫垂, 唾液腺(耳下腺, 顎下腺, 舌下腺)	荒 木
49	組織学実習	消化器系③	顕微鏡実習	荒木他
50	組織学講義	消化器系④	肝臓, 胆嚢, 膵臓	荒 木

51	組織学講義	消化器系④	肝臓, 胆嚢, 膵臓	荒 木
52	組織学実習	消化器系④	顕微鏡実習	荒木他
53	組織学講義	呼吸器系	鼻腔, 喉頭, 気管, 気管支, 肺	三 宅
54	組織学講義	呼吸器系	鼻腔, 喉頭, 気管, 気管支, 肺	三 宅
55	組織学実習	呼吸器系	顕微鏡実習	三宅他
56	組織学講義	内分泌系	下垂体, 松果体, 上皮小体, 副腎, 甲状腺	三 宅
57	組織学講義	内分泌系	下垂体, 松果体, 上皮小体, 副腎, 甲状腺	三 宅
58	組織学実習	内分泌系	顕微鏡実習	三宅他
59	組織学講義	泌尿器系①	腎臓	荒 木
60	組織学講義	泌尿器系①	腎臓	荒 木
61	組織学実習	泌尿器系①	顕微鏡実習	荒木他
62	試 験	組織学中間試験	ペーパー試験	全 員
63	組織学講義	泌尿器系②	尿管, 膀胱, 尿道	荒 木
64	組織学講義	泌尿器系②	尿管, 膀胱, 尿道	荒 木
65	組織学実習	泌尿器系②	顕微鏡実習	荒木他
66	組織学講義	生殖器系①	男性生殖器, 精子形成	江 上
67	組織学講義	生殖器系①	男性生殖器, 精子形成	江 上
68	組織学実習	生殖器系①	顕微鏡実習	江上他
69	組織学講義	生殖器系②	男性生殖器	江 上
70	組織学講義	生殖器系②	男性生殖器	江 上
71	組織学実習	生殖器系②	顕微鏡実習	江上他
72	組織学講義	生殖器系③	女性生殖器, 卵形成	江 上
73	組織学講義	生殖器系③	女性生殖器, 卵形成	江 上
74	組織学実習	生殖器系③	顕微鏡実習	江上他
75	組織学講義	生殖器系④	女性生殖器	江 上
76	組織学講義	生殖器系④	女性生殖器	江 上
77	組織学実習	生殖器系④	顕微鏡実習	江上他
78	組織学講義	皮 膚	手掌, 頭皮	川 合
79	組織学講義	皮 膚	手掌, 頭皮	川 合
80	組織学実習	皮 膚	顕微鏡実習	川合他
81	組織学講義	感覚器系①	視覚器(眼球, 眼瞼)	荒 木
82	組織学講義	感覚器系①	視覚器(眼球, 眼瞼)	荒 木
83	組織学実習	感覚器系①	顕微鏡実習	荒木他
84	組織学講義	感覚器系②	嗅覚器, 聴覚平衡覚器(蝸牛, 三半規管, 前庭)	荒 木
85	組織学講義	感覚器系②	嗅覚器, 聴覚平衡覚器(蝸牛, 三半規管, 前庭)	荒 木
86	組織学実習	感覚器系②	顕微鏡実習	荒木他

87	組織学実習	復	習	全	員
----	-------	---	---	---	---

教科書・参考書等

【テキスト】

1. ジュンケイラ組織学. 第3版, 丸善, 2011. 原書名: Junqueira's Basic Histology text&atlas.
2. Ross 組織学. 原著第5版, 南江堂, 2010. 原タイトル: Histology : a text and atlas.
3. 最新カラー組織学. 西村書店, 2003.
4. 入門組織学. 南江堂, 1989.

【図譜 (アトラス)】

di Fiore 人体組織図譜. 第11版, 南江堂, 2011. 原書名: di Fiore's Atlas of Histology 11th Edition.

【骨学実習書】

骨学実習の手びき. 第4版, 南山堂, 1992.

オフィスアワー

荒木 伸一: あらかじめメール等でアポイントを取ればいつでも対応

naraki@med.kagawa-u.ac.jp

三宅 克也: あらかじめメール等でアポイントを取ればいつでも対応

kmiyake@med.kagawa-u.ac.jp

江上 洋平: あらかじめメール等でアポイントを取ればいつでも対応

youhei@med.kagawa-u.ac.jp

川合 克久: あらかじめメール等でアポイントを取ればいつでも対応

kkawai@med.kagawa-u.ac.jp

授業科目名

生理学（I）

（英文併記 Physiology I）

科目区分 基礎医学

授業コード 704111

DPコード bcxM

単位数 2 時間割 後期 対象年次及び学科 2 医学科

教員名

教授 徳田 雅明

准教授 山口 文徳

助教 董 有毅

助教 神鳥 和代

授業の概要

生理学は生体の機能とそのメカニズムを解明する学問である。「生体」とは、人体を含めて全ての生物体を意味し、「機能」とは個体レベルにおける生体機能のみならず、その個々の構成体（分子、細胞、組織、器官）の機能や、複数の個体が社会生活を営む上での（生態学的、心理学的現象を含めた）機能をも意味する。生理学が扱う対象は生きた材料であり、生きている条件下でリアルタイムに観察することが特徴である。生体機能は、多くの分子群や細胞群の働きと、その相互作用によって、更にはそれらが作り上げる器官や個体レベルの働きによって逆に統御されながら、全体としてホメオスタシスを保つ形で実現されている。従って、これを研究する生理学は、生体機能を分子、細胞、器官、個体の各レベルでのメカニズムを解明するとともに、それらをシステムとして統合的に取り扱う「統合生物学」Integrative Biology としても位置づけられる。このような意味で、生理学は「生体が働く仕組み（ハードウェア）とその論「理」・法則（ソフトウェア）及び意義を明らかにする「学」問である。ノーベル賞の領域名が”医学・生理学”と呼ばれるように、生理学は本来、医学を含め全ての生命科学の基礎を与える重要な学問である。（日本学術会議生理学研究連絡委員会より）

細胞情報生理学では、細胞生理学、神経生理学（感覚生理学を含む）、筋肉生理学の3分野をカバーする。講義としては、2年次後期の系統講義および3年次3学期から始まる統合講義の中でカバーする。この他に実習では細胞生理学、神経生理学的解析方法について理解できるように進めていく。

授業では基本となる知的目標を Goals to Study として提示し、それらについてプリント、スライドなどを用いて進める。

目標達成度は定期試験において確認するが、適宜レポートや小ドリルによって補うことがある。

授業の目的

1. 生命の成り立ちを理解するとともに細胞内部の構築と機能を理解する。
2. 生命現象に必要な細胞内外の物質の輸送機構を理解する。
3. 興奮性膜における活動電位の発生機構とその伝播機構につき理解する。
4. 筋肉の構造と収縮の機構を理解する。
5. 細胞内情報伝達機構の種類とその各々の概略を理解する。

6. 統合的情報処理機構としての中樞神経系の構造と機能を理解する。
7. 運動調節に関与する中樞神経系とその機能分担を理解する。
8. 自律機能や本能行動を司る脳の働きを理解する。
9. 学習や記憶に関わる脳の働きを理解し、その分子機構についても理解する。
10. 感覚（5感と体性感覚）の中樞機構と分子メカニズムを理解する。
11. 実習を通じて実験研究の進め方を体験し、研究の楽しさを認識する。
12. 実験動物などの生命体への配慮やいたわりの心を習得する。

達成目標

1. 中樞神経の主要部位の構造と主な機能を論述できる。代表的な疾患病態により特定の部位が障害された時どのような機能不全が生じるか指摘できる。
2. ヒトの姿勢や運動を調節するために働く脳の各部位を指摘し、それらの相互作用を述べるができる。随意運動のメカニズムや行動について記述できる。
3. 思考・記憶・感情の形成がどのようになされるか概念を述べるができる。
4. 感覚情報がどのように受容され、伝達され、加工されるか論述できる。
5. 筋肉の収縮・弛緩の機構を体系的に論述できる。
6. 細胞の独立体としての生理機能を理解するとともに、細胞間の相互コミュニケーションやエネルギー論について述べるができる。
7. 細胞内情報伝達の主な機構について体系的に論述できる。

授業及び学習の方法

授業では基本となる知識目標が設定され、これを理解するために必要なプリント等が配布される。また、この内容はスライド・ビデオ等を用いた講義、コンピュータを用いた自習等によって補われる。膨大な知識をこれらの図・表によって整理理解し、単なる暗記による詰め込みではなく自らの体系を形づくることを心掛けるべきである。また、講義を理解するために必要な単語集モデルがあらかじめ配布されるので、これらの語彙について予備知識を修得しておくことが一助となる。

主要研究テーマ

1. 神経の可塑性（発達・分化）の制御機構
2. カルシウムシグナリングを中心とした情報処理機構
3. 希少糖の生理作用の研究

成績評価の方法と基準

2年後期

定期試験（記述式、客観式）の成績にレポート・小テスト等を総合的に考慮し、目標達成度を評価判定する。

授業計画

回	大項目	項目	内容	担当者
1	神経生理学	神経系総論 I	神経生理学イントロダクション（神経系／感覚系）	徳田

2		神経系総論Ⅱ	神経回路の特性	徳田
3		神経系総論Ⅲ	神経系のシグナル伝達	徳田
4		神経系総論Ⅳ	神経系のシグナル伝達	徳田
5		神経系総論Ⅴ	神経伝達物質	徳田
6		神経系総論Ⅵ	静止膜電位	山口
7		神経系総論Ⅶ	活動電位	山口
8		神経系総論Ⅷ	活動電位	山口
9		大脳皮質の区分と構造	大脳皮質の区分と構造機能局在	徳田
10		大脳皮質の区分と構造	大脳皮質の区分と構造機能局在	徳田
11		大脳連合野、	大脳連合野の機能、	徳田
12		優位半球・脳の性差	優位半球、言語機能	徳田
13		先端研究	脳研究の紹介あるいは特別講義	徳田
14		視床の区分と働き	視床の区分、特殊核、非特殊核	徳田
15		自律神経系の働き	交感神経系と副交感神経系の働き	徳田
16		視床下部の働きⅠ	本能行動と辺縁系	徳田
17		視床下部の働きⅡ	摂食行動、肥満	徳田
18		視床下部の働きⅢ	飲水行動、性行動	徳田
19		大脳辺縁系の働き	大脳辺縁系の解剖と機能	徳田
20		大脳辺縁系の働き	大脳辺縁系の解剖と機能	徳田
21		脳波と睡眠	脳波と睡眠、意識レベルと網様体賦活系	徳田
22		高次神経活動Ⅰ	学習と記憶Ⅰ	徳田
23		高次神経活動Ⅱ	学習と記憶Ⅱ	徳田
24		高次神経活動Ⅲ	学習と記憶Ⅲ	徳田
25		先端研究	細胞周期に関するタンパク質の解析	神鳥
26	感覚生理学	感覚生理総論	感覚と知覚、感覚の種類、感覚受容体の分類ほか	山口
27		感覚生理総論	感覚と知覚、感覚の種類、感覚受容体の分類ほか	山口
28		視覚の生理	視覚の生理	山口
29		視覚の生理	視覚の生理	山口

30		聴覚と平衡覚の生理	聴覚と平衡覚の生理	山 口
31		嗅覚と味覚の生理	嗅覚と味覚の生理	山 口
32		体性感覚の生理	体性感覚の生理	山 口
33		先端研究	内耳の分化と発達に関与する因子の解明	董
34	筋肉生理学	筋肉生理学 I	筋肉収縮の生理 I	山 口
35		筋肉生理学 II	筋肉収縮の生理 II	山 口
36		脊髄の運動機能と反射	筋紡錘、 γ 運動系、	徳 田
37		脊髄の運動機能と反射	腱反射、伸長反射、屈曲反射	徳 田
38		脳幹の運動機能	脳幹の運動機能	徳 田
39		大脳運動野の働き	運動前野、補足運動野の働き	徳 田
40		大脳基底核の働き	大脳基底核の解剖と入力・出力と機能	徳 田
41		小脳の働き I	小脳の解剖と機能的区分、小脳の連絡路	徳 田
42		小脳の働き II	小脳の神経回路網と機能	徳 田

教科書

- ・小澤澗司ほか. 標準生理学 . 第7版, 医学書院, 2009.
 - ・Berne, Robert M et al. Berne & Levy physiology. 6th ed., Elsevier Mosby, 2008.
 - ・小幡邦彦ほか. 新生理学. 第4版, 文光堂, 2003
 - ・古河太郎ほか. 現代の生理学 . 改訂第3版 , 金原出版, 1994.
 - ・Bruce Alberts et al. Molecular biology of the cell. 5th ed., Garland Science, 2008.
 - ・Ganong, William F.ほか. ギャノン生理学 . 丸善, 2006.
 - ・Barrett, Kim E. et al. Ganong's review of medical physiology. 23rd ed., McGraw-Hill Medical, 2010.
 - ・日本生理学会. 新・生理学実習書 . 南江堂, 1991.
 - ・Hall, Zach W.ほか. 脳の分子生物学. メディカル・サイエンス・インターナショナル, 1996.
- (その他適宜推薦する。)

オフィスアワー

担当教員	学期・曜日	時間帯	メールアドレス
徳田 雅明	後期・月～金曜日	9時～17時	physiol1@med.kagawa-u.ac.jp
山口 文徳	後期・月～金曜日	9時～17時	physiol1@med.kagawa-u.ac.jp
神鳥 和代	後期・月～金曜日	9時～17時	physiol1@med.kagawa-u.ac.jp
董 有毅	後期・月～金曜日	9時～17時	physiol1@med.kagawa-u.ac.jp

授業科目名

生理学（Ⅱ）

（英文併記 PhysiologyⅡ）

科目区分 基礎医学

授業コード 704112

DPコード bcxM

単位数 2 時間割 前・後期 対象年次及び学科 2 医学科

教員名

教授 平野 勝也

准教授 五十嵐 淳介

助教 山下 哲生

助教 橋本 剛

授業の概要

生理学（Ⅱ）では、生体の内部環境を健全に保ち、生命を維持するのに必要な臓器の機能が如何に統合的に調節されているか学習する。学習する生体機能は、血液機能、体温調節、概日リズム、呼吸、消化、排泄、循環などのいわゆる植物性機能である。細胞が要求する栄養物は消化と吸収の機構により消化管より吸収され、呼吸系は血中 O_2 と CO_2 濃度を一定に保つよう調節している。一方、細胞の代謝産物は、肺あるいは腎に運ばれて排泄され、血中濃度が一定量以上にはならないように調節されている。これらの物質は、血液や体液と混合して、心臓を中心とする循環系によって運搬される。全身を巡る血液の流れは、心臓が作り出す動静脈の圧較差が原動力であり、心臓の機能は厳密なフィードバック機構によって維持される。体温は、熱産生と熱放散の仕組みとそれを調節する種々の機序により一定に保たれ、循環系によってその分布は均等に保たれる。また、生体機能には概日リズムを有するものがあり、外環境に同調して24時間周期のリズムを刻む。これらの生命維持機能は、主に自律神経系（神経性調節）と内分泌系（体液性調節）を介して、種々のフィードバック機構により調節され、外部環境が変動しても内部環境、すなわち生体の恒常性（ホメオスターシス）が保たれる。一方、個々の細胞においては、調節系からのシグナルに対して適切に応答する細胞内の仕組みがあり、これを細胞内情報伝達系と呼ぶ。以上のような生体機能の調節の仕組みを、マクロな視点から細胞・分子の視点にわたり、総合的に学習する。

授業の目的

1. 生命維持に必要な生体機能とその調節の基本的な仕組みを理解する。
2. 各臓器に特異的な機能と調節の仕組みを理解する。
3. 各種調節系の入力（シグナル）、その受容機構（センサー）、出力（応答）、およびこれらを連結する仕組み（シグナル伝達機構）を、マクロなレベルから細胞・分子のレベルまで、さまざまな視点で理解する。

達成目標

1. ホメオスターシスの概念とフィードバック制御機構の基本的な仕組みを説明できる。
2. 自律神経系（末梢）の構成、神経伝達物質とそのシグナル伝達機構を説明できる。
3. 自律神経系が各臓器の機能に及ぼす作用を説明できる。

4. 細胞膜受容体の種類を列挙できる。
5. GTP 結合蛋白質の種類と機能を説明できる。
6. 主な細胞内セカンドメッセンジャーとその作用を説明できる。
7. 蛋白質リン酸化反応に関わる酵素、アミノ酸を説明できる。
8. 熱産生、熱放散の仕組みと発熱の機構を説明できる。
9. 生物時計の基本的な仕組みと概日リズム形成の仕組みを説明できる。
10. 血液の成分（細胞成分と血漿成分）とその機能を説明できる。
11. 血液の酸素運搬機能を説明できる。
12. 血液の生体防御機構を説明できる。
13. 血液の止血機能を説明できる。
14. 体液の組成を述べることができる。
15. 腎臓の機能的構造を説明できる。
16. 腎機能の指標とその機能的意義を説明できる。
17. 腎糸球体の構造と機能、濾過の機序を説明できる。
18. 尿細管各部における再吸収・分泌機構と尿の濃縮機序を説明できる。
19. 水電解質の調節機構を概説できる。
20. 腎機能のホルモンによる調節機構を説明できる。
21. 呼吸器の構造と呼吸運動の機序を説明できる。
22. 肺機能検査の意義を説明できる。
23. 肺気量と肺・胸郭系の圧・容量関係（コンプライアンス）を説明できる。
24. 肺循環系・右心系と体循環系・左心系の違いを説明できる。
25. 肺胞内面の水分による表面張力と表面活性物質の機能を説明できる。
26. 肺胞におけるガス交換と血流の関係を説明できる。
27. 肺胞、動脈血、静脈血のガス分圧、ヘモグロビンの酸素飽和度の調節機構を説明できる。
28. 血液による酸素と二酸化炭素の運搬の仕組みを説明できる。
29. 延髄と大動脈、頸動脈小体の化学受容器と呼吸調節との関係を説明できる。
30. レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系の分泌制御、循環作用を説明できる。
31. 副腎皮質・髄質ホルモンの成合成、生体機能、分泌調節機構を説明できる。
32. 心房性ナトリウム利尿ペプチドの産生調節、生体機能について説明できる。
33. 生体のカルシウム代謝とその調節に関わるホルモンの作用について説明できる。
34. 甲状腺ホルモンの成合成、分泌調節、生体機能について説明できる。
35. ヘンダーソン・ハッセルバルヒの式を説明できる。
36. アシドーシスおよびアルカローシスの発生機序と代償機構を説明できる。
37. 消化器の構成を述べることができる。
38. 消化に関わる外分泌を列挙し、それぞれの機能を説明できる。
39. 糖質、脂質、蛋白質、水、電解質の消化と吸収の仕組みを説明できる。
40. 消化管平滑筋の特徴を述べ、消化管運動の仕組みと調節機構を説明できる。
41. 心周期を説明できる。
42. 心筋の興奮収縮連関の仕組みを説明できる。

43. スターリングの心臓の法則を説明できる。
44. 心臓の電氣的活動の仕組みと、心電図の成り立ち説明できる。
45. 刺激伝導系の構成と活動電位の特徴を説明できる。
46. 心拍数、心筋収縮性の自律神経調節の機構について説明できる。
47. 血管平滑筋の収縮弛緩機構を説明できる。
48. 内皮細胞依存性血管緊張調節機構を説明できる。
49. 血流調節機構を説明できる。
50. 内皮細胞透過性の調節機構を説明できる。
51. 毛細血管における物質交換の仕組みを説明できる。
52. 循環系の神経体液性調節機構を説明できる。
53. 圧受容器反射の仕組みを説明できる。
54. 心拍出量調節の4つの因子と、統合的調節機構を説明できる。

成績評価の方法と基準

第1回～第11回の講義については9月の前期試験期間中に、第12回～第40回の講義について2月の後期試験期間中に本試験を実施する。両試験を合わせて成績を評価する。それぞれの試験を受験するためには試験対象の講義の3分の2以上の出席を必要とする。

授業計画並びに授業及び学習の方法

生理学（Ⅱ）で学習する生体機能は生命維持に重要な機能であり、病気との関連を考えながら、正常の生体機能の調節機構を理解してほしい。授業で触れることのできる内容は一部に限られる。適切な教科書を参照し、自己学習により知識の定着を図ることを推奨する。不明な点、疑問点についての質問には随時応じる。

回	大項目	項目	内容	担当者
1	自律機能	恒常性・自律神経系	生理学総論、内部環境、恒常性維持機構、ネガティブフィードバック制御	平野
2	自律機能	自律神経系	自律神経系の解剖、自律神経中枢、シグナル伝達、自律神経反射	平野
3	細胞情報伝達	細胞内シグナル伝達	受容体、3量体G蛋白質、単量体G蛋白質	平野
4	細胞情報伝達	細胞内シグナル伝達	セカンドメッセンジャー（カルシウム、cAMP、cGMP）	平野
5	細胞情報伝達	細胞内シグナル伝達	蛋白質リン酸化シグナル	
6	血液	血液総論、血液の成分	血液総論、血液成分、赤血球	
7	血液	血液の成分	赤血球、ヘモグロビン、血液型	
8	環境と生体	体温調節	熱出納、熱産生・放散機構、体温調節機構、体温変動、体温調節異常	平野

9	血液	血液の成分	白血球、生体防御、炎症、免疫、アレルギー	平野
10	血液	凝固線溶系	血小板、凝固系、線溶系、止血機構	平野
11	環境と生体	概日リズム	総論、生理機能、制御機構、時計遺伝子	平野
12	腎臓	総論	腎臓・体液の総論と腎機能の指標	五十嵐
13	腎臓	腎排泄（1）	ナトリウムと水の排泄	五十嵐
14	腎臓	腎排泄（2）	物質の排泄、ホルモンによる腎機能調節	五十嵐
15	腎臓	腎排泄（3）	水バランスの調節、浮腫と脱水	五十嵐
16	呼吸器	呼吸の仕組み	呼吸機能の指標	五十嵐
17	呼吸器	呼吸運動	呼吸運動	五十嵐
18	呼吸器	ガス交換	肺胞におけるガス交換、血液における酸素と二酸化炭素の輸送	五十嵐
19	呼吸器	呼吸の調節	換気と血流の関係、呼吸調節の仕組み	五十嵐
20	体液性調節	循環器の内分泌	レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系	平野
21	体液性調節	循環器の内分泌	副腎皮質・髄質ホルモン、 ナトリウム利尿ペプチド	平野
22	体液性調節	カルシウム代謝	副甲状腺ホルモン、ビタミンD、カルシトニン	平野
23	体液性調節	甲状腺	甲状腺ホルモン	平野
24	先端研究	研究紹介	トロンビン受容体の血管生理学・病態生理学	平野
25	酸塩基平衡	酸塩基平衡（1）	酸塩基平衡の基本：pHの定義、生体のバッファー系	五十嵐
26	酸塩基平衡	酸塩基平衡（2）	アシドーシスとアルカローシス	五十嵐
27	消化器	総論	上皮細胞の生理学：細胞膜を超えた物質の輸送と細胞の極性	五十嵐
28	消化器	消化管の運動	消化管平滑筋の特徴と胃腸の運動	五十嵐
29	消化器	消化液の分泌（1）	唾液と胃液	五十嵐
30	消化器	消化液の分泌（2）	膵液と胆汁	五十嵐

31	消化器	消化と吸収	糖質、脂質、タンパク質、水と電解質	五十嵐
32	先端研究	研究紹介	血管新生	五十嵐
33	循環器	心ポンプ機能	心臓の力学的特性とポンプ機能調節	平野
34	循環器	心臓電気生理	心筋膜電位とイオンチャンネルの働き、 心筋の活動電位	平野
35	循環器	心拍と収縮性調節	刺激伝導系、心拍と収縮性の神経性調節	平野
36	循環器	血管平滑筋収縮機構	カルシウムシグナル、ミオシンリン酸化、 収縮装置のカルシウム感受性	平野
37	循環器	血管内皮機能 微小循環	内皮細胞機能、物質交換、血管緊張調節	平野
38	循環器	血圧の成因 血流調節	血圧の成因、脈圧、平均血圧、血流調節、血管抵抗	平野
39	循環器	循環生理	心拍出量調節、心不全、循環の神経体液性調節、 圧受容器反射	平野
40	先端研究	研究紹介	平滑筋収縮のカルシウム感受性調節と日内リズム	平野

教科書・参考書等

Berne & Levy, Principles of Physiology
 Guyton & Hall, Medical Physiology (日本語版あり)
 Ganong, Review of Medical Physiology (日本語版あり)
 Costanzo, Physiology (日本語版あり)
 標準生理学 医学書院
 医科生理学展望 丸善

オフィスアワー

メールで事前に連絡があれば随時対応する
physiol2@med.kagawa-u.ac.jp

授業科目名

生化学

(英文併記 Biochemistry)

科目区分 基礎医学

授業コード 704120

DPコード bcxM

単位数 2

時間割 後期

対象年次及び学科 2 医学科

教員名

教授 上田 夏生

非常勤講師

准教授 大西 平

伊藤 孝司 (徳島大学教授)

学内講師 坪井 一人

佐々木 卓也 (徳島大学教授)

助教 宇山 徹

富田 修平 (鳥取大学教授)

高橋 吉孝 (岡山県立大学教授)

授業の概要

化学・物理学をふまえて生命現象を分子レベルで理解することが生化学のテーマである。生体は多種多様な物質から構成されている。生体機能を分子レベルで理解するには、まず、この多種多様な生体構成成分の構造と特性を理解する必要がある。次に、これらがどのような生理機能を担っているのかを、その化学的な特性をふまえて学ぶことになる。生体を構成している物質はけっして一定の状態にあるのではない。生合成、分解を繰り返し、常に代謝回転している。この連続した化学反応による動的平衡状態を理解することが必須である。多種多様な生体構成成分の代謝の異常が、それぞれ疾患と密接に結びついているため、医学部においては、人体の代謝の詳細を学習する必要がある。そのためには代謝における個々の化学反応やその反応を触媒する酵素タンパク質の理解が重要であることはいままでもない。

講義では、生体物質の構造と特性を理解するとともに、各物質が代謝回転のなかでどのような役割を果たしているのかを把握するように努める。また、生命にとってもっとも重要である、「生体が生きるために必要なエネルギーをいかにして獲得するのか」というテーマについても学ぶ。各論では、糖・脂質・アミノ酸・核酸等、生体物質ごとの代謝を詳細にみていき、代謝のまとめとして、ビタミン・補酵素について学習する。実習では、生化学実験で用いられる基本的な機器を実際に操作し、タンパク質の分析や酵素活性の測定等を行う。

授業の目的

生体物質の代謝回転や病的状態での異常を理解するための基礎知識を習得する。

達成目標

- 1) 医学部で生化学を学習することの意義を説明することができる。
- 2) 生体物質の名称、構造、化学的性質を説明することができる。
- 3) 生体物質の代謝上の役割を説明することができる。
- 4) 酵素の機能と触媒する化学反応を説明することができる。
- 5) 生体エネルギー産生機構を説明することができる。

- 6) 生体内の主要な代謝経路の相互関係と調節機構を説明することができる。
- 7) 主要な糖代謝経路を説明することができる。
- 8) 主要な脂質代謝経路を説明することができる。
- 9) 主要なアミノ酸代謝経路およびポルフィリン代謝経路を説明することができる。
- 10) 主要な核酸代謝経路を説明することができる。
- 11) ビタミンの構造，機能，欠乏症状を説明することができる。
- 12) フリーラジカル，活性酸素，脂質過酸化について説明することができる。
- 13) 実習で使用する機器を適切に操作することができる。
- 14) タンパク質の分析や酵素活性の測定の原理を説明することができ，実験を適切に行うことができる。

成績評価の方法と基準

複数回の筆記試験によって評価し可否を判定する。授業のはじめに行う小テストの結果を加味する。実習については，実習態度，実習ノートと筆記試験によって評価する。

授業計画並びに授業及び学習の方法

主としてパワーポイントとプリントを用いて講義を行う。重要な項目に加えて教科書を読んでもわかりにくいところや，全体像を頭の中に描きやすくすることに重点をおいて講義を行うので，講義に出席してその場でできるだけ理解するよう努めるとともに，日頃から教科書や代謝マップを繰り返し読んで自習する習慣を身に付けてほしい。生体内の多種多様な物質の名称・構造や代謝経路を丸暗記するのではなく，それぞれの生体物質や代謝経路の機能や相互関係，疾患との関連を理解するように常に心がける。実習については，ただ単に決められた操作をすればよいのではなく，実験方法の原理を理解し，得られた実験結果を十分に考察することが重要である。

	大項目	項目	内容	担当者
1	総論	生化学と医学	生化学とは何か，生化学と医学，症例検討	上田
2	総論	生体物質	生体物質の種類，構造，機能（水，糖質，脂質，核酸，アミノ酸，たんぱく質，ビタミン，ミネラル），細胞内小器官の機能	上田
3	総論			上田
4	総論			上田
5	総論			上田
6	総論			酵素
7	総論	生体エネルギー論・代謝概説	酸化還元電位，高エネルギーリン酸化合物，呼吸鎖，電子伝達系，ATP産生機構，中間代謝（主要な代謝経路とその役割）	大西
8	総論			大西
9	総論			大西
10	総論			大西
11	総論			大西
12	総論	糖代謝	生体エネルギーと生体酸化，糖質の消化，解糖，クエン酸回路，ミトコンドリアの電子伝達系と酸化的リン酸化，グリコーゲンの合成と分解，糖新生，血糖の調節機構，五炭	上田
13	各論			上田
14	各論			上田
15	各論			上田

16	各論		糖回路, ウロン酸回路, ガラクトース代謝, フルクトース代謝, 複合糖質の構造と機能	上田
17	各論			上田
18	各論			上田
19	各論			上田
20	各論			上田
21	各論			上田
22	各論	脂質代謝 I	脂質の消化, 脂肪酸酸化, ケトン体の合成と分解, 脂肪酸合成, 不飽和脂肪酸の合成と必須脂肪酸, アシルグリセロールとスフィンゴ脂質の代謝, 糖脂質と代謝異常, 生体膜の構造と機能, 脂質メディエーターの分類・受容体・働き・生合成, エイコサノイド, リン脂質	上田
23	各論			上田
24	各論			上田
25	各論			上田
26	各論			上田
27	各論	脂質代謝 II	コレステロールの生合成と排出, ステロイドホルモンの生合成, 胆汁酸の生合成, 血漿リポタンパク質と脂質の体内動態	大西
28	各論			大西
29	各論			大西
30	各論			大西
31	各論	アミノ酸代謝	アミノ基転移反応と脱アミノ反応, 尿素サイクル, アミノ酸側鎖の代謝, アミノ酸の合成と必須アミノ酸, アミノ酸由来の生理活性物質の生合成	大西
32	各論			大西
33	各論			大西
34	各論			大西
35	各論			大西
36	各論			大西
37	各論	ポルフィリン代謝	ポルフィリンの合成, ポルフィリンの分解とビリルビン	大西
38	各論	核酸代謝	プリン <small>の</small> 生合成と分解, ピリミジンの生合成と分解, サルベージ経路, ヌクレオチド補酵素	坪井
39	各論			坪井
40	各論			坪井
41	各論	ビタミン	水溶性ビタミンの分類・構造・機能, 補酵素による反応触媒機構, 脂溶性ビタミンの分類・構造・機能, ビタミン関連物質の分類・構造・機能, ミネラルと微量元素	上田
42	各論			上田
43	各論			上田
44	各論			上田
45	各論	フリーラジカルと活性酸素	フリーラジカル, 活性酸素, 過酸化物, 脂質過酸化	上田
46	各論	特別講義 I	アラキドン酸カスケード, シクロオキシゲナーゼと非ステ	高橋
47	各論		ロイド系抗炎症剤, プロスタノイド, ロイコトリエン	高橋
48	各論	特別講義 II	糖タンパク質, 糖鎖, リソソーム酵素, リソソーム病	伊藤
49	各論	特別講義 III	低分子量 G タンパク質, 小胞輸送	佐々木
50	各論			佐々木
51	各論	特別講義 IV	シトクロム P450 の構造と機能	富田
52	各論			富田
53	実習		①説明と準備	大西

54	実習		②タンパク質定量	坪井 宇山
55	実習		③pH測定	
56	実習		④ヘモグロビンの分光吸収測定	
57	実習		⑤タンパク質電気泳動	
58	実習		⑥LDHの活性測定	
59	実習		⑦LDH精製のステップ表作製	
60	実習		⑧LDHの反応動力学	
61	実習		⑨演習問題及び解説	

教科書・参考書等

教科書

多種類出版されている生化学の教科書のいずれか一冊を購入することを勧める。

以下の教科書はすべて訳本であるが、意欲のある学生は英文の原著に挑戦してほしい。

例：ロバート・K. マレーほか. イラストレイテッド ハーパー・生化学. 原書 29 版, 丸善出版, 2013.

原書名: Harper's Illustrated Biochemistry, 29th.

Robert K. Murray et al. Harper's illustrated biochemistry. 29th ed., McGraw-Hill, 2012.

Voet, Donald et al. ヴォート基礎生化学. 第 3 版 ed., 東京化学同人, 2010.

原タイトル: Fundamentals of biochemistry.

Voet, Donald et al. Fundamentals of biochemistry. 3rd ed., Wiley, 2008.

マシューズほか. カラー生化学. 西村書店, 2015.

原タイトル: Biochemistry 4th Edition.

Christopher K. Mathews et al. Biochemistry. 4rd ed., Pearson Canada Inc., 2013.

参考書

大島泰郎ほか. 生化学辞典. 第 4 版, 東京化学同人, 2007.

オフィスアワー

上田 夏生 後期・火曜日 17時～18時 nueda@med.kagawa-u.ac.jp

大西 平 後期・火曜日 17時～18時 tohnishi@med.kagawa-u.ac.jp

坪井 一人 後期・火曜日 17時～18時 ktsuboi@med.kagawa-u.ac.jp

授業科目名 (時間割コード: 041344) Communicative English III(1)	科目区分 コミュニケーション ン科目	DPコード axxG	分野コード
	単位数 1	時間割 前期 金1	
担当教員名 ウィリアム・イアン・デビッド (大学教育開発センター)	対象年次及び学科	2年次生 医学部医学科	
	関連授業科目	主題科目B-2で提供される講義	
	履修推奨科目	Advanced English I, II	
学習時間	15 classes (90 min. each) + approximately 90 min. weekly out-of-class work (preparation, review, etc.)		
授業の概要	One aim of general education at Kagawa University is to help students develop a wide range of communication skills. This course builds upon the basic English communication skills developed by students in their first year (in Communicative English I/II).		
授業の目的	This course focuses on the development of students' academic English skills, mainly in terms of speaking. The primary objective is for students to improve their English public speaking skills by the end of the 15-week semester. Students will also read an English book from cover to cover, and improve their writing fluency by writing in a Reaction Journal every week.		
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
By the end of the semester, students should become enabled to: 1. Actively communicate in English about a variety of topics in group and class discussion; 2. Write about personal and social topics with greater fluency; 3. Read an English book from cover to cover; 4. Type short papers in English using computer software (speech transcripts); 5. Deliver 5~7 minute presentations about personal and social topics in English, using PowerPoint			
成績評価の方法と基準 In-class effort : 20%; Reaction Journal: 30%; Midterm presentation : 20%; Final presentation : 30%			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<p>【Class method】 Class time will be devoted to speaking and writing activities. Students will be required to speak in each class. English will be used as the medium for instruction, discussion, and all class activities. Students will read One Liter of Tears outside of class, and write every week in a Reading Journal (to be explained in class).</p> <p>【Class schedule】 Week 1: Introductions; Writing sample & speech practice Week 2-6: Writing & speech practice Week 7-8: Mid-term presentations Week 9-12: Writing & speech practice Week 13: Final presentation workshop Week 14-15: Final presentations</p> <p>【Suggestions for self-study】 Week 1~5: Students should read from One Liter of Tears and write in their Reaction Journals. Week 6~8: Students should prepare for mid-term presentations and write self-assessments. Week 9~12: Students should read from One Liter of Tears and write in their Reaction Journals. Week 13~15: Students should prepare for final presentations and write self-assessments.</p>			
教科書・参考書等 Kito, Aya. One Liter of Tears: A Young Girl's Fight for Life (Aya's Diary). IBC Publishing, 2007. ISBN 978-4-89684-495-5; 1200円			
オフィスアワー Thursdays 13:00~15:00, at the main campus only (教育部キャンパス5号館・5階). Students can contact the instructor via this e-mail address: ianwill@cc.kagawa-u.ac.jp			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 事前に教科書を購入し内容(教科書の前書きの部分と最初の章)を確認した上で、第1回目の授業に出席してください。欠席回数が4回以上になった時点で単位不認定となります。遅刻を3回すると欠席1回となります。遅刻は授業開始から20分以内までとします。それ以降は欠席の扱いとなります。			

授業科目名 Communicative English III(2)	(時間割コード: 041345)	科目区分 コミュニケーション科目	DPコード axxG	分野コード
担当教員名 ヒル・スティーブ・マイケル・リチャード (大学教育開発センター)	単位数 1	時間割 前期 金1		
		対象年次及び学科 2年次生 医学部医学科		
		関連授業科目 主題科目B-2で提供される講義		
		履修推奨科目 上級英語		
学習時間 授業90分×15回+授業外学習(予習・復習・発表準備)				
授業の概要 幅広いコミュニケーション能力は、香川大学の全学生がその習得を求められるスキルのひとつです。この授業では、1年次の授業(Communicative English I/II)で身につけた「英語を用いてコミュニケーションを行うための基礎的な能力」を更に向上させます。				
授業の目的 この授業は受講生のスピーキング能力の育成に重点を置いています。15回の授業を通して受講生の英語でのスピーキング能力を向上させることを目的とします。				
到達目標				学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
By the end of the semester, students should be able to: 1. Actively engage in English communication. 2. Overcome situations in which students have difficulty expressing themselves in English through compensatory strategies (e.g., gesturing, paraphrasing) 3. [Depending on students' ability level] speak about personal topics in English; deliver 3-minute speeches in English; deliver 5-minute multimedia presentations in English.				
成績評価の方法と基準 Students will be evaluated on: Participation 10% In-class work and other assignments 30% Mid-term mini-presentation 20% Final presentation 40%				
授業計画並びに授業及び学習の方法				
Week 1: Introduction to the course Week 2-12 Textbook [Suggestions for self-study] Week 1: Students should be prepared to introduce themselves to their instructor and classmates. Week 2-15: In addition to the timely completion of course assignments and timely preparation for the mid-term and final presentations, students interested in self-study should expose themselves to a large amount of written and spoken English. Listening to English-language music while consulting the written lyrics, or watching English-language movies with subtitles in English are good possibilities for spoken English. English language books are the best source for written material. Students may consult the instructor for specific recommendations.				
教科書・参考書等 Steven Gershon. Present Yourself 2. Second Edition. CUP (2015) ISBN: 978-1-107-43578-0 ¥3100				
オフィスアワー 授業時に教員と相談の上、日時を決定して下さい。				
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 事前に教科書を購入し内容(教科書の前書きの部分と最初の章)を確認した上で、第1回目の授業に出席してください。欠席回数数が4回以上になった時点で単位不認定となります。遅刻を3回すると欠席1回となります。遅刻は授業開始から20分以内までとします。それ以降は欠席の扱いとなります。				

授業科目名 (時間割コード: 041346) Communicative English III(3)	科目区分 コミュニケーション科目	DPコード axxG	分野コード
	単位数 1	時間割 前期 金1	
担当教員名 長井 克己(大学教育開発センター)	対象年次及び学科	2年次生 医学部医学科	
	関連授業科目	主題科目B-2で提供される講義	
	履修推奨科目	Advanced English I/II	
学習時間	授業90分×15回+授業外学習(予習・復習・発表準備)		
授業の概要 幅広いコミュニケーション能力は、香川大学の全学生がその習得を求められるスキルのひとつです。この授業では、1年次の授業(Communicative English I/II)で身につけた「英語を用いてコミュニケーションを行うための基礎的な能力」を更に向上させます。			
授業の目的 この授業は受講生のスピーキング能力の育成に重点を置いています。15回の授業を通して受講生の英語でのスピーキング能力を向上させることを目的とします。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 医療に関するテーマについて、自分の意見を英語で正確に伝え、質問に答えることができる。 2. 新聞記事のテーマについて、英語で3分間話し続けることができる。			
成績評価の方法と基準 (1) 3 minutes speech (20%) (2) Q&A on newspaper articles (20%) (3) Exam 1 (30%) and Exam 2 (30%)			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業の方法】 (1) 3 minutes speech on newspaper articles, (2) Q&A, (3) Shadowing practice, (4) Role-play of "Happy Apple Hospital" の順に演習を行う。 【授業計画】 第1回: 新聞記事を速読し、内容を確認してスピーチの内容を考える。教科書の確認。 第2回~第7回: 1 Unit / 2 weeks で Read-Aloud / Shadowing 練習を行う。 第8回: Exam 1 / tutorial 第9回~第14回: 1 Unit / week で演習を行う。 第15回: Exam 2 / follow-up 【自学自習に関するアドバイス】 スピーチ用ハンドアウトを学籍番号(Mの入った番号).pdfの形式で作成し、前日正午までにメールの添付として提出すること。CDを何度も何度も繰り返し聞き、耳で語彙を増やすこと。次に同時に口に出して発音練習をすること。			
教科書・参考書等 教科書: 伊藤&伊藤. (2008). シャドーイングで身につける実践医療英会話. (ISBN 978-4-521-730417) スピーチの題材となる新聞記事は、1回目の授業で配布			
オフィスアワー 授業時に教員と相談の上、日時を決定して下さい。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 事前に教科書を購入し内容(教科書の前書きの部分と最初の章)を確認した上で、第1回目の授業に出席してください。 欠席回数が4回以上になった時点で単位不認定となります。遅刻を3回すると欠席1回となります。遅刻は授業開始から20分以内までとします。それ以降は欠席の扱いとなります。			

授業科目名 (時間割コード: 041347) Communicative English III(4)	科目区分 コミュニケーション科目	DPコード axxG	分野コード
	単位数 1	時間割 前期 金1	
担当教員名 中住 幸治(大学教育開発センター)	対象年次及び学科	2年次生 医学部医学科	
	関連授業科目	主題科目B-2で提供される講義	
	履修推奨科目	上級英語	
学習時間 授業90分×15回+授業外学習(予習・復習・発表準備)			
授業の概要 幅広いコミュニケーション能力は、香川大学の全学生がその習得を求められるスキルのひとつです。この授業では、1年次の授業(Communicative English I/II)で身につけた「英語を用いてコミュニケーションを行うための基礎的な能力」を更に向上させます。			
授業の目的 この授業は受講生のスピーキング能力の育成に重点を置いています。15回の授業を通して受講生の英語でのスピーキング能力を向上させることを目的とします。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 英語を用いて積極的にコミュニケーションを取ることができる。 2. 自分の言いたいことをうまく伝えることができない時でも、ジェスチャー、パラフレーズ(言い換え)などのコミュニケーション方略を用いて、コミュニケーションを継続することができる。 3. 「英語で3分間程度のスピーチを行うことができる」			
成績評価の方法と基準 Quiz: 20% In-class effort: 30% Midterm presentation: 20% Final presentation: 30%			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業の方法】 テキストに従って授業を展開します。指定された箇所を予習した上で授業に参加してください。			
【授業計画】 第1回: オリエンテーション 第2～第14回(第8回を除く): テキストを使用したの演習活動を行う。 第8回: プレゼンテーション(中間) 第15回: プレゼンテーション(期末)			
【授業外学習に関するアドバイス】 第2回～第14回: 授業担当者の指示に従い予習をした上で授業に臨むこと。 第8・15回: プレゼンテーションを行う。計画的に準備しておくこと。			
教科書・参考書等 Matsuoka, N., Tachino, T., & Miyake, H. (2014). Presentations to Go. Cengage Learning. ISBN: 978-4-86312-264-2			
オフィスアワー 授業時に教員と相談の上、日時を決定して下さい。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 事前に教科書を購入し内容(教科書の前書きの部分と最初の章)を確認した上で、第1回目の授業に出席してください。欠席回数が4回以上になった時点で単位不認定となります。遅刻を3回すると欠席1回となります。遅刻は授業開始から20分以内までとします。それ以降は欠席の扱いとなります。			

授業科目名

早期医学実習 II

(英文併記 Early Medical Institute Training II)

科目区分 早期医学

授業コード

DP コード

単位数 (試行) 時間割 前期 対象年次及び学科 2 医学科

教員名

教授 上田 夏生 (コーディネータ)

教授 岡田 宏基 (コーディネータ)

授業の概要

医学科1年次後期開講の「早期医学実習」(自由科目)の発展型として、本授業科目を2年次前期の金曜日3・4限に開講する(ただし、平成27年度は試行的に開講するため単位は賦与しない)。受講者は基礎医学系の講座を中心とした研究室のいずれかひとつを選択し、医学に関連した特定の研究分野の実験・調査・専門書や文献の講読などを行うことで最新の医学に接し、研究の面白さを体験することができる。受入れ研究室・研究室ごとの受入れ人数・実習テーマ・内容などをまとめたガイドブックは前年度に配布済である。研究室ごとの受入れ人数に限りがあるため、募集人数を越える希望者がいる場合は調整を行うが、前年度の「早期医学実習」で同じ講座に配属された学生を優先する。なお、ひとりで複数のコースを受講することはできない。

授業の目的

早期に医学研究や医療現場を体験することで、医学研究の重要性および医療現場での課題に気付くとともに課題探究能力を養うことを目的とする。

達成目標

- 1) 医学研究や医療現場体験を行うことの意義を説明できる。
- 2) 与えられた研究テーマについて目的、背景、方法、結果を説明し、考察することができる。

授業及び学習の方法

前年度に配布したガイドブックを参照してください。

成績評価の方法と基準

平成27年度は試行的に実施するため、成績評価は行わず、単位は賦与しない。

教科書・参考書

オフィスアワー

シラバス

3 年次生

医療心理学

医学英語

解剖学Ⅰ

内分泌学

病理学Ⅰ

病理学Ⅱ

免疫学

薬理学

微生物学

医動物学

臨床総論講義

症候論

消化器ユニット

神経筋骨格ユニット

精神神経ユニット

内分泌代謝ユニット

麻酔・救急ユニット

放射線ユニット

課題実習

Advanced English（全学共通科目）

授業科目名

医療心理学

(英文併記 Medical Psychology)

科目区分 専門基礎科目 授業コード 703431 DPコード bdxM

単位数 2 時間割 前期 対象年次及び学科 3 医学科

教員名

非常勤講師 長谷 綾子 (臨床心理士)

授業の概要

私たちは日々、他者と関わり合い、そして他者との違いを感じながら生きている。また同時に他者との共通点を感じながらも生きている。心理学は人間の行動と心の過程に関する規則性と独自性を、どこまでも追求する学問である。「心」は目に見えるものではない。抛ってその研究対象は「心」の表れとしての行動や言語となる。そしてその過程は脳のはたらきと深いつながりがある。

本講義ではまず「心」がいかにして構成され、いかなる過程をたどって、行動や言語でいかように表出されるか、人間に共通してみられる規則性を学習する。その上でその共通性が社会や個人をとりまく環境によっていかに影響を受け、人格を形成していくか、社会的な視点と発達の視点から独自性を持つ人間を理解することを習得する。

今後、職業人として、家庭人として、そしてひとり人間として生きていく上でも、今、心理学について学ぶことで自身の心の特性や人格形成の成り立ち、社会や身近な人たちとの関わりあいについて深く考える機会としてほしい。

授業の目的

人間の行動と心理を理解するための基礎的な知識と考え方を学ぶ。

達成目標

- 1) 行動と知覚、学習、記憶、認知、言語、思考、性格との関連を概説できる。
- 2) 様々な学習行動とその過程について説明できる。
- 3) 動機づけの種類や過程、欲求と葛藤、防衛との関連を説明できる。
- 4) 発達の原理とライフサイクルの各段階における特徴を概説できる。
- 5) 人格理論の諸説について説明できる。
- 6) 社会や人間関係における諸問題、コミュニケーションの様相について概説できる。

成績評価の方法と基準

出席点、学期末試験、講義内レポート、小テストにより総合的に評価。

授業計画並びに授業及び学習の方法

主に指定の教科書を使用しながらパワーポイント，資料で補足して講義を進める。

1. オリエンテーション～心とは何か
2. 知覚 ～刺激の受容と選別
3. 記憶 ～記銘・保持・想起そして忘却
4. 認知・思考 ～情報の統合と応用
5. 動機づけ ～行動の源泉
6. 学習① ～無意識的反応と意識的反応
7. 学習② ～経験による行動の変化
8. ストレス ～適応への脅威，それへの対応
9. 人格① ～こころの独自性
10. 人格② ～臨床上の問題と対応
11. 発達① ～発達理論と乳児期から幼児期
12. 発達② ～学童期から老年期
13. 対人関係① ～社会に生きる
14. 対人関係② ～コミュニケーション

教科書・参考書等

講義は教科書を使用しながら進める。参考書は必要に応じた理解の補足として挙げておく。

教科書

金城辰夫監修. 図説現代心理学入門[三訂版]. 培風館, 2006.

参考書

今田寛・宮田洋・賀集寛共編. 心理学の基礎[三訂版]. 培風館, 2003.

オフィスアワー

a.hase.kaisei@gmail.com

授業科目名

医学英語

(英文併記 Medical English)

科目区分 学際医学 授業コード 703900 DPコード abxM

単位数 1 時間割 前期 対象年次及び学科 3 医学科

教員名

Ian Willey (大学教育基盤センター准教授)

Patrick Scanlon (非常勤講師)

授業の概要

This course will deepen students' knowledge of basic medical English vocabulary, and improve students' English writing skills.

授業の目的

This course has three objectives: 1) to build students' practical medical English vocabulary knowledge; 2) to help students become able to write about medical and academic topics for a variety of audiences; and 3) to improve students' basic presentation skills in English.

達成目標

Through this course, students will become enabled to:

- Identify and use basic medical English vocabulary and abbreviations;
- Inquire about patients' symptoms using English;
- Explain medical English vocabulary using simple English and gestures;
- Write about medical topics using simple, vivid language which laymen would be able to understand;
- Present their English writing to groups of students in a strong voice and with eye contact.

成績評価の方法と基準

30%: Mid-term test

30%: Final test

40%: Notebook assignment

授業計画並びに授業及び学習の方法

Please remember these three rules: 1) come to class on time; 2) bring your textbook and homework; 3) participate in class activities from the beginning to the end of class.

回	項 目	担当者
1	Introductions and orientation; Begin <i>Professional English in Use Medicine</i> (PEIUM)	Ian Willey
2	PEIUM	Pat Scanlon
3	PEIUM	
4	PEIUM	
5	PEIUM	
6	PEIUM	
7	Mid-term test	
8	PEIUM	
9	PEIUM; Notebook collection 1	
10	PEIUM	
11	PEIUM	
12	PEIUM	
13	PEIUM	
14	Notebook collection 2	
	Final exam	

教科書・参考書等

Glendinning, E.H., & Howard, R. (2007). *Professional English in Use Medicine*. Cambridge: ISBN 978-0-521-68201-5

Please keep this book after we finish this course. In Medical English the first half of the book will be covered. In Clinical English (year 4) the second half will be covered.

参考書：特になし。

オフィスアワー

At Saiwai-cho campus only. For inquiries: ianwill@cc.kagawa-u.ac.jp

授業科目名

解剖学（I）・3年

（英文併記 Human Anatomy I ）

科目区分 基礎医学

授業コード 704103

DPコード bcxM

単位数 3 時間割 前期 対象年次及び学科 3 医学科

教員名

教授 三木 崇範

助教 鈴木 辰吾

助教 太田 健一

授業の概要

解剖学は、人体の正常な構造を明らかにする学問である。解剖学 I では、発生学各論と脳神経学の講義および、系統解剖学実習を担当する。このうち系統解剖実習は2年生に引き続き行うもので、今回は自らが抱いている人体に関する疑問点をこの実習を通して明らかにするものである。教科書による平面的知識のみならず実習を通して立体的な知識を身につけ、臨床医学にも適応できる正確な人体の構造を修得するものである。解剖学実習では、詳細な構造の理解が求められる一方、体の構造を俯瞰し、全体をシステムとして捉えることが、医学生には必要である、更に、ご遺体と向き合うことを通じて、生とは何か、死とは何かを考える機会とし、医学生として豊かな人間性を培ってもらいたい。

下記の要項によって実施する。

1) 発生学各論

2年次で講義した総論を基礎として、臓器の発生を系統だてて講義する。発生学的知識が、人体構造の成り立ちの理解に必須であるばかりでなく、先で学ぶ臨床医学（特に産婦人科、小児科、小児外科など）における先天異常や、発生過程に関連した疾患に理解につながる。

特別な分野については特別講義として学外講師による講義を行う。

2) 脳神経学

2年生の末梢神経学に続き、脳神経について講義を行う。授業は出来る限り実習に並行して行い、頭頸部の解剖の理解に役立つように配慮している。

3) 系統解剖学実習

頭頸部の解剖さらに心臓、肺、肝、腎などの深部に至るまで詳細に解剖を行い、2年生とは異なる領域まで理解を深める。この解剖実習では講義の総括として詳細かつ正確な立体的知識を体得できるように配慮している。

4) 予習ノート

実習に際し、予習することなしに解剖を行うことは厳禁している。毎回、実習時に教員による予習ノートのチェックをし、内容の評価を行っている。

5) 出席について

規定の出席日数が必要である。ただし、実習では特別な理由がない限り欠席を認めない。

授業の目的

人体の基本的構造を学習し、各臓器の発生・発育過程および脳神経の形態・機能を理解する能力を身につける。さらに、将来臨床医学においてCT、MRI等の画像読解に必要な不可欠である人体の立体的構造解析に応用できる基礎知識を修得する。

達成目標

1. 人体の各臓器の正常発生のメカニズムについて説明できる。
2. 脳神経の形態と機能を述べることができる。
3. 頭頸部、刺激伝道系、肺、肝、腎などの深部構造を詳細に説明できる。
4. 人体に関する自らの疑問点を解決できる。

成績評価の方法と基準

1. 発生学各論、脳神経学のペーパー試験を行なう。
2. 系統解剖実習試験を行なう。
3. 予習ノートおよび出席等も評価に入れる。

授業計画並びに授業及び学習の方法

解剖学は生理・生化学などとは異なり形態学であるので、系統解剖実習などを中心に授業が行われる。それゆえ、学生は実習を行いながら自ら積極的に学習すべきである。頭頸部では脳神経の構造と機能を学習する。さらに、発生学では一つの細胞が増殖、分化し、種々の臓器・組織が形成され、一個体となるまでを学習するが、この過程を十分に理解しておかなければ、正常人体の構造や将来臨床科目において種々の疾病を理解する際に余分の時間と労力を費やすことになる。発生学は実習がなく講義のみであるので、特に授業を大切に、自らも参考書、図譜を参照して十分に勉強すべきである。

系統解剖実習および脳実習では、下記参考書のうち、解剖実習の手引き（南山堂）・ネッター解剖学アトラス（南江堂）が必須である。

回	大項目	項目	内容	担当者
1	発生学各論	各論(1)	胚子期, 胎児期	三木
2		各論(2)	神経系の発生	三木
3		各論(3)	消化器系の発生	三木
4		各論(4)	心臓・血管系の発生	三木
5		各論(5)	泌尿器の発生, 生殖器の発生	三木
6		各論(6)	頭頸部・呼吸器の発生, 感覚器の発生	三木
7		各論(7)	筋・骨格系, 体腔の発生	三木
8		各論(8)	四肢の発生, 発生生物学の最近の知見	三木
9		各論(9)	先天異常学	三木

1	内臓学 2	内分泌・感覚器	内分泌器官の解剖学、感覚器（特に視覚、聴覚）の解剖学	三 木
1	脳神経学	脳 神 経（1）	脳神経総論/各論	太 田
2		脳 神 経（2）	脳神経各論	太 田
3		脳 神 経（3）	脳神経各論	太 田
4		脳 神 経（4）	脳神経各論	太 田
5		脳 神 経（5）	脳神経各論	太 田
1	系統解剖 実習		§1 首・胸・腹部の体表観察と皮切り， §2 広頸筋と乳腺， §3 胸腹部の皮静脈と皮神経， §4: 大胸筋と外腹斜筋， §53 下肢の皮静脈と皮神経	全 員
2			§5 頸神経叢の枝と胸鎖乳突筋， §8 首のやや深層， §9 胸部の深層と腋窩， §10 鎖骨下動静脈とその枝， §30 単径部と側腹筋群， §31 腹直筋鞘， §32 横筋筋膜と腹膜（前半のみ）	全 員
3			§11 腕の皮切りと腕神経叢， §12 上腕屈側の筋と神経， §13 肩甲骨の前面の筋， §16 前腕屈側の浅い層， §18 手のひらの皮切りと手掌腱膜， §19, 20: 手のひらの浅い層・深い層， §54 大腿筋膜と大殿筋， §55 大腿前面の深層， §59 下腿前面と足背	全 員
4			§6 背中の皮切り， §7 背中の浅深筋， §14 上腕伸側と肩甲骨背面の筋， §15 上肢の切り離し， §56 殿部深層， §57 大腿後面の深層， §58 膝窩と下腿後面， §60 足底	全 員
5			§26 胸腰筋膜と固有背筋， §27 後頭下の筋， §28 脊髄， §17 前腕の伸側と手背， §21 上肢の血管と神経のまとめ， §22 肩の関節と周辺， §23 肘の関節， §24 手首の関節， §25 手と指の関節	全 員
6			§29 胸壁， §35 胸腔を開く， §36 胸膜と心膜， §37 肺， §38 くびの根元の深層， §39 縦隔， §42 縦隔の深部， §40 心臓の外景， §61 下腿の最深層， §62 膝の関節， §63 足の関節， §73 顔の浅層	全 員
7			§41 心臓の内景， §72 首の深層， §73 顔の浅層， §74 咽頭， §75 甲状腺と気管， §76 喉頭， §32, 横筋筋膜と腹膜（後半のみ）， §33 臍， §34 腹部内臓の原位置での観察	全 員
8			§43 腹部内臓の位置， §44 腹膜と腹膜腔， §45 腹部内臓に分布する血管と神経， §78 頭蓋の内面， §79 頭の切半と口腔， §80 鼻腔と咽頭鼻部	全 員
9			§46 空腸と回腸と結腸， §47 胃， §48 肝臓， §49 十二指腸・膵臓・脾臓， §81 咀嚼筋と下顎管， §82 顎関節と側頭下窩	全 員
10			§50 腎臓と副腎， §51 後胸壁と後腹壁， §52 横隔膜と腰神経叢， 下半身の切り離し， §64 膀胱とその周辺， §83 舌と口蓋と扁桃， §84 副鼻腔と翼口蓋神経節	全 員
11			§65m 男性の外陰部と精巣， §65f 女性の外陰部， §66m 男性の会陰， §66f 女性の会陰， §67 骨盤の切片， §85 眼球を前から見る， §86 眼窩の内容， §87 眼球など	全 員

12		§ 68m70m 男性の骨盤内臓の位置, § 68f70f 女性の骨盤内臓の位置, § 88 舌下神経管と頸静脈孔, § 91 翼突管と頸動脈管と耳神経節	全 員
13		§ 69 骨盤の血管と神経, § 71 骨盤壁の筋と股関節, § 89 外耳と中耳, § 90 内耳	全 員
14		全総括	全 員
15		系統解剖実習試験	全 員

教科書

- 寺田春永 ほか、解剖実習の手引き、11 版、南山堂、2004.
- 寺島俊雄、カラー図解神経解剖学講義ノート、金芳堂、2011.
- Richard L. Drake ほか、グレイ解剖学(原著第 2 版)、エルゼビア・ジャパン、2011.
- 安田峯生ら訳、ラングマン人体発生学、メディカルサイエンスインターナショナル、第 10 版、2010

アトラス

- Duane E. Haines ほか、ハインズ神経解剖学アトラス、第 4 版、メディカル・サイエンス・インターナショナル、2013.
- Frank H. Netter、ネッター解剖学アトラス、第 5 版、エルゼビア・ジャパン、2011.
- 坂井建雄、プロメテウス解剖学アトラス 総論/運動器系、第 2 版、医学書院、2011
- 坂井建雄、プロメテウス解剖学アトラス 頭頸部/神経解剖、第 2 版、医学書院、2014
- 坂井建雄、プロメテウス解剖学アトラス 口腔・頭頸部、医学書院、2012
- 坂井建雄、プロメテウス解剖学アトラス 胸部/腹部・骨盤部、第 2 版、医学書院、2014

参考書等

- 伊藤 隆ほか、解剖学講義、改訂 3 版、南山堂、2012.
- 松村譲児、イラスト解剖学、第 8 版、中外医学社、2014.
- M.J.T. フィッツジェラルドほか、臨床神経解剖学－機能的アプローチ、第 6 版、西村書店、2013
- Moore, Keith L. ほか、ムーア人体発生学、原著第 8 版、医歯薬出版、2011.
- 坂井建雄ほか、カラー図解人体の正常構造と機能、全 10 巻、改訂第 2 版、日本医事新報社、2012.

(注意) ●で記した教科書やアトラスは、本授業が開始されるまでに各個人で用意しておくこと

オフィスアワー

当講座は必ず勤務時間内に教員がいるので随時受入可能。

授業科目名

内分泌学

(英文併記 Endocrinology)

科目区分 臨床基礎医学 授業コード 704200 DPコード bcxM

単位数 6 時間割 前期 対象年次及び学科 3 医学科

教員名

教授	中村 隆範	非常勤講師
准教授	西 望 (総合生命科学研究センター)	宮本 薫 (福井大学 教授)
助教	小川 崇	東海林 博樹 (金沢医科大学 准教授)
助教	野中 康宏	

授業の概要

元来、ホルモンとは生体を調節、統御する生体内で生合成される微量成分であり、それぞれ特定の腺細胞から分泌され血流によって運ばれて、標的細胞の特異的な受容体と結合しその情報を細胞内に伝える有機物質と定義されていた (古典的ホルモン)。しかし、今日、古典的ホルモンに加えて細胞増殖因子、サイトカインなど必ずしも特定の分泌腺を作らない細胞から生合成されたり、血流を介さないで標的細胞に運ばれる多くの生理活性物質が、広義のホルモンとして扱われる様になってきた。こうした広義のホルモンの情報が外界から細胞内へ効率的に伝えられるために、標的細胞はその細胞膜 (細胞表層) あるいは細胞内 (核内) にホルモン分子を捕獲する受容体やその受容体を介して情報が細胞質の分子を通したり、直接核内の特定の遺伝子発現調節に関わるような細胞内情報伝達経路を備えている。その結果、ホルモンは標的細胞でのみ選択的に遺伝子発現、細胞膜の興奮、酵素活性などを調節しながら、自律神経系とともに生体の恒常性の維持に役立っている。近年の生化学や分子生物学の進歩は、数多くの微量ホルモンの精製純化を可能にし、その化学構造や遺伝子構造をも明らかにしている。また、免疫学の進歩とともに抗原抗体反応を利用した高感度ホルモン測定法が確立して、体液、組織内の微量ホルモン濃度の測定が可能になった。このような分析技術の進歩や知識の集積によって、ホルモンの生合成と分泌から血液中の存在状態および標的組織における生理作用まで、その全体像が分子レベルで明らかになりつつある。また、生物個体の発生や成長、生殖から恒常性の維持などに異常をもたらす疾患の多くが、ホルモン作用に関わる情報伝達分子の遺伝子異常 (変異) によることが明らかにされている。これらの研究成果は、糖尿病、バセドウ病などの内分泌疾患のみならず、心臓病、高血圧、癌など各種疾患の病態の理解やその診断、治療に応用されている。本授業では、生化学、細胞生物学、分子生物学などの基礎学問が内分泌学にどのように生かされてきたか概説しながら、現在確立されている内分泌学の基礎知識と今後の展望について講義する。

授業の目的

内分泌疾患の多くが、各種ホルモン (生理活性物質) の生体内情報伝達系における異常や自己免疫疾患の結果として捉えられることから、各種ホルモンの生理機能や作用機序を理解すると共に、疾患発症の物質 (分子) レベルでの理解と治療方針を理解するための基礎知識を習得する。

達成目標

1. 内分泌及びホルモンの概念を説明することができる。
2. 内分泌臓器とホルモンの名称を英語と日本語で正しく記述することができる。
3. ホルモンの生合成部位と化学構造，生理作用を関連付けて説明することができる。
4. ホルモンの作用機序（標的臓器，受容体，細胞内情報伝達，効果の発現）を述べることができる。
5. 内分泌疾患とホルモンの遺伝子異常，分泌調節，代謝経路などを関連付けて説明することができる。
6. ホルモンの定量法を説明し，定性，定量的に測定することができる。
7. 一般的なタンパク質，核酸を解析するとともに，ホルモン作用による遺伝子発現，タンパク質生合成の調節機構の具体例を述べるができる。
8. 実習中は課題について充分グループ内で討論することができる。

成績評価の方法と基準

1. 内分泌学講義については学期末に試験を実施する。
2. 実習はタンパク質化学、分子生物学的内容を中心に，実験動物を使用した生殖内分泌系の解析を行い、レポートを評価する。

授業計画並びに授業及び学習の方法

1. 教科書は特に定めませんが，内分泌学の参考図書や，生化学・分子生物学・細胞生物学の基礎知識を踏まえて準備したプリントに沿って内分泌学の知識を理解出来るように努める。
2. 講義内容の理解を深めるため，講義の合間に小テストを実施するので十分に復習をしておく。
3. 非常勤講師を招き，内分泌学のホットな話題を紹介してもらうので積極的に質問して欲しい。

回	大項目	項目	内容	担当者
1	総論	序論・実習説明	ホルモンの定義と内分泌学の概念	中村
2		ホルモンの分類	ペプチドホルモン，タンパク質ホルモン ステロイドホルモン，アミン，アミノ酸 エイコサノイド	中村
3		ホルモンの生合成と分泌	各種ホルモンの生合成 ホルモン分泌細胞，分泌腺の体内分布，ホルモン分泌	中村
4, 5		ホルモン受容体	細胞膜受容体（チロシンキナーゼ型受容体， Gタンパク質共役型受容体），細胞増殖因子 核内受容体（ステロイド受容体，非ステロイド受容体）	中村
6		ホルモンと受容体のキネティクス	リガンドと受容体 Michaelis-Menten の式	中村
7		ホルモンの定量法	ラジオイムノアッセイ（RIA） エンザイムイムノアッセイ（EIA，ELISA）	中村

8, 9 10	各 論	膵内分泌	インスリンの化学構造, 生合成, 分泌調節, 生理作用 (生化学, 生理学) グルカゴンの生化学, 生理学 糖尿病の定義と分類 糖尿病の病態生化学 糖尿病と肥満 レプチンの生化学, 生理学	西
11, 12		甲状腺	甲状腺ホルモンの生化学, 生理学 TSH, TRH 甲状腺の病態生化学 カルシウム調節ホルモン	中 村
13	特別講義	幹細胞分化と内分泌	遺伝子発現, ステロイド産生, 副腎細胞分化	宮 本
14		副甲状腺	副甲状腺ホルモンの生化学, 生理学, カルシトニン (甲状腺), 活性型ビタミンD4 (腎) の生化学, 生理学, 骨代謝	中 村
15, 16		生殖腺	生殖腺 (性腺) 刺激ホルモン 睾丸: テストステロン 卵巣: 卵胞刺激ホルモン, 黄体ホルモン FSH, LH, CG, GnRH	中 村
17, 18		副腎 (皮質 髄質)	グルココルチコイド, ミネラルコルチコイド, アンドロゲン アドレナリン (エピネフリン), ノルアドレナリン (ノルエピネフリン)	中 村
19		視床下部・下垂体	TRH, CRH, GnRH, GRH ソマトスタチン, ドーパミン	中 村
20	特別講義	内分泌と分子異常	ホルモン受容体, 遺伝子変異	東海林

教科書・参考書等

教科書

Melmed, Shlomo ほか. Williams Textbook of Endocrinology . 12TH, W B Saunders Co, 2011.

DeGroot, Leslie J. ほか. Endocrinology. 6 HAR, W B Saunders Co, 2010.

寺本民生 ほか. 講義録内分泌・代謝学. メジカルビュー社, 2005.

井村裕夫 ほか. 内分泌・代謝病学. 第4版, 医学書院, 1997.

宮地幸隆 ほか. 病態で学ぶ内分泌学. 丸善, 1996. 原タイトル: Pathophysiology of disease.

中村桂子 ほか. 細胞の分子生物学 . 第5版, ニュートンプレス, 2010.

Donald Voet ほか. ヴォート 生化学〈上〉. 第4版, 東京化学同人, 2012.

Donald Voet ほか. ヴォート 生化学〈下〉. 第4版, 東京化学同人, 2013.

矢内原昇. 内分泌生理化学 . 南江堂, 1994.

オフィスアワー

授業日 (月曜日) の 16 : 30 ~ 18 : 00 とするが、担当教員のいる日時内であれば随時対応します。

授業科目名

病理学（I）

（英文併記 Pathology I ）

科目区分 臨床基礎医学 授業コード 704211 DPコード bcdM

単位数 2 時間割 前期 対象年次及び学科 3 医学科

教員名

教授	今井田 克己	非常勤講師
准教授	横平 政直	竿尾 光祐
		久野 壽也
		船本 康申

授業の概要

病理学の教育は病理解剖学および病理組織学を基礎として、疾病の原因、病変の発現機序、それらの相互関係ないし因果関係を考察し、正しい疾病観と疾患の具体的概念を会得し、理論と同時に臨床医学への基礎作りも兼ねるものである。

下記の要項によって実施する。

1) 総論講義

病因論を講義するとともに、臓器、組織を越えて共通して見られる病変を成立機序とその病因、種類、転帰などを総括的に把握させる。疾病の形態学的所見だけでなく、実験病理学的裏付けによる理論も理解できるように説明する。特別の分野については特別講義として学外講師による講義を予定している。

2) 各論および病理学実習（統合講義として実施する）

病理学総論で学んだ知識に基づき、統合講義の中で主要病変について顕微鏡実習を行う。病理組織標本を実習期間中貸与し、その標本に基づいた病理組織学解説書に沿い、実習時間の前半に詳細な解説を行う。この標本の見取図的なスケッチと主病変について記述させるように工夫している。

3) 剖検見学

できるかぎり剖検を実際に見学させるため剖検実施を剖検燈で学生に通知している。随時自発的に剖検を見学することにより、実際の症例の観察から臨床と直結した実地の病理学を体得できるように配慮している。

4) 出席について

講義実習を通して、医学が尊い生命をもった人間を対象とする学問であり、絶えざる自己研修を要するという考えから出席を重視する。

授業の目的

疾患として機能異常があれば、構造異常として投影されるという考えに基づき、形態学的な面を主体として習熟することができる。

達成目標

1. 病因論と、臓器、組織を超えて共通してみられる病変に関してその病因、種類、転帰などを病理学的に説明することができる。
2. 疾病の病理形態的な特徴を説明し、さらに実験病理学的に裏付けられた理論を説明することができる。
3. 腫瘍の発生原因、種類、肉眼的特徴、病理組織学的特徴を説明することができる。
4. 各臓器、病変に関しては統合講義の中で主要病変について、病理組織学的な解説を行った後、病理組織実習を行うことができる。
5. 病理組織実習に関しては病理組織標本を用いて、実習解説書に基づいてあらかじめ詳細に説明することができる。

成績評価の方法と基準

1. 総論については講義終了後筆記試験を行う。
2. 各論、実習については統合講義の評価法に準拠し、実習試験を重視する。
3. 1. 2. について出席を重視する。

授業計画並びに授業及び学習の方法

回	大項目	項目	内 容	担当者
1	病理学概論	序説	オリエンテーション、病理学とは	今井田
2	病理学総論	細胞傷害、修復	反応と適応（1）萎縮、肥大、過形成、化生	今井田
3			反応と適応（2）細胞死、アポトーシス、変性	今井田
4			染色体異常と 遺伝子疾患	染色体異常・遺伝子疾患
5		染色体異常・遺伝子疾患		今井田
6		腫瘍学	腫瘍学・化学発がん	今井田
7			がんの分子レベルの基礎（1）	横平
8			がんの分子レベルの基礎（2）	横平
9			がんの分子レベルの基礎（3）	横平
10			腫瘍総論：腫瘍の臨床的特徴	横平
11			腫瘍総論：上皮性腫瘍（1）	横平
12			腫瘍総論：上皮性腫瘍（2）	横平
13		腫瘍総論：非上皮性腫瘍	横平	
14		特別講義	細胞診	船本

15	特別講義		診断病理学	竿尾
16	特別講義		化学発がん	久野
17	試験			

教科書・参考書等

Basic Pathology, Robins & Angell, Saunders

Pathological Basis of Disease, Robins, Saunders

現代の病理学, 金原出版

病理学総論・各論, 南山堂

新病理学総論, 南山堂

エッセンシャル病理学, 医歯薬出版

オフィスアワー

随時実施（あらかじめメール等で照会を行うこと。）

授業科目名

病理学Ⅱ

(英文併記 PathologyⅡ)

科目区分 臨床基礎医学

授業コード 704212

DPコード bcxM

単位数 2 時間割 前期 対象年次及び学科 3 医学科

教員名

教授 上野 正樹

非常勤講師

講師 千葉 陽一

阪本 晴彦 (香川大学 名誉教授)

授業の概要

病理学は疾病の実態を形態学的 (マクロ, ミクロ) に把握し, その特徴を捉えてこれを分類し, 診断することを大きな目的とし, 病理解剖や外科病理診断が行われている。更に, 病因の究明も病理学の使命であり組織化学や免疫組織学, 分子生物学的手法, 電顕などを使い, 形態と機能の研究を組み合わせ, 人体症例のみならずモデル疾患動物も研究の対象としている。

学生に対する講義は総論, 各論 (統合講義) に分けて行われる。総論では, 全身各器官に共通した病態とその原理を学ぶ。統合抗議の中に組み込まれた病理学各論において各器官毎の疾病の定義と特徴および顕微鏡所見, 病因論などを学ぶ。ミクロの特徴を知るために光学顕微鏡を使って病理組織の観察 (実習) を行う。また病気の実像に触れ, 肉眼的な特徴を知るために, 病理解剖が行われている時はできるだけ見学することが望ましい。

授業の目的

各種疾患の実態を肉眼的, 顕微鏡的に把握しその特徴を理解するために各臓器・器官に共通した基本的な病態とそれを起こす機構 pathogenesis をこれまでに学んだ他の基礎医学の知識をもとに学ぶ (総論)。ついで, 各論 (統合講義) においてこの総論の知識をもとに各臓器・器官ごとの疾患について形態学的変化と pathogenesis, 臨床症状等を学び理解する。

達成目標

1. 各臓器・器官に共通の基本的病態を循環障害, 炎症, 免疫等の面から説明することができる。
2. 各臓器・器官に共通の基本的病態を起こす機構 (pathogenesis) を説明することができる。
3. 各臓器・器官に共通の基本的病態を肉眼的及び顕微鏡的に観察することができる。
4. 各臓器・器官毎にみられる疾患について定義, 形態学的変化を説明することができる。
5. 各臓器・器官毎にみられる疾患について pathogenesis を説明することができる。
6. 各臓器・器官毎にみられる代表的な疾患について肉眼的及び顕微鏡的に観察することができる。

成績評価の方法と基準

3年前期末

総論講義終了後, 原則として筆答試験を行う。実習ノート提出による評価も加える。

授業計画並びに授業及び学習の方法

疾患の形態学的変化や原因をよりよく理解するためには病理学以外の基礎医学，特に解剖学（マクロ，ミクロ）や生化学の知識が必要である。さらに，病理学総論（病理学 I，病理学 II をあわせて）をよく理解しておくことは病理学各論だけでなく，すべての臨床科の疾患を理解する上で大きな助けとなる。従って，病理学総論をできるだけきっちりと勉強することが望まれる。また，病理解剖を見学し，診断を自ら行う（課題実習）ことで，疾患をより具体的に理解することができる。

回	大項目	項目	内 容	担当者
1	総論	序説	病理学とは(1)	上 野
2		炎症(1)	急性炎症（炎症と血管，急性炎症における細胞動態）	上 野
3		炎症(2)	急性炎症（炎症の化学伝達物質）	上 野
4		炎症(3)	慢性炎症（肉芽腫性炎症，急性炎症と慢性炎症の形態像の比較，炎症の全身性徴候）	上 野
5		炎症(4)	治癒と修復（再生，結合織による修復）	上 野
6		循環障害(1)	浮腫、充血とうっ血	阪 本
7		循環障害(2)	出血、止血と血栓症	阪 本
8		循環障害(3)	塞栓症、梗塞、ショック	阪 本
9		免疫と疾患(1)	感染症と免疫	上 野
10		免疫と疾患(2)	免疫反応による組織障害、免疫不全症候群、	上 野
11		免疫と疾患(3)	アレルギー、移植片拒絶、	上 野
12		実習(1)	肺の慢性鬱血、肝臓の慢性鬱血、下大静脈の血栓	上野・千葉
13		免疫と疾患(4)	自己免疫疾患（SLE他）、アミロイドーシス	上 野
14		実習(2)	DIC、急性尿細管壊死、出血性梗塞、急性化膿性虫垂炎	上野・千葉
15		環境と疾患	喫煙，飲酒，大気汚染，放射線，他	上 野
16		実習(3)	慢性副睾丸炎、胃潰瘍、結核、寄生虫感染	上野・千葉
17		食物、栄養と疾患	ビタミン欠乏症、無機質、肥満、食物と疾病	上 野
18		まとめ	病理学とは(2)	上 野
19	実習(4)	アミロイドーシス、石綿肺、珪肺症、脾梗塞	上野・千葉	

教科書

Robbins et al. : Pathologic basis of diseases, 8th ed., 2010. Saunders.

アンダーウッド病理学 西村書店

菊池浩吉他編：新病理学総論 南山堂

菊池浩吉他編：新病理学各論 南山堂

Sandritter : Color atlas and textbook of macropathology. Year Book Medical Publisher.

Sandritter : Color atlas and textbook of histopathology. Year Book Medical Publisher.

R. C. Curran : Color atlas of histopathology. Oxford University Press

影山圭三他：組織病理アトラス 文光堂

西山保一：マクロ病理アトラス 文光堂

山川光徳／横井豊治／吉野正監訳：カラーアトラスマクロ病理学 西村書店

赤城忠信／大朮祐治／松原修編：カラーアトラス病理組織の見方と鑑別診断第4版 医歯薬出版

豊国伸哉、高橋雅英 監訳：ロビンス基礎病理学 丸善

オフィスアワー

授業科目名

免疫学

(英文併記 Immunology)

科目区分 臨床基礎医学 授業コード 704220 DPコード bcxM

単位数 2 時間割 前期 対象年次及び学科 3 医学科

教員名

教授 星野 克明 (免疫学)

助教 仁木 敏朗 (免疫学)

助教 財賀 大行 (免疫学)

授業の概要

免疫系は、生物が病原体（感染症）から身を守るために作られ進化してきた。免疫学とは、この感染防御について研究する学問である。我々の体はどの様にして病原体から自分を守っているのか。感染が起きた後に、病原体をどの様にして排除し治癒するのか。過去に罹った感染症には、なぜ再感染しないのか。このような疑問を明らかにするために、免疫学は約 200 年前に始まった。特に、最近の 40 年は日進月歩の勢いでその理解が進んでいる。

今日の免疫学は、生体防御だけではなく、アレルギーや自己免疫など様々な免疫反応を分子、細胞、組織、臓器、個体レベルで明らかにしている。この知識は我々人類の財産であり、免疫系の関与する疾病を克服するためにも用いられている。免疫系を理解することは、生命の根源を理解することにも繋がると考える。

免疫学の教育は、教科書の Janeway' s Immunobiology, 8th Edition に沿った内容で行い、膨大な知識を繋げて一つの体系として理解できるように進める。なお、“医学教育モデル・コア・カリキュラム” の免疫学に相当する部分はすべて含まれる。講義を真剣に受け、医師、医学研究者として必要な免疫学の基礎知識を身につけてもらいたい。

授業の目的

免疫の基本的な仕組みについて、その仕組みを理解することを目的とする。病原体に対する生体防御反応、免疫応答の機能異常による自己免疫疾患・アレルギー疾患、先天性および後天性免疫不全症、がん細胞に対する免疫応答、移植免疫についての理解を目的とする。

達成目標

1. 免疫系の一般特性

- (1) 生体防御機構における免疫系の特徴(特異性、多様性、寛容、記憶)を説明できる。
- (2) 免疫反応に関わる組織と細胞を説明できる。
- (3) 免疫学的自己の確立と破綻を説明できる。
- (4) 自然免疫と獲得免疫の違いを説明できる。

2. 自己と非自己の識別に関与する分子とその役割

- (1) MHC クラス I とクラス II の基本構造、抗原提示経路の違いを説明できる。

- (2) 免疫グロブリンと T 細胞抗原レセプターの構造と反応様式を説明できる。
- (3) 免疫グロブリンと T 細胞抗原レセプター遺伝子の構造と遺伝子再構成にもとづいて、多様性獲得の機構を説明できる。
- (4) 自己と非自己の識別機構の確立と免疫学的寛容を概説できる。

3. 免疫反応の調節機構

- (1) 抗原レセプターからのシグナルを増強あるいは減弱する調節機構を説明できる。
- (2) 代表的なサイトカイン・ケモカインの特徴を説明できる。
- (3) Th1/Th2/Th17/Treg 細胞それぞれが担当する生体防御反応を説明できる。

4. 疾患と免疫

- (1) ウイルス、細菌と寄生虫に対する免疫応答の特徴を説明できる。
- (2) 先天性免疫不全症と後天性免疫不全症を概説できる。
- (3) 免疫寛容の維持機構とその破綻による自己免疫疾患の発症を概説できる。
- (4) アレルギー発症の機序を概説できる。
- (5) がん免疫に関わる細胞性機序を概説できる。

成績評価の方法と基準

1. 全講義終了後に筆記試験を行う。
2. 実習レポートの提出により、成績を評価する。
3. ミニテストを行い、出席点とすることがある。

授業計画並びに授業及び学習の方法

講義は教科書に則し、パワーポイントとプリントを用いて進める。免疫学の知識は、感染症、自己免疫疾患やアレルギーのみならず、すべての臨床領域において疾病を理解するために大変有用である。これまでに明らかにされた膨大な知識を、体系として理解するために予習を勧める。免疫学の進歩は極めて早いため、教科書には書かれていない最新かつ重要な知見も、折に触れて解説する。講義内容で理解が不十分な所は質問に応じる。

回	大項目	項目	内 容	担当者
1	免疫生物学	免疫学の基礎	免疫とは、免疫学の歴史、自然免疫と獲得免疫	星 野
2	自然免疫	自然免疫	自然免疫の解説、補体系	星 野
3		自然免疫の反応	パターン認識受容体、感染に対する応答	財 賀
4	抗原の認識	B細胞受容体、T細胞受容体による抗原の認識	免疫グロブリンの構造と抗原認識機構、T細胞受容体の構造と抗原認識機構	仁 木
5, 6		抗原受容体のレパートリー形成	免疫グロブリン遺伝子の再構成、T細胞受容体の遺伝子再構成、免疫グロブリンのクラス、免疫グロブリンの親和性成熟、獲得免疫の進化	仁 木
7, 8		T細胞への抗原提示	組織適合抗原、主要組織適合遺伝子複合体 (MHC) の形成、MHC の機能	仁 木

9	リンパ球の発生	T細胞受容体とB細胞受容体のシグナル伝達	シグナル伝達総論, T細胞受容体のシグナル, B細胞受容体のシグナル, サイトカイン受容体のシグナル	星野
10, 11		リンパ球の発生・分化と維持	B細胞分化, T細胞分化	星野
12	獲得免疫	T細胞の免疫応答	末梢リンパ組織へのT細胞の移動, 活性化樹状細胞によるナイーブT細胞のプライミング, エフェクターT細胞の機能, 細胞傷害性T細胞	星野
13, 14		B細胞の免疫応答	ヘルパーT細胞によるB細胞の活性化機構, 免疫グロブリンサブクラスの機能, 免疫グロブリン受容体の機能	仁木 星野
15		獲得免疫のダイナミクス	感染に対する免疫応答の経過, 免疫記憶	星野
16		粘膜免疫	粘膜系の構成, 感染に対する免疫応答とその制御機構	星野
17	病気と免疫システム	宿主防御機構の破綻1	免疫防御システムからの逃避とその破壊, 免疫不全症	星野
18		宿主防御機構の破綻2	後天性免疫不全症候群	星野
19,		アレルギーとアレルギー疾患	IgEに関わるアレルギー, アレルギー反応のエフェクター機構	星野
20		自己免疫と移植免疫	自己免疫寛容の成立と破綻, 自己免疫疾患とその発症機構, 遺伝的要因と環境要因について, 同種異系抗原への反応と移植片拒絶	星野
21		免疫反応の人為的操作	望ましくない免疫応答への制御法, 抗腫瘍免疫, 感染症と闘うための戦略	星野
	実習	免疫学実習-1	リンパ組織の観察1、プラークアッセイ1	星野 仁木 財賀
		免疫学実習-2	リンパ球のフローサイトメトリー解析1、赤血球凝集反応1	星野 仁木 財賀
		免疫学実習-3	リンパ組織の観察2、プラークアッセイ2	星野 仁木 財賀
		免疫学実習-4	リンパ球のフローサイトメトリー解析2、赤血球凝集反応2	星野 仁木 財賀

教科書・参考書等

教科書

1. Kenneth Murphy. Janeway' s Immunobiology. 8th Edition, Garland Science, 2011.
2. 笹月健彦監訳. 「Janeway' s 免疫生物学 (原著第7版)」. 南江堂, 2010.

参考書

1. 高津聖志ほか監訳. 「免疫学イラストレイテッド (原著第7版)」. 南江堂, 2009.
2. 熊ノ郷淳ほか. 「免疫学コア講義. 改訂3版」. 南山堂, 2012.
3. Abul K. Abbas. Cellular and Molecular Immunology. 8th Edition, Elsevier Saunders, 2014.

オフィスアワー

在室時に随時対応します。

アポイントを取ってください。

授業科目名

薬理学

(英文併記 Pharmacology)

科目区分 臨床基礎医学

授業コード 704230

DPコード bcxM

単位数 2 時間割 前期 対象年次及び学科 3 医学科

教員名

教授	西山 成	非常勤講師
准教授	小堀 浩幸	大野 弘行 (大阪薬科大学 教授)
助教	人見 浩史	小坂 信二 (香川大学医学部附属病院 副薬剤部長)
助教	中野 大介	小路 哲生 (香川県済生会病院 診療部長兼腎センター長)
		西堀 正洋 (岡山大学 教授)
		吉栖 正典 (奈良県立医科大学 教授)

授業の概要

薬理学は、薬と生体との相互作用の結果起こる現象を研究し、その機構を明らかにすることを目的とした科学である。生体は、特に細胞レベルでは未知の現象がきわめて多い。高等動物における生体の特徴は、恒常性を維持するために調節機構が発達していることであり、病態とはその調節機構の障害により引き起こされた状態といえよう。薬の多くは、生体に作用してこれらの調節機構をゆり動かすことができるので、乱れている調節機構を正常方向に動かすことも可能であるとともに、正常生体でも薬によるゆり動かしの結果、きわめて興味深い現象が引き起こされる。前者が、薬物療法の基礎となり、また後者は生体の調節機構を解明する有力な手段として利用されている。これらのことから解るように、薬理学の授業においては、化学物質としての薬の性質によりゆり動かされる生体の生理および病態生理機能を十分に理解しなければならない。医学部における薬理学授業の主目的は、正しい薬物療法を行うための基礎知識を修得することにある。しかし、ただ知識の修得のみでなく、両刃の剣である薬を人体に投与することからも、倫理的問題を常に考える努力が必要である。

具体的内容については次項に列記されているが、薬理学の授業は単に知識の修得だけでなく、人体と薬物の関係を自ら思考する訓練でもある。このために、講義・実習が有機的につながりを持って提供されている。講義では薬理学に必要な知識を修得し、実習では自ら実験し、講義、教科書で得た知識を実証することに努める。次いで、基礎知識、実験手技の修得後、これらを応用して新たに生じた疑問点の解明のための実験計画を立てる。これらの課程において、自主性、創造力を養うことに努める。

授業の目的

より適切な薬物療法を行うために、人体の恒常性を維持するための各種調節機構（生理）、さらには疾病時の各種調節機構の異常（病態生理）を把握した上で、これら調節機構を修飾する各種薬物の性質を理解することによって薬物療法の基礎知識を習得する。

さらに、生命機構の解明の大きな武器である薬を生命科学研究の道具として使用する基礎能力を養うために、薬物によりゆり動かされる生体側の反応を正確に把握・比較・評価する方法を身につける。

達成目標

1. 各種薬物の化学物質としての性質とその起源について説明できる。
2. 各種薬物の作用様式と作用機序を説明できる。
3. 薬物の生体内動態（吸収・体内分布・代謝・排泄），及び薬理作用と副作用の関係を説明できる。
4. 各種疾病の基本的な病態生理を考慮した上で，薬理学的根拠に基づいた適切な治療薬物の選択ができる。
5. 薬の構造を修飾することにより生体の調節機構を制御する新しい薬物の開発（創薬）が可能であることを具体例を示して述べるができる。

成績評価の方法と基準

出席回数、小テスト、学期末試験などを併せて評価する。出席の不足するものは受験資格を与えない。

授業計画並びに授業及び学習の方法

興味をもつことである。しかし，興味をもつためには薬理学の知識を得るため勉強しなければならない。知識が増すにつれて，思考の範囲が拡大し，興味が増加するはずである。

授業の進行をスムーズに運ぶため，プリント，スライド等が用いられるが，ただ講義ノート，プリントのみを学習の材料とするだけでなく，適当な教科書を選び，講義ノート，教科書を50：50の重みとみなし学習することが大切である。

回	大項目	項目	内 容	担当者
1	薬理学総論	薬理学とは	定義，歴史 到達目標：薬理学についての概要を理解・説明できる。	西 山
2		臨床薬理学総論	臨床薬理学の実際 到達目標：臨床薬理学についての概要を理解・説明できる。	西 山
3	特別講義	薬物の用量と反応	ED50，LD50，構造-活性相関 到達目標：薬物・毒物の用量反応曲線を描き、有効量・中毒量・致死量の関係を説明できる。	吉 栖
4		薬物の体内動態	吸収，分布，代謝，排泄 到達目標： ・薬物・毒物の吸収，分布，代謝と排泄を説明できる。 ・薬物の生体膜通過に影響する因子を説明できる。 ・薬物投与方法を列挙し、それぞれの薬物動態を説明できる。	吉 栖
5	薬理学総論	受容体と情報伝達チャンネルと薬理	GTP結合蛋白，Caの役割，Na，K，Ca，Clチャンネルに働く薬物 到達目標：受容体の機能について説明できる。イオンチャンネルに働く薬物の分子レベルにおける作用機序を説明できる。	中 野
6		薬の作用様式と作用機序	アゴニスト，アンタゴニスト（競合，非競合阻害） 到達目標： ・薬物・毒物の濃度反応曲線を描き，その決定因子を説明できる。 ・薬物の受容体結合と薬理作用との定量的関連性を理解し、活性薬と拮抗薬を説明できる。	中 野

7 8	オータコイド	レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系	R A A系の生理作用 R A A系の病態生理と遮断薬 到達目標：R A A系作用薬の薬理作用を説明できる。	小 堀
9		抗炎症薬	ステロイドおよび非ステロイド系抗炎症薬 到達目標：ステロイド薬および非ステロイド系抗炎症薬の薬理作用を説明できる。	中 野
10	中枢神経系の薬理	麻薬性鎮痛薬・パーキンソン病治療薬	麻薬性鎮痛薬・パーキンソン病治療薬の作用・副作用 到達目標：麻薬性鎮痛薬・パーキンソン病治療薬の薬理作用を説明できる。	中 野
11	末梢神経系の薬理	交感神経作動薬	ノルアドレナリン、アドレナリン、ドーパミン、イソプロテレノール 到達目標：自律神経作用薬（アドレナリン作用薬）の薬理作用を説明できる。	人 見
12		交感神経遮断薬	α 、 β -遮断薬、神経遮断薬 到達目標：自律神経作用薬（抗アドレナリン作用薬）の薬理作用を説明できる。	人 見
13 14	特別講義	抗腫瘍薬	抗腫瘍薬の作用・副作用 到達目標：抗腫瘍薬の薬理作用を説明できる。	小 坂
15 16		漢方医学	漢方医学各論レビュー(1) 漢方医学各論レビュー(2) 到達目標：漢方医学の実際を説明できる。	小 路
17	末梢神経系の薬理	神経節遮断薬	ヘキサメトニウム (C 6) 到達目標：自律神経作用薬（ニコチン様作用）の薬理作用を説明できる。	中 野
18		神経筋接合部作用薬	クラールレ、サクシニルコリン 到達目標：神経筋接合部作用薬の薬理作用を説明できる。	中 野
19		副交感神経作動薬	アセチルコリン、ムスカリン、コリンエステラーゼ阻害薬 到達目標：自律神経作用薬（コリン作用薬）の薬理作用を説明できる（1）。	人 見
20		副交感神経遮断薬	アトロピン、スコポラミン 到達目標：自律神経作用薬（抗コリン作用薬）の薬理作用を説明できる（2）。	人 見
21	特別講義	中枢神経作用薬	抗精神病薬 到達目標：抗精神病薬の薬理作用を説明できる。	大 野
22			抗うつ薬、抗けいれん薬 到達目標：抗うつ薬・抗けいれん薬の薬理作用を説明できる。	大 野
23 24		漢方医学	漢方医学各論レビュー(1) 漢方医学各論レビュー(2) 到達目標：漢方医学の実際を説明できる。	小 路
25	特別講義	消化器薬理	消化器の薬理 到達目標：消化器作用薬の薬理作用を説明できる。	西 堀
26		ヒスタミン	ヒスタミンの薬理 到達目標：ヒスタミン受容体作用薬の薬理作用を説明できる。	西 堀

27	腎臓の薬理	利尿薬	利尿薬の薬理作用を説明できる。	西山
28		他、腎トランスポーター作用薬	腎臓の各種トランスポーター作用薬の薬理作用を理解できる。	西山
29 30	補講			
31 32	補講			

教科書・参考書等

- (1) 田中千賀子, 加藤隆一編. 「NEW 薬理学」 改訂第 6 版, 南江堂, 2011.
- (2) Brunton, Laurence L.; Chabner, Bruce A., eds. 「Goodman & Gillmans Pharmacological Basis of Therapeutics」 12th ed., McGraw-Hill Professional, 2010.
- (3) Bertram G. Katzung et al., eds. 「Basic & clinical pharmacology」 11th ed., McGraw-Hill Medical, 2009, (A Lange medical book).

オフィスアワー

一応、授業日 16:30 ~ 18:00 とするが、この時間以外でも自由に来室 (~ 21:00 程度) を歓迎する。

授業科目名

微生物学

(英文併記 Microbiology)

科目区分 基礎医学

授業コード 704240

DPコード bcxM

単位数 2 時間割 前期 対象年次及び学科 3 医学科

教員名

教授 桑原 知巳

非常勤講師

学内講師 成谷 宏文

小山 一 (和歌山県立医科大学名誉教授)

助教 今大路 治之

助教 鈴木 基生

授業の概要

医学における微生物学の最も重要な領域は病原微生物学であり、これを通じて感染症を把握することが医学部学生の最終的な課題となる。感染症の臨床は臨床各科と分子微生物学が協力して統合講義で扱うが、微生物学はその前段階として基礎微生物学と一部の臨床微生物学を扱うことになる。3年次の微生物学の理解が十分でなければ、4年次の講義が難解になることに注意しなければならない。講義の進め方は、精選されたプリントに基づき、特に重要な項目を解説することを原則とする。講義を真剣に聞いて初めてプリントの意味が理解されるようになっているので、自らプリントやノートに書き加えることが必要となる。教科書・参考書は、理解の補助的な手段であり、有効に活用することを勧める。試験対策用のプリントや過去の問題の解答集の丸暗記などは全く意味がない。

一般目標

ヒトを初めとする高等生物と微生物との宿主寄生体関係にかかる生命現象を理解するため、微生物の形態、構造、遺伝、代謝などについて分子論的視点から習得する。加えて、細菌感染症、真菌感染症、ウイルス感染症を診断、予防するため、感染の成立と発症を規定する寄生体側の要因や治療と予防の基本原則を理解する。各論においては、主要な病原微生物の特徴を把握する。

行動目標

1. 細菌、真菌、ウイルスの相違点を列挙し、それらの主要な形態、遺伝、増殖の特徴について説明できる。
2. 感染症の予防（滅菌、消毒、ワクチン）の原理を具体的に述べ、抗菌薬の種類と作用機構、薬剤耐性の機構を説明できる。
3. 寄生体の病原因子について代表的なものを列挙し、それぞれの性質と作用機序について簡単に説明できる。
4. 代表的な病原微生物（細菌、真菌、ウイルス）を列挙し、それぞれの特徴、疾患と微生物との関係、発症機構、診断と治療の要点を具体的に述べることができる。
5. 病原微生物（P2レベル以下）の取り扱いができる。
6. 適切な滅菌、消毒を行うことができる。

7. 細菌の分離培養ができる。

成績評価の方法と基準

1. 3年次前期末に筆記試験を行い、理解度を評価する。
2. 小試験を行い、出席点とすることがある。
3. 実習中に試問、討議し、かつレポートをチェックし理解度を評価する。
4. 上記の評価を総合して3年次末に可否の判定を行う。

授業計画並びに授業及び学習の方法

臨床微生物学が扱う微生物の種類は膨大な数に達する。重要なものについては、できるだけ情報量を増やす努力が必要である。しかし、並列的に記憶するのではなく、優先順位をつけて記憶することが重要である。重要性の低いものについては適宜取捨選択し、要点を理解して記憶することが必要である。重要性、必要性は講義から知り得るようになっており、講義に集中することが学習方法のポイントである。

回	大項目	項目	内容	担当者
1	細菌学総論	微生物学の歴史	微生物学の概要・微生物学の歴史	桑原
2	細菌学総論	細菌の分類・遺伝	細菌の分類と細菌の遺伝子発現制御	鈴木
3	細菌学総論	細菌の形態と構造	細菌の形態と構造	鈴木
4	細菌学総論	細菌の増殖・代謝	細菌の増殖, 増殖に及ぼす因子, 呼吸と発酵	成谷
5	細菌学総論	滅菌と消毒	滅菌・消毒の目的、原理と方法	鈴木
6	細菌学総論	抗菌薬の構造と作用	抗菌薬の構造と作用機序	成谷
7	細菌学総論	薬剤感受性と薬剤耐性	抗菌スペクトル、薬剤耐性の機序	成谷
8	細菌学各論	グラム陽性球菌	ブドウ球菌, 化膿レンサ球菌, 腸球菌	成谷
9	細菌学各論	グラム陰性球菌	髄膜炎菌, 淋菌, ブランハメラ	今大路
	実習	微生物学実習 1	細菌の形態, 細菌の同定 (1)	桑原, 成谷, 鈴木, 今大路
10	ウイルス学総論	ウイルスの基本性状	ウイルスの分類と特徴, 形態, 増殖様式	桑原
11	ウイルス学各論	DNA ウイルス (1)	ポックスウイルス, パルボウイルス, アデノウイルス	桑原
	実習	微生物学実習 2	細菌の同定 (2), ウイルスの感染価の測定	桑原, 成谷, 鈴木, 今大路
12	ウイルス学各論	DNA ウイルス (2)	ヘルペスウイルス	小山
13	ウイルス学各論	DNA ウイルス (3)	ポリオーマウイルス, パピローマウイルス	小山
14	細菌学各論	グラム陽性無芽胞桿菌	ジフテリア菌, 結核菌, 非結核性抗酸菌, 乳酸菌	成谷
15	細菌学各論	グラム陽性芽胞形成菌	バシルス, 破傷風菌, ボツリヌス菌, ガス壊疽菌群	鈴木
	実習	微生物学実習 3	細菌の同定 (3), 薬剤感受性試験 (1), ブラックアッセイ (1)	桑原, 成谷, 鈴木, 今大路

	実 習	微生物学実習 4	薬剤感受性試験 (2), ブラックアッセイ (2)	桑原, 成谷, 鈴木, 今大路
16	細菌学各論	偏性細胞内寄生細菌	クラミジア, リケッチア	今大路
17	細菌学各論	ブドウ糖非発酵菌	緑膿菌, 百日咳菌, レジオネラ菌	今大路
18	細菌学各論	腸内細菌科	大腸菌, サルモネラ, 赤痢, 肺炎桿菌, プロテウス	鈴木
19	細菌学各論	ビブリオ科, パスツレラ科	コレラ菌, 腸炎ビブリオ, バルニフィカス菌, インフルエンザ菌	鈴木
20	細菌学各論	らせん菌・スピロヘータ	ヘリコバクター, カンピロバクター, レプトスピラ, ボレリア, トレポネーマ	今大路
21	真菌学	真菌の基本性状	真菌の形態, 性状, 抗真菌薬	成谷
22	ウイルス学各論	RNA ウイルス (1)	オルトミクソウイルス, パラミクソウイルス	桑原
23	ウイルス学各論	RNA ウイルス (2)	カリシウイルス, ラブドウイルス, フィロウイルス, アレナウイルス, トガウイルス, フラビウイルス	桑原
24	ウイルス学各論	RNA ウイルス (3)	コロナウイルス, ピコルナウイルス, ライノウイルス, プニヤウイルス, レオウイルス	桑原
25	ウイルス学各論	肝炎ウイルス (1)	A 型肝炎ウイルス, E 型肝炎ウイルス	桑原
26	ウイルス学各論	肝炎ウイルス (1)	B 型肝炎ウイルス, C 型肝炎ウイルス	桑原
27	ウイルス学各論	レトロウイルス	HTLV-I, HIV	桑原

教科書・参考書等

教科書

Jawetz, Melnick, Adelberg “Medical Microbiology” Lange/Marugen

横田, 川名編 “標準微生物学” 医学書院

天児, 森編 “戸田新細菌学” 南山堂

笹川, 林編 “医科細菌学” 南江堂

渡辺, 高野編 “ウイルス学” 講談社

南嶋, 水口, 中山編 “現代微生物学入門” 南山堂

Wilson, Miles, Parker “Topley and Wilson's principles of Bacteriology, Virology and Immunity”

Edward Arnold vol. 1-4, 7th ed. 1984.

B. Lewin, 松原・小川編 “遺伝子” 上・下 東京化学同人

C. A. スミス著・甲野・水谷訳 “-感染症-感染と免疫のしくみ-” 講談社

猪狩 淳, 原案・監修 “目で見る病気 感染症” 医学映像教育センター

参考書

Bonnie A. Buxton, Laurits A. Jensen, Randal K. Gregg 著, 瀬谷 司 訳 “微生物学実践問題 基礎と臨床をつなぐ 500 題” 南江堂

オフィスアワー

電子メール (infect@kms.ac.jp) にて問い合わせること。

授業科目名

医動物学

(英文併記 Medical Zoology)

科目区分 臨床基礎医学 授業コード 704250 DPコード bcxM

単位数 2 時間割 前期 対象年次及び学科 3 医学科

教員名

准教授 新井 明治

教務職員 寺中 正人

授業の概要

医動物学は医学に関係のある動物を取り扱い、大きく寄生虫学と、衛生動物学により構成されている。前者は寄生生活を行うものを取り扱い、微生物学と共に病原体を扱う感染症の二分野の一つである。この中には内部寄生を行う単細胞性の原虫類と多細胞性の蠕虫類（線虫、吸虫、条虫類）が主なものとして含まれるが、昆虫、ダニ類などの外部寄生を行うものもある。一方、後者の衛生動物学においては、病原体の伝播、吸血、刺咬、中間宿主、アレルゲンなどの点において医学的に問題となる節足、軟体、脊椎動物などを取り扱う。

1. 講義

個々の寄生虫につき分布、形態、生活史、感染、病理、症状、診断、治療、予防及び特異的な寄生現象等を中心に講義を行う。この中では、医動物の分類および生態（生物学）、宿主-寄生体関係における特異的代謝（生理・生化学）、駆虫薬の作用機序（薬理学）、免疫機構（免疫学）、病理学的変化（病理学）、さらに疫学（公衆衛生学）等のように他の基礎教科と関連深い事項や、さらに臨床科目における診断、治療等の実際及び基礎知識等、多面的に解説を行う。

2. 実習

講義で得た知識に基づき、各種標本を観察・スケッチすることで、虫体の形態および内部構造、病理変化について理解させる。また、生鮮材料を用いた実習を通して寄生虫の感染様態を観察させ、寄生虫検出法を習得させる。

授業の目的

寄生虫および衛生動物により引き起こされる疾病に対しての診療行為および予防のために必要な、各種医動物に対する医学的知識を習得することができる。

達成目標

1. 人体に関係のある各種医動物について、その種類及び分類学的位置を説明できる。
2. 代表的医動物について、卵、幼虫、成虫の全体標本及び病理切片を同定できる。
3. 代表的な寄生虫・衛生動物関連疾患の病理機序、診断方法、治療及び予防法を説明できる。
4. 代表的な寄生虫・衛生動物関連疾患における感染免疫機構を説明できる。

成績評価の方法と基準

1. 講義を欠席した場合は減点。良い質問に対しては得点を与える。
2. 毎回の実習時に実施する小テストの成績。
3. 毎回の実習において提出するレポート（スケッチと課題）で学習目標の達成度をみる。
4. 試験（記述+マークシート）の成績。

以上の各項目の合計点の60%以上を合格とする。合計点が20%未満の者には再試験受験資格を与えない。

再試験は1回のみ実施し、その可否判定はマークシート試験の得点（60%以上を合格）のみによる。

授業計画並びに授業及び学習の方法

1. 試験直前になって膨大な内容に驚くことのないように、各回の講義について必ず復習を行い、内容の整理をしておくこと。
2. 各種の動物について分布、形態、生活史、感染、病理、症状、診断、治療、予防などの各項目についてきちんと理解する。
3. 上記項目についてそれぞれの種における特徴を他種のものと比較し、理解すること。

回	大項目	項目	内 容	担当
1	医動物学総論	総 論	医動物学総論	新 井
2	線虫類	総 論 各 論	線虫類総論 線虫類(1)(回虫)	新 井
3	線虫類	各 論	線虫類(2)(イヌ回虫、ネコ回虫、アニサキス類)	新 井
4	線虫類	各 論	線虫類(3)(蟯虫、鉤虫)	新 井
5	線虫類	各 論	線虫類(4)(広東住血線虫、糞線虫、顎口虫)	新 井
6	線虫類	各 論	線虫類(5)(糸状虫類)	新 井
7	線虫類	各 論	線虫類(6)(鞭虫、フィリピン毛細虫、旋毛虫)	新 井
8	吸虫類	総 論 各 論	吸虫類総論 吸虫類(1)(肝吸虫)	新 井
9	吸虫類	各 論	吸虫類(2)(横川吸虫、有害異形吸虫、槍形吸虫、腭蛭、棘口吸虫、肝蛭)	新 井
10	吸虫類	各 論	吸虫類(3)(肺吸虫類)	新 井
11	吸虫類	各 論	吸虫類(4)(住血吸虫類)	新 井
12	原虫類	総 論 各 論	原虫類総論 原虫類(1): 根足虫類(赤痢アメーバ、自由生活アメーバ)	新 井
13	原虫類	各 論	原虫類(2): 鞭毛虫類①(ランブル鞭毛虫、トリコモナス類)、 繊毛虫類(大腸バランチジウム)	新 井
14	原虫類	各 論	原虫類(3): 鞭毛虫類②(トリパノゾーマ類、リーシュマニア類)	新 井

15	原虫類	各 論	原虫類(4): 胞子虫類①-1(マラリア原虫とマラリア1)	新 井
16	原虫類	各 論	原虫類(5): 胞子虫類①-2(マラリア原虫とマラリア2)	新 井
17	実習	実 習	実習(1) 線虫類	新井・寺中
18	原虫類	各 論	原虫類(6): 胞子虫類②(トキソプラズマ)	新 井
19	原虫類	各 論	原虫類(7): 胞子虫類③(クリプトスポリジウム、イソスポーラ)、 ニューモシスチス肺炎	新 井
20	条虫類	総 論 各 論	条虫類総論 条虫類(1)(無鉤条虫、有鉤条虫)	新 井
21	実習	実 習	実習(2) 吸虫類	新井・寺中
22	条虫類	各 論	条虫類(2)(裂頭条虫類、マンソン孤虫症、小形条虫、縮小条虫、 瓜実条虫)	新 井
23	条虫類	各 論	条虫類(3)(単包条虫、多包条虫)	新 井
24	衛生動物	総 論 各 論	衛生動物総論 衛生動物各論(1)	新 井
25	実習	実 習	実習(3) 原虫類	新井・寺中
26	衛生動物	各 論	衛生動物各論(2)	新 井
27	診断と治療	各 論	検査法と治療	新 井
28	実習	実 習	実習(4) 条虫類・衛生動物	新井・寺中
29	感染免疫	各 論	寄生虫感染免疫	新 井

教科書・参考書等

教科書として以下の図書を指定する。

吉田幸雄ほか. 図説人体寄生虫学. 第8版, 南山堂, 2011.

オフィスアワー

新井 明治 授業実施日 9時 ~ 18時 marai@med.kagawa-u.ac.jp

授業科目名

臨床総論講義

(英文併記 Introduction to Clinical Medicine)

科目区分 統合講義 授業コード 705086 DPコード bcxM

単位数 3 時間割 後期 対象年次及び学科 3 医学科

教員名

非常勤講師

舩形 尚 (教授: コーディネーター)

松田 和也 (医療法人社団 松田内科医院)

総論関連各講座・部局教員

光岡 妙子 (医療法人 三和会 国吉病院)

千田 彰一 (香川大学 名誉教授)

授業の概要

近年の医学の進歩、知識或いはエビデンスの指数関数的蓄積により、医学の各領域は細分化され、臓器別専門診療の充実は時代の要請でもある。本学においてもカリキュラムの大幅な改変により臓器別診療を睨んだ講義、所謂統合講義が実践されているが、臓器・機能別の講義を十分理解するためには、その共通項としての総論的知識の習得・理解は不可欠であり、これは一方では医師が医師たるに必要な最低限の基本事項でもある。臨床総論講義では、各専門診療科の協力を得て、所謂「コア・カリキュラム」の概念にのっとり、医師として不可欠な総論的知識を習得し、臓器別講義の十分な理解を深める手助けとすることをその目的とする。なお、「モデル・コア・カリキュラム」の改訂を受け、本カリキュラムも随時最新のものに对应して編成されている。

授業の目的

良き医師となるために、各科共通且つ不可欠の医学総論的知識を習得する。

達成目標

1. コア・カリキュラム(A, B(一部), D(一部), E(一部), F)に示された行動目標を実践する。
2. 臓器・機能別ユニット講義内に包含されない、医師として必要な知識を列举する。
3. 臓器・機能別ユニット講義の際に、関連した総論知識を述べる。

成績評価の方法と基準

出席及び客観試験(各講義担当講座より提出された試験問題で構成される試験)

授業計画並びに授業及び学習の方法

関連各講座によって分担される講義

回	大項目	項目	内容	担当者
1	医学一般	医の原則・医療における安全性確保	1. 医の原則 (1) 医の倫理と生命倫理、(2) 患者の権利、(3) 医師の義務と裁量権、(4) インフォームド・コンセント	総合内科

2	医学一般	医の原則・医療における安全性確保	2. 医療における安全性確保 (1) 安全性の確保、(2) 危機管理	総合内科
3	医学一般	医の原則・医療における安全性確保	3. 医療における安全性確保 (1) 安全性の確保、(2) 危機管理	総合内科
4	医学一般	コミュニケーションとチーム医療	3. コミュニケーションとチーム医療 (1) コミュニケーション、(2) 患者と医師の関係、(3) チーム医療	総合内科
5	医学一般	課題探求・解決と学習の在り方	4. 課題探求・解決と論理的思考 (1) 課題探求・解決能力、(2) 論理的思考と表現能力、(3) 生涯学習への準備、(4) 医療の評価	総合内科
6	診療の基本	基本的診療知識	基本的診療知識 (1) 輸液療法	総合内科
7	診療の基本	基本的診療知識	基本的診療知識 (2) 食事(療法)	総合内科
8	診療の基本	基本的診療知識	基本的診療知識 (3) 内視鏡を用いる診断と治療	総合内科
9	診療の基本	基本的診療知識	基本的診療知識(総合・内科系) (4) 超音波を用いる診断と治療(基礎)	総合内科
10	診療の基本	基本的診療知識	基本的診療知識(総合・内科系) (5) 超音波を用いる診断と治療(臨床)	総合内科
11	診療の基本	基本的診療知識	基本的診療知識 (6) 介護と在宅医療	総合内科
12	医学一般	基本的診療技能	基本的診療技能(総合) (1) 問題志向型システム、(2) 医療面接、(3) 診療記録、(4) 臨床判断	総合内科
13	全身に及ぶ生理的变化、病態、診断、治療		腫瘍 治療 支持療法および緩和療法	非常勤講師
14	全身に及ぶ生理的变化、病態、診断、治療		腫瘍 症候および診断	消化器・神経内科学
15	診療の基本	基本的診療知識	基本的診療知識(7) 臨床検査(1)	先端医療・臨床検査医学
16	診療の基本	基本的診療知識	基本的診療知識(8) 臨床検査(2)	先端医療・臨床検査医学
17	診療の基本	基本的診療知識	診断病理学：病理組織診断学	病理診断科
18	診療の基本	基本的診療知識	診断病理学：細胞診断学	病理診断科
19	医学一般	病因と病態	病因と病態 (1) 遺伝子異常と疾患・発生発達障害	小児科学

20	医学一般	病因と病態	外科学総論 外科学概論	消化器外科学
21	全身に及ぶ 生理的变化、 病態、診断、 治療		腫瘍 治療 手術療法および集学的治療	消化器外科学
22	診療の基本	基本的診療技能	基本的外科診断法（呼吸器・乳腺甲状腺）	呼吸器・乳腺内 分泌外科学
23	診療の基本	基本的診療知識	基本的診療知識 東洋医学漢方医学総論（1）	非常勤講師
24	診療の基本	基本的診療知識	基本的診療知識 東洋医学漢方医学総論（2）	非常勤講師
25	診療の基本	基本的診療知識	基本的診療知識 (9)緩和医療	非常勤講師
26	診療の基本	基本的診療知識	基本的診療知識 (10)医用機器と人工臓器	心臓血管外科学
27	診療の基本	基本的診療知識	小児外科学総論	小児外科学
28	診療の基本	基本的診療知識	外傷学総論	整形外科
29	医学一般		専門医制度	非常勤講師
30	医学一般		専門医制度	非常勤講師
31	診療の基本	基本的診療知識	基本的診療知識(外科系) (11)輸血と移植 移植	泌尿器科学
32	診療の基本	基本的診療知識	基本的診療知識 (12)超音波を用いる診断と治療	周産期学婦人科 学
33	医学一般	病因と病態	病因と病態 (2)炎症と創傷治癒、創傷治癒(正常と異常)-瘢痕とケロイド	形成外科学
34	診療の基本	基本的診療知識	口腔の構造・機能・生理	歯科口腔外科学
35	診療の基本	基本的診療知識	基本的診療知識(総合・内科系) (13)薬物療法の基本原理	薬剤部
36	診療の基本	基本的診療知識	薬物体内動態、therapeutic drug monitoring	薬剤部
37	診療の基本	基本的診療知識	麻薬の取り扱い	薬剤部
38	診療の基本	基本的診療知識	基本的診療知識 (14)輸血と移植 輸血	輸血部
39	診療の基本	基本的診療知識	基本的診療知識(15)リハビリテーション	リハビリテーション部
40	医学・医療と 社会	診療情報	医療情報とは・医療情報の扱い方	医療情報部
41	医学・医療と 社会	診療情報	遠隔診断システム・医療情報ネットワーク	医療情報部
42	全身に及ぶ 生理的变化、 病態、診断、 治療		物理・化学的因子による疾患	法医学

43	全身に及ぶ 生理的变化、 病態、診断、 治療		人の死・死と法	法医学
44	全身に及ぶ 生理的变化、 病態、診断、 治療		臨床腫瘍学	臨床腫瘍学
45	診療の基本	基本的診療知識・技 能	漢方の実際 (1)	非常勤講師
46	診療の基本	基本的診療知識・技 能	漢方の実際 (2)	非常勤講師
47	医学一般		未定	地域医療教育支 援センター
48	医学一般		ワークライフバランス	血液・免疫・呼 吸器内科学

教科書・参考書等

関連各講座によって指定された教科書

オフィスアワー

各担当教員参照

授業科目名

症候論

(英文併記 Symptomatology)

科目区分 統合講義 授業コード 706000 DPコード bcxM

単位数 2 時間割 後期 対象年次及び学科 3 医学科

教員名

講義の主体は学生

臨床系（講義の司会進行とコメント）講座

総合内科、循環器内科、腎臓内科、神経内科、呼吸器内科、膠原病内科、精神科神経科、
脳神経外科、消化器外科、整形外科、耳鼻咽喉科、麻酔科、医学教育学

基礎系（講義内容についてのコメント）講座

神経機能解剖学、細胞情報生理学、自律機能生理学

授業の概要

臨床医がなすべきは、患者の問題解決（problem solving）である。患者はまず何らかの症候（symptom）を訴えて（自覚して）受診するため、その症候からそれが見られる疾患群を想起し、それらの中で何が最も疑わしいかについて、一定の様式で臨床推論（clinical reasoning）を行ってゆく必要がある。それゆえ、症候学は、臨床診断を行う上で非常に重要な概念である。

ここでは、学生を21のグループに分け、学生による授業を行う。各回の司会進行は、それぞれの症候に関連が深い診療科の教員が行い、必要に応じて臨床的にコメントする。さらに解剖学的・生理学的な側面について、その症候に関連の深い基礎医学系の教員が授業に参加し、必要に応じてコメントする。

授業の目的

臨床的によく遭遇する症候について、それらの発生するメカニズムを解剖学や生理学を踏まえて理解する。更にそれらの症候がよく見られる疾患について、その症候の発生頻度を把握することにより、想起する疾患をある程度特定することができるため、頻度についても十分な知識を取得する。

達成目標

- ・ある症候からそれが生じうる疾患（群）を想起できる
- ・それぞれの疾患において、それらの症候が見られる頻度について述べるができる
- ・これらのことを元に、ある症候を訴えた患者の鑑別診断（differential diagnosis）の筋道について説明できる

成績評価の方法と基準

以下を元に成績を評価する

- ・グループで行う各症候の講義の評価（グループ全体の評価→個人の評価）
- ・各授業の出席評価（個人の評価）

授業計画並びに授業及び学習の方法

学生のグループ分け、それぞれのグループの担当症候、および具体的な準備方法については、夏休み前に説明の時間をとる予定である。

回	症候名	臨床科（司会担当）	関連基礎医学講座
1	全身倦怠感	総合内科	細胞情報生理学
2	胸痛	循環器内科	神経機能形態学
3	動悸	循環器内科	自律機能生理学
4	浮腫	腎臓内科	自律機能生理学
5	脱水	総合内科	
6	意識障害・失神	精神科神経科	神経機能形態学
7	体重減少・増加	医学教育学	細胞情報生理学
8	運動麻痺・筋力低下	神経内科	神経機能形態学
9	頭痛	脳神経外科	細胞情報生理学
10	発熱	膠原病内科	
11	尿量・排尿の異常	泌尿器科	
12	咳嗽	呼吸器内科	自律機能生理学
13	出血傾向	医学教育学	
14	めまい	耳鼻咽喉科	細胞情報生理学
15	食思不振・悪心嘔吐	医学教育学	
16	リンパ節腫脹	総合内科	
17	けいれん	神経内科	細胞情報生理学
18	腹痛	消化器外科	神経機能形態学
19	呼吸困難	呼吸器内科	自律機能生理学
20	関節痛・関節腫脹	整形外科	
21	ショック	麻酔科	自律機能生理学

教科書・参考書等

- ・内科診断学 改訂第17版 武内重五郎著、谷口興一、杉本恒明改訂、南光堂、2011年

- ・内科診断学 第2版 福井次矢、奈良信雄編著、医学書院、2008年
- ・鑑別診断 ロジカルシンキング、後藤英司、奈良信雄、藤代健太郎編著、メジカルレビュー社、2011年
- ・臨床推論ダイアログ、杉本元信編著、医学書院、2010年
- ・臨床推論 EBMと病態生理から症例を考える、後藤英司編著、メジカルレビュー社、2004年
- ・ティアニー先生の診断学入門 第2版、ローレンス・ティアニー著、松村正巳訳、医学書院、2011年

オフィスアワー

相談のある学生は各教員にアポイントを取って日時を決定

授業科目名

消化器ユニット

(英文併記 Gastroenterology Unit)

科目区分 統合講義 授業コード 706010 DPコード bcXM

単位数 3 時間割 後期 対象年次及び学科 3 医学科

教員名 (代表)

教授 正木 勉 (消化器・神経内科)

教授 鈴木 康之 (消化器外科学)

教授 今井田 克己 (腫瘍病理学)

教授 柴田 徹 (放射線治療科)

担当講座のその他の教員

授業の概要

消化器系では臓器によって解剖、生理が異なる。消化器の各臓器により好発する疾患があり、その発生部位にも特徴がある。その中には救急医療に含まれる疾患から慢性に経過するものがあり、良性疾患、悪性疾患、先天性疾患、機能異常、感染症あるいはそれらの合併しているものなど多種多様なものが含まれている。好発する年齢の異なる疾患もあり、発生学を含む幅広い知識が必要になる。

消化器以外の疾患や薬剤によっても消化器疾患が引き起こされることもあり、基礎医学、病理学、放射線医学の知識に基づき、消化器疾患を理解するにはあらゆる疾患に精通する必要がある。的確に診断をくだし、病態を把握するためには論理的かつ筋道の通った消化器病に対する考え方を理解すると共に病歴の取り方、診察の方法、及び必要で的確な検査方法を熟知して選択しなければならない。また、同一の疾患であっても病期や病態により、また QOL を保つためにいろいろな治療法があり、実践されている。第六ユニットではこのように消化器系について解剖、画像、病理から各疾患の病態・治療まで幅広く学ぶ。

授業の目的

消化器系の解剖とともに肝臓、膵臓、胆道系、脾臓、食道、胃、小腸、大腸疾患の病態生理を学び、各種疾患の疫学、診断学、治療法を講義、自己学習により習得する。

達成目標

1. 消化器諸臓器の解剖、生理、病理学的な基本的事項について説明できる。
2. 肝疾患、膵疾患、胆道疾患の診察のしかたについて修得すると共に理学所見や血液生化学的検査、画像所見などにより診断法を説明できる。
3. 消化器疾患の予防法、手術適応を含む治療法、周術期の管理の要点等の説明ができる。
4. 食道、胃、小腸、大腸疾患についてはX線検査や内視鏡検査など診断に至る諸検査法を説明できる。
5. 消化器病理の基礎的事項について理解することができる。

6. 消化器疾患の救急医療、例えば急性腹症、吐・下血や肝性昏睡等のプライマリケアの要点についても列挙できる。

7. 各々の疾患に対して、各臓器の解剖、機能的役割を考慮して治療法を決定しようとする。

成績評価の方法と基準

試験と、チュートリアルへの出席、レポート及び実習について評価する。ただし、病理組織実習の終了認定を受けていないものは（総合）試験受験の資格を与えられない。

授業計画並びに授業及び学習の方法

広範な分野を扱うため、講義によりその骨子を理解した上で、実習や、チュートリアル、各種文献による自己学習によって要点を身につけていくことが望まれる。

回	項目	内容	担当
1	消化器内視鏡学	1) 適応と禁忌について説明できる。 2) 代表的疾患の内視鏡的特徴について説明できる。 3) 色素内視鏡、生検について説明できる。	消化器・神経内科
2	消化管内視鏡治療	1) 適応と禁忌について説明できる。 2) 内視鏡的止血術、内視鏡的硬化療法、粘膜切除術、偶発症とその予防について説明できる。	消化器・神経内科
3	食道静脈瘤、 食道悪性腫瘍	分類、診断と治療を概説できる。	消化器・神経内科
4	食道炎、食道アカラシア	症候、原因、診断と治療を概説できる。	消化器・神経内科
5	胃良性腫瘍、胃悪性腫瘍	分類、診断と治療を概説できる。	消化器・神経内科
6	消化器外科総論	1) 外科療法を必要とする疾患の概要を理解できる。 2) 各臓器の解剖と機能、および手術による機能の欠落について理解できる。 3) 実質臓器の機能評価、管腔臓器の機能の再建について理解できる。	消化器外科
7	消化器外科における術前術後管理	1) 消化器外科疾患における術前のリスクを正しく評価できる。 2) 消化器外科疾患において、術後の時間経過に即した患者管理を説明できる。	消化器外科
8	食道疾患の外科治療	1) 手術を必要とする食道疾患の病態が生理的、解剖学的に理解できる。 2) 食道良性疾患の外科的治療法が理解出来る。 3) 食道癌の臨床病理学的分類が理解できる。 4) 食道癌の外科治療の要点が理解できる。	消化器外科

9	胃疾患の外科治療	1) 胃十二指腸潰瘍の外科的治療方針、手術術式を説明できる。 2) 胃悪性リンパ腫、GIST の診断、治療を説明できる。 3) 胃癌の治療方針、治療法を説明できる。 4) 胃の手術術式と胃切除後症候群を説明できる。	消化器外科
10	急性腹症、腸閉塞	1) 急性腹症・腸閉塞の原因となる疾患を説明できる。 2) 急性腹症・腸閉塞の症状と理学的所見について説明できる。 3) 急性腹症・腸閉塞の画像所見について説明できる。 4) 急性腹症・腸閉塞の治療について理解できる。 5) 腸閉塞の病態生理について理解できる。 6) 腹膜炎の成因、症候、診断と治療を説明できる。	消化器外科
11	大腸の外科治療	1) 結腸、直腸の解剖を正しく説明できる。 2) 大腸の外科疾患とその術式について概説出来る。	消化器外科
12	消化管の病理 1	消化管の病理 1	腫瘍病理
13	消化管の病理 1	消化管の病理 1	腫瘍病理
14	消化管の病理 1	消化管の病理 1 実習	腫瘍病理
15	消化管の病理 1	消化管の病理 1 実習	腫瘍病理
16	消化管の病理 1	消化管の病理 1 実習	腫瘍病理
17	胃炎、消化性潰瘍	原因、症候、分類、診断と治療を概説できる。	消化器・神経内科
18	消化器作用薬	消化器作用薬（潰瘍治療薬・消化管運動作用薬）の薬理作用を説明できる。	消化器・神経内科
19	大腸の炎症性疾患	原因、症候、分類、診断と治療を概説できる。	消化器・神経内科
20	大腸ポリープ	分類、診断と治療を概説できる。	消化器・神経内科
21	消化器疾患に対する放射線治療	1) 放射線治療の原理、目的、方法について説明できる。 2) 消化器悪性腫瘍に対する放射線治療の適応について説明できる。 3) 代表的な疾患に対する治療効果や治療成績について説明できる。 4) 放射線治療による急性期、晩期有害事象について説明できる。	放射線治療科
22	小腸、虫垂、肛門病変の外科治療	1) 小腸の外科疾患とその術式について説明できる。 2) 虫垂炎の診断法と術式について説明できる。 3) 痔疾患の分類と外科治療について概説できる。	消化器外科
23	腹壁、横隔膜疾患	1) 腹壁・横隔膜の解剖を理解できる。 2) 腹壁・横隔膜疾患の原因を説明できる。 3) 腹壁・横隔膜の診断法を説明できる。 4) 腹壁・横隔膜の治療法を説明できる。 5) ヘルニアの概念（滑脱、嵌頓、絞扼性）と好発部位を説明できる。 6) 鼠径ヘルニアの成因、診断と治療を説明できる。	消化器外科
24	大腸癌	分類、診断法、内視鏡所見、治療について説明できる。	消化器・神経内科
25	潰瘍性大腸炎、クローン病	疾患概念、診断基準、臨床像、治療を概説できる。	消化器・神経内科
26	小腸疾患	症候、分類、診断と治療を概説できる。	消化器・神経内科
27	過敏性腸症候群、	過敏性腸症候群の概念について説明できる。	消化器・神経内科

	大腸憩室	憩室症について説明できる。便秘、下痢の病態。	
28	肝疾患総論	肝の構造と生理、および肝機能検査を説明できる。	消化器・神経内科
29	症候Ⅱ（腹痛、吐血、下血、悪心、嘔吐）	腹部疾患の症候について理解でき、それぞれの症状を発生する代表的な疾患について説明できる。	消化器・神経内科
30	自己免疫性肝炎、原発性胆汁性肝硬変	自己免疫性肝炎と原発性胆汁性肝硬変の診断、治療、病態について理解する。	消化器・神経内科
31	症候Ⅰ（黄疸、腹部膨隆、腹部腫瘍）	黄疸の発生原因について理解でき、腹部の腫瘍性、非腫瘍性疾患について説明できる。	消化器・神経内科
32	低侵襲下外科治療	1) 腹腔鏡下手術の対象となる疾患を理解できる。 2) 腹腔鏡装置およびその挿入方法を理解できる。 3) 腹腔鏡下手術の方法を理解できる。 4) 腹腔鏡下手術によって生ずる可能性のある合併症とその対策を説明できる。	消化器外科
33	肝、脾、門脈の外科治療Ⅰ（原発性肝癌）	1) 肝、脾を中心に上腹部の解剖を説明できる（肝区域など）。 2) 主な動脈の走行を説明できる。 3) 原発性肝癌の病態・外科治療を説明できる。	消化器外科
34	肝、脾、門脈の外科治療Ⅱ（転移性肝癌及び脾・門脈疾患）	1) 転移性肝癌の病態・外科治療を説明できる。 2) 脾・門脈疾患の病態・外科治療を説明できる。	消化器外科
35	肝移植と膵移植	肝移植と膵移植の現状を概説できる。移植の外科手術手技を概説できる。	消化器外科
36	ウイルス性肝炎Ⅰ	各種ウイルス性肝炎の病態を説明できる。	消化器・神経内科
37	消化管の病理Ⅱ	消化管の病理Ⅱ	腫瘍病理
38	消化管の病理Ⅱ	消化管の病理Ⅱ	腫瘍病理
39	消化管の病理Ⅱ	消化管の病理Ⅱ 実習	腫瘍病理
40	消化管の病理Ⅱ	消化管の病理Ⅱ 実習	腫瘍病理
41	消化管の病理Ⅱ	消化管の病理Ⅱ 実習	腫瘍病理
42	肝硬変	肝硬変の臨床像を説明できる。	消化器・神経内科
43	急性肝炎、慢性肝炎	急性肝炎と慢性肝炎の相違を説明できる。	消化器・神経内科
44	原発性肝癌	原発性肝癌の成因、病態および治療を説明できる。	消化器・神経内科
45	劇症肝炎	劇症肝炎の成因および病態を説明できる。	消化器・神経内科
46	膵・胆道疾患の外科治療Ⅰ	1) 膵、胆道の外科解剖を概説できる。 2) 膵・胆道の悪性疾患の症状・診断・病態などを説明できる。	消化器外科
47	膵・胆道疾患の外科治療Ⅱ	1) 膵、胆道の良性疾患の症状・診断・病態などを説明できる。 2) 膵の悪性疾患の外科治療・予後について説明できる。	消化器外科
48	膵・胆道疾患の外科治療Ⅲ	1) 胆道の悪性疾患の外科治療、予後について説明できる。 2) 膵胆管合流異常の病態・外科治療について説明できる。	消化器外科
49	ウイルス性肝炎Ⅱ	各種ウイルス性肝炎の病態を説明できる。	消化器・神経内科

50	肝胆膵の超音波検査	腹部臓器の解剖学的位置関係を超音波画像で理解でき、それぞれの臓器の代表的な疾患を理解できる。	消化器・神経内科
51	急性膵炎、慢性膵炎	1) 急性膵炎の発生機序が説明できる。 2) 急性膵炎の診断、治療が説明できる。 3) 重症膵炎の診断、治療が説明できる。 4) 慢性膵炎の診断、治療が説明できる。	消化器・神経内科
52	胆道感染症	1) 胆石の分類と生成機序が説明できる。 2) 胆嚢炎、胆管炎、肝膿瘍の診断、治療が説明できる。	消化器・神経内科
53	その他の肝疾患（アルコール性肝障害、薬剤性肝障害、脂肪肝）	病態の概念、診断、治療について説明できる。	消化器・神経内科
54	膵腫瘍	1) 膵（管）癌の診断、治療が説明できる。 2) 膵内分泌腫瘍（特にインスリノーマ、ガストリノーマ）の診断、治療が説明できる。 3) 嚢胞性膵腫瘍の分類と診断が説明できる。	消化器・神経内科
55	肝胆膵の病理	肝胆膵の病理	腫瘍病理
56	肝胆膵の病理	肝胆膵の病理	腫瘍病理
57	肝胆膵の病理	肝胆膵の病理 実習	腫瘍病理
58	肝胆膵の病理	肝胆膵の病理 実習	腫瘍病理
59	肝胆膵の病理	肝胆膵の病理 実習	腫瘍病理
60	胆道腫瘍	1) 胆嚢ポリープの診断について説明できる。 2) 胆嚢癌、肝外胆道腫瘍、胆管細胞癌、乳頭部腫瘍について診断、治療が説明できる。	消化器・神経内科
61	胆膵その他	1) 治療的 ERCP について概説ができる。 2) 原発性硬化性胆管炎の診断、治療が説明できる。 3) 胆道ジスキネジーの概説ができる。	消化器・神経内科
62	特別講義		消化器・神経内科
63	病理学実習試験	病理学実習試験	腫瘍病理
64	病理学実習試験	病理学実習試験	腫瘍病理
65	試験	ユニット6 試験	消化器・神経内科
66	試験	ユニット6 試験	消化器・神経内科

教科書

● 消化器・神経内科学

Sherlock DS, et al : Diseases of the liver and biliary system. Blackwall Science. 10th Edition 1997.

Kuriyama S, et al : New Perspectives in Cancer Research and Therapy. Research Signpost 2005.

石井裕正、他：肝疾患診療マニュアル 日本医師会 1999

杉本恒明、他：内科学第8版 朝倉書店 2003

飯野四郎、他：慢性肝炎診療マニュアル 医学書院 2001

芳野純治、他：内視鏡所見のよみ方と鑑別診断—上部消化管 医学書院 2001
渡辺精四郎：消化器内科診療の要点-臨床技法のスキルアップ-金倉出版 2002
高久史磨、他：新臨床内科学 第8版 医学書院 2002
戸田剛太郎、他：肝・胆・膵疾患の最新医療 先端医学技術研究所 2003
竹井謙之、他：別冊・医学のあゆみ 消化器疾患 Ver.3—state of arts II.肝・胆・膵 医歯薬出版 2006

● 消化器外科学

武藤輝一、田辺達三 編：標準外科学（第8版） 医学書院
佐藤寿雄他 編：医学生のための外科学 南山堂
出月康夫、古瀬彰、杉町圭蔵 編：NEW 外科学（第2版） 南江堂
浅野献一、他 編：外科学 朝倉書店
玉熊正悦、佐藤英昭 著：消化器外科の術前術後管理 （改訂版） 中外医学社
Schwartz, S. I. et. al. : Principles of Surgery McGraw-Hill
Davis-Christopher : Textbook of Surgery Sabiston
James D. Hardy : Hardy`s Textbook of Surgery J.B. Lippincott

● 放射線治療科

1. 西谷 弘、他：標準放射線医学 第7版（医学書院）
2. 井上俊彦、他：放射線治療学 改訂5版（南山堂）
3. 日本放射線腫瘍学会：放射線治療計画ガイドライン 2012年版（URL：
<http://www.jastro.or.jp/guideline/child.php?eid=00007>）

● 腫瘍病理学

Robbins et al. : Pathologic basis of diseases 7th ed. 2004. Saunders
影山圭三他：組織病理アトラス 分光堂
WHO classification of tumours, pathology and genetics of tumours of the digestive system. 2000. IARC press .
AFIP 3rd series, vol 18 and 27.

木曜日の17時～18時

tmasaki@med.kagawa-u.ac.jp

授業科目名

神経筋骨格ユニット

(英文併記)

科目区分 統合講義 授業コード 760060 DPコード bcxM

単位数 3 時間割 後期 対象年次及び学科 3 医学科

教員名

脳神経外科

教授 田宮 隆
講師 三宅 啓介
講師 川西 正彦
学内講師 新堂 敦
助教 岡内 正信
助教 畠山 哲宗
助教 岡田 真樹

整形外科

教授 山本 哲司
准教授 真柴 賛
講師 加地 良雄 (リハビリテーション部)
講師 岩田 憲
助教 小松原 悟史
助教 高田 成基
助教 山上 佳樹
助教 森 正樹
非常勤講師 今泉 泰彦 (北播磨総合医療センター 部長)
非常勤講師 中溝 寛之 (済生会高松病院整形外科 部長)

授業の概要

脳神経外科

脳神経外科は、一般外科、内科、産婦人科、小児科等と共に基本的診療領域に属している診療科であり、脳・脊髄・末梢神経に生じる疾患の予防、急性期治療、慢性期治療に至るまでを網羅的に対応する診療科である。そのため、脳神経外科が取り扱う疾患の範囲は脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷、変性疾患、先天奇形、脊髄・脊椎・末梢神経疾患等と幅広く、また一般的な救急対応、画像診断、外科的及び非外科的治療、術前・術後の管理、リハ及び再発予防・予後管理を含め、極めて広い領域を脳神経外科が担当している。脳神経外リハビリテーション科疾患の学習においては、神経系の正常構造と機能を基礎とした上で各種疾患における病態生理を理解し、適切な診断及び治療法について理論的に説明できる知識を習得することが求められる。

整形外科

整形外科の起源は小児 (paedi) の先天奇形や麻痺足の矯正(ortho)から始まったが、医学の進歩発達に伴い、四肢と脊椎を中心として、骨、関節、靭帯、神経、筋肉などを全般的に扱うようになり、外傷も含まれるようになった。現在の整形外科は運動器を構成する全ての組織の疾患、外傷を対象とし、病態の解明と治療法の開発および診療をおこなう専門領域である。患者数、手術件数も診療科の中でも非常に多く、社会的ニーズが非常に高いため、国民の生涯を通じて豊かで安心できる生活をサポートする診療科である。カバーする範囲は脊椎、脊髄、骨盤、上肢、下肢など非常に広く、全年齢層が対象になり、治療手段も外科的治療のみならず、薬物治療、リハビリテーション、物理療法まで含まれたため内容も多種多様である。講義では、多岐にわたる整形外科関連の疾患、障害のうち、比較的頻度の高いものの病態、診断法、治療について履修する。それらを通じて運動器の健康がQOL(quality of life)にいかにか重要かということを学んでもらう。

授業の目的

脳神経外科

中枢・末梢神経系の構成要素と機能を解剖学的・生理学的に説明できるよう理解する。中枢神経・末梢神経系の障害時の症状を述べ、神経学的所見とそれに適した検査法の説明、部位・局在診断ができる知識を習得する。脳神経外科が扱う疾患は、脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷、変性疾患、先天奇形、脊髄・脊椎・末梢神経疾患まで幅広く及ぶ。それら疾患の成因と病態、画像検査（X線写真・CT・MRI・脳血管撮影・核医学画像等）の適応と診断法、外科的及び非外科的な治療法、予後及び発症・再発予防に至るまでを、医学的根拠に基づいて考察できる知識を習得する。

整形外科

整形外科の守備範囲の広さと、社会的需要の高さを認識する。

重要性の高い疾患、障害の病態と診断、治療の基礎知識について学ぶ。

達成目標

脳神経外科

- (1) 脳、脊髄の機能と神経学的検査方法との関係を説明できる。
- (2) 頭蓋内圧亢進の病態、症状、診断及び治療を説明できる。
- (3) 脳腫瘍の分類について説明できる。
- (4) 神経膠腫(グリオーマ)の病態・診断及び治療について説明できる。
- (5) 髄膜腫の病態・診断及び治療を説明できる。
- (6) 鞍上部、松果体部及び後頭蓋窩に生じる腫瘍について病態・診断及び治療を説明できる。
- (7) 虚血性脳血管障害の外科的治療を説明できる。
- (8) 脳出血、脳動静脈奇形(AVM)・動静脈瘻(AVF)、及び脳血管内手術によって治療できる疾患の臨床的特徴を説明できる。
- (9) くも膜下出血の病態・診断及び治療を説明できる。
- (10) 頭部外傷の急性期及び慢性期における病態・診断及び治療を説明できる。
- (11) 機能的脳神経外科の対象となる変性疾患について、病態・診断及び治療を説明できる。
- (12) 先天奇形の分類・診断・治療及び予後について説明できる。
- (13) 脳神経外科が扱う脊椎・脊髄疾患について臨床的特徴を説明できる。

整形外科

- (1) 整形外科に関わる器官の機能解剖、生理、代謝など基礎的な事項を説明することができる。
- (2) 整形外科の外傷の機序と診断、治療の概要を説明することができる。
- (3) 関節疾患の病態、診断、治療の概要を説明することができる。
- (4) 脊椎脊髄病態、診疾患の断、治療の概要を説明することができる。
- (5) 骨軟部腫瘍の病態、診断、治療の概要を説明することができる。
- (6) リウマチ性疾患の病態、診断、治療の概要を説明することができる。
- (7) 末梢神経障害の病態、診断、治療の概要を説明することができる。
- (8) 骨代謝性疾患の病態、診断、治療の概要を説明することができる。
- (9) 上肢の疾患の病態、診断、治療の概要を説明することができる。

成績評価の方法と基準

1. 講義の出席状況、受講態度を評価する。
2. 講義終了後筆記試験を行うが、受験資格は2/3以上の講義出席とする。
3. 筆記試験は基本的に6割を合格ラインとする。
4. 上記の評価を総合して可否の判定を行う。

授業計画並びに授業及び学習の方法

授業の形式はスライド、プリント、ビデオを使用する。講義内容は重点的な内容に絞って行うが、それでも範囲は広く、講義終了後は配布されたプリントを整理し、教科書を用いてまとめをおこなうことを要望する。

脳神経外科

回	項目	内容	担当者
1	診断と検査の基本	脳、脊髄の機能と神経学的検査方法との関係を説明できる。	田宮
2	頭蓋内圧亢進症、脳ヘルニア	頭蓋内圧亢進による症状、診断・治療を説明できる。	岡内
3	先天奇形	先天奇形の分類・診断・治療・予後について説明できる。	畠山
4	脊髄・脊椎疾患	脊椎・脊髄疾患の臨床的特徴を説明できる。	岡田
5	脳腫瘍1 脳腫瘍の分類・グリオーマ	脳腫瘍の分類及びグリオーマの診断・治療について説明できる。	田宮
6	脳腫瘍2 鞍上部・松果体腫瘍	鞍上部、松果体部腫瘍について診断・治療を説明できる。	田宮
7	脳血管障害1 脳梗塞(外科的治療)	脳梗塞の外科的治療を理解できる。	川西
8	脳血管障害2 脳出血・AVM・AVF・IVR	脳出血の臨床的特徴を説明できる。 AVM・AVF 及び脳血管内手術によって治療できる疾患の臨床的特徴を理解できる。	川西
9	脳腫瘍3 髄膜腫	髄膜腫について診断・治療を説明できる。	三宅
10	脳腫瘍4 後頭蓋窩腫瘍	後頭蓋窩腫瘍について診断・治療を説明できる。	三宅
11	変性疾患 (機能的脳神経外科)	変性疾患(機能的脳神経外科)について診断・治療を説明できる。	三宅
12	頭部外傷(急性期)	急性期における頭部外傷の診断・治療を説明できる。	新堂

1 3	頭部外傷(慢性期)	慢性期における頭部外傷の診断・治療を説明できる。	新堂
1 4	脳血管障害3 くも膜下出血	くも膜下出血の診断・治療を理解できる。	川西
1 5	特別講義		未定

整形外科

回	項目	内容	担当者
1	診断と検査の基本	運動器の機構と機能および主要な診断法の概念を説明できる。	森
2	股関節疾患	骨盤、股関節疾患の病態、診断、治療	岩田
3	関節疾患総論	変形性関節症や骨壊死などの慢性関節疾患を理解し、診断、治療	真柴
4	末梢神経疾患	末梢神経障害の病態、診断、治療	加地
5	上肢疾患	上肢の外傷、関節疾患の病態を理解し、診断、治療	加地
6	骨軟部腫瘍 1	骨腫瘍の分類、軟部腫瘍の病理、鑑別診断、治療方針	山本
7	肩関節疾患	肩関節の外傷、疾患を理解し、診断、治療	中溝
8	脊椎・脊髄疾患 1	頸椎疾患の病態、診断、治療	小松原
9	リウマチ性疾患	関節リウマチと類縁疾患	今泉
1 0	骨軟部腫瘍 2	悪性骨腫瘍の診断と治療方針	山本
1 1	膝・足関節疾患	膝、足関節、足部疾患について病態、診断、治療	真柴
1 2	下肢の外傷	スポーツ外傷を中心とした下肢外傷	真柴
1 3	上肢の外傷	上肢の重要な骨折、脱臼等の外傷	中村
1 4	骨代謝疾患	骨粗鬆症を中心とする骨代謝疾患、骨系統疾患の病態、診断、治療	岩田
1 5	脊椎・脊髄疾患 2	胸椎、腰椎病変の病態、診断、治療	小松原

教科書・参考書等

脳神経外科

山浦昌、児玉南海雄、田中隆一編. 標準脳神経外科学. 医学書院.

太田富雄編. 脳神経外科学. 金芳堂.

田崎義昭・斎藤佳雄. ベッドサイドの神経の診かた. 南山堂.

後藤文雄、天野隆弘. 臨床のための神経機能解剖学. 中外医学社.

松谷雅生. 脳神経外科学必須講義. メジカルビュー社.

小林士朗、小田行一郎 監修. STEP 外科①: 外科総論・脳神経外科. 海馬書房.

伊藤洋編. CHART 13 : 脳神経外科. 医学評論社.

整形外科

松野丈夫、中村利隆 編 標準整形外科 (第 12 版) 医学書院

オフィスアワー

質問には随時対応する。あらかじめアポイントをとること。

授業科目名

精神神経ユニット

(Psychiatry Neurology)

科目区分 統合講義 授業コード 706070 DPコード abcM

単位数 3 時間割 後期 対象年次及び学科 3 医学科

教員名

教授 上野 正樹 (炎症病理学)
講師 千葉 陽一 (炎症病理学)
教授 峠 哲男 (健康科学)
准教授 出口 一志 (消化器・神経内科)
准教授 鎌田 正紀 (神経難病講座)
教授 中村 祐 (精神神経医学、ディレクター)
教授 新野 秀人 (地域連携精神医学講座)
准教授 角 徳文 (精神神経医学)

授業の概要

精神神経ユニットは、精神疾患・神経疾患を対象とした領域である。

このユニットにおいては形態・機能・薬理学等の基本的医学知識に基づき、それぞれの疾患の臨床症候、診断を中心として、精神・神経疾患の病態の理解度を深め、統合講義としてより質の高いものを求めている。臨床講義は診断（画像解析等）と検査にはじまり、精神系では統合失調症、気分障害、てんかん、薬物依存、精神療法等を、神経系では脳血管障害や変性疾患、頭部外傷、感染症、腫瘍、先天奇形、脊髄・脊椎疾患、末梢神経疾患およびミオパチー等を教授し、従来にない新しい統合的な講義を行うものである。さらに、これらの系統に関連した症候として、意識障害や頭痛などを取り入れ、広く神経系疾患の診断学の習得をも目指している。併せて、チュートリアル教育を取り入れ、自ら問題解決の方法を探る方法としての自主学習を通して、精神・神経内科ユニットで扱う内容に対する総合的知識を得ることを目標としている。

授業の目的

神経系の正常構造と機能を基礎医学的立場から複合的に理解する。更にこれを基礎として、各種疾患の成り立ちを病態学的に理論的に説明できる知識を身につける。更に疾患の治療法から予後・予防に至るまでを、医学的根拠に基づいて考察できる知識を習得する。

従来の講義で見られる縦割りの講義スタイルではなく、一つの疾患に関わる講座がそれぞれ異なった視点で疾患にアプローチすることによって、より柔軟にかつ詳細に疾患の理解を深めるものである。

達成目標

- (1) 中枢・末梢神経系の構成要素と機能を解剖学的・生理学的に説明できる。
- (2) 中枢神経系・末梢神経系の障害時の症状を述べ、神経学的所見とそれに適した検査法についての説明ができる。さらに、部位・局在診断ができる。
- (3) 各種疾患についての画像診断（X線写真，CT，MRI，SPECT，PET，血管撮影など）と補助診断（脳波，筋電図など）の適応と所見が説明できる。
- (4) 疾患における病態生理の特徴について説明できる。
- (5) 個々の神経疾患について説明することができる。
- (6) 医学における精神神経医学の位置と役割を理解し、個々の精神疾患について説明することができる。

成績評価の方法と基準

チュートリアル課題レポートと講義の最後に行う筆記試験を併せて総合評価する。ただし、チュートリアルの課題レポートが未提出あるいは、評価が否である場合には、筆記試験の受験資格は与えられない。病理学(等)実習の終了の認定を受けていない場合、筆記試験の受験資格は与えられない。

授業計画並びに授業及び学習の方法

回	大項目	内 容	担当者
1	診断と検査の基本	1) 神経・筋疾患診断における3段階診断法が説明できる。 2) 意識障害の判定と、脳神経、深部腱反射、運動および小脳機能、感覚系の診察ができる。 3) 髄膜刺激所見のとりかたを説明できる。 4) 神経画像検査、生理学的検査で得られる情報について説明できる。	消化器・神経内科
2	精神医学的症候と状態像	基本的な精神症状が系統的に挙げられ、状態像として類型化できる。	精神神経医学
3	神経心理学的症候・脳の局在症状	基本的な神経心理学的症候を脳の局在機能との関連で述べられる。	精神神経医学
4	神経症候学	1) 脳神経障害の症状が説明できる。 2) 嚥下障害、運動麻痺・筋力低下、歩行障害、言語障害、感覚障害について、病態にもとづいて分類できる。	消化器・神経内科
5	特別講義 不随意運動の診断と治療	1) 小脳性・前庭性・感覚性運動失調の鑑別について説明できる。 2) 振戦および他の不随意運動について概説できる。	消化器・神経内科
6	変性疾患および認知症 (1)	1) パーキンソン病とその類縁疾患の病態、症候と診断を説明できる。 2) 認知症の原因を列挙できる。 3) 認知症を来す主な疾患（アルツハイマー病と脳血管性認知症）の症候と診断を説明できる。 4) 脊髄小脳変性症、多系統萎縮症、運動ニューロン病について概説できる。	消化器・神経内科

7	中枢神経系の病理学 (講義)	1) 種々の脳内の細胞の違いを区別し、病的状態における変化を理解できる。 2) ヘルニア、水頭症などの通常の病態生理学的合併症を説明できる。	炎症病理学
8	変性疾患および認知症 (3)	1) パーキンソン病とその類縁疾患の病態、症候と診断を説明できる。 2) 認知症の原因を列挙できる。 3) 認知症を来たす主な疾患（アルツハイマー病と脳血管性認知症）の症候と診断を説明できる。 4) 脊髄小脳変性症、多系統萎縮症、運動ニューロン病について概説できる。	消化器・神経内科
9	頭痛	1) 頭痛の原因と病態を説明できる。 2) 頭痛診断の要点と鑑別について説明できる。	消化器・神経内科
10	神経感染症・中毒 (1)	1) 髄膜炎・脳炎の原因、症候と診断を説明できる。 2) 髄液検査の目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。 3) プリオン感染症、トウウイルス感染症、遅発性ウイルス感染症について概説できる。	消化器・神経内科
11	神経感染症・中毒 (2)	1) 髄膜炎・脳炎の原因、症候と診断を説明できる。 2) 髄液検査の目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。 3) プリオン感染症、トウウイルス感染症、遅発性ウイルス感染症について概説できる。	消化器・神経内科
12	精神科面接・診断分類法	1) 精神医学的面接法の要点を説明できる。 2) 精神疾患の ICD や DSM など診断体系が述べられる。	精神神経医学
13	神経感染症・中毒	代表的な神経感染症・中毒疾患を挙げられ、診断と特徴が述べられる。	精神神経医学
14	変性疾患および認知症 (2)	1) パーキンソン病とその類縁疾患の病態、症候と診断を説明できる。 2) 認知症の原因を列挙できる。 3) 認知症を来たす主な疾患（アルツハイマー病と脳血管性認知症）の症候と診断を説明できる。 4) 脊髄小脳変性症、多系統萎縮症、運動ニューロン病について概説できる。	消化器・神経内科
15	中枢神経系の病理学 (講義)	1) 変性疾患、なかでも認知症を呈する疾患とパーキンソンニズムを呈する疾患を区別し、それぞれを説明できる。 2) 運動神経疾患を理解し、その症状を挙げ、そして、それに対する系統的障害部位を指摘できる。 3) 中枢神経内で起きうる感染症を区別し、説明できる。	炎症病理学
16	中枢神経系の病理学 (講義)	1) 変性疾患、なかでも認知症を呈する疾患とパーキンソンニズムを呈する疾患を区別し、それぞれを説明できる。	炎症病理学

17	脱髄疾患	2) 運動神経疾患を理解し、その症状を挙げ、そして、それに対する系統的障害部位を指摘できる。 3) 中枢神経内で起きうる感染症を区別し、説明できる。	消化器・神経内科
18	統合失調症（急性期）	統合失調症の診断基準（とくに急性期症状）と治療・管理法を説明できる。	精神神経医学
19	統合失調症（慢性期）	統合失調症の経過や慢性期症状とリハビリテーション治療が述べられる。	精神神経医学
20	アルコール・薬物依存の病態と診断	依存性薬物の種類や特徴を挙げ、離脱症状の診断と治療を説明できる。	精神神経医学
21	てんかん（成人）	てんかんを発作症状や成因との関連で分類し、診断と治療法について述べられる。	精神神経医学
22	中枢神経系の病理学（講義）	1) プリオン病を理解し、孤発性と変異型との違いを説明できる。 2) 脱髄疾患を理解し、特徴を説明できる。 中枢神経系の先天性代謝異常疾患を理解できる。	炎症病理学
23	中枢神経系の病理学（実習）	3) クロイツフェルトーヤコブ病及びアルツハイマー病の切片を見て、病理学的に説明できる。	炎症病理学
24	中枢神経系の病理学（実習）	クロイツフェルトーヤコブ病及びアルツハイマー病の切片を見て、病理学的に説明できる。	炎症病理学
25	認知症	認知症の種類や症状と診断が述べられる。	精神神経医学
26	精神科医療の法と倫理	精神保健福祉法（とくに強制入院）と倫理的問題について述べられる。	精神神経医学
27	ミオパチー（1）	1) 重症筋無力症の病態、症候、診断を説明できる。 2) 進行性筋ジストロフィー症の原因、分類、症候、診断を説明できる。 3) 周期性四肢麻痺、多発性筋炎、ミトコンドリア脳筋症を概説できる。	消化器・神経内科
28	末梢神経障害（1）	1) ニューロパチーの原因（栄養障害、中毒、遺伝性、免疫性）と病態を分類できる。 2) ギランバレー症候群、ビタミン欠乏性ニューロパチー、アモイブニューロパチー、バベル麻痺の症候、診断を説明できる。	消化器・神経内科
29	末梢神経障害（2）	1) ニューロパチーの原因（栄養障害、中毒、遺伝性、免疫性）と病態を分類できる。 2) ギランバレー症候群、ビタミン欠乏性ニューロパチー、アモイブニューロパチー、バベル麻痺の症候、診断を説明できる。	消化器・神経内科
30	特別講義		炎症病理学
31	症状精神病の概念と診断	症状精神病を呈する代表的な疾患を挙げ、それらの特徴を述べられる。	精神神経医学
32	心身症（摂食障害含む）	心身症の特徴と種類が挙げられ、心身相関について説明できる。	精神神経医学

33	ミオパチー (2)	1) 重症筋無力症の病態、症候、診断を説明できる。 2) 進行性筋ジストロフィー症の原因、分類、症候、診断を説明できる。 3) 周期性四肢麻痺、多発性筋炎、ミコトリア脳筋症を概説できる。	消化器・神経内科
34	不安性障害・解離性障害	不安性障害・解離性障害・ストレス関連障害の症候や診断について説明できる。	精神神経医学
35	脊髄・脊椎疾患	脊髄空洞症、亜急性連合性脊髄変性症、神経梅毒、脊髄血管障害について概説できる。	消化器・神経内科
36	気分障害 うつ病の症候と診断	うつ病の症候と診断や治療法を説明できる。	精神神経医学
37	気分障害 双極性障害の症候と診断	双極性障害の症候と診断や治療法を説明できる。	精神神経医学
38	先天性代謝障害	糖質、脂質、アミノ酸、銅などの代謝異常による神経疾患について、特徴的な疾患について概説できる。	消化器・神経内科
39	コンサルテーション・リエゾン精神医学	精神医学と他科との連携について説明できる。	精神神経医学
40	精神療法・認知行動療法	代表的な精神療法を挙げられ、特徴を述べることができる。	精神神経医学
41	筋疾患の病理学 (講義)	1) 筋肉に見られる疾患の種類を説明できる。 2) 筋肉に見られる重要な疾患について、病因を説明できる。	炎症病理学
42	筋疾患の病理学 (実習)	筋肉に見られる重要な疾患について、形態学的変化を説明できる。	炎症病理学
43	筋疾患の病理学 (実習)	筋肉に見られる重要な疾患について、形態学的変化を説明できる。 1) 重症筋無力症の病態、症候、診断を説明できる。 2) 進行性筋ジストロフィー症の原因、分類、症候、診断を説明できる。 3) 周期性四肢麻痺、多発性筋炎、ミコトリア脳筋症を概説できる。	炎症病理学
44	ミオパチー (3)	筋肉に見られる重要な疾患について、形態学的変化を説明できる。	消化器・神経内科
45	ミオパチー (4)	1) 重症筋無力症の病態、症候、診断を説明できる。 2) 進行性筋ジストロフィー症の原因、分類、症候、診断を説明できる。 3) 周期性四肢麻痺、多発性筋炎、ミコトリア脳筋症を概説できる。 1) 重症筋無力症の病態、症候、診断を説明できる。 2) 進行性筋ジストロフィー症の原因、分類、症候、診断を説明できる。 3) 周期性四肢麻痺、多発性筋炎、ミコトリア脳筋症を概説できる。	消化器・神経内科
46	児童精神医学	小児期の発達障害と神経症の症候や診断について説明できる。	精神神経医学
	統合講義試験		

教科書・参考書等

教科書

炎症病理学

Robbins Pathologic Basis of Disease, (eds) Cotran, Kumar and Collins, Saunders
Greenfield's Neuropathology, (eds) DI Graham and PL Lantos, Oxford Univ. Press
Neuropathology, (eds) D Ellison and S Love, Mosby
Escourolle and Poirier's Manual of Basic Neuropathology, 5th edition (eds) F Gray, C Duyckaerts, and
U De Girolami, Oxford Univ Press

消化器・神経内科

ベッドサイドの神経の診かた、田崎義昭・斎藤佳雄 著、南山堂。
神経内科ハンドブック 鑑別診断と治療、第4版、水野美邦 編集、医学書院。
新・病態生理でできた内科学7神経疾患、村川裕二 監修、医学教育出版。
脳神経疾患ビジュアルブック、落合滋之 監修、学研。
神経内科の外来診療、北野邦孝 著、医学書院。
Merritt's textbook of Neurology, twelfth edition, edited by Lewis P. Rowland, Lea & Febiger.

精神神経医学講座

高橋茂樹 (著)、岸本年史 (監修)、STEP 精神科、海馬書房、2002、ISBN : 4907704186

オフィスアワー

随時対応するが、各担当講座の医局に連絡をしてアポイントメントを取ること。

授業科目名 内分泌代謝ユニット

(英文併記 Endocrinology and Metabolism)

科目区分 統合講義

授業コード 760090

DPコード bcxM

単位数 3 時間割 後期 対象年次及び学科 3 医学科

教員名

教授	村尾 孝児 (内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学 ディレクター)
教授	中村 隆範 (分子細胞機能学)
教授	上田 夏生 (生化学)
教授	中村 祐 (精神神経医学)
教授	上野 正樹 (炎症病理学)
教授	徳田 雅明 (細胞情報生理学)
教授	寛 善行 (泌尿器・副腎・腎移植外科学)
教授	柴田 徹 (放射線治療科)
准教授	大西 平 (生化学)
准教授	紺谷 桂一 (呼吸器・乳腺内分泌外科学)
准教授	杉元 幹史 (泌尿器・副腎・腎移植外科学)
准教授	宮武 伸行 (衛生学)
准教授	岡田 仁 (小児科学)
准教授	井町 仁美 (内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学)
助教	高橋 重雄 (放射線治療科)
病院助教	西内 崇将 (内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学)
助教	吉本 卓生 (内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学)
助教	菊池 史 (内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学)
副部長	藤井 映子 (臨床栄養部)
管理栄養士	久米川知希 (臨床栄養部)
管理栄養士	大嶋 球乃 (臨床栄養部)
理学療法士	森田 伸 (リハビリテーション部)

授業の概要

内分泌代謝ユニットは内分泌系と栄養・代謝系を対象領域として内分泌系、栄養・代謝系の授業から構成されている。内分泌系ではホルモンを構造から分類し、それぞれの分泌調節機構とそれらの標的期間での受容体とその情報伝達機構を学習して、それぞれの作用が説明できることが必要である。各内分泌器官の位置を図示し、そこから分泌されるホルモンを列挙でき、それらの相互関係が説明できて、フィードバック調節を理解する。各種ホルモンの分泌異常（過剰あるいは欠乏）にもとづく病態の変化が理解でき、その是正方略が説明できることが必要である。代謝・栄養系では、生体の恒常性維持の重要性とその調節機序が理解できて、生体機能や体内環境のリズム性変化を説明できる。生体物質（糖、脂質、タンパク質、アミノ酸、核酸など）の代謝

動態を、酵素やホルモン作用の面から学習する。糖尿病、脂質代謝異常症を独立した疾患ではなくて、生活習慣にもとづく症候群の一部として理解できることが必要である。主な症候・病態の原因・分類・診断・治療の概要を性別・発達、成長、加齢ならびに生活習慣と遺伝子の関連から理解できることが重要である。

授業の目的

内分泌系と栄養・代謝系の構造と生理機能を理解し、主な疾患の病態生理、原因、症候、診断と治療を学ぶ。

達成目標

各授業にそれぞれ到達すべき内容を設定している。基本的に医学教育モデル・コアカリキュラム-教育内容ガイドラインに掲げられている『内分泌・栄養・代謝系』および『乳房』等の項を参照する。

成績評価の方法と基準

授業の出席状況及び試験成績で評価する。

授業計画並びに授業及び学習の方法

回	項目	内容	担当者
1 2 3	内分泌細胞の機能 I～III	1) ホルモン分泌の調節機構を説明できる。 2) ホルモン受容体の構造と情報伝達、ならびに作用を説明できる。	分子細胞機能学
19 20	ホルモンと受容体 I～II	ホルモン受容体の機能が説明できる。	分子細胞機能学
10	個体の機能	1) 情報伝達の種類と機能を説明できる。 2) 受容体細胞内シグナル伝達課程を説明できる。 3) 生体内におけるカルシウムイオンの多彩な役割を説明できる。 4) 生体の恒常性維持と適応を説明できる。 5) 恒常性維持のための調節機構を説明できる。	細胞情報生理学
4	内分泌代謝検査	1) 内分泌疾患独自の負荷試験について説明できる。 2) ホルモンの過剰または欠乏がもたらす身体症状を説明できる。 3) 血中ホルモン濃度に影響を与える因子を列挙できる。	内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学
37	特別講演	下垂体機能低下症	非常勤講師
61	特別講演	下垂体後葉疾患	非常勤講師

31	下垂体後葉疾患	尿崩症について概説できる。 ADH 不適合分泌症候群 (SIADH) を概説できる。	内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学
27 28 29	甲状腺機能の病態と疾患 I～III	1) 甲状腺ホルモン異常の疾患の病態と診断について概説できる。 2) 甲状腺腫を分類し、その特徴と疾患を列挙できる。 3) 甲状腺機能亢進症の病態・診断と治療を説明できる。 4) 甲状腺炎を概説できる。 5) 甲状腺機能低下症の症候・診断と治療を説明できる。	内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学
41	甲状腺疾患の外科治療	甲状腺疾患の外科的治療の適応と合併症を説明できる。	内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学
11	副甲状腺疾患	1) 副甲状腺をカルシウム代謝異常と関連づけて説明できる。 2) 副甲状腺機能亢進症と機能低下症の原因・病態・症候と診断を説明できる。 3) 偽副甲状腺機能低下症を概説できる。	内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学
34	骨粗鬆症	骨粗鬆症の病態・診断・治療について説明できる。	内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学
6	副腎の基礎	1) 副腎皮質ホルモンの構造と代謝を説明できる。 2) 副腎髄質ホルモンの代謝を説明できる。	生化学
7 8 9	副腎疾患 I～III	1) クッシング症候群の病態・症候と診断・治療を説明できる。 2) アルドステロン過剰症を概説できる。 3) 褐色細胞腫を概説できる。 4) 二次性高血圧症について概説できる。	内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学
12	副腎疾患の外科治療	副腎疾患の外科的治療について概説できる。	泌尿器・副腎外科
25 26	消化管ホルモン	1) 消化管ホルモンが説明できる。 2) ガストリン分泌機構を説明できる。 3) ゴリンジャーエリソン症候群を概説できる。 4) 消化管ホルモン過剰症による病態生理・症候・診断と治療を説明できる。 5) NET について概説できる。	内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学
17 18	内分泌病理学	内分泌病理学	炎症病理学

38 39	内分泌病理学実習	内分泌病理学実習	炎症病理学
33	多発性内分泌腺腫症	1) 多発性内分泌腺腫症について病因・診断・検査・治療について説明できる。 2) 遺伝性内分泌疾患について概説できる。	内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学
42 43	乳癌の診断と治療 I～II	1) 乳房腫瘍の画像診断（乳房撮影、超音波検査、CT）を概説できる。 2) 乳房腫瘍に対する細胞・組織診断法を概説できる。 3) 良性乳腺疾患の種類を列挙し診断・治療法を説明できる。 4) 乳癌の危険因子、症候、診断、治療と予後を説明できる。	乳腺内分泌・外科
44	乳癌の放射線治療	乳癌に対する放射線治療の目的、効果、有害事象について概説できる。	放射線診療科
56 57 58	乳腺の病理学	乳腺の病理学	炎症病理学
40	東洋医学概論	1) 東洋医学の概念について説明できる。 2) 証について理解できる。	内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学
21 22	特別講演	生活習慣病と食育	非常勤講師
23 24	特別講演	栄養学総論	非常勤講師
30 32	ビタミンの基礎 I～II	1) 水溶性ビタミンの役割が説明できる。 2) 油溶性ビタミンの役割が説明できる。	生化学
47 48	栄養学各論	1) 糖尿病の栄養指導について説明できる。 2) 糖尿病性腎症の栄養指導について説明できる。	臨床栄養部
36	糖代謝	糖代謝が説明できる。	生化学
35	糖尿病と社会医学	糖尿病の疫学、予防法を説明できる。	衛生学
45 46 49 50 54 55	糖尿病 I～VI	1) 糖尿病の原因・病態生理・症候・診断を説明できる。 2) 糖尿病の急性・慢性合併症を説明できる。 3) 糖尿病の治療を概説できる。 4) 低血糖を概説できる。 5) チーム医療について理解する。	内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学

14	核酸代謝・痛風	1) 核酸代謝およびその異常として痛風が説明できる。 2) 高尿酸血症・痛風の病因と病態について説明できる。	生化学/内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学
13	ポルフィリン代謝とポルフィリア	ポルフィリン代謝を理解し、その異常ポルフィリアを説明できる。	生化学/内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学
51	アミロイドーシス	アミロイドによる疾病を説明できる。	生化学/内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学
5 15 16	脂質代謝・動脈硬化 I～III	1) 脂質代謝が説明できる。 2) 動脈硬化のメカニズムを説明できる。 3) 脂質異常症（高脂血症）の分類、病因と病態を説明できる。	生化学/内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学
59 60	肥満とやせ	1) 肥満・やせを定義し、それぞれの原因を列挙できる。 2) 肥満・やせを呈する患者の診断の要点を説明できる。	精神神経科/内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学
52 53	症例検討	1) 内分泌疾患の実症例から学ぶ。 2) 代謝性疾患の実症例から学ぶ。	内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学

教科書・参考書等

教科書

内分泌・栄養・代謝学：Textbook of Endocrinology;Williams; Endocrinology and Metabolism, Frohman; Joslin's Diabetes Mellitus, Marblet al.;

内科学：Textbook of Medicine, Cecil; Principles of Internal Medicine, Harrison; Internal Medicine, Stein; The Principles and Practice of Medicine,

外科学：Textbook of Surgery, Davis-Christopher; Principles of Surgery, Schwartz; Hardy's Textbook of Surgery, James Hardy;

参考書

オフィスアワー

授業科目名

麻酔・救急ユニット

(英文併記 Anesthesiology and Acute Medicine)

科目区分 統合講義 授業コード 706130 DPコード bcx M

単位数 1 時間割 後期 対象年次及び学科 3 医学科

教員名

教授 白神 豪太郎 (ディレクター, 麻酔学)	非常勤講師
教授 黒田 泰弘 (サブディレクター, 救急災害医学)	穴吹大介 (回生病院部長)
講師 浅賀 健彦 (集中治療部)	小野純一郎 (KKR 高松病院部長)
講師 河北 賢哉 (救命救急センター)	田家諭 (坂出市立病院部長)
助教 宮脇 有紀 (麻酔・ペインクリニック科)	野萱純子 (回生病院部長)
助教 武田 敏宏 (麻酔・ペインクリニック科)	定光大海 (大阪医療センター診療部長)
助教 阿部祐子 (救命救急センター)	大友康裕 (東京医科歯科大学教授)
病院助教 高野耕志郎 (救命救急センター)	
病院助教 篠原奈都代 (救命救急センター)	

授業の概要

本講では医学生にとって必要な麻酔・周術期医学および救急災害医学の基礎について学ぶ。苦痛緩和、侵襲からの生体防御、生理機能制御など全身管理学としての麻酔・周術期医学、および急性生体侵襲に対する制御・蘇生学、集中治療医学を中心とした救急災害医学を学ぶ上で必要な解剖学、生理学、薬理学、病理学、内科学、外科学、医用工学など関連諸分野の知識についても必要に応じて解説する。さらに、麻酔科医、救急科医が直面する臨床的諸問題、他の各診療科や医療従事者とのチームワークの重要性、倫理的問題などについても解説する。

授業の目的

麻酔・周術期医学および救急災害医学の基礎的知識を習得し、臨床実習で円滑に学習が行えるようにする。

達成目標

各授業にそれぞれ到達目標を設定している。

成績評価の方法と基準

講義終了後に筆記試験を行い、可否を判定する。

授業計画並びに授業及び学習の方法

麻酔・周術期医学および救急災害医学の領域は極めて広く、短期間でこれらを網羅することは不可能である。講義内容は医師として知っておいてもらいたい麻酔・周術期医学および救急災害医学の基礎的知識習得に重点を

おくが、ある程度、細かい専門用語の羅列となるのはやむを得ない。講義では、図・表・写真等を用いて概念・用語の解説を試みるが、「百聞は一見にしかず」、臨床実習で、実際に目で見て確認し、知識を身につけてほしい。

回	大項目	項目	内容	担当者
1	麻酔・周術期医学①	麻酔・周術期医学総論	麻酔・周術期医学とは、気道確保法、麻酔器、吸入麻酔薬、回復室管理	白神
2	麻酔・周術期医学②	局所・区域麻酔	局所麻酔薬、局所浸潤麻酔、脊髄くも膜下／硬膜外麻酔、末梢神経ブロック	小野
3	麻酔・周術期医学③	痛み医学	ペインクリニック、慢性痛、癌性痛	野萱
4	麻酔・周術期医学④	麻酔薬理学	静脈麻酔薬、筋弛緩薬、オピオイドおよび非オピオイド鎮痛薬	穴吹
5	麻酔・周術期医学⑤	周術期全身管理	呼吸・循環・代謝管理、輸液と輸血	宮脇
6	麻酔・周術期医学⑥	特殊麻酔	小児麻酔、産科麻酔、老年麻酔	武田
7	麻酔・周術期医学⑦	集中治療医学①総論	集中治療医学とは、人工呼吸、院内感染症	田家
8	麻酔・周術期医学⑧	集中治療医学②重症患者管理	多臓器不全、ARDS、敗血症、ショック、急性腎不全	浅賀
9	救急災害医学①	総論	救命救急蘇生学とは、集中治療医学とは、病院前救急医療、災害医療、ショックと蘇生	黒田
10	救急災害医学②	心停止・心肺脳蘇生	心肺停止の疫学、心脳蘇生法	高野
11	救急災害医学③	熱傷の病態と治療	重症熱傷総論、熱傷ショックとその治療	阿部
12	救急災害医学④	脳神経外科救急疾患	頭部外傷、脳卒中、意識障害、神経集中治療	河北
13	救急災害医学⑤	多発外傷	多発外傷疫学、外傷性ショック、初期治療、根本治療	篠原
14	救急災害医学⑥	中毒	急性中毒に対する総論、各論	定光
15	救急災害医学⑦	災害医療	災害医療総論、各論	大友

教科書・参考書等

Basics of Anesthesia 6th ed, Miller RD, Pardo Jr MC eds, Elsevier Saunders, 2011

TEXT 麻酔・蘇生学, 土肥修司 他編, 南山堂, 2014

周術期麻酔管理ハンドブック：理論から実践まで／救急から緩和まで, 小栗頭二 他編, 金芳堂, 2008

周術期管理チームテキスト第2版, 日本麻酔科学会, 2011

救急診療指針 改訂第4版 日本救急医学会 へるす出版 2011年

集中治療専門医テキスト 第2版 総合医学社 2015年

急性中毒診療レジデントマニュアル 医学書院 2012年

DMAT 完全マニュアル 大友康裕 メディカ出版 2009年

Textbook of Critical Care, 6th Edition, Vincent JL, Elsevier 2011

オフィスアワー

在室時は随時対応するので、あらかじめそれぞれ麻酔・周術期医学もしくは救急災害医学のアポイントを取ってください。

授業科目名

放射線ユニット

(英文併記 Integrated Lecture in Radiology)

科目区分 統合講義 授業コード 706150 DPコード bcxM

単位数 1 時間割 後期 対象年次及び学科 3 医学科

教員名

教授	西山 佳宏	(放射線医学)	教授	柴田 徹	(放射線治療科)
講師	山本 由佳	(放射線医学)	助教	高橋 重雄	(放射線治療科)
講師	木村 成秀	(放射線医学)	非常勤講師	笹川 泰弘	(放射線部)
学内講師	小野 優子	(放射線医学)			
学内講師	室田 真希子	(放射線医学)			
学内講師	佐野村 隆行	(放射線医学)			
助教	奥田 花江	(放射線医学)			
助教	井藤 千里	(放射線医学)			
病院助教	則兼 敬志	(放射線医学)			

授業の概要

放射線ユニットは画像診断、核医学、interventional radiology (IVR)、放射線治療、放射線障害・防護・安全管理を対象とした領域である。

画像診断、核医学では総論や胸部・腹部などの領域別に代表的疾患あるいは病態について、単純X線写真・CT・MRI・核医学検査等の読影法と鑑別疾患の考え方を講義する。

IVRは低侵襲性医療が叫ばれる今日、必要不可欠な治療法として目覚ましい発展・普及を遂げている分野である。IVRの概念および基本的手技とその適応について概説する。

放射線治療(放射線腫瘍学)の分野は放射線生物学や医学物理学の進歩を礎として発展し、全身の様々な腫瘍性疾患に対する集学的治療の三本柱(手術療法、化学療法、放射線治療)のひとつを担っている。各ユニットで扱う疾患毎の放射線治療の各論を理解するために、総論として放射線腫瘍学、放射線生物学の講義を行う。放射線治療の臨床を理解する上で重要となる放射線治療計画に関しても取り扱う。

放射線診療は、患者を対象として意図的に放射線をヒトに照射する。この行為が社会的に容認される理由は、放射線照射が患者の健康向上に直接的な利益が期待できるからである。このような医療における放射線の利用の特徴を理解して、患者のために安全に放射線を用いなければならず、放射線障害・防護・安全管理について講義する。

授業の目的

単純X線写真・CT・MRI・核医学検査等の基礎を理解し、代表的疾患あるいは病態について検査の適応、読影法と鑑別疾患について学ぶ。

IVRの基礎、基本的手技とその適応について学ぶ。

放射線治療の原理、方法、治療の適応と役割、臨床的意義について学ぶ。

放射線障害、防護、安全管理について理解する。

達成目標

- 1) 単純 X 線写真、CT、MRI、核医学検査の原理を説明できる。
- 2) 単純 X 線写真、CT、MRI、核医学検査の読影の原理を説明できる。
- 3) IVR の原理、適応を説明できる。
- 4) 放射線治療の原理を説明し、主な放射線治療法を列挙できる。
- 5) 放射線診断・治療による副作用と障害を説明できる。
- 6) 放射線防護と安全管理を説明できる。

成績評価の方法と基準

授業の出席状況、ユニット最終日に行う試験成績で評価する。

授業計画並びに授業及び学習の方法

回	項目	内容	担当
1	診断総論	画像診断の進め方について学ぶ。	放射線医学
2	CT 検査総論	CT 検査の基本、胸腹部の断層解剖の基本について学ぶ。	放射線医学
3	MRI 検査総論	MRI 検査の基本、中枢神経系の断層解剖の基本について学ぶ。	放射線医学
4	画像診断（脳・脊髄）	脳・脊髄の画像診断について学ぶ。	放射線医学
5	放射線腫瘍学 I	放射線治療の原理、方法、治療の適応と役割、臨床的意義について学ぶ。	放射線治療科
6	放射線腫瘍学 II	放射線治療の対象となる悪性腫瘍の生物学的、腫瘍学的特性を理解する。	放射線治療科
7	放射線生物学	生体と放射線の物理学的な相互作用、分子レベルから細胞レベルまでの生物学的効果について理解する。	放射線治療科
8	放射線治療計画総論	標的体積の設定方法、線量分布図を理解する。	放射線治療科
9	画像診断（副腎・女性器）	副腎・女性器の画像診断について学ぶ。	放射線医学
10	放射線障害・防護・安全管理	放射線障害、防護、安全管理について学ぶ。	放射線部
11	画像診断（肝・胆・膵・脾）	肝・胆・膵・脾の画像診断について学ぶ。	放射線医学
12	IVR 1	IVR の各手技と適応について学ぶ。	放射線医学
13	IVR 2	IVR の各手技と適応について学ぶ。	放射線医学
14	画像診断（心臓・脈管）	心臓・脈管の画像診断について学ぶ。	放射線医学
15	画像診断（頭頸部）	頭頸部の画像診断について学ぶ。	放射線医学
16	核医学検査総論	核医学検査の基本について学ぶ。	放射線医学
17	核医学 1	核医学の画像診断について学ぶ。	放射線医学
18	核医学 2	核医学の画像診断について学ぶ。	放射線医学

19	核医学 3	核医学の画像診断について学ぶ。	放射線医学
20	核医学 (RI 内用療法)	RI 内用療法について学ぶ。	放射線医学
21	画像診断 (胸部 1)	胸部の画像診断について学ぶ。	放射線医学
22	画像診断 (胸部 2)	胸部の画像診断について学ぶ。	放射線医学
23	画像診断 (消化管)	消化管の画像診断について学ぶ。	放射線医学
24	画像診断 (腎・尿路・男性器)	腎・尿路・男性器の画像診断について学ぶ。	放射線医学
25	画像診断 (骨・関節・軟部組織)	骨・関節・軟部組織の画像診断について学ぶ。	放射線医学

教科書・参考書等

1. 西谷 弘、他：標準放射線医学 第7版 (医学書院)
2. 井上 俊彦、他：放射線治療学 改訂5版 (南山堂)
3. 青山 番、他：放射線基礎医学 改訂12版 (金芳堂)
4. 日本放射線腫瘍学会編：放射線治療計画ガイドライン2012年版 (金原出版)
(URL: <http://www.jastro.or.jp/guideline/child.php?eid=00007>)

オフィスアワー

随時対応するが、各担当講座の医局に連絡をしてアポイントメントを取ること。

授業科目名

課題実習

(英文併記 Research Lab Training)

科目区分 統合講義 授業コード 703725 DPコード cbaM

単位数 2 時間割 後期 対象年次及び学科 3 医学科

教員名

荒木 伸一 (コーディネーター)

配属先の教員 (ガイドブック参照)

授業の概要

医学科全講座およびその他の研究室にそれぞれ1～4名配属し、基礎医学・臨床医学研究を中心とした実習を行います。また、徳島文理大学香川薬学部(3大学連携事業による)、ブルネイ・ダルサーラム大学の研究室における実習のほか、学外医療機関での地域医療に関する実習も予定しています。

平成27年度は2月8日(月)～3月4日(金)に行ない、この期間中は他の授業はいっさいありません。

配属先はひとり1ヶ所で、3年次の学生代表が中心になって学生が自主的に決定します。同一講座、研究室に募集人数を越える配属希望者がいる場合は学生間で自主調整を行ないます。

授業の目的

近年、若手医師の臨床志向に伴って医学研究を志向する医師が減少し、将来の我が国における医学教育、研究の質の低下が懸念されている。医学・医療の高度化の基盤を担う優れた研究医を養成するためには、早期に研究現場を体験し、医学研究の意義、重要性を知るとともに、研究の魅力、面白さを体感してもらうことが重要である。この実習では、各分野での研究方法、実験手技を学ぶとともに、課題探求能力、リサーチマインドを培う。

達成目標

- ・各講座、部内、グループで行われている研究内容を理解し、最先端の研究に触れることができる。

成績評価の方法と基準

出席状況、実習態度、レポート、研究倫理教育に関するeラーニングなどにより総合的に判断する。

授業計画並びに授業及び学習の方法

各講座、部内、グループにより異なる。内容は、ガイドブックに記載されている。配属先が決定したら、実習期間が始まる前に配属先へ打ち合わせに行き、指示を受けること。

授業計画

各講座、部内、グループにより異なる。

教科書・参考書等

オフィスアワー

授業科目名 (時間割コード: 050402) 高学年向け教養科目 上級英語 Advanced English I (2) Interview and presentation	科目区分 高学年向け教養 科目	DPコード axxG	分野コード
	単位数 2	時間割 前期 月5	
担当教員名 ウィル・イアン・デビッド (大学教育開発センター)	対象年次及び学科 3~ 全学共通科目		
	関連授業科目 Communicative English I, II, III, & IV		
	履修推奨科目		
学習時間 90 min classes X 15 class meetings; + 90~180 min out-of-class work per week.			
授業の概要 This course is for students who hope to sharpen their formal English communication skills. Students will learn valuable interview techniques and have many opportunities to discuss and debate topics with classmates in English. Students aiming for advanced level English skills, or who are considering studying abroad, are welcome to join this class.			
授業の目的 Through this course, students will become enabled to participate actively in interviews and discussions in English, as well as deliver short English presentations.			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
Through this course, students will become able to: 1) speak actively in English in group and class discussions; 2) speak actively in English in one-on-one interviews; 3) prepare and deliver short English presentations using PowerPoint.			
成績評価の方法と基準 Students' grades will be based on the following: 30%: Participation (in-class effort) 40%: Short presentations (3) 30%: Final interview			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
授業及び学習の方法 Useful techniques and practice for English interview tests, such as on the IELTS, will form the core of class activities. We will discuss and debate readings and other materials (for example, newspaper articles and films) and engage in group work and short presentation tasks. Students will give 3 short presentations during the semester: a self-introduction, a group "PechaKucha" presentation, and a short class lesson. At the end of the semester all students will do an IELTS-style one-on-one interview with the teacher as their final examination. Size of the class and calendar events may affect the sequence of the activities below. (1) Introduction to class and students; Warm-up topics (2) Presentation 1: Self-introductions (3) About the IELTS Speaking test: Part 1 (4) About the IELTS Speaking test: Part 1 continued (5) About the IELTS Speaking test: Part 2 (6) Presentation 2: PechaKucha presentation (7) About the IELTS Speaking test: Part 2 continued (8) About the IELTS Speaking test: Part 3 (9) About the IELTS Speaking test: Part 3 continued (10) Presentation 3: Short lessons (11) Presentation 3: Short lessons (continued, if necessary) (12) IELTS practice tests (13) IELTS practice tests (14) Final interviews (15) Final interviews Suggestions for Self-study: Assignments will be explained in each class, and will include advice on how assignments can be completed efficiently.			
教科書・参考書等 A textbook is not required for this course. Readings will be provided by the instructor, and students will regularly be asked to find readings on their own.			
オフィスアワー Thursdays 13:00-15:00, at Saiwai-cho campus only. Students can contact the instructor via this e-mail address: ianwill@cc.kagawa-u.ac.jp			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 4回以上の欠席回数の場合は単位を与えられません。			

授業科目名 (時間割コード: 050405) 高学年向け教養科目 上級英語 Advanced English II (2) Academic writing	科目区分 高学年向け教養 科目	DPコード axxG	分野コード
	単位数 2	時間割 後期 月5	
担当教員名 ウィル・イアン・デビッド (大学教育開発センター)	対象年次及び学科 3~ 全学共通科目		
	関連授業科目 Advanced English I (Not required)		
	履修推奨科目		
学習時間 90 min classes X 15 class meetings; 90~180 min out-of-class work per week			
授業の概要 This course focuses on English academic writing, in particular timed-task essay writing, summarizing and paraphrasing, and the personal statement essay. Students interested in studying abroad or taking the IELTS or TOEFL are recommended to join this class.			
授業の目的 This course builds upon the academic English skills that students have gained in Communicative English I~IV, with a focus on productive writing skills.			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
Through this course, students will become able to: 1. write timed-task academic essays in English (for IELTS); 2. summarize and paraphrase academic passages; 3. write an effective personal statement essay			
成績評価の方法と基準 Students' grades will be based on the following: 30%: Participation (in-class effort) 70%: Writing assignments (5-6)			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
Each class meeting will address an aspect of writing. Focus will fall on 1) the IELTS Writing test (Tasks 1 & 2); 2) summarizing and paraphrasing academic passages; and 3) writing a personal statement essay. Writing will be done in class and as homework. The last 30 minutes of class will usually be devoted to discussion, group work, or other communicative tasks.			
Depending on the number of students enrolled and calendar events, the schedule below may be adjusted slightly.			
(1) Introductions; Practice IELTS essay task (2) IELTS Task 1 (3) IELTS Task 1 (continued) (4) IELTS Task 2 (5) IELTS Task 2 (continued) (6) Practice IELTS Writing Test (7) Summarizing (8) Summarizing (continued) (9) Paraphrasing (10) Paraphrasing (continued) (11) A break: Freewriting! (12) Personal statement essay (13) Personal statement essay (continued) (14) Personal statement essay presentation (15) Review and wrap-up			
Suggestions for Self-study: Assignments will be explained in each class, and will include advice on how assignments can be completed efficiently.			
教科書・参考書等 There will be no textbook for this course. Handouts will be provided by the instructor, and students will regularly be expected to find readings (for example, English articles) using on-line resources.			
オフィスアワー Thursdays 13:00-15:00, at Saiwai-cho campus only. Students can contact the instructor via this e-mail address: ianwill@cc.kagawa-u.ac.jp			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 4回以上の欠席回数の場合は単位を与えられません。			

シラバス

4 年次生

臨床英語

衛生学

公衆衛生学

法医学

循環器系、腎・尿路系 (unit3)

生理・薬理実習

感染症、血液・造血器・リンパ系、免疫・アレルギー-疾患 (unit4)

呼吸器系 (unit5)

生殖機能、妊娠と分娩、乳房、成長と発達 (unit7)

皮膚系、眼・視覚系、耳鼻・咽喉・口腔系 (unit8)

臨床総論講義

授業科目名

臨床英語

(英文併記 Clinical English)

科目区分 学際医学 授業コード 703910 DPコード abxM

単位数 1 時間割 後期 対象年次及び学科 4 医学科

教員名

Ian Willey (大学教育基盤センター准教授)

Gerardine McCrohan (大学教育基盤センター講師)

授業の概要

This course will continue students' education in basic medical English begun in the *Medical English* course. *Clinical English* will focus on English used in specific medical departments as well as in clinical interviews. Your professional English communication skills will improve in this class.

授業の目的

Specifically, this course aims to develop students': 1) questioning skills; 2) history-taking skills; 3) instruction skills; 4) explanation skills (speaking simply and clearly); 5) cultural competence; and 6) writing skills. Through this practice, students' knowledge of medical English vocabulary and expressions will also be developed.

達成目標

Through this course, students will become enabled to:

- Initiate interviews with patients in English;
- Obtain the history of present illness and social histories from patients;
- Inquire about the location, duration, and intensity of pain/symptoms in medical interviews;
- Use different kinds of questions (e.g., open-ended) and techniques to elicit refined information from patients;
- Respond appropriately to patients' questions and concerns;
- Explain medical terminology and conditions in easy-to-understand "laymen's" English;
- Write in English with greater fluency and confidence.

成績評価の方法と基準

30%: Mid-term exam

40%: Final project

30%: Notebook homework

授業計画並びに授業及び学習の方法

Class work will center on activities in the textbook (you must bring your textbook to every class) as well as on handouts

and other materials provided by the instructor. On occasion videos (e.g. doctor-patient interviews) will be shown and discussed in class. Writing and speaking tasks will often be done in class. Approximately once per month a clinician will visit the class to discuss English-related medical topics.

- (1) Introductions; Work resumes on *Professional English in Use: Medicine (PEIUM)*
- (2~12) *PEIUM (7: Mid-term exam)*
- (13-14) *PEIUM*; Final project assigned & workshop
- (15) Final projects due

教科書・参考書等

教科書

Glendinning, E. H., & Howard, R. (2007). *Professional English in Use Medicine*. Cambridge: ISBN 978-0-521-68201-5

宮脇書店〔医学部三木町キャンパス〕で購入し、最初の授業に持参すること。

参考書

特になし。

オフィスアワー

At Saiwai-cho campus only. For inquiries: ianwill@cc.kagawa-u.ac.jp; mccrohan@cc.kagawa-u.ac.jp.

授業科目名

衛生学

(英文併記 Hygiene)

科目区分 社会医学

授業コード 704400

DPコード cbdM

単位数 2 時間割 通年 対象年次及び学科 4 医学科

教員名

准教授 宮武 伸行

非常勤講師

助教

浅川 富美雪 (倉敷芸術科学大学)

教授 平尾 智広 (公衆衛生学)

須那 滋 (香川県立保健医療大学)

助教 依田 健志 (公衆衛生学)

菅沼 成文 (高知大学)

特命助教 鈴木 裕美 (公衆衛生学)

河島 昌典 (はしもとじんクリニック)

竹内 靖人 (中央労働災害防止協会)

坂野 紀子 (岡山大学)

授業の概要

衛生学は、人間が健康である状態（「生」＝生命および生活の健全な保持）を守る（「衛る」＝疾病予防、健康増進）ための知識と技術の体系です。19世紀後半に確立された医学の重要な一分野である「Hygiene」を明治の先人達が「莊子」を引用して衛生学と訳したものです。したがって、衛生学には生理学などの基礎医学の分野である自然科学的な面と人文社会科学的な面が含まれ、両者を統合したものとして学問体系が作られています。同様な学問的意義を有する「公衆衛生学」とは、有機的に連携し、役割分担されているので、両者を学ぶことで、学習の目的が達せられます。

衛生学では、集団および個人の健康と疾病（事故を含む）について、基礎医学および臨床医学や社会科学などの知識と技術を応用し、宿主要因（host）および病因（agent）、環境要因（environment）の3方面から総合的に理解し、健康の保持・増進と疾病・異常の成立過程を明らかにし、疾病の防止対策を実践できるための基礎的知識と技術を修得します。

そのために集団および個人を取り巻く自然環境（物理、化学、生物学的）および生活環境（住居、食生活など）や社会環境（地域、産業など）の各種環境が及ぼす身体的・精神的影響について、その基礎的知識を修得します。また、集団における健康水準と疾病異常を測定する基礎的知識と技術を修得するとともに疾病予防対策の立案、評価に必要な基礎的知識と技術を疫学（epidemiology）として学習します。

健康福祉及び生活環境に関連する学外機関・施設の見学・体験学習をすることにより、健全な社会生活の維持に果たすこれら機関・施設の衛生的意義と役割についても学習します。

授業の目的

医師として、全ての国民が健康である状態を守るために、以下のことを理解、習得する。

- 1 自然環境および生活環境や社会環境とヒトとのかかわりあいや、これらの環境の人体に及ぼす影響
- 2 環境因子による人体影響や疾病異常の対策および環境因子の制御に関する基礎的知識

- 3 各種環境要因の基礎的測定および評価法
- 4 疫学概念とその応用
- 5 集団の健康水準と疾病異常の基礎的測定および評価法

達成目標

- 1 各種環境要因とヒトとのかかわりについて論述することができる。
- 2 各種環境要因の人体影響について論述することができる。
- 3 働く人の健康管理について論述することができる。
- 4 疫学的手法を用いて、集団の健康水準や疾病異常を測定・評価することができる。
- 5 健康増進や疾病予防の方策を立案し、評価することができる。

成績評価の方法と基準

1 評価方法

試験、学習態度（出席等）、レポート等を総合して評価します。

2 試験

講義、実習の最後に実施します。

授業計画並びに授業及び学習の方法

大学全体のカリキュラム編成上、衛生学が分担できる授業時間は多くありません。しかしながら、講義、実習は、衛生学を学習するにあたっての「基礎」であり、「出発点」です。講義、実習では基本的な「事柄」と「考え方」を学習し、各人で応用していただくことが必要となります。講義された内容と考え方だけが、総てではありませんので、講義項目のより深い理解には図書館等に準備されている関連書籍などによる自主的学習を適宜行ってください。出席せずに、単位認定試験目的で他人のノートを複写するというような態度は厳に慎んでください。衛生学は人間を集団として扱うことが多い学問領域ですが、将来基礎研究や臨床を行っていく上で必ず必要となります。また、そういう視点でも学習していくことが必要です。

回	大項目	項目	内容	担当者
1	疫学	オリエンテーション、疫学（1）	疫学概念、事例から学ぶ疫学の基礎	宮武
2		疫学（2）	疫学理論（1）率と比、スクリーニング、感度、特異度、相対頻度、罹患率、有病率、死亡率、致命率、人年法、標準化死亡比、年齢調整死亡率など	宮武
3		疫学（3）	疫学理論（2）疫学調査、サンプリング、記述疫学、生態学的研究、Case-control study など	宮武
4		疫学（4）	疫学理論（3）Cohort study, RCT (Randomized Controlled Trial)、メタアナリシス、統計など	宮武
5		疫学（5）	事例をとおして（1-4）の理解を深める	宮武 坂野

6		疫学（6）	事例をとおして（1-4）の理解を深める	宮武 坂野
7		疫学（7）	疫学特論（薬剤開発、臨床試験、熱帯医学など）	河島
8	保健統計	人口・保健統計	人口、人口の現状と動き、国勢調査、人口静態統計調査、人口動態統計調査出生、死産、死亡、合計特殊出生率、人口再生産、生命表、生命関数と平均余命、国民生活基礎調査、患者調査、国際疾病分類（ICD）など	宮武
9	食品保健	栄養・食品保健	健康増進法、国民栄養、栄養所要量、特定保健用食品、食品衛生法、食品衛生行政と自主管理、食中毒、食中毒の動向と関連事項、食中毒原因調査と対策、食品の安全性、食品添加物、輸入食品、遺伝子組換え食品など	須那
10	環境保健	環境保健（1）	概論、生態系の成り立ち、地球環境問題と健康影響、環境基本法、化学的環境要因、廃棄物、ダイオキシン類など	坂野
11		環境保健（2）	公害、環境汚染（大気、水）、環境基準と環境影響評価、生活環境と健康（シックハウス症候群）など	浅川
12		環境保健（3）	有害化学物質による健康影響、化学物質のリスク管理、作業環境管理など	竹内
13	産業保健	産業保健（1）	産業保健概論、産業医など	宮武
14		産業保健（2）	職業性肺疾患	菅沼
15 16 17	環境実習	環境測定実習	予め用意した環境測定機器を用いて、グループごとに各種環境測定、結果の考察を行う。	宮武 坂野
18 19 20 21	社会医学活動 の実際	実地見学	香川県環境保健研究センターを訪問し、環境保健を中心に 見学し、理解を深める。	宮武
22～ 33	社会医学実習	実習	グループごとに、保健、医療、福祉、環境に関するテーマ を選択し、文献学習、情報収集、実地訪問調査（フィールド ワーク）等を行い、それぞれのテーマについて理解を深 める。	全員
34 35 36		実習発表会	グループごとに行った学習内容、調査研究成果を発表し、 ディスカッションを行う（全体発表会）。	全員
37		試験	衛生学試験	試験を行う。

教科書等

- 1 教科書：とくに指定しません。
- 2 講義は教員の作成したスライド、プリントに基づいて行います。

参考書

「国民衛生の動向（最新版）」他、総合的な衛生学書，講義項目別の分野別図書，国試対策用図書，人文科学関係図書など多数図書館に準備されていますので、用途に応じて自主的に使用してください。

オフィスアワー

適宜、衛生学事務室に連絡をとってください。Email: eisei@med.kagawa-u.ac.jp

授業科目名

公衆衛生学

(英文併記 Public Health)

科目区分 社会医学

授業コード 704410

DPコード cbdM

単位数 2 時間割 通年 対象年次及び学科 4 医学科

教員名

教授	平尾 智広	非常勤講師
講師	依田 健志	
特命助教	鈴木 裕美	實成 文彦 (香川大学名誉教授)
准教授	宮武 伸行 (衛生学)	星川 洋一 (香川県健康福祉部)
		万波 俊文 (麻田総合病院)
		住友 正幸 (徳島県立三好病院)
		鈴江 毅 (山陽学園大学)

授業の概要

公衆衛生学は人々の健康生活を守り増進することを目的とした、包括的、学際的かつ集学的な学問体系です。医師法には、医師の責務として「医療および保健指導を掌ることによって、公衆衛生の向上および増進に寄与し、もって国民の健康な生活を確保する」ことが明記されており、医師は公衆衛生活動の中核を担うことが期待されています。このため、公衆衛生学においては、多要因から成る健康の成り立ちを理解し、健康的な生活の保持増進と疾病の予防のために、広い視野に立って考え行動することができるように、知識と技術および方法論を修得します。なお、衛生学とは同様の学問的意義を有するために完全に連携し、役割分担しており、両者を修得することによって学習目的が達成されます。

授業は講義、グループワークを中心に行い、知識や理論の学習、ケースに基づいたディスカッション、学外での体験学習・訪問調査を組み合わせ理解を深めます。

まず「社会医学総論」として、健康の概念、健康及び病気と社会との関係、わが国の保健医療制度、社会保障、関係する行政と法規、社会医学・医療の倫理などの基本的事項について学習します。さらに「社会医学各論」として、母子保健、学校保健、高齢者保健・福祉、精神保健、地域保健、「疾病対策」として、がん、循環器疾患、感染症の対策、「特論」として、地域医療、国際保健、健康危機管理、災害と公衆衛生、医療の質について学習します。

実習は学外での体験学習を重視し、施設等の見学訪問により実際の活動に接するとともに、スモールグループ・ディスカッションを行い理解を深めます。また、希望者には行政機関、医療機関等における保健活動の実際を体験する機会を提供します。

授業の目的

医師として、広い視野に立って、人々の健康的な生活の保持増進と疾病予防のために考え行動することができるように、以下のことを修得します。

- 1) 健康事象を人と社会・環境の相互作用として捉え、疫学および生態学的に理解する。
- 2) 人間集団の観察技術を身につけ、社会集団や地域における健康問題を分析し、考察する。
- 3) 広い社会的視野を持ち、社会変動と健康の関係を洞察し、病者、住民および社会のニーズを的確に判断し、適切に対応する。

達成目標

- 1) 健康事象の成り立ちを疫学および生態学的な観点より分析し述べることができる。
- 2) 社会変動と健康の関係について具体的事例を挙げて述べるができる。
- 3) 社会医学のプロセスについて具体的事例を挙げて説明することができる。
- 4) わが国の医療制度について述べるができる。
- 5) 社会保障の概念とわが国の状況について述べるができる。
- 6) 各論的事項（母子保健・学校保健・高齢者保健・高齢者福祉・精神保健・地域保健・国際保健等）について要点を説明することができる。
- 7) 疾病対策について要点を説明することができる。
- 8) 公衆衛生活動の現状を述べ、これらについて論じることができる。
- 9) 病者、住民および社会のニーズを把握し、解決策を考えることができる。

授業及び学習の方法

講義内容、配布資料を中心に授業を進めますが、これまでに習得した臨床医学や基礎医学の知識、経験を活用し、医療の現場で役に立つ知識や思考法を身につけてください。受講にあたっては推薦参考書やインターネット、新聞を利用した予習、復習が望まれます。

ポイント

- 1) 臨床医学を支える基礎理論として基礎医学と社会医学があり、良き臨床を行うためには社会医学（公衆衛生学、衛生学）の知識と実践が必要不可欠です。
- 2) 基礎医学は主に生物学的医学で、人体を細分化しミクロの方向へ探求するのに対し、社会医学では人を集団として捉え、主に人体の外部、すなわち自然環境や社会環境との関係性を探求します。「社会」は具体的に手に取って見ることはできませんが、蓋然と存在しています。本科目の履修の過程でその捉え方、考え方を習得してください。
- 3) 実習では実社会の問題を取り上げます。実社会の問題は机上の理論とは異なり、単純に正解は導かれません。考えられるベストの解決を図るには、多くの情報を統合し人知を結集する必要があります。実習の成果をあげるためには、各人の熱意と積極的な行動が期待されます。また学生間、教員等とのディスカッションは、社会医学のダイナミックな理解の上で大変有意義です。大に行ってください。
- 4) インターネット、新聞、テレビの活用は社会の動きを知り、社会医学のダイナミックな理解の上で大変有用です。最近の例としては、新型インフルエンザ、自殺、メタボリック・シンドローム対策、医療崩壊、少子化対策、環境問題等があげられます。

成績評価の方法と基準

1. 授業参加の程度
2. 講義、実習時のレポート
3. 社会医学実習の取り組み姿勢及び発表内容
4. 筆記試験
5. 上記を総合して可否の判定を行います。

授業計画

回	大項目	項目	内容	担当者
1	社会医学総論	オリエンテーション 社会医学概説	講義・実習の位置づけ、学習上の留意事項 実習オリエンテーション 社会医学の位置づけ	平 尾
2		健康と政策（1）	健康の定義、歴史、医学・医療の社会的適用、健康及び病 気と社会との関係、患者・家族との関係	平 尾
3		健康と政策（2）	ライフステージと健康問題、集団へのアプローチ、ヘルス プロモーションの概念、医療の質の評価	平 尾
4		医療制度	わが国の医療制度、医療需要、供給体制、地域医療再生	平 尾
5		社会保障	社会保障の概念と機能、わが国の社会保障	平 尾
6		医療保障	医療ファイナンス、医療保険制度、国民医療費、診療 報酬・薬価、包括評価	依 田
7		医療関連法規と倫理	医師の法的責任、医師法、医療法、その他保健衛生関係法 規、医療と倫理、医師の職業倫理、社会医学と倫理、生物 医学研究における倫理、インフォームド・コンセント、患 者の権利	依 田
8	高齢者の保健 と福祉	高齢者保健・福祉（1）	高齢者の特徴、ねたきり、認知症、ADL、介護保険、介 護施設、在宅介護、介護予防、在宅医療	平 尾
9		高齢者保健・福祉（2）	地域における高齢者保健・福祉の展開、高齢者保健・福祉 関連法規、現状と課題	平 尾
10	児童・母子の保 健と福祉	母子保健・福祉	母子の健康管理、主な健康問題とその要因、母子保健統計、 制度・施策、労働と母性保護、先天異常、障害児	鈴 木
11		学校保健・福祉	学校保健の意義と仕組み、学校医の職務、学齢期好発疾患 と健康管理、体力・体格・発育、発達障害、健康診断、健 康相談、学校安全教育、学校給食、学校伝染病	鈴 江
12	精神保健・福祉	精神保健・福祉	精神保健の意義と仕組み、精神保健福祉法、精神障害者の 医療、社会復帰と社会参加、精神保健福祉センター、自殺 予防、メンタルヘルス対策	鈴 江

13	地域保健・福祉	地域保健・福祉	地域保健の意義と仕組み、地域保健法、保健所、保健センター、健康づくり対策、NPO、難病	依田
14	疾病対策	生活習慣病対策	糖尿病・脂質異常症の疫学、メタボリックシンドローム、死の四重奏、特定健康診査、特定保健指導	依田
15		がん対策	がんの疫学、がん予防、がん対策基本法、がん検診、がん診療拠点病院、禁煙指導	依田
16		循環器の疫学	心疾患、脳血管疾患の疫学、リスクファクター、予防対策	万波
17		感染症対策	感染症予防法、検疫、届出義務、予防接種、感染症サーベイランス、結核対策、HIV対策、ウイルス肝炎対策	依田
18		地域医療	地域医療の現状と課題、医療の質の確保、医療連携	住友
19	社会医学特論	国際保健	国家・社会間の健康格差、プライマリーヘルスケア、国際社会の対応、わが国の国際保健医療協力、新興・再興感染症、健康転換、難民・人道援助・災害救援	依田
20		行政医師の仕事	行政職としての医師の役割、地域保健行政、行政医師の仕事の実際	星川
21		災害・危機対応と公衆衛生	大規模災害における行政と医療の連携、避難民の健康管理、医療資源の活用、リスクマネジメント	平尾
22		医療の質	医療安全、医療事故、病院機能評価、クリニカルパス、リスク管理、プロセス管理、臨床指標、患者満足度	平尾
23		社会医学実習	実習	グループごとに、保健・医療・福祉に関するテーマを選択し、文献学習、情報収集、実地訪問調査等を行い、それぞれのテーマについて理解を深める。(グループワーク)
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
31				
32				
33	実習発表会		グループごとに行なった学習内容、調査研究成果を発表し、ディスカッションを行なう。(全体発表会)	全員
34				
35				
36		公衆衛生学試験		全員

教科書

とくに指定しません。

参考書

国民衛生の動向<2014/2015> 厚生労働統計協会 2014. 厚生指標増刊.

国民の福祉と介護の動向<2014/2015> 同上 2014. 厚生指標増刊.

保険と年金の動向<2014/2015> 同上 2014. 厚生指標増刊.

総合的な衛生学・公衆衛生学書, 分野別図書等多数あるので, 用途に応じて用いてください。

オフィスアワー

随 時 公衆衛生学事務室、または教員に連絡をとってください。

授業科目名

法医学

(英文併記 Forensic Medicine)

科目区分 社会医学

授業コード 704421

DPコード bcdM

単位数 2

時間割 通年

対象年次及び学科 4 医学科

教員名

教授 木下 博之

非常勤講師

助教 Mostofa Jamal

浅野 水辺 (愛媛大学大学院 教授)

助教 田中 直子

飴野 清 (香川大学 前准教授)

及川恵美子 (厚生労働省 国際分類分析官)

瀬戸 康雄 (科学警察研究所 法科学第三部 部長)

西村 明儒 (徳島大学大学院 教授)

山田 良広 (神奈川歯科大学 教授)

山本 光昭 (厚生労働省 近畿厚生局長)

授業の概要

法医学は、法律を運用するうえで医学的判断を必要とする様々な問題について対応する。法医学の領域は自然科学から社会科学まで多種多様であり、医学においても基礎医学のみならず社会医学や臨床医学全般にわたる幅広い知識の修得が求められる。

医師は患者の診療や死体の検査（死体検案）に際し、司法や行政機関などから種々の医学的判断を求められることがある。これらに対する確に対処するためには法医学的知識が必要である。また、医師は独自の判断（裁量）で治療を行い、書類（各種診断書）を作成することができるが、場合により法的あるいは道徳的規制を受けることがあることを知る必要がある。

医師の診療を受けずに死亡した人や事故、自殺、他殺により死亡した人（これらを異状死体という）の大部分は、一部の地域を除き臨床医により検案が行われているのが現状である。正しい死亡時刻や死因を判断し、隠された犯罪死体や中毒死体を見逃さぬためには、死後に起こる種々の変化や損傷の詳細な観察法を身につけ、さらに疾病についての十分な知識をふまえ死体検案する能力を修得する必要がある。患者の診療においても、各種の損傷、中毒物質の毒性や症状についての知識は診断・治療の質の向上につながる。さらに血液型については、ABO式やRh式血液型以外の多数の血液型の存在を知り、それらの検査法、遺伝形式及び臨床上問題となる点を理解し、DNA検査による個人識別の現状を理解する。

講義中に呈示される多くの例から、医学的知識の修得だけでなく、幅広い教養の必要性を感じ取り、医の倫理を身につけることの重要性を認識する。

授業の目的

法律に関わる医学的諸問題を広く取り扱い、これらに対し医学的に公平な判断を下すため、人の死にかかわる重要事項を認識し、さらには医療に関連する法律を把握した上で、個人の基本的人権を擁護し、社会の安全に寄与できる基礎的知識を習得する。

さらに、外傷の患者や薬毒物中毒の患者についての的確で迅速な治療を行うため、損傷の性状を十分に把握し、また薬毒物に対する生体側の反応を正確に評価する方法を身につける。

達成目標

1. 死体现象から死後の経過時間を判断することができる。
2. 創傷の性状とその成因を具体的に述べることができる。
3. 中毒物質の作用メカニズムについて説明することができる。
4. 血液型の遺伝形式、亜型、各種検査法の原理を述べることができる。
5. 窒息の特徴的所見を説明することができる。
6. 医療に関連した法律を理解し、違法の場合を討議することができる。
7. 医療にかかわる紛争の原因を知り、その防止法を示すことができる。
8. 実習における実験結果をまとめ、その内容について発表・討議することができる。

成績評価の方法と基準

1. 実習期間中に実習レポートを提出し、時間内に試問、討論するなど理解度を評価する。
2. 実習中の取り組み方、実習態度を評価する。
3. 講義の出席状況、受講態度を評価する。
4. 講義、実習終了後筆記試験を行う。
5. 上記の評価を総合して合否の判定を行う。

授業計画並びに授業及び学習の方法

法医学の範囲は広く、これを短期間にすべて網羅することは不可能である。従って講義内容は医師として知っておいてもらいたい項目について重点的に行うので、講義中にしっかりと覚える習慣を身につけることを要望する。また法医学の用語は他の学科で学習しないものが多く、言葉の説明のみでは理解出来ないものが多いので、講義ではできるだけ多くの写真や図を使用して説明する。

回	大項目	項目	内 容	担当者
1	法医学総論	総 論	法医学とは、歴史的背景	木 下
2			解剖、死体検案、死の判定	木 下
3	法医学各論	死体现象	早期死体现象	木 下
4			晚期死体现象、特殊な死体现象	木 下
5		損 傷	総論、創傷の観察	木 下
6			鋭器損傷、銃器損傷	木 下
7			鈍器損傷	木 下
8			交通事故損傷	木 下
9		窒 息	総論	木 下
10			縊死	浅 野
11			絞死、扼死	浅 野

12		溺死、その他の窒息	木 下
13	血液型・個人識別	A B O型、R h 式	田 中
14		個人識別 総論	木 下
15		DNA型による個人識別	山 田
16		歯による個人識別	山 田
17	中 毒	総論	飴 野
18		医薬品	飴 野
19		アルコール	飴 野
20		有機溶剤	飴 野
21		CO中毒	飴 野
22		農薬	飴 野
23		科学捜査	瀬 戸
24		科学捜査	瀬 戸
25	法医病態	中枢神経系の法病理	木 下
26		中枢神経系の法病理	木 下
27	内因死	内因性急死	木 下
28	小児の法医学	嬰兒殺、児童虐待	木 下
29	異常環境	温度異常	木 下
30		感電、熱中症、その他	木 下
31	法医学と社会	わが国の保健医療の動向と医師に期待される役割	山 本
32		大災害と法医学	西 村
33		大災害と法医学	西 村
34		検案の実際	木 下
35		死亡診断書・死体検案書	木 下
36		事例検討	田 中
37		国際疾病分類 (ICD)	及 川
38	トピックス	関連領域 (1) 矯正医療	木 下
39		最近の話題 (1)	木 下
40		最近の話題 (2)	木 下
41		最近の話題 (3)	木 下
42	実 習	実習講義	全 員
43		血液型学 (血液型検査)	全 員
44		薬毒物・血痕検査 (アルコール、催眠薬など)	全 員
45		中毒学 (CO、シンナー、パラコート)	全 員
46		死亡診断書 (死体検案書) 作成演習	全 員

教科書・参考書等

- | | | | |
|---|--|----------------------|-------|
| 1 | 石津日出雄、高津光洋 監修 | 標準法医学（第7版） | 医学書院 |
| 2 | 高取健彦 監修 | NEW エssenシャル法医学（第5版） | 医歯薬出版 |
| 3 | 福島弘文 編 | 法医学（改訂3版） | 南山堂 |
| 4 | 勾坂 馨 編 | 法医学小辞典 | 南山堂 |
| 5 | P. J. Saukko, B. Knight, Knight' s Forensic Pathology (3 rd ed), Hodder Arnold | | |
| 6 | J. Payne-James, R. Jones, S.B.Karch, J. Manlove, Simpson' s Forensic Medicine (13 th ed), Hodder Arnold | | |

オフィスアワー

在室時は随時対応する。あらかじめメール等でアポイントを取ってください。

授業科目名

循環器系 (unit3A)

(英文併記 Integrated LectureⅢA)

科目区分 統合講義 授業コード 705021A DPコード bcxM

単位数 6 (3A・3B) 時間割 前期 対象年次及び学科 4 医学科

教員名

教授	三木 崇範 (神経機能形態学)	教授	平野 勝也 (自律機能生理学)
教授	上野 正樹 (炎症病理学)	講師	千葉 陽一 (炎症病理学)
教授	堀井 泰浩 (心臓血管外科学)	准教授	山下 洋一 (心臓血管外科学)
教授	日下 隆 (小児科学)	助教	西庄 佐恵 (小児科学)
准教授	田中 宏和 (周産期学婦人科学)	講師	安藤 延男 (精神神経医学)
教授	黒田 泰弘 (救急災害医学)	准教授	小堀 浩幸 (薬理学)
教授	西山 佳宏 (放射線医学)	助教	高島 渉 (臨床検査部)
助教	石井 知也 (血液・免疫・呼吸器内科学)	講師	野間 貴久 (循環器・腎臓・脳卒中内科学)
学内講師	村上 和司 (循環器・腎臓・脳卒中内科学)	学内講師	石川かおり (循環器・腎臓・脳卒中内科学)
学内講師	石澤 真 (循環器・腎臓・脳卒中内科学)	学内講師	石原 靖大 (循環器・腎臓・脳卒中内科学)
助教	河上 良 (循環器・腎臓・脳卒中内科学)	病院助教	石原 尚子 (循環器・腎臓・脳卒中内科学)
教授	河野 雅和 (循環器・腎臓・脳卒中内科学) (ディレクター)		
准教授	大森 浩二 (循環器・腎臓・脳卒中内科学) (サブディレクター)		

非常勤講師

伊藤 貞嘉 (東北大学大学院医学系研究科 腎・高血圧・内分泌学分野 教授、薬理学)
長谷川 浩一 (はせ川内科循環器科医院 臨床教授、循環器・腎臓・脳卒中内科学)
小坂 信二 (薬剤部、薬理学)
谷田 尚樹 (香川県済生会病院 循環器内科部長、循環器・腎臓・脳卒中内科学)

授業の概要

ユニット3の第6週目に始まる3A(循環器)では、心臓と血管の解剖、心臓機能生理、心臓電生理についての基礎講座による講義と、その内容に対応するX線、超音波などの画像診断および心電図診断についての臨床講座による講義を織り交ぜて配置することにより、基礎的事項と臨床をリンクして効率的に理解できるよう工夫した。

当ユニットでは、症候論のうち、胸痛、呼吸困難、チアノーゼ、動悸、ショックを担当する。このうち、胸痛は4週に亘るチュートリアル(problem based learning)の課題に取り上げ、その展開に同期するように、各論のうち虚血性心疾患を先頭に講義を配置し、理解の促進を図った。各論としては、不整脈、弁膜症、先天性心疾患、心筋心膜疾患について、小児科、循環器内科、心臓血管外科、薬理学がそれぞれの専門的立場から講義を行い、小括的に、これらの共通症候である心不全の病態・診断・治療について学習する。

また、第8週目の金曜日には、トピックス的に、国際的な権威である伊藤貞嘉教授(東北大学)の指導により、予防医学的な重要概念である心腎連関について2コマに亘って学習する。第9週目には血管疾患として、動脈疾

患と、深部静脈血栓症、その連続病態である肺塞栓症について学ぶ。さらに、第 10 週目（最終週）には高血圧について学習する。これらの間に、上記、胸痛以外の症候論として、動悸、チアノーゼ、息切れ、各種ショックを取り上げ、それぞれについて各領域の専門医のガイダンスのもと学習する。また、第 7 週目以降の水曜日には、3 週間に亘って、心疾患、血管疾患の病理の講義があり、各水曜日の午後には病理学実習を行う。これも効率的な学習を期待して、臨床各論の進行に同期した配置とした。

授業の目的

循環器系の構造と機能を理解し、主な疾患の病態生理、原因、症候、診断と治療を理解する。

達成目標

次に示すように、各授業にそれぞれ到達すべき目標を設定している。これらには、医学教育モデル・コアカリキュラムに掲げられた循環器系で学習すべき到達目標について説明することができる。症候については、医学教育モデル・コアカリキュラムより循環器系に関するものを取りあげた。

成績評価の方法と基準

チュートリアル課題レポート（グループレポート、個人レポート共に）とペーパー試験の成績をあわせて評価する。試験は、6 月 4 日（木）に行う。チュートリアル課題レポートは期限内に受理されなければならない。チュートリアルに欠席したもの、レポート未提出、あるいはその評定が否であるもの、病理学などの実習の修了の認定を受けていないものには、ペーパー試験の受験資格を与えない。

授業計画並びに授業及び学習の方法

循環器系の恒常性を保つための正常構造（解剖学）・機能および調節機構（生理学）を先ず完全に理解するよう努める。それは、病態あるいは疾患、すなわち、生体の恒常性が破綻した状態についての理解を促進するからである。また、これらの知識は臨床応用可能でなければならない。統合講義では、講義の内容を、概ね、正常解剖、生理、臨床画像、臨床検査、病理、疾患各論の順に配した。したがって、講義毎に設定された行動目標を、聴講と自主学習により達成していくことで、ユニットの一般目標に効率的に到達できる。一方、症候から原因疾患を予想し（症候論）、諸検査を行い、これを鑑別し、治療方針を決定し、治療するという臨床的な手順を疑似体験できるチュートリアル授業を用意した。症状レベル、検査レベル、治療方針決定の各レベルにおいて、それぞれ問題を整理し、自主的に情報収集してこれを解決するプロセスの体験を通して、関連知識が拡充され、理解が深まるとともに、問題解決能力が向上するものと期待される。課題は 3 回に亘って展開、4 回目は発表会およびフィードバックとなる。情報収集手段としては、並行する講義、講義での配付資料、教科書、論文検索、インターネット、さらにはリソースパーソンを十分に活用されたい。

回	大項目	項目	内 容	担当者
1	循環器系	心臓の解剖	心臓の解剖 1) 心臓の構造と分布する血管・神経を説明できる。 2) 心筋細胞の微細構造と機能を説明できる。 3) 体循環、肺循環と胎児循環を説明できる。	神経機能形態

2	循環器系	血管の解剖	血管の解剖 1) 大動脈の枝を図示し、分布域を概説できる。 2) 頭頸部と四肢の主な動脈を図示し、分布域を概説できる。 3) 主な静脈を図示し、門脈系と大静脈系の吻合部を説明できる。 4) 胸管を経由するリンパの流れを概説できる。	神経機能形態
3		診断と検査	心血管の画像診断 心臓CT、MRI検査での解剖、代表的疾患の所見を説明できる。	放射線医学
4 5		心・循環器系の生理	心・循環器系の生理 1) 心周期にともなう血行動態を説明できる。 2) 心機能曲線と心拍出量の調節機序を説明できる。 3) 主な臓器（脳、心、肺）の循環調節を概説できる。 4) 血圧調節の機序を説明できる。	自律機能生理
6		Tutorial-1	胸痛（Tutorial-1～4を通じて） 1) 胸痛の原因と病態を説明できる。 2) 胸痛患者の診断の要点を説明できる。 3) 胸痛患者に対する初期治療を説明できる。	循環器腎臓 脳卒中内科・心臓血管外科学・薬理・自律機能生理
7 8		心・循環器系の生理	心臓電気生理 1) 心筋細胞の電気現象と心臓の興奮（刺激）伝導系を説明できる。 2) 興奮収縮連関を概説できる。	自律機能生理
9 10		心電図	心電図 心電図検査の目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。	循環器腎臓 脳卒中内科
11		症候論 1	動悸 1) 動悸の原因を列挙し、その病態を説明できる。 2) 動悸を訴える患者の診断の要点を説明できる。	精神神経科
12		循環器超音波検査	心臓・血管超音波検査 断層心エコー図から心臓・大血管の画像診断を説明できる。	循環器腎臓 脳卒中内科
13		診断と検査	循環器疾患検査値 1) 循環器疾患の血液生化学検査項目を列挙し、目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。 2) 動脈血ガス分析の目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。	臨床検査部
14		心カテーテル検査	心カテーテル検査 心カテーテル検査（心内圧、心機能評価、シャント率の測定）と結果を説明し、解釈できる。	循環器腎臓 脳卒中内科

15	循環器系	診断と検査	心臓核医学 心臓核医学検査の意義、方法、代表的疾患の所見を概説できる。	放射線医学
17		病理診断	心疾患の病理 1) 狭心症、心筋梗塞等の病因論、形態学的変化について説明できる。 2) 心不全患者の全身的变化について説明できる。	炎症病理
18				
19		病理診断	急性心筋梗塞、陈旧性心筋梗塞について組織像を観察し、違いを説明できる。	炎症病理
20				
21				
22		薬物治療	狭心症薬・抗血栓薬の薬理作用を説明できる。	薬理
23		循環器外科総論	循環器外科の特徴を概説できる。	心臓血管外科学
24		虚血性心疾患外科治療	虚血性心疾患の外科治療を概説できる。	心臓血管外科学
25		疾患 虚血性心疾患	虚血性心疾患 1) 安定狭心症（労作性、冠攣縮性）の病態生理、症候と診断を説明し、治療を概説できる。 2) 不安定狭心症の病態生理、症候と診断を説明し、治療を概説できる。 3) 急性心筋梗塞の病態生理、症候、診断と合併症を説明し、治療を概説できる。	循環器腎臓 脳卒中内科
26				
27				
28		Tutorial-2	胸痛（Tutorial-1～4を通じて） 1) 胸痛の原因と病態を説明できる。 2) 胸痛患者の診断の要点を説明できる。 3) 胸痛患者に対する初期治療を説明できる。	循環器腎臓 脳卒中内科・心臓血管外科学・薬理・自律機能生理
29		補講		
30	疾患 弁膜症	弁膜症 主な弁膜症（僧帽弁疾患、大動脈弁疾患）の原因、病態生理、症候と診断を説明し、治療を概説できる。	循環器腎臓 脳卒中内科	
31				
32	感染性心内膜炎	感染性心内膜炎・リウマチ熱 感染性心内膜炎・リウマチ熱の原因、症候と診断を説明し、治療を概説できる。	循環器腎臓 脳卒中内科	
33	疾患 弁膜症	弁膜症 主な弁膜症の外科治療について概説できる。	心臓血管外科学	
34				
35	疾患	心筋・心膜疾患 心タンポナーデの原因と診断を説明し、治療を概説できる。	心臓血管外科学	

36	循環器系	疾患	心筋・心膜疾患	循環器腎臓 脳卒中内科	
37		心筋・心膜疾患	1) 心筋症と特定心筋疾患の定義・概念と病態生理を説明できる。 2) 心筋炎の原因と症候を説明できる。 3) 急性心膜炎の症候を説明できる。		
38		病理診断	心疾患の病理 1) 心内膜炎、心筋炎、心筋症の病因論、形態学的変化について説明できる。 2) 血管の腫瘍を分類し、説明できる。		炎症病理
40		病理診断	1) 心筋症の肉眼的組織像を観察し異常を説明できる。 2) ウィルス性心筋炎の組織像を観察し異常を説明できる。 3) 血管の腫瘍の組織像を説明できる。	炎症病理	
41					
42					
43		疾患	先天性心疾患	循環器腎臓 脳卒中内科	
		成人先天性心疾患	成人にみられる先天性心疾患の病態生理、症候と診断を説明し、治療を概説できる。		
44		疾患	先天性心疾患	先天性心疾患の外科治療の概略を説明できる。	心臓血管外科学
45		疾患	川崎病	川崎病の病態生理、症候、診断と治療を概説できる。	小児
46	疾患	先天性心疾患	主な先天性心疾患（心房中隔欠損、心室中隔欠損、動脈管開存、ファロー四徴）の病態生理、症候と診断を説明し、治療を概説できる。	小児	
47	先天性心疾患				
48	心腎連関	心腎連関の病態について説明できる。	薬理		
49					
50	Tutorial-3	胸痛（Tutorial-1～4を通じて） 1) 胸痛の原因と病態を説明できる。 2) 胸痛患者の診断の要点を説明できる。 3) 胸痛患者に対する初期治療を説明できる。	循環器腎臓 脳卒中内科・心臓血管外科学・薬理・自律機能生理		
51	グループワーク	課題についてのグループ学習			

52	循環器系	疾患	不整脈	循環器腎臓 脳卒中内科
53		不整脈	<p>1) 主な頻脈性不整脈（期外収縮、WPW 症候群、発作性頻拍）の、心電図上の特徴を説明できる。</p> <p>2) 主な徐脈性不整脈（洞不全症候群、房室ブロック）の心電図上の特徴を説明できる。</p> <p>3) 致死的不整脈の心電図上の特徴を説明できる。</p> <p>4) 不整脈の治療（抗不整脈薬、電氣的除細動、ペースメーカー療法）を概説できる。</p>	
54		薬物治療	抗不整脈薬の薬理作用を説明できる。	薬理
55	56	心不全	<p>心不全</p> <p>1) 心不全の定義と重症度分類を説明できる。</p> <p>2) 心不全の原因疾患と病態生理を説明できる。</p> <p>3) 左心不全と右心不全の診断を説明し、治療を概説できる。</p> <p>4) 急性心不全と慢性心不全の診断を説明し、治療を概説できる。</p>	循環器腎臓 脳卒中内科
57		薬物治療	心不全治療薬 強心薬の薬理作用を説明できる。	薬理
58		薬物治療	降圧薬の薬理作用を説明できる。	薬理
59		肺塞栓症	肺塞栓症の成因、病態、症候を説明でき、治療を概説できる。	循環器腎臓 脳卒中内科
60	61	病理診断	<p>血管の病理</p> <p>1) 粥状硬化の病因論、形態学的変化について説明できる。</p> <p>2) 細動脈硬化症について説明できる。</p>	炎症病理
62		63	64	<p>1) 大動脈の粥状硬化を組織学的に観察し異常を説明できる。</p> <p>2) 腎動脈硬化症の腎臓の組織像を観察し異常を説明できる。</p> <p>3) 種々の血管病理像を説明できる。</p>
65		<p>疾患</p> <p>大動脈・末梢動脈疾患</p>	<p>動脈疾患</p> <p>1) 動脈硬化症の危険因子、病態生理と合併症を説明できる。</p> <p>2) 大動脈解離と大動脈瘤を概説できる。</p> <p>3) 閉塞性動脈硬化症とバージャー病を概説できる。</p> <p>4) 大動脈炎症候群を概説できる。</p> <p>5) 血管疾患の内科的治療を概説できる。</p>	循環器腎臓 脳卒中内科
66		<p>疾患</p> <p>動脈疾患・外傷</p>	<p>動脈疾患・外傷</p> <p>1) 大動脈解離と大動脈瘤を概説できる。</p> <p>2) 閉塞性動脈硬化症とバージャー病を概説できる。</p> <p>3) 大動脈炎症候群を概説できる。</p> <p>4) 血管疾患の外科的治療を概説できる。</p>	心臓血管外科学

67	循環器系	疾患 静脈・リンパ管疾患	静脈・リンパ管疾患 1) 深部静脈血栓症の治療を概説できる。 2) 下肢静脈瘤の治療を概説できる。	心臓血管外科学
68		疾患 静脈・リンパ管疾患	静脈・リンパ管疾患 1) 深部静脈血栓症の原因と症候を説明できる。 2) 上大静脈症候群の原因と症候を説明できる。 3) 下肢静脈瘤を概説できる。 4) リンパ浮腫の原因を列挙できる。	循環器腎臓 脳卒中内科
69 70		Tutorial-4 (発表フィート ^ト ハッ ク)	胸痛 (Tutorial-1~4 を通じて) 1) 胸痛の原因と病態を説明できる。 2) 胸痛患者の診断の要点を説明できる。 3) 胸痛患者に対する初期治療を説明できる。	循環器腎臓 脳卒中内科・心臓血管外科学・ 薬理・自律機能生理
71		補講		
72		疾患 高血圧症	本態性高血圧症 本態性高血圧症の疫学、診断、合併症と予後を説明し、治療を概説できる。	循環器腎臓 脳卒中内科
73		疾患 二次性高血圧症	二次性高血圧症 二次性高血圧症の原因を列挙し、診断を説明し、治療を概説できる。	循環器腎臓 脳卒中内科
74		補講		
75		疾患 高血圧と心臓	高血圧性心疾患など 高血圧合併症としての心疾患の病態を説明できる。	循環器腎臓 脳卒中内科
76		症候論 5	心原性ショック 1) ショックの定義、原因と病態を説明できる。 2) ショック患者の診断の要点を列挙できる。 3) ショックの治療を概説できる。	循環器腎臓 脳卒中内科
77		症候論 4	外傷・出血・敗血症性ショック 1) ショックの定義、原因と病態を説明できる。 2) ショック患者の診断の要点を列挙できる。 3) ショックの治療を概説できる。	救急災害医学
78	症候論 6	産科ショック 1) 産科ショックの定義、原因と病態を説明できる。 2) 産科 DIC の原因と病態を説明できる。	周産期学婦人科	
79	症候論 2	動悸 1) 動悸の原因を列挙し、その病態を説明できる。 2) 動悸を訴える患者の診断の要点を説明できる。	循環器腎臓 脳卒中内科	

80	循環器系	症候論 3	チアノーゼ 1) チアノーゼの原因と病態を説明できる。 2) チアノーゼを呈する患者の診断の要点を説明できる。	血液免疫呼吸器内科
81		補講		
82 ～ 86		循環器系試験		

教科書・参考書等

辞書

1. ステッドマン医学大辞典編集委員会編. ステッドマン医学大辞典: 英和・和英. 改訂第6版, メジカルビュー社, 2008.
2. 小澤澗司, 福田康一郎編. 標準生理学. 第8版, 医学書院, 2014, (Standard textbook).
3. Koepfen, Bruce M.; Stanton, Bruce A., eds. Berne & Levy physiology. 6th., updated ed., Mosby/Elsevier, 2010.

アトラス

成書

1. Braunwald, Eugene. Bonow, Robert O. et al., eds. Braunwald's heart disease: a textbook of cardiovascular medicine. 9th ed., Saunders, 2012, (Expert consult).
2. Lilly, Leonard S. 編. 心臓病の病態生理: ハーバード大学テキスト. 川名正敏, 川名陽子訳. 第2版, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2004.
3. 大谷修, 堀尾嘉幸 著. 坂井建雄, 河原克雅 編. カラー図解 人体の正常構造と機能 (2) 循環器. 改訂第2版, 日本医事新報社, 2012.
4. 坂井建雄 訳. ムーア臨床解剖学. 第2版, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2002.
5. 佐藤達夫 著, 訳. 坂井建雄 訳. 臨床のための解剖学. メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2008.
6. 堀正二, 永井良三 編. 循環器疾患 最新の治療 2014-2015. 南江堂, 2014.

参考書

1. 由谷親夫. 心臓血管病理アトラス. 文光堂, 2002.
2. Sheppard, Mary N. Practical cardiovascular pathology. 2nd ed., Hodder Arnold, 2011.
3. Guyton & Hall. Textbook of Medical Physiology. Saunders, 2015

オフィスアワー

9:00～17:00 (循環器・腎臓・脳卒中内科学)

授業科目名

腎・尿路系 (unit3B)

(英文併記 Integrated LectureⅢB)

科目区分 統合講義

授業コード 705021b

DPコード bcxM

単位数 6 (3A・3B) 時間割 前期 対象年次及び学科 4 医学科

教員名

教授 笥 善行 他 (泌尿器科学) 教授 白神豪太郎 他 (麻酔学)
准教授 五十嵐淳介 (自律機能生理学) 准教授 田中 宏和 (周産期学婦人科学)
学内講師 西島 陽子 (循環器・腎臓・脳卒中内科学) 教授 柴田 徹 (放射線治療科)
教授 日下 隆 他 (小児科学)
助教 奥田 花江 (放射線医学)
教授 今井田克己 他 (腫瘍病理学)
教授 西山 成 他 (薬理学) (サブディレクター)
教授 河野 雅和 他 (循環器・腎臓・脳卒中内科学) (ディレクター)

担当講座のその他の教員

授業の概要

ユニット3Bでは、腎・尿路系について学ぶ。

腎・尿路系は、尿生成の場である腎臓から尿管、膀胱、尿道への尿排泄経路をカバーするが、最初に諸臓器組織の機能、構造について解説する。続いて臨床系授業では、腎臓に関連して、発生異常に始まり、糸球体疾患、尿細管機能異常、間質性腎疾患、腫瘍および糖尿病、膠原病など全身性疾患による腎障害に言及し、最後に腎不全治療として血液浄化法と腎移植をとり上げている。また尿路疾患については、尿路の腫瘍・外傷、炎症疾患、結石、神経因性膀胱などが解説される。さらに、腎臓は水・電解質の交換の場であることから、体液・電解質バランスの調節機構も重要な学習課題である。症候論としては、検尿異常、肉眼的血尿、尿量・排尿異常を取り上げ、内科的、泌尿器科的観点からの講義が予定されている。

本ユニットでもチュートリアルは症候を中心に課題を設けている。それぞれの領域において課題から派生した事象について自ら積極的に探求して問題解決することが極めて重要であり、それによって得られた知識を包括的に関連づけることにより、理解が深まるよう計画されている。

授業の目的

腎臓・尿路系の構造と機能を理解し、主な疾患の病態生理、原因、症候、診断と治療を学ぶ。

達成目標

各授業にそれぞれ到達すべき目標を設定している。これらには、医学教育モデル・コアカリキュラムに掲げられた腎・尿路系で学習すべき到達目標に加えて独自の目標が設定されている。

成績評価の方法と基準

チュートリアル課題レポートと試験成績をあわせて評価する。試験は、4月30日に行う。チュートリアル課題レポートは期限内に全て受理されなければならない。レポート未提出、あるいはその評価が否であるもの、病理学などの実習の修了の認定を受けていないものには、総合試験受験の資格を与えられない。

授業計画並びに授業及び学習の方法

腎・尿路系の恒常性を保つための正常構造・機能および調節機構を先ず完全に理解するよう努める。それは、病態あるいは疾患、すなわち、生体の恒常性が破綻した状態についての理解を促進するからである。統合講義では、講義の内容を、概ね、正常解剖、生理、病理、疾患各論の順に配した。したがって、講義毎に設定された行動目標を、聴講と自主学習により達成していくことで、ユニットの一般目標に効率的に到達できる。一方、症候から原因疾患を予想し、諸検査を行い、これを鑑別し、治療方針を決定し、治療するという臨床的な手順を疑似体験できるチュートリアル授業を用意した。症状レベル、検査レベル、治療方針決定の各レベルにおいて、それぞれ問題を整理し、自主的に情報収集してこれを解決するプロセスの体験を通して、関連知識が拡充され、理解が深まるとともに、問題解決能力が向上するものと期待される。情報収集手段としては、講義、講義での配付資料、教科書、論文検索、インターネット、さらには各回のリソースパーソンを十分に活用されたい。

回	大項目	項目	内容	担当者
1 2 3	腎・尿路系	病理診断	腎・尿路系の病理 腎癌、膀胱癌の組織分類とその代表的組織型及び各々の補助的診断法について説明できる。	腫瘍病理学
4 5		病理診断	腎・尿路系の病理実習 糖尿病性腎症、ループス腎炎などの二次性腎病変の病因及び組織学的特徴を説明できる。	腫瘍病理学
6		症候論 1	血尿・蛋白尿（検尿異常） 1) タンパク尿の原因と病態を説明できる。 2) タンパク尿を呈する患者の診断の要点を説明できる。 3) 血尿の原因を列挙できる。 4) 血尿を来たした患者の診断の要点を説明できる。	循環器・腎臓・ 脳卒中内科学
7		疾患 腎不全	急性・慢性腎不全 急性・慢性腎不全の原因、症候、診断と治療を説明できる。	循環器・腎臓・ 脳卒中内科学
8		Tutorial-1	血尿（1-4を通じて） 1) 血尿の原因と病態を説明できる。 2) 血尿を来たした患者の診断と治療の要点を説明できる。	循環器腎臓脳 卒中内科学・泌 尿器科学他

9 10	腎・尿路系	腎臓の生理	腎臓の生理 1) 腎の機能の全体像やネフロン各部の構造と機能を概説できる。 2) 腎糸球体における濾過の機序を説明できる。 3) 尿細管各部における再吸収・分泌機構と尿の濃縮機序を説明できる。	自律機能生理学
11 12 13		腎臓の生理	腎臓の生理 1) 水電解質・酸塩基平衡の調節機構を概説できる。 2) 腎に作用するホルモン・血管作動性物質の作用を説明できる。 3) 蓄排尿の機構について説明できる。	自律機能生理学
14 15 16		病理診断	腎・尿路系の病理 慢性糸球体腎炎、腎盂腎炎及び萎縮腎の組織像を観察し、それぞれの特徴を説明できる。	腫瘍病理学
17 18		病理診断	腎・尿路系の病理実習 1) 原発性糸球体疾患の形態学的分類とその特徴について説明できる。 2) 腎盂腎炎や腎不全等の原因とそれに伴う形態学的変化について説明できる。	腫瘍病理学
19	疾患 尿細管機能異常	尿細管機能異常 1) 尿細管性アシドーシスの分類、病態生理、診断と治療を説明できる。 2) 尿細管障害を呈する疾患について、症候と診断を説明できる。	循環器・腎臓・脳卒中内科学	
20 21	高血圧と腎臓病態論	高血圧と腎臓病の発症・進展機序について要点を説明できる。	薬理学	
22	Tutorial-2	血尿（1-4を通じて） 1) 血尿の原因と病態を説明できる。 2) 血尿を来たした患者の診断と治療の要点を説明できる。	循環器腎臓脳卒中内科学・泌尿器科学他	
23	疾患 ネフローゼ症候群	ネフローゼ症候群 ネフローゼ症候群の分類、症候、診断と治療を説明できる。	循環器・腎臓・脳卒中内科学	
24	疾患	学校検尿 1) 体液の量と組成・浸透圧を小児と成人を区別して説明できる。 2) 学校検尿で見出される小児の腎疾患について概説できる。	小児科学	
25	疾患 尿路結石	尿路結石 尿路結石の成因、症候、診断と治療を説明できる。	泌尿器科学	
26	疾患 慢性腎不全	慢性腎不全 慢性腎不全の治療（透析）を説明できる。	循環器・腎臓・脳卒中内科学	
27	症候論 2	尿量・排尿の異常 尿量・排尿の異常を来たした患者の診断の要点を説明できる。	泌尿器科学	

28	腎・尿路系	疾患 先天異常	先天異常 腎尿路の成長および発達的变化を理解し、主な先天異常（多発性嚢胞腎、膀胱尿管逆流症）を概説できる。	小児科学
29 30		疾患 水・電解質代謝異常	電解質代謝異常 1) 水電解質の調節機構を概説できる。 2) 高・低ナトリウム血症を概説できる。 3) 高・低カリウム血症を概説できる。 4) 高・低カルシウム血症を概説できる。 5) 高・低リン血症と高・低クロール血症を概説できる。	循環器・腎臓・ 脳卒中内科学
31 32		疾患 原発性糸球体疾患	原発性糸球体疾患 1) 急性糸球体腎炎症候群の原因、症候、診断と治療を説明できる。 2) 慢性糸球体腎炎（IgA 腎症を含む）の症候、診断と治療を説明できる。 3) 急速進行性腎炎症候群を概説できる。 4) 腎生検の適応と禁忌を説明できる。	循環器・腎臓・ 脳卒中内科学
33		疾患 排尿障害	排尿障害 排尿障害の原因、症候、診断と治療を説明できる。	泌尿器科学
34		Tutorial-3	血尿（1-4 を通じて） 1) 血尿の原因と病態を説明できる。 2) 血尿を来たした患者の診断と治療の要点を説明できる。	循環器腎臓脳 卒中内科学・泌 尿器科学他
35		グループワーク	Tutorial 課題発表会の準備	
36		補講		
37 38		疾患	全身性疾患による腎障害 1) 糖尿病性腎症の症候、診断と治療を説明できる。 2) ループス腎炎の症候、診断と治療を説明できる。 3) アミロイド腎の症候、診断と治療を説明できる。 4) 膠原病類縁疾患（血管炎症候群、グッドパスチャー症候群）の腎病変を説明できる。 5) 紫斑病性腎炎を概説できる。	循環器・腎臓・ 脳卒中内科学
39		診断と検査	腎・尿路系の画像診断を概説できる。	放射線医学
40 41		病理診断	腎・尿路系病理実習 糖尿病性腎症、ループス腎炎の組織像を観察し、各々の特徴を説明できる。	腫瘍病理学
42 43		病理診断	腎・尿路系の病理実習	腫瘍病理学

44	腎・尿路系	疾患	腫瘍	泌尿器科学
45		腫瘍	腎癌・膀胱癌の症候、診断と治療を説明できる。	
46		疾患	外傷	泌尿器科学
		外傷	腎外傷の症候、診断と治療を説明できる。	
47		女性泌尿器	1) 過活動膀胱の症候、診断と治療を説明できる。 2) 尿失禁の分類、症候、診断と治療を説明できる。 3) 骨盤臓器脱の症候、診断と治療を説明できる。 4) 間質性膀胱炎を概説できる。	泌尿器科学
48		症候論3	肉眼的血尿 1) 肉眼的血尿の原因を列挙できる。 2) 肉眼的血尿を来した患者の診断の要点を説明できる。	泌尿器科学
49		泌尿器腫瘍に対する放射線治療	1) 放射線治療の原理、目的、方法について説明できる。 2) 泌尿器系の悪性腫瘍に対する放射線治療の適応について説明できる。 3) 代表的な疾患に対する治療効果や治療成績について説明できる。 4) 放射線治療による急性期、晩期有害事象について説明できる。	放射線治療科
50		疾患	全身疾患と腎（産婦人科）	周産期学婦人科学
		全身疾患と腎	妊娠高血圧症候群による腎障害を概説できる。	
51		疾患	慢性腎不全	泌尿器科学
		腎移植	慢性腎不全の治療（腎移植）を説明できる。	
52		Tutorial-4	血尿（1-4を通じて）	循環器腎臓脳
53		（発表会、フィードバック）	1) 血尿の原因と病態を説明できる。 2) 血尿を来した患者の診断と治療の要点を説明できる。	卒中内科学・泌尿器科学他
54				
55		疾患	アシドーシス・アルカローシス	麻酔学
56	酸塩基平衡・電解質代謝異常	1) 酸・塩基平衡の調節機構を概説できる。 2) アシドーシス・アルカローシスの定義、病態生理と診断を説明できる。 3) アシドーシス・アルカローシスの治療を概説できる。		
57	補講			
58	実習試験		腫瘍病理学	
59	補講			
60	～			
61	～			
62	～			
66	腎・尿路系試験			

教科書・参考書等

辞書

1. ドーランド図説医学大辞典 廣川書店
2. ステッドマン医学大辞典 メディカルビュー社
3. コスタンゾ著 明解生理学 エルゼビア社

成書

1. 一目でわかる 水電解質 (第二版) 飯野 靖彦 メディカル・サイエンス・インターナショナル
2. 腎疾患治療のエビデンス. 黒川清監修、吉村吾志夫、南学正臣編集、文光堂
3. 黒川清 著. 水・電解質と酸塩基平衡—Step by step で考える (Short seminars). 南江堂, 2004

オフィスアワー

授業科目名

生理・薬理実習

(英文併記 Physiology・Pharmacology Practice)

科目区分 統合講義 授業コード 705022 DPコード bcxM

単位数 1 時間割 前期 対象年次及び学科 4 医学科

教員名

教授 平野 勝也 (自律機能生理学) 助教 山下 哲生 (自律機能生理学)

教授 徳田 雅明 (細胞情報生理学) 助教 橋本 剛 (自律機能生理学)

教授 西山 成 (薬理学) 助教 神鳥 和代 (細胞情報生理学)

准教授 五十嵐 淳介 (自律機能生理学) 助教 董 有毅 (細胞情報生理学)

准教授 山口 文徳 (細胞情報生理学) 助教 人見 浩史 (薬理学)

准教授 小堀 浩幸 (薬理学) 助教 中野 大介 (薬理学)

担当講座のその他の教員

授業の概要

[生理学Ⅰ]

- 1 中枢神経系・感覚系の細胞内情報伝達系の解析の実験を行う。
- 2 感覚の実習・視覚・聴覚に関する実験を通して感覚の処理系について学ぶ。

[生理学Ⅱ]

- 1 循環器、呼吸器の生理機能測定を行う。

[薬理学]

- 1 「中枢神経系」薬物評価、および動物の行動と脳内アミンの関係についての実験を行う。
- 2 「循環器系」心臓・末梢循環の自律神経による調節、および薬物の効果についての実験を行う。

この実習は、生命現象に関わる基礎的な実習項目をとりあげており、腎尿路系に限られたものではない。平成27年度の履修には、動物実験に関わる者として教育訓練を受講していることが必要となる。

授業の目的

[生理学Ⅰ]

- 1 神経系のシグナル系に重要な蛋白質の機能と局在を、蛋白質に対する特異的な抗体による抗原抗体反応を利用した「免疫組織染色法」を用いて学習する。
- 2 視覚・聴覚の処理系を、実習を通して学ぶことにより臨床で起こる問題についても思索する。

[生理学Ⅱ]

- 1 血圧の測定を相互に行い、その方法と意義を学習する。
- 2 心電図の操作及び被験者役を経験する。
- 3 スパイログラフィの操作法を習得する。

〔薬理学〕

- 1 向精神薬、麻酔薬並びに鎮痛薬の作用を行動薬理学的手法で解析し、その作用機序について考察する。
- 2 全身血圧および心拍数に対する自律神経作動薬、およびアンジオテンシン系薬剤の影響を観察する。

達成目標

基礎医学総論など今までに学習したことをもとに、測定したデータを解析し、生体内で何が起きているのか興味を持って自ら考え、発表できる能力を身につけることを目標とする。

〔生理学Ⅰ〕

神経シグナル系の分子レベルでの情報処理や視覚・聴覚の神経ネットワークでの処理系の理解を通して、情報処理系全体について理解する。

〔生理学Ⅱ〕

生理機能測定を通して、その変動の仕組みと意義について理解する。

〔薬理学〕

薬物の生体作用を通して、生体機能、薬物の作用様式、ならびに薬効評価法が理解できる。

成績評価の方法と基準

レポート・出席状況・実習態度をあわせて評価する。出席は必須である。またレポートは期限内に受理されなければならない。

授業計画並びに授業及び学習の方法

〔生理学Ⅰ〕

実習開始前に行われる説明会において指示されたことを守ること。定時に実習が開始できるように、10分前には集合するようにする。それぞれの実習の前および途中で教員から説明があるので、それに従い進めること。実習の結果ならびに課題をレポートとして提出すること。実習に必要な教科書や参考書を持参して、実習を進めながら考察を十分にしながら進めていくようにすること。

〔生理学Ⅱ〕

説明会に参加した上で、事前に実習書を予習すること。二年次の生理学講義について、関連の項目を復習すること。定時前に集合し、教官の指示に従い実習を行うこと。結果について考察を行い、疑問点は可能な範囲で調べた上で教官に質問すること。データと考察に基づいてレポートを作成し、期日までに提出すること。評価は出席とレポートにより行う。

〔薬理学〕

実習説明会で指示されたことは厳守すること。また、実習方法などについては、実習当日に説明しないので、あらかじめ実習書をよく読んで、シュミレーションしておくこと。実習終了後に discussion があるので、教科書・参考書を持参すること。出席とレポートによって評価する。

授業内容

回	大項目	項目	内容	担当者
1	生理・薬理実習	イントロダクション	説明会	全員

2	生理・薬理実習	生理学Ⅰ実習	Ⅰ-1	生理学Ⅰ	視覚・聴覚の実習	全員
3		生理学Ⅱ実習		生理学Ⅱ	循環器・呼吸器系の生理機能測定	
4		薬理学実習		薬理学	循環器・中枢神経系の解析	
5	生理・薬理実習	生理学Ⅰ実習	Ⅰ-2	生理学Ⅰ	細胞内情報伝達系の解析（１）	全員
6		生理学Ⅱ実習		生理学Ⅱ	循環器・呼吸器系の生理機能測定	
7		薬理学実習		薬理学	循環器・中枢神経系の解析	
8	生理・薬理実習	生理学Ⅰ実習	Ⅰ-3	生理学Ⅰ	細胞内情報伝達系の解析（２）	全員
9		生理学Ⅱ実習		生理学Ⅱ	循環器・呼吸器系の生理機能測定	
10		薬理学実習		薬理学	循環器・中枢神経系の解析	
11	生理・薬理実習	生理学Ⅰ実習	Ⅱ-1	生理学Ⅰ	視覚・聴覚の実習	全員
12		生理学Ⅱ実習		生理学Ⅱ	循環器・呼吸器系の生理機能測定	
13		薬理学実習		薬理学	循環器・中枢神経系の解析	
14	生理・薬理実習	生理学Ⅰ実習	Ⅱ-2	生理学Ⅰ	細胞内情報伝達系の解析（１）	全員
15		生理学Ⅱ実習		生理学Ⅱ	循環器・呼吸器系の生理機能測定	
16		薬理学実習		薬理学	循環器・中枢神経系の解析	
17	生理・薬理実習	生理学Ⅰ実習	Ⅱ-3	生理学Ⅰ	細胞内情報伝達系の解析（２）	全員
18		生理学Ⅱ実習		生理学Ⅱ	循環器・呼吸器系の生理機能測定	
19		薬理学実習		薬理学	循環器・中枢神経系の解析	
20	生理・薬理実習	生理学Ⅰ実習	Ⅲ-1	生理学Ⅰ	視覚・聴覚の実習	全員
21		生理学Ⅱ実習		生理学Ⅱ	循環器・呼吸器系の生理機能測定	
22		薬理学実習		薬理学	循環器・中枢神経系の解析	
23	生理・薬理実習	生理学Ⅰ実習	Ⅲ-2	生理学Ⅰ	細胞内情報伝達系の解析（１）	全員
24		生理学Ⅱ実習		生理学Ⅱ	循環器・呼吸器系の生理機能測定	
25		薬理学実習		薬理学	循環器・中枢神経系の解析	
26	生理・薬理実習	生理学Ⅰ実習	Ⅲ-3	生理学Ⅰ	細胞内情報伝達系の解析（２）	全員
27		生理学Ⅱ実習		生理学Ⅱ	循環器・呼吸器系の生理機能測定	
28		薬理学実習		薬理学	循環器・中枢神経系の解析	

クラス全体を3つに分け、ローテーション形式で全科の実習を行う。

教科書・参考書等

〔生理学Ⅰ〕

- (1) 小澤滯司ほか. 標準生理学, 医学書院, 2009.
- (2) Berne, Robert M et al. Berne & Levy physiology. 6th ed., Elsevier Mosby, 2008.
- (3) Bruce Alberts et al. Molecular biology of the cell. 5th ed., Garland Science, 2008.
- (4) Ganong, William F.ほか. ギャノン生理学. 丸善, 2006.
- (5) Barrett, Kim E. et al. Ganong's review of medical physiology. 23rd ed., McGraw-Hill Medical, 2010.

〔生理学Ⅱ〕

- (1) 教科書 標準生理学、医学書院、ISBN-10: 4260003011
- (2) 教科書 Berne & Levy Physiology, 6th Updated Edition, Elsevier, ISBN-10: 032307362X
- (3) 成書 ハーバード大学テキスト 心臓病の病態生理 Leonard S. Lilly (著), メディカル・サイエンス・インターナショナル, ISBN-10: 4895922529

〔薬理学〕

- (1) 田中千賀子, 加藤隆一編. 「NEW 薬理学」 改訂第6版, 南江堂, 2011.
- (2) Brunton, Laurence L.; Chabner, Bruce A., eds. 「Goodman & Gillmans Pharmacological Basis of Therapeutics」 12th ed., McGraw-Hill Professional, 2010.

(3) Bertram G. Katzung et al., eds. 「Basic & clinical pharmacology」 11th ed., McGraw-Hill Medical, 2009, (A Lange medical book).

オフィスアワー

〔生理学Ⅰ〕

随時受け付けるので メール (physiol1@med.kagawa-u.ac.jp) により連絡を取ること。

〔生理学Ⅱ〕

メール (physiol2@med.kagawa-u.ac.jp) で事前に連絡があれば随時対応する。

〔薬理学〕

授業日時間外でも自由に来室 (～21:00 程度) を歓迎する。メールでの連絡は、アドレスをHPより調べて行うこと。

授業科目名

感染症、血液・造血器・リンパ系、免疫・アレルギー疾患 (unit4)

(英文併記 Integrated LectureIV)

科目区分 統合講義 授業コード 705031 DPコード bcxM

単位数 4 時間割 前期 対象年次及び学科 4 医学科

教員名

教授	桑原 知巳 (分子微生物学)	助教	今大路治之 (分子微生物学)
教授	日下 隆 (小児科学)	准教授	岡田 仁 (小児科学)
講師	岩瀬 孝志 (小児科学)	助教	西庄 佐恵 (小児科学)
助教	近藤 園子 (小児科学)	病院助教	神内 済 (小児科学)
教授	星野 克明 (免疫学)	助教	仁木 敏朗 (免疫学)
助教	財賀 大行 (免疫学)		
教授	上野 正樹 (炎症病理学)	講師	千葉 陽一 (炎症病理学)
教授	秦 利之 (周産期学婦人科学)	准教授	田中 宏和 (周産期学婦人科学)
教授	筧 善行 (泌尿器科学)		
教授	窪田 良次 (地域包括医療学)		
准教授	横田 恭子 (感染症)		
准教授	新井 明治 (国際医動物学)		
講師	坂東 修二 (血液・免疫・呼吸器内科学)		
講師	今滝 修 (血液・免疫・呼吸器内科学)		
助教	亀田 智弘 (血液・免疫・呼吸器内科学)		
病院助教	泉川 美晴 (血液・免疫・呼吸器内科学)		
助教	植村麻希子 (血液・免疫・呼吸器内科)		
講師	土橋 浩章 (血液・免疫・呼吸器内科学)		
非常勤講師	小川 高史 (炎症病理学)		
非常勤講師	中村 洋之 (血液・免疫・呼吸器内科学)		
非常勤講師	川上 公宏 (血液・免疫・呼吸器内科学)		
非常勤講師	大西 宏明 (血液・免疫・呼吸器内科学)		
非常勤講師	江口 洋 (分子微生物学)		

授業の概要

第4ユニットは全身性疾患としての感染症，免疫・アレルギー・膠原病，血液・造血器・リンパ系を対象領域とし、この3つの領域を同時に進行する。

感染症では、生態防御が発症，治療，予防に大きく関係しており、感染症を理解する上で重要である。次に病原体側の要因よりも、むしろ宿主側の要因がより重要となる日和見感染，菌交代症，下痢症，敗血症を横断的に理解すること、また感染症の原因微生物の検査と診断方法，化学療法，ワクチンなどについて総括的に理解する

ことが必要であり、これらを最初に扱う。総論の後に、発疹性疾患、垂直感染、性感染症、院内感染、主要感染症（統合講義で扱うべき）について病原体、疾患の特徴について基礎と臨床の両面から解説する。一部は、学生のグループ学習と発表会の形式を採用する。

免疫・アレルギー疾患については、その発症メカニズムを学習し、過敏反応であるアレルギー性疾患を理解できるようにする。その後、自己免疫疾患についても発症メカニズムを概説し、全身的自己免疫疾患としての各種膠原病について、その疫学・病態・病理・診断法・治療法について学習する。小児膠原病については成人との対比の上で、その特徴を理解する。

血液・造血器・リンパ系については、最初に造血幹細胞を中心とする正常造血の成熟・分化機構を学習し、その生理・機能異常としての造血器疾患を理解できるようにする。各論としては、貧血、造血器腫瘍、止血・凝固異常のうち代表的疾患について、その疫学・病態・病理・診断法・治療法について学習する。小児疾患・遺伝性疾患については成人との対比の上で、その特徴を理解する。最後に実際の症例を呈示し、鑑別診断も含め、検査・治療法を立案できるようにする。なお、造血幹細胞移植については、別途医療総合講義にて詳説する。

本ユニットのチュートリアルでは免疫・アレルギー疾患と血液・造血器疾患から1課題を設ける。症候に関する課題とするが、構造・機能を含め、疫学、病態生理、診断と治療など幅広く探究し、かつそれらの知識を関連づけ、体系的に理解することが需要である。そのような学習習慣の重要性を自らの行動により体得することが本ユニットのチュートリアルの目標であることを念頭に組み込んでもらいたい。

授業の目的

生体防御、免疫・アレルギーの構成と機能、ならびに血液・造血器・リンパ系の構造と機能を理解し、主要な感染症、アレルギー疾患、免疫、血液・造血器・リンパ系の疾患の病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。

達成目標

各授業にそれぞれ到達すべき目標を設定している。これらの多くは、医学教育モデル・コアカリキュラムに掲げられた全身におよぶ生理的变化、病態、診断、治療（感染症、免疫・アレルギー疾患）と人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療（血液・造血器・リンパ系）に掲げられた到達目標について説明することができる。

成績評価の方法と基準

チュートリアル課題レポートと最終回に行うユニット本試験の成績をあわせて評価する。病理組織実習の終了認定を受けていないものは、本試験受験資格は与えられない。また、最終的な可否判定は年度末の進級会議に掛けられる。

授業計画並びに授業及び学習の方法

本期間中には、講義以外に参考図書の中から自分に適した成書を選び、コアカリキュラムに含まれる領域については、少なくとも1回どおり通読し理解を深める。また、同期間中に本領域に関する主な症候（敗血症、SIRS、レイノー症状、関節痛、発熱、リンパ節腫脹、脾腫など）については、診断学の教科書を通読し、他領域との関連についても学習する。

回	大項目	項目	内 容	担当者
1	感染症	多剤耐性菌感染症	易感染性宿主で問題となる多剤耐性菌を列挙し、その特徴を説明できる。	分子微生物
2	感染症	菌交代症・日和見感染症	菌交代現象・菌交代症、日和見感染症を説明できる。新興・再興感染症を列挙できる。	分子微生物
3	免疫	アレルギー疾患概要	アレルギー疾患の特徴とその発症を概説できる。	免疫学
4	免疫	アナフィラキシー・薬物アレルギー	アナフィラキシーの症候、診断と治療を説明できる。薬物アレルギーを概説できる。	免疫学
5-7	予備			
8	免疫・アレルギー疾患	自己抗体	自己抗体の種類と臨床的意義を説明できる。	血液免疫呼吸器
9	免疫・アレルギー疾患	自己免疫疾患概論	膠原病と自己免疫疾患を概説し、その種類を列挙できる。関節炎をきたす疾患をきたす疾患、レイノー症状の説明と原因疾患を列挙できる。	血液免疫呼吸器
10	血液	血液・造血器・リンパ系の構造と機能	骨髄の構造、造血幹細胞から各血球への分化と成熟の過程を説明できる。脾臓、胸腺、リンパ節、扁桃とPeyer(パイエル)板の構造と機能を説明できる。血漿蛋白質の種類と機能を説明できる。白血球の種類と機能を説明できる。血小板の機能と止血や凝固・線溶の機序を説明できる。	血液免疫呼吸器
11	血液	造血システム・貧血の鑑別診断・鉄欠乏性貧血	赤血球とヘモグロビンの構造と機能について説明でき、貧血の鑑別と鉄欠乏性貧血の病態と治療を説明できる。	血液免疫呼吸器
12	血液	遺伝性血液疾患：血友病など	血友病及び類縁疾患の病態・症候・診断・治療法と遺伝形式について説明できる。	小児科
13	血液	再生不良性貧血・赤芽球癆	再生不良性貧血・赤芽球癆の病因・病態・診断・治療・予後について説明できる。	血液免疫呼吸器
14	血液	発作性夜間血色素尿症	発作性夜間血色素尿症の病因・病態・診断・治療・予後について説明できる。	血液免疫呼吸器
15	血液	溶血性貧血・巨赤芽球性貧血	溶血性貧血・巨赤芽球性貧血の病因・病態・診断・治療について説明できる。	血液免疫呼吸器
16	免疫・アレルギー疾患	SLE 病態・症候	全身性エリテマトーデスの病態、症候、症状と合併症(中枢神経ループス、ループス腎炎)を説明できる。	血液免疫呼吸器
17	免疫・アレルギー疾患	SLE 治療・抗リン脂質抗体症候群	全身性エリテマトーデスの治療を説明できる。抗リン脂質抗体症候群の病態生理、症候、診断と治療を説明できる。	血液免疫呼吸器
18	感染症	らせん菌・スピロヘータ感染症	ヘリコバクター、カンピロバクターやトレポネーマ感染症の診断と治療の基本を説明できる。	分子微生物

19	感染症	眼感染症	眼感染症の原因となる病原体を列挙し、その診断と治療の基本を説明できる。	分子微生物
20	薬理	抗菌薬 (1)	抗菌薬の薬理について	薬理学 感染症
21- 22	小児感染症	小児発疹性疾患 (1) 小児発疹性疾患 (2)	インフルエンザ、麻疹、風疹、水痘・帯状ヘルペス、ウイルス性皮膚疾患 (単純ヘルペス、伝染性紅斑、手足口病、ウイルス性ゆうぜい)、突発性発疹の症候と診断を説明できる。	小児科
23	予備			
24	感染症	リケッチャ感染症	リケッチャ感染症の症状、診断法と治療について説明できる。	分子微生物
25	感染症	微生物診断法	感染症の診断法について説明できる。	分子微生物
26	免疫	感染免疫 (1)	細菌感染に対する免疫応答を説明できる。	免疫学
27	免疫	感染免疫 (2)	ウイルス感染に対する免疫応答を説明できる。	免疫学
28- 29	予備			
30	血液	骨髄異形成症候群	骨髄形成症候群の臨床像を説明できる。	血液免疫呼吸器
31	血液	急性骨髄性白血病	白血球の種類と機能を説明できる。急性骨髄性白血病の病態・症候・診断・治療・予後について説明できる。急性白血病の (WHO 分類および) FAB 分類について概説できる。	血液免疫呼吸器
32	予備			
33	感染症	婦人科領域の STD	性行為感染症、クラミジア感染症を概説できる。	周産期学 婦人科学
34	感染症	泌尿器科領域の STD	泌尿器科領域の STD について概説できる。	泌尿器科
35	免疫・アレルギー疾患	強皮症	強皮症の病態生理、症候、診断、臓器病変 (特に肺・腎) と治療を説明できる。	血液免疫呼吸器
36	免疫・アレルギー疾患	多発筋炎・皮膚筋炎	皮膚筋炎・多発性筋炎の症候、診断と治療を説明できる。	血液免疫呼吸器
37	感染症	ウイルス呼吸器感染症	主要な呼吸器ウイルス感染症の診断と治療を概説できる。	血液免疫呼吸器
38	予備			
39	チュートリアル (1)			
40	予備			
41	薬理	抗菌薬 (2)	抗菌薬の薬理と感染症への適応について	薬理学 感染症
42- 43	感染症・寄生虫疾患	消化器系以外の寄生虫症 (1) (2)	消化器系以外の寄生虫感染症を説明できる。	国際医動物
44	血液病理	リンパ節炎の病理	リンパ節炎の病理像について説明できる	炎症病理
45-	血液	特別講義	造血幹細胞移植について説明できる。	血液免疫呼吸器

46		造血幹細胞移植		
47	予備			
48	小児感染症	予防接種	予防接種の適応と異議を説明できる。	小児科
49	血液	急性リンパ性白血病	急性白血病の病態・症候・診断・治療・予後について説明できる。急性リンパ性白血病の FAB 分類について概説できる。	血液免疫呼吸器
50	血液	症候学：リンパ節腫脹・脾腫	リンパ節腫脹および脾腫をきたす疾患の病態と疾患を列挙できる。	
51-52	血液免疫呼吸器	特別講義 血液がんに対する薬物療法	血液がんに対する薬物療法について説明できる	血液免疫呼吸器
53-54	感染症	特別講義 院内感染	感染制御特論（実践的感染制御） 院内感染について説明できる。	血液免疫呼吸器
55	血液	白血病・悪性リンパ腫の病理（1）	白血病の病理分類について説明でき、その特徴を概説できる。	炎症病理
56	血液	炎症病理特別講義 白血病・悪性リンパ腫の病理（2）	悪性リンパ腫の病理分類について説明でき、その特徴を概説できる。	炎症病理
57	血液	悪性リンパ腫（1）	リンパ系腫瘍の分類を概説できる。頻度の高い悪性リンパ腫、頻度の高い悪性リンパ腫の病態・症候・診断・治療・予後について説明できる。	代謝血液免疫呼吸器
58	免疫	症候学：不明熱	不明熱の鑑別について説明できる。	血液免疫呼吸器
59	免疫・アレルギー疾患	症候学：関節痛	関節痛・関節腫脹を機構と鑑別診断が説明できる	血液免疫呼吸器
60	小児免疫・アレルギー疾患	先天性免疫不全症候群	小児の血管炎（川崎病）、先天性免疫不全症候群の病態、診断と治療を説明できる。	小児科
61	チュートリアル（2）			
62	感染症	尿路感染症		泌尿器科
63-64	予備			
65	免疫	自己免疫疾患概論	全身のおよび臓器特異的自己免疫疾患を概説できる	免疫学
66	免疫	腫瘍免疫	腫瘍に対する免疫応答を説明できる。	免疫学
67	小児免疫・アレルギー疾患	小児皮膚筋炎・若年性関節リウマチ	小児皮膚筋炎の症候・診断・治療を説明できる。若年性関節リウマチの特徴を説明できる。	小児科
68	血液	悪性リンパ腫（2）	特殊な悪性リンパ腫の病態・症候・診断・治療・予後について説明できる。成人 T 細胞性白血病 (ATLL) の病因・疫学。臨床所見を説明できる。	血液免疫呼吸器
69	予備			

70	血液病理	白血病・悪性リンパ腫の病理 (3)	特殊な悪性リンパ腫の病理分類について説明でき、その特徴を概説できる。	炎症病理
71	血液病理	白血病・悪性リンパ腫の病理 (4)	リンパ腫細胞および白血病細胞の特徴・動態について説明できる。	炎症病理
72	予備			
73	チュートリアル発表会			
74	予備			
75	小児感染症	垂直感染症	風疹、サイトメガロウイルス感染症の症候、診断と治療を説明できる。新生児B群レンサ球菌感染症を概説できる。	小児科
76	免疫	悪性関節リウマチ・成人スティル病	関節リウマチの関節外症状、悪性関節リウマチの症状、診断と治療を説明できる。成人スティル病を概説できる。	血液免疫呼吸器
77	免疫・アレルギー疾患	血管炎症候群 (1)	血管炎症候群の症候・診断と治療を説明できる。	血液免疫呼吸器
78	血液	症候学：出血傾向	出血傾向をきたす疾患の鑑別について説明できる。出血傾向の病因・病態・症候・診断を説明できる。	血液免疫呼吸器
79	感染症	血流感染症・SIRS	血流感染症・SIRSについて概説できる。	感染症
80	予備			
81	血液	止血・凝固 (1)	特発性血小板減少性紫斑病 (ITP) の病態・症候・診断・治療について説明できる。血友病の病態・症候・診断・治療と遺伝形式について説明できる。	血液免疫呼吸器
82	血液	止血・凝固 (2)	汎播種性血管内凝固症候群 (DIC)、溶血性尿毒症症候群 (HUS) の基礎疾患、病態・診断・治療について説明できる。アレルギー性 (血管性) 紫斑病、血栓性血小板減少性紫斑病 (TTP) を概説できる。	血液免疫呼吸器
83-84	病理学実習	血液病理学実習	造血器腫瘍の病理実習内容	炎症病理
85	小児感染症	その他の小児感染症	小児科領域に於ける主要な細菌性感染症の診断と治療を概説できる。	小児科
86	小児血液	小児造血器腫瘍	小児の造血器腫瘍の病態・治療法について説明できる	小児科
87	血液	多発性骨髄腫・単クローン性免疫グロブリン血症	多発性骨髄腫及び類縁疾患の病態・症候・診断・治療・予後について説明できる。単クローン性免疫グロブリン血症を概説できる。	血液免疫呼吸器
88	血液	慢性骨髄性白血病	慢性骨髄性白血病の病態・症候・診断・治療・予後について説明できる。	血液免疫呼吸器
89	免疫・アレルギー疾患	自己炎症症候群	自己炎症症候群の病態・症候・診断・治療について説明できる。	血液免疫呼吸器

90	予備			
91	免疫・アレルギー疾患	血管炎症候群 (2)	血管炎症候群の症候・診断と治療を説明できる。	血液免疫呼吸器
92	感染症	ブドウ球菌・溶連菌感染症	ブドウ球菌感染症の症候、診断と治療を説明できる。 A 群連鎖球菌感染症の症候、診断、治療とリウマチ熱との関連を説明できる。	感染症
93	感染症	エイズ	エイズの疫学・病因・病態・治療法について説明できる	地域包括医療
94	免疫・アレルギー疾患	混合性結合組織病・シェーグレン症候群	混合性結合組織病の病態生理、症候、診断と治療を説明できる。シェーグレン症候群、ベーチェット病を概説できる。	血液免疫呼吸器
95-97	予備			
98	免疫	関節リウマチ病態・症候	関節リウマチの病態生理、症候、診断と治療を説明できる	血液免疫呼吸器
99	免疫	関節リウマチ薬物治療	関節リウマチの関節外症状、悪性関節リウマチの症状、診断と治療を説明できる。成人スティル病を概説できる。	血液免疫呼吸器
100-109	予備			
110-111	試験			

教科書・参考書等

教科書

感染症

辞書

1. 微生物学用語集英和・和英 (日本細菌学会用語委員会編) 南山堂
2. 免疫学用語辞典 3 版 (多田富雄他編) 最新医学社

アトラス

1. A color atlas of infectious diseases 2nd Ed. (ed. by Emond & Rowland) Wolfe Year Book

成書

1. Medical Microbiology 2nd Ed. (ed by Mims, Playfair, Roitt, Walkelin, Williams) Mosby
2. 一目でわかる微生物学と感染症 (Gillespie & Bamford 著, 山本直樹訳) MEDSI 社
3. 知っておきたい現代感染症事情 1, 2 (中山宏明, 多田 功, 南嶋洋一編) 医歯薬出版
4. 一目でわかる免疫学 3 版 (Playfair & Chain 著, 麻生芳郎訳) MEDSI 社
5. 免疫学イラストレイテッド 5 版 (Roitt, Brostoff, Male 著, 多田富雄訳) 南江堂

免疫

Janeway's Immunobiology by Kenneth Murphy. Garland, London, 2011. (Eighth edition)

免疫・アレルギー

1. 最新膠原病・リウマチ学 (宮坂信之, 朝倉書店)
2. 膠原病・リウマチ診療～Evidence based medicine を活かす～ (鎌谷直之, メジカルビュー社)
3. KELLY' S Textbook of Rheumatology Eight Edition (Gary S. Firestein, Ralph C. Budd et.al, Saunders, ELSEVIER)
4. EULAR Textbook on Rheumatic Diseases (Johannes WJ Bijlsma et al.)

血液・造血器・リンパ系

アトラス

1. 血液病アトラス (八幡義人著, 東京, 南江堂)
2. 血液細胞アトラス (三輪史朗, 渡辺陽之輔, 共著, 第4版, 文光堂)

成書

1. 標準血液病学 (池田康夫, 押味和夫, 編集, 医学書院)
2. 三輪血液病学 第3版 (浅野茂隆, 池田康夫, 内山 卓, 文光堂)
3. WHO 分類第4版による白血病・リンパ系腫瘍の病態学 (押味和夫 監修中外医学社)
4. Hematology (William J. Williams et.al ed., McGRAW-Hill, New York)
5. Leukemia (Henderson ES & Lister TA ed. Saunders, Philadelphia)
6. WHO Classification: Tumours of the Haematopoietic and Lymphoid Tissues 4th ed. 2008 (WHO Press / Swerdlow).

参考書

オフィスアワー

授業科目名

呼吸器系 (unit5)

(英文併記 Integrated LectureV)

科目区分 統合講義 授業コード 705040 DPコード bcxM

単位数 3 時間割 前期 対象年次及び学科 4 医学科

教員名

教授 今井田克己 (腫瘍病理学)	講師 山本 由佳 (放射線医学)
教授 横見瀬 裕保 (呼吸器・乳腺内分泌外科学)	講師 坂東 修二 (血液・免疫・呼吸器内科学)
教授 柴田 徹 (放射線治療科)	助教 別宮 小由理 (麻酔学)
教授 星野 克明 (免疫学)	助教 西庄 佐恵 (小児科学)
教授 桑原 知己 (分子微生物学)	助教 中野 大介 (薬理学)
准教授 三宅 克也 (組織細胞生物学)	理学療法士 森田 伸 (リハビリテーション部)
准教授 羽場 礼次 (病理診断科)	
准教授 下野 隆一 (小児外科学)	担当講座のその他の先生

授業の概要

第5ユニットは呼吸器疾患を対象とする。呼吸器の解剖、生理を理解し、疾患の症候、画像診断、検査法、組織病理を理解する。呼吸生理、血液ガス分析、細胞診、組織病理の実習を行う。病態、診断、治療について各講座、診療科(部)の視点から呼吸器疾患の総合的な理解のための講義を行う。疾患は腫瘍、感染、アレルギー、職業性、血管性、先天性、外傷など多岐にわたる。系統講義と並行して自学自習のためにチュートリアル課題にも取り組んでいただく。

授業の目的

呼吸器の構造と機能を理解し、疾患の病態生理、原因、症候、診断、治療を学ぶ。自分の力で課題を発見し、自己学習によってそれを解決するための能力を身につける。情報を重要性と必要性にしたがって取捨選択し、その要点を論理的に整理し、分かりやすく表現する能力を身につける。

達成目標

各回の授業にはそれぞれ医学教育モデル・コアカリキュラムに準じた到達すべき目標を設定している。必要な課題を自ら発見し、重要性・必要性に照らして順位づけすることができる。課題を解決する具体的な方法を発見し、他の学習者や教員と協力してよりよい解決方法を見出しながら課題を解決することができる。適切な自己評価ができ、改善のための具体的方策を立てることができる。

成績評価の方法と基準

出席点、総合試験の成績、病理実習評価、チュートリアル課題発表とレポート評価をあわせて評価する。病理組織実習の修了認定を受けていないもの、または、チュートリアル出席不足、または、チュートリアルレポート未提出であるものは総合試験を受けることができない。

授業計画並びに授業及び学習の方法

系統講義に於いては講義前に教科書を読み疑問点をはっきりさせてから授業に臨むこと。自分で学習しそれを解決していく態度が必要である。

回	項目	内容	担当者
1	呼吸生理 (スパイロメーター・人工呼吸器)	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸機能検査の目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。 呼吸生理の基礎を理解できる。 肺胞におけるガス交換と血流の関係を説明できる。 肺気量と肺・胸郭系の圧・容量関係（コンプライアンス）を説明できる。 人工呼吸器の種類、適応、モード、合併症について理解できる。 	呼吸器・乳腺内 分泌外科
2	呼吸器の構造	<ul style="list-style-type: none"> 気道について概説できる。 肺の構造を説明できる。 呼吸に関与する筋肉と神経支配を説明できる。 胸膜の概念を説明できる。 気道と肺の防御機構（免疫学的・非免疫学的）と代謝機能を説明できる。 	組織細胞生物 学
3	実習（呼吸生理・血液ガス分析）	<ul style="list-style-type: none"> 肺機能検査の実際的な解釈について理解できる。 血液ガス分析の実際的な解釈について理解できる。 呼吸中枢を介する呼吸調節の機序を説明できる。 	血液免疫呼吸 器内科
4-5	呼吸器画像診断 (1) (2)	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な解剖学を理解できる。画像上の病変の成り立ち方が理解できる。 	放射線医学
6	呼吸器作動薬	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸器作用薬（気管支拡張薬）の薬理作用を説明できる。 主な薬物の副作用を概説できる。 	薬理学
7	チュートリアル 課題 1	<ul style="list-style-type: none"> 第 1 回目の課題提示 	呼吸器・乳腺内 分泌外科
8	閉塞性肺疾患、COPD	<ul style="list-style-type: none"> 閉塞性換気障害を来す疾患を説明できる。 慢性閉塞性肺疾患（COPD）の病態生理、診断、および治療について理解できる。 	血液免疫呼吸 器内科
9-10	呼吸器画像診断 (3) (4)	<ul style="list-style-type: none"> 代表的な呼吸器疾患の画像が理解できる。 肺癌を含むより臨床的な胸部画像診断の基礎が理解できる。 	放射線医学
11	小児呼吸器疾患	<ul style="list-style-type: none"> 新生児期における呼吸障害、IRDS を起こす疾患について理解する。 	小児科
12- 13	喘息アレルギー (1) (2)	<ul style="list-style-type: none"> 気管支喘息の病態生理、診断、および治療について理解できる。 	血液免疫呼吸 器内科
14	喘息アレルギー(3)	<ul style="list-style-type: none"> 小児における喘息の特徴、治療について理解する。 	小児科

15	自主学習	・講義予備日	
16	肺癌 外科療法	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸器外科的治療と周術期管理の基本を学ぶ。 ・組織、病期別に肺癌の治療法を説明できる。 ・主な呼吸器術後合併症を列挙し、その予防の基本を説明できる。 	呼吸器・乳腺内 分泌外科
17	肺感染症の外科	<ul style="list-style-type: none"> ・肺化膿症と膿胸を概説できる。 ・肺結核・非結核性抗酸菌症の外科的治療を説明できる。 ・膿胸、肺化膿症、気管支拡張症の外科的治療を説明できる。 	呼吸器・乳腺内 分泌外科
18	小児呼吸器感染症	<ul style="list-style-type: none"> ・各疾患での特徴、病態生理、臨床経過、治療について理解できる。 ・小児呼吸器感染症について説明できる。 	小児科
19	気管支鏡・胸腔鏡・ ステント・レーザー	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸器疾患で使用する内視鏡の原理と診断と治療の基本を学ぶ。 ・気管支鏡検査の意義を説明できる。 ・気管支鏡の手技、所見が理解できる。 ・胸腔鏡の意義について説明でき、種類、適応、合併症を理解できる。 ・ステント療法について説明でき、種類、適応、合併症を理解できる。 ・レーザー療法について説明でき、種類、適応、合併症を理解できる。 	呼吸器・乳腺内 分泌外科
20- 21	呼吸器感染症 (1) (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・各疾患での特徴、病態生理、臨床経過、治療について理解できる。 ・呼吸器感染症について説明できる。 	血液免疫呼吸 器内科
22- 23	喀痰細菌検査 (1) (2)	・試料採取・処理、喀痰染色、細菌培養、薬剤感受性、DNA 診断の基本と利用について説明できる。	分子微生物学
24	喀痰病理検査	<p>喀痰の検査目的に応じた細胞診標本の作製法を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・炎症性疾患における喀痰所見を理解する。 ・悪性腫瘍の細胞所見を理解する。 <p>・以上を通じて適切な喀痰材料を提出し、腫瘍非腫瘍を問わず喀痰から得られた所見を的確に理解し、診療に役立てることが出来る事を目標とする基本的な解剖学の理解。画像上の病変の成り立ち方が理解できる。</p>	病理診断科
25	チュートリアル 課題 2	・第 1 回目の課題の討論と第 2 回目の課題の提示	呼吸器・乳腺内 分泌外科
26	呼吸器核医学	・呼吸器疾患の核医学診断について説明することができる。	放射線医学
27	呼吸循環器障害	<ul style="list-style-type: none"> ・肺血管系の疾患について説明できる。 ・肺血栓塞栓症の病態、診断、および治療について理解できる。 	血液免疫呼吸 器内科
28	胸膜疾患	<ul style="list-style-type: none"> ・縦隔と胸膜腔の構造を説明できる。 ・胸膜炎の原因、症候、診断と治療を説明できる。 ・気胸の原因、症候、診断と治療を説明できる。 ・胸膜中皮腫を概説できる。 ・胸水の原因と病態を説明でき胸水を呈する疾患の要点を説明できる。 	呼吸器・乳腺内 分泌外科
29	縦隔疾患	・縦隔疾患について説明できる。	呼吸器・乳腺内 分泌外科

30	呼吸不全 (1)	・呼吸不全の病態、および病型について理解できる。また病型に応じた治療方法に関して理解できる。	血液免疫呼吸器内科
31	異常呼吸	・異常呼吸の病態、および治療方法を理解できる。また睡眠時無呼吸症候群、過換気症候群の診断、および治療方法について理解できる。	血液免疫呼吸器内科
32	呼吸理学療法	・呼吸リハビリテーションの概念と呼吸理学療法の適応および実技を理解できる。	リハビリテーション部
33	呼吸器感染症の病理	・肺の感染症とその鑑別疾患が理解できる。	腫瘍病理学
34	実習 (呼吸器感染症)	・代表的感染症の病理形態学的特徴が理解できる。	腫瘍病理学
35	肺癌 放射線療法	・放射線治療の原理、目的、方法について説明できる。 ・肺癌に対する放射線治療の適応、治療効果について説明できる。 ・放射線治療による急性期、晩期有害事象について説明できる。	放射線治療科
36	拘束性肺疾患、間質性肺炎	・拘束性換気障害を来す疾患を説明できる。 ・間質性肺炎の病態生理、診断、および治療について理解できる。	血液免疫呼吸器内科
37	びまん性肺疾患	・サルコイドーシス、びまん性汎気管支炎など間質性肺炎以外のびまん性肺疾患の病態生理、診断、および治療について理解できる。	血液免疫呼吸器内科
38	胸部外傷	・胸部外傷の治療法について説明できる。	呼吸器・乳腺内分泌外科
39	自主学习	・講義予備日	
40	肺癌 内科療法	・肺癌の化学療法を小細胞癌、および非小細胞癌に分けて理解できる。 ・肺癌の分子標的療法の考え方について理解できる。肺癌化学療法について学ぶ。	血液免疫呼吸器内科
41	閉塞性拘束性疾患	・閉塞性拘束性疾患の病理について説明できる。	腫瘍病理学
42 43	実習 (閉塞性拘束性疾患)	・各々の換気障害の病理形態学的特徴の理解	腫瘍病理学
44- 45	チュートリアル発表準備 (1) (2)	・課題の最終的な考察をグループ内で議論し、まとめる。 ・発表準備とレポート準備を各自行う。	
46	肺癌の病理	・肺癌の分類と代表的組織型の病理	腫瘍病理学
47 48	実習 (肺癌)	・肺癌の形態学的表現型の理解	腫瘍病理学
49 50	呼吸不全 (2) 呼吸不全 (3)	・呼吸不全発生の機序を分類し、そのメカニズムを理解する。 ・呼吸不全, ARDS に対する人工呼吸療法の実際を理解する。	麻酔学
51	喫煙と健康被害	・喫煙に関連する疾患を列挙することが出来る ・受動喫煙のリスクについて説明することが出来る ・禁煙の利点とその方法を説明できる	血液免疫呼吸器内科

52- 53	チュートリアル発表	・ 課題について全体で総合討論を行う	呼吸器・乳腺内 分泌外科
54- 55	塵肺(1)(2)	・ もっとも頻度の高い塵肺である珪肺について、その病態、画像診断、肺機能検査、および治療方法などが理解できる。 ・ アスベストの吸入によって惹起される石綿肺の病態、画像所見、および治療方法が理解できる。また急増しつつある中皮腫の臨床像についても理解できる。	血液免疫呼吸 器内科
56	喘息アレルギー(4)	・ 喘息を主としたアレルギー性呼吸器疾患の病理学的・免疫学的機序の現状の理解と、それらを利用した治療応用の現状および可能性や問題点についての理解。	免疫学
57	小児外科呼吸器疾患	・ 外科療法を要する小児の肺疾患を説明できる。	小児外科
58- 65	自主学習		
66- 67	実習試験		腫瘍病理学
68- 75	自習		
76- 77	試験		血液免疫呼吸 器内科

教科書・参考書等

ユニット全体

呼吸器病学総合講座 メディカルビュー社

腫瘍病理学

1. エッセンシャル病理学第5版 医歯薬出版
2. 感染症病理アトラス 文光堂
3. 肺癌取扱規約 金原出版
4. 腫瘍鑑別診断アトラス 文光堂
5. 外科病理学 文光堂
6. Pathologic Basis of Disease, Ribbins, W.B Saunders Company
Atlas of tumor pathology (vol.13, vol.21), AFIP

分子微生物学

1. 戸田新細菌学(改訂32版), 吉田眞一・柳 雄介, 南山堂
2. Janeway's Immunobiology by Kenneth Murphy. Garland, London, 2011. (Eighth edition)

小児科学

1. Behrman, Kliegman, Jenson: Nelson Textbook of Pediatrics, WB Saunders Co, 2000.
2. Avery, Fletcher, McDonald: Neonatology Pathophysiology and management of the newborn, JB Lippincott Co, 1994.
3. Feigin& Cherry: Textbook of Pediatric Infectious Disease. WB Saunders Co, 1998.
4. Chernick V & Kending EL: Kending's Disorders of the respiratory tract in children. WB Saunders Co, 1990.
5. 白木和夫、前川喜平：小児科学，医学書院，2002.
6. 小川雄之介，多田裕，中村肇，仁志田博司：新生児学，メディカ出版，2000.

麻酔学

1. 「集中治療医学」/日本集中治療医学会編集/秀潤社
2. 新版図説 ICU 呼吸管理編/沼田克雄編著/真興交易医書出版部

放射線医学

1. 胸部単純X線診断（秀潤社）
2. 胸部CT（メディカル・サイエンス・インターナショナル）
3. 胸部画像診断の勘ドコロ（MEDICAL VIEW）

呼吸器・乳腺内分泌外科学

1. 出月康夫：new 外科学，南光堂
2. 人見滋樹：呼吸器外科手術の手技と方法，金芳堂
3. 臨床呼吸器外科 第二版 医学書院
4. 呼吸器外科の実際 130 の手術症例に学ぶ 金芳堂
5. 気管支鏡 臨床医のためのテクニックと画像診断 医学書院
6. 呼吸器外科学 南山堂

血液・免疫・呼吸器内科

1. フレイザー呼吸器病学エッセンス、清水英治/藤田次郎 監訳、西村書店
2. 病気が見える vol.4 呼吸器、メディックメディア
3. マクギーの身体診断学 エビデンスにもとづくグローバル・スタンダード、診断と治療社
4. Bate's Guide to Physical Examination and History Taking, International Edition, Lippincott Williams & Wilkins

オフィスアワー

相談のある学生は各教員にアポイントを取って日時を決定

授業科目名

生殖機能、妊娠と分娩、乳房、成長と発達 (unit7)

(英文併記 Integrated Lecture VII)

科目区分 統合講義 授業コード 705060 DPコード bxxM

単位数 3 時間割 後期 対象年次及び学科 4 医学科

教員名

教授 笥 善行 (泌尿器科学) 教授 横見瀬 裕保 (呼吸器・乳腺内分泌外科学)
教授 三木 崇範 (神経機能形態学) 教授 秦 利之 (周産期学婦人科学)
教授 荒木 伸一 (組織細胞生物学) 教授 日下 隆 (小児科学)
教授 上野 正樹 (炎症病理学)

その他担当講座教員、

非常勤講師

授業の概要

第7ユニットは生殖器(男性生殖器、乳房も含めた女性生殖器)系を対象領域とし、同時に妊娠と分娩、および胎児、新生児の成長と発達といった生理機構も含めた授業から構成されている。生殖器系は性分化にかかわる発生から始まり、マクロ、ミクロの構造と機能について充分理解したうえで先天異常を含め、男性、女性生殖器の各疾患の学習を進めていく。男性生殖器系では、精巣・精巣上体・前立腺・精嚢腺疾患等の病態生理、診断および治療について、また造精機能障害や勃起機能障害など男性不妊に関わる項目について機能面からも診断、治療について学習する。女性生殖器系では、臨床的な診察法、性器出血や無月経などの症候からの原因、病態生理、診断についての理解から始まり、子宮頸部、子宮体部、卵巣と女性生殖器全般の良性、悪性疾患を中心に病態生理、診断および治療について学習する。また不妊症についても原因、治療に加え最新の生殖医療技術についても学習する。また、女性生殖器には乳房も含まれ、乳房に関する疾患についても理解を進める。後半は妊娠、分娩の生理機構について正常妊娠経過、分娩経過について理解し、妊娠中の異常や様々な疾患の合併妊娠、分娩時異常について病態生理、管理について理解する。胎児、新生児の発達の項では、胎児期より、新生児期、乳児期、学童期、思春期へと成長・発達し成人となるヒトにおいて、常に成長・発達している小児期の疾患の病態生理や治療を理解するため、正常の成長・発達について十分な知識を必要とする。このことを踏まえ、正常の成長・発達、それを支える栄養や小児保健について授業を進める。本ユニットは男性、女性における生殖系の形態学、生理機構や病理について、また妊娠、出産といった特別な生体機構や胎児から新生児、小児の発達に至るまで幅広く理解を進めることが重要な学習課題である。これらの中からチュートリアルでも1つか2つの課題を設けていく予定であり、つねに積極的な姿勢で問題に取り組み、より理解を進めてもらいたい。

授業の目的

1. 生殖系の構造と機能を理解し、生殖器疾患の診断と治療に関する知識を学ぶ。
2. 妊娠、分娩と産褥期の管理に必要な基礎知識とともに、母性保健、生殖医療のあり方を学ぶ。
3. 乳房の構造と内分泌依存性の機能を理解し、乳房疾患の診断と治療に関する知識を学ぶ。

4. 胎児・新生児・乳幼児・学童期から思春期にかけての生理的成長・発達とその異常、特徴を学ぶ。また小児保健をはじめ社会的な問題について学ぶ。

達成目標

各授業で設定されている到達目標について説明することができる。

成績評価の方法と基準

病理学等の実習の終了の認定を受けていない場合、総合試験受験資格はない。

チュートリアル課題レポートと本ユニット最終日に行う試験成績をあわせて評価する。

授業計画並びに授業及び学習の方法

各到達目標を理解する上で効率良い方法を取る。授業および実習を中心に行う。

回	項目	内 容	担当者
1	構造と機能① 胎児・新生児	1) 生殖器の構造と機能について説明できる。 2) 胎児の発生・先天異常について説明できる。 3) 胎児循環、呼吸の生理的特徴と出生時の変化について説明できる。	神経機能形態学
2	胎児・新生児	用語の定義・適応生理 SGA 児などの在胎期間や出生体重等計測等の用語を説明できる。	小児科学
3	疾患	男性生殖器疾患(陰茎、精巣前立腺)の病理について概説できる。 講義	炎症病理学
4	疾患・実習	男性生殖器疾患(陰茎、精巣)の病理について概説できる。 実習	炎症病理学
5			
6	構造と機能②	1) 女性生殖器の発生・性分化、分化と解剖について説明できる。 2) 性周期発現と排卵の機序について説明できる。 3) 内外生殖器の先天異常を説明できる。	組織細胞生物学
7		1) 男性生殖器の発生、性分化と解剖について説明できる。 2) 内外生殖器の先天異常を説明できる。	
8	胎児・新生児	新生児仮死 新生児仮死の原因と病態について説明できる。	小児科学
9	症候	女性生殖器 不正性器出血、乳汁漏出、膣分泌物異常、性交障害をきたす疾患について説明できる。	周産期学婦人科学
10	診断と検査	産婦人科の問診及び診察法 1) 女性患者の問診 2) 婦人科領域の診察法 3) 婦人科領域の検査法	
11	診断と検査	婦人科疾患の診断	周産期学婦人科学
12		1) 子宮頸部・内膜の細胞診と組織診野所見が概説できる。 2) 腫瘍マーカーの測定値の意味を説明できる。 3) 骨盤内臓器、腫瘍の画像所見を概説できる。	

13	胎児・新生児	診察法 新生児の診察とその特徴的所見について説明できる。	小児科学
14	新生児・小児	新生児・小児の消化器疾患について概説できる。	小児科学
15	自主学習		
16	疾患	女性生殖器疾患	周産期学婦人科学
17		女性生殖器の悪性疾患の症候、診断と治療が概説できる。	
18		1) 子宮頸部腫瘍	
19		2) 子宮体部腫瘍	
20		3) 卵巣腫瘍 4) 絨毛性疾患	
		女性生殖器疾患 外陰部・膣疾患、膣と骨盤内感染症の症候、診断と治療が概説できる。	
21	疾患	女性生殖器（子宮・卵巣）疾患の病因論と形態学について概説できる。	炎症病理学
22		講義	
23			
24	自主学習		
25	自主学習		
26	疾患	主な女性生殖器（乳腺）疾患の病因論と形態学について概説できる。	炎症病理学
27		講義・実習	
28			
29	Tutorial	課題 1	
30			
31	女性生殖器	病理実習	炎症病理学
32			
33	自主学習		
34	診断と検査	1) 乳房腫瘍の画像診断(乳房撮影、超音波検査、CT)を概説できる。 2) 乳房腫瘍に対する細胞・組織診断法を概説できる。	呼吸器・乳腺内分 泌外科学
35	診断と検査 疾患	1) 良性乳腺疾患の種類を列挙し診断・治療法を説明できる。 2) 乳癌の危険因子、症候、診断、治療と予後を説明できる。	呼吸器・乳腺内分 泌外科学
36	疾患	男性生殖器	泌尿器科学
		1) 造精機能障害、人工受精機能を理解する。 2) 勃起障害を概説できる。新生児呼吸障害の原因を列挙し説明できる。	
37		男性生殖器	
		1) 精巣腫瘍の診断法・治療法を説明できる。 2) 陰嚢内腫瘍性病変の鑑別診断、停留精巣の診断法・治療法を説明できる。	
38		男性生殖器	
		1) 前立腺良性疾患の診断法・治療法を説明できる。 2) 排尿障害を来す疾患の診断法・治療法を説明できる。	

39	疾患	男性生殖器 1) 前立腺悪性疾患の診断法・治療法を説明できる。 2) 排尿障害を来す疾患の診断法・治療法を説明できる。	泌尿器科学
40		男性生殖器 1) 前立腺悪性疾患の診断法・治療法を説明できる。	
41	正常妊娠・	1) 正常妊娠の診断、生理、経過について説明できる。	周産期学婦人科学
42	分娩・産褥	2) 胎児・胎盤系の機能、形態、検査法について説明できる。	
43		3) 胎児出生前診断（超音波検査法）所見について概説できる。 4) 正常分娩の経過について概説できる。 5) 正常産褥経過について概説できる。	
44	胎児・新生児	循環 新生児循環の特徴について説明できる。	小児科学
45	特別講義	海外での医療協力活動について説明できる。	小児科学
46	更年期	更年期障害の機序と診療を説明できる。	周産期学婦人科学
47	小児期	新生児マススクリーニング法及び簡単な小児保健統計について説明できる。	小児科学
48	小児治療学	小児の治療法における薬理学的特徴を概説できる。	小児科学
49	Tutorial	課題 2	
50			
51	小児期	乳幼児健診・育児相談について概説できる。	小児科学
52	疾患	異常分娩・産褥	周産期学婦人科学
53		1) 異常分娩の管理と処置について説明できる。 2) 胎児機能不全の診断と処置について説明できる。	
54	特別講義	経験に基づいた症例を報告できる。	小児科学
55	胎児・新生児	新生児黄疸の鑑別と治療について説明できる。	小児科学
56	疾患	異常妊娠 1) 妊娠初期の異常の診断・治療を説明できる。 2) 妊娠中・後期の異常の診断・治療を説明できる。 3) 多胎妊娠の診断・管理について説明できる。 4) 血液型不適合妊娠の診断・管理について説明できる。	周産期学婦人科学
57	胎児・新生児	新生児呼吸障害の原因を列挙し説明できる。	小児科学
58	自主学習		
59	自主学習		
60	自主学習		
61	疾患	異常妊娠	周産期学婦人科学
62		1) 妊娠初期の異常の診断・治療を説明できる。 2) 妊娠中・後期の異常の診断・治療を説明できる。 3) 多胎妊娠の診断・管理について説明できる。 4) 血液型不適合妊娠の診断・管理について説明できる。	
63	乳児	染色体異常症と先天奇形について説明できる。	小児科学

64	発表会		
65			
66	疾患	異常妊娠・産褥	周産期学婦人科学
67		1) 主な合併症妊娠の病態、管理および治療を説明できる。 2) 妊娠高血圧症候群の診断・管理を説明できる。 3) 産科感染症の診断と治療について説明できる。 4) 主な異常産褥の病態を説明できる。	
68	自主学習		
69	疾患	不妊症の病態および治療について説明できる。	周産期学婦人科学
70			
71	乳児発達	1) 乳幼児の生理機能の発達の特徴を説明できる。 2) 乳児の精神運動発達の異常を説明できる。 3) 乳幼児の保育・栄養法の基本を概説できる。	小児科学
72	小児期	小児の成長発達障害について説明できる。	小児科学
73	小児期	小児心身症の概説ができる。	小児科学
74	自主学習		
75	自主学習		
76	自主学習		
77	新生児・乳児	母子相互作用について説明できる。	小児科学
78	新生児	母乳育児についての概説ができる。	小児科学
79	疾患	異常分娩・産褥	周産期学婦人科学
80		1) 主な産科手術について概説できる。 2) 産科救急（ショック・DIC）の病態と治療を説明できる。	
81	自主学習		
82	自主学習		
83	自主学習		
84	自主学習		
85	自主学習		
86	自主学習		
87	自主学習		
88	自主学習		
89	試験	総合試験	
90	試験	総合試験	

教科書

神経機能形態学

1. ラングマン人体発生学 トマス・W・サドラー著、安田峯生 訳、医学書院
2. ムーア 臨床解剖学 第2版. 坂井健雄 訳、メディカルサイエンスインターナショナル

泌尿器科学

1. ベットサイド泌尿器科学 診断・治療編 南江堂
2. NEW 泌尿器科学 南江堂
3. 標準泌尿器科学 医学書院
4. 日常診察のための泌尿器科診断学 インターメディカ炎症病理
5. コアカリ対応よくわかる病態生理 11 泌尿器疾患 日本医事新報社
6. EBM 泌尿器疾患の治療 中外医学社

炎症病理学

1. Pathologic basis of disease 8th ed. Robbins et al. Saunders
2. Color atlas and textbook of macropathology. Year Book Medical Publisher.
3. Color atlas and textbook of histopathology. Year Book Medical Publisher.
4. 新病理学総論 菊池浩吉編 南山堂
5. 新病理学各論 菊池浩吉編 南山堂

呼吸器・乳腺内分泌外科学

1. 乳癌手術アトラス 霞 富士雄 医学書院

小児科学

1. 小児科学 大関、近藤総編集、第3版 医学書院
2. 新生児学 小川、多田ら編集 メディカ出版
3. ネルソン小児科学 衛藤監修 原著第17版 エルゼビア・ジャパン

周産期学婦人科学

1. Novs' s Gynecology 13th ed. Bepferk Lippincott williams and wilkins
2. Williams Obstetrics 21st ed. McgrawHill Medical Publisng Division
3. 最新産科学 正常編、異常編 荒木勤 文光堂

オフィスアワー

授業科目名

皮膚系、眼・視覚系、耳鼻・咽喉・口腔系 (unit8)

(英文併記 Integrated LectureⅧ)

科目区分 統合講義 授業コード 705071 DPコード bcxM

単位数 4 時間割 後期 集中 対象年次及び学科 4 医学科

教員名

教授	三木 崇範 (神経機能形態学)		
教授	徳田 雅明 (細胞情報生理学:ディレクター)	准教授	山口 文徳 (細胞情報生理学)
教授	今井田 克己 (腫瘍病理学)	准教授	横平 政直 (腫瘍病理学)
教授	窪田 泰夫 (皮膚科学)	准教授	米田 耕造 (皮膚科学)
助教	森上 純子 (皮膚科学)	助教	森上 徹也 (皮膚科学)
助教	中井 浩三 (皮膚科学)		
教授	田中 嘉雄 (形成外科学)	准教授	永竿 智久 (形成外科学)
助教	濱本 有祐 (形成外科学)	助教	木暮 鉄邦 (形成外科学)
助教	玉井 求宜 (形成外科学)		
教授	辻川 明孝 (眼科学)	准教授	廣岡 一行 (眼科学)
学内講師	白神 千恵子 (眼科学)	助教	山下 彩奈 (眼科学)
助教	白潟 ゆかり (眼科学)	助教	藤田 智純 (眼科学)
教授	(耳鼻咽喉科学)	准教授	星川 広史 (耳鼻咽喉科学)
講師	宮下 武憲 (耳鼻咽喉科学)	助教	印藤 加奈子 (耳鼻咽喉科学)
助教	森 照茂 (耳鼻咽喉科学)	助教	秋山 貢佐 (耳鼻咽喉科学)
助教	稲本 隆平 (耳鼻咽喉科学)		
教授	(歯科口腔外科学)	准教授	三宅 実 (歯科口腔外科学)
学内講師	大林 由美子 (歯科口腔外科学)	助教	岩崎 昭憲 (歯科口腔外科学)
講師	木村 成秀 (放射線医学)		

授業の概要

第8ユニットでは、感覚器系に関連のある解剖学、生理学、病理学、皮膚科学、形成外科学、眼科学、耳鼻咽喉科学、口腔外科学などを統合して学習することにより、感覚系の正常と異常とを効率よく理解することを目標とする。感覚系の基礎として、感覚系の発生や構造、生理機能発現機構を系統的に理解する。皮膚科関連領域では、皮膚が内外環境の様々な刺激や感染を常に受け、また身体内部の機能異常が反映する臓器であることから、主要な皮膚疾患の病因と病態、検査と診断、治療ならびに内臓病変との関連を理解することが重要となる。形成外科学関連領域では、人体発生や解剖生理の知識を基礎に、身体表面に現れた先天的・後天的変形により生じる不利益を理解し、形態的・機能的回復を図るための治療方法について学習する。眼科関連領域では、一般の医師として必要な眼科学の知識と技能を修得することにある。眼はきわめて微細な構造をして精密な機能を有する器官であることを認識し、眼科固有の疾患および他臓器と関連する眼疾患を理解する。耳鼻咽喉科関連領域では、

耳科学・鼻科学・咽喉頭科学および頭頸部外科学に関して、初期医療に必要な基礎的な知識の習得や診療技術を獲得することにある。歯科口腔外科関連領域では、食物摂取、咀嚼、味覚、発音など多くの機能に関与する口腔の構造および機能の把握により健康保持増進のための口腔の役割を理解したうえで主要疾患について学習する。

授業の目的

皮膚系、眼・視覚系、耳鼻・咽喉・口腔系の構造と機能を理解し、主な疾患の病態生理、原因、症候、診断および治療について学ぶ。

達成目標

各授業にそれぞれ到達すべき目標を設定している。これらには、医学教育モデル・コアカリキュラムに揚げられた皮膚系、眼・視覚系、耳鼻・咽喉・口腔系で学習すべき到達目標が含まれている。皮膚系、眼・視覚系、耳鼻・咽喉・口腔系に関連する症候については医学教育モデル・コアカリキュラムの項 (WEB シラバス) を参照する。

成績評価の方法と基準

チュートリアルにおいては、発表会を重視する。ただしチュートリアル課題に関して、レポートが未提出あるいは評定が否である者、病理組織実習の修了認定を受けていない者は総合試験受験資格を与えられない。総合試験は、(1) 皮膚科／形成外科、(2) 眼科／耳鼻咽喉科／歯科口腔外科／放射線医学／神経機能形態学／細胞情報生理学、(3) 腫瘍病理学 (実習) に分けて行う。再試験は全科で実施する。各科目および全体を通じて3分の2の出席が必要である。もし3分の2以上の出席がない場合は、総合試験も再試験も受験できない。したがって、留年ということになり、進級できない。

授業計画並びに授業及び学習の方法

各科の講義において配布するプリントや症例等の提示、マルチメディアによる情報提示等により学習をする。実習においてはこの他に実技実習やプレパラート観察等での学習を行う。特に皮膚科ではスライドによる皮膚疾患の臨床像の提示が多いので注目してほしい。多くの疾患が限られた時間に紹介される。各科とも予習が重要である。

回数	項目	達成目標	担当者
1	オリエンテーション	第8ユニットの統合講義の主旨を理解してもらう。	ディレクター
2	感覚系の構造と機能 1	1) 感覚器の構造を、機能と結びつけて解剖学的に説明できる。 2) 感覚器の正常発生について説明できる。	神経機能形態学 (三木)
3	感覚系の構造と機能 2	1) 刺激に対する感覚受容の種類と機序を説明できる。 2) 表在感覚と深部感覚の受容機序と伝導路を説明できる。 3) 痛覚のしくみを説明できる。	細胞情報生理学 (徳田)
4	皮膚の構造と機能	1) 皮膚の組織構造を図示して説明できる。 2) 皮膚の細胞動態と角化、メラニン形成の機構を説明できる。 3) 皮膚の免疫防御能を説明できる。 4) 皮脂分泌・発汗・経皮吸収を説明できる。	皮膚科 (米田)

5	発疹学と皮膚科検査	<ol style="list-style-type: none"> 1) 発疹の性状を診断し、記載する。原発疹と続発疹を区別する。 2) 皮膚検査法(硝子圧法、皮膚描記法、ニコルスキー現象、ツアング試験、皮脂測定法、生検法など)を概説できる。 3) 皮膚アレルギー検査法(プリックテスト、皮内反応、パッチテスト)を説明できる。 4) 微生物検査法(検体採取法、苛性カリ検鏡法、細菌・真菌培養法)を概説できる。 	皮膚科 (窪田)
6	皮膚癌とメラノーマ	<ol style="list-style-type: none"> 1) 皮膚癌ならびに悪性黒色腫の病態、症候と治療法を説明できる。 	皮膚科 (沼原)
7	母斑、良性腫瘍と色素異常	<ol style="list-style-type: none"> 1) 母斑・母斑症の種類を列挙できる。 2) 尋常性白斑の種類と病態を説明できる。 3) 皮膚良性腫瘍、前癌状態の種類と見分け方を説明できる。 4) 皮膚悪性リンパ腫、血管肉腫と組織球症を説明できる。 	皮膚科 (森上徹)
8	皮膚附属器疾患と肉芽腫, 代謝異常症	<ol style="list-style-type: none"> 1) 皮膚附属器疾患(脱毛症、ざ瘡)の病態、症候と治療法を説明できる。 2) 肉芽腫性疾患、代謝異常症の病態、症候を説明できる。 	皮膚科 (白髭)
9	乾癬と角化症	<ol style="list-style-type: none"> 1) 尋常性乾癬、扁平苔癬とジベルばら色ひ糠疹の病態、症候と治療を説明できる。 2) 角化症の病態、症候と治療を説明できる。 	皮膚科 (米田)
10	水疱症と膿疱症	<ol style="list-style-type: none"> 1) 自己免疫性水疱症の原因、病態と分類を説明できる。 2) 膿疱症の種類と病態を説明できる。 3) 水疱症鑑別のための検査法を説明できる。 4) 先天性表皮水疱症の種類と病態を説明できる。 	皮膚科 (米田)
11	湿疹・皮膚炎群, 薬疹・蕁麻疹, 紅斑症	<ol style="list-style-type: none"> 1) 湿疹反応を説明できる。 2) 湿疹・皮膚炎群の疾患(接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎、脂漏性皮膚炎、貨幣状皮膚炎、皮脂欠乏性湿疹)を列挙し、概説できる。 3) 薬疹や薬物障害の発生機序、症候と治療を説明できる。 4) 蕁麻疹の病態、診断と治療を説明できる。 5) 紅斑症の病態、診断と治療を説明できる。 	皮膚科 (窪田)
12	紫斑と血管炎	<ol style="list-style-type: none"> 1) 皮膚血流障害と紫斑、血管炎の原因、症候と病態を説明できる。 	皮膚科 (窪田)
13	皮膚感染症 1	<ol style="list-style-type: none"> 1) 皮膚表在性と深在性真菌症の症候と病型、治療法を説明できる。 2) 皮膚ウイルス感染症の症候と病型、治療法を説明できる。 	皮膚科 (森上純)
14	皮膚感染症 2	<ol style="list-style-type: none"> 1) 皮膚細菌感染症(伝染性膿痂疹、せつ、よう、毛囊炎、丹毒、ぶどう球菌性熱傷様皮膚症候群)を列挙し、概説できる。 2) 皮膚結核、ハンセン病の症候、病型と原因菌を説明できる。 3) 梅毒の症候、病期と合併症を説明できる。 	皮膚科 (窪田)

15	膠原病／全身と皮膚	1) 皮膚所見からみた膠原病の診断と治療について説明できる。 2) 内科疾患と皮膚病変（デルマトローム）について説明できる。	皮膚科（中井）
16	自主学習		
17	顔面の発生・先天異常	1) 鰓弓・鰓嚢の分化と頭・頸部と顔面・口腔の形成過程を概説できる。 2) 顔面の先天性疾患を列挙できる。 3) 形成外科で扱う主な顔面の先天性疾患を説明できる。	形成外科（玉井）
18	皮膚腫瘍・母斑・血管腫	形成外科で扱う代表的な皮膚腫瘍の症候、診断と治療を説明できる。	形成外科（木暮）
19	美容外科	1) 美容外科について理解する。 2) 主な美容外科手技について概説できる。	形成外科（山本）
20	四肢・体幹部・その他	1) 四肢・体幹部における形成外科的疾患を列挙できる。 2) 形成外科で扱う主な四肢・体幹部疾患を説明できる。 3) 褥瘡・リンパ浮腫・熱傷・その他の形成外科的疾患について理解する。	形成外科（永竿）
21	形成外科 PBL/Tu （課題1）		形成外科
22	形成外科 PBL/Tu （課題1）		形成外科
23	腫瘍切除後再建	形成外科的再建方法について概説できる	形成外科（濱本）
24	顔面外傷・顔面骨折	顔面外傷、顔面骨折の症候、診断と治療法を説明できる。	形成外科（田中）
25	組織の再生・創傷治癒	1) 組織の再生の機序を説明できる。 2) 組織の再生と創傷治癒について理解する。 3) 瘢痕とケロイドについて理解する。	形成外科（矢永）
26	自主学習		
27	自主学習		
28	自主学習		
29	総括(課題1)形成外科		形成外科
30	総括(課題1)形成外科		形成外科
31	皮膚の病理（講義）	皮膚の母斑および腫瘍の代表的疾患を列挙し、その組織学的特徴を説明できる。	腫瘍病理学 （今井田・他）
32	皮膚の病理（講義）	皮膚の母斑および腫瘍の代表的疾患を列挙し、その組織学的特徴を説明できる。	腫瘍病理学 （今井田・他）
33	皮膚の病理（実習）	1) 皮膚の組織構造を図示して説明できる。 2) 皮膚病理学的用語を列挙し、説明できる。	腫瘍病理学 （今井田・他）

34	皮膚の病理（実習）	1) 皮膚の組織構造を図示して説明できる。 2) 皮膚病理学的用語を列挙し、説明できる。	腫瘍病理学 (今井田・他)
35	皮膚の病理（実習）	1) 皮膚の組織構造を図示して説明できる。 皮膚病理学的用語を列挙し、説明できる。	腫瘍病理学 (今井田・他)
36	眼科総論 1	眼球と付属器の構造と機能を説明できる。	眼科（辻川）
37	感覚系の構造と機能 3	1) 刺激に対する感覚受容の種類と機序を説明できる。 2) 視覚、聴覚・平衡覚、嗅覚、味覚の受容機序と伝導路を概説できる。	細胞情報生理学 (徳田)
38	感覚系の構造と機能 4	1) 刺激に対する感覚受容の種類と機序を説明できる。 2) 視覚、聴覚・平衡覚、嗅覚、味覚の受容機序と伝導路を概説できる。	細胞情報生理学 (徳田)
39	医学教育学 1	スキルスラボ実習	医学教育学
40	医学教育学 2	スキルスラボ実習	医学教育学
41	眼科総論 2	眼球と付属器の構造と機能を説明できる。	眼科（辻川）
42	眼科総論 3	対光反射、輻輳反射、角膜反射の機能について説明できる。	眼科（辻川）
43	眼科各論 1	網膜疾患、黄斑疾患の代表的疾患を列挙し、その症候、診断、治療ができる。	眼科（辻川）
44	眼科各論 2	糖尿病網膜症の症候、診断、治療が詳細に説明できる。	眼科（辻川）
45	眼科各論 3	化学外傷の症候と救急処置を説明できる。	眼科（藤田）
46	皮膚科・形成外科試験		皮膚科・形成外科
47	自主学習		
48	眼科各論 4	全身疾患に合併する眼異常を列挙できる。	眼科（白神）
49	眼科各論 5	白内障の成因、症候、診断と治療を詳細に説明できる。	眼科（白潟）
50	眼科各論 6	緑内障の成因を列挙し、それらの発生機序、症候と治療を説明できる。	眼科（廣岡）
51	眼科各論 7	伝染性結膜疾患、角膜炎の症候、診断、治療を説明できる。	眼科（山下）
52	眼科各論 8	ぶどう膜炎の原因疾患を列挙でき、その症候と治療を説明できる。	眼科（白潟）
53	耳科領域 (機能と検査) 1	1) 外耳・中耳・内耳の構造を図示できる。 2) 聴覚・平衡覚の受容のしくみと伝導路を説明できる。	耳鼻咽喉科 (宮下)
54	耳科領域 (機能と検査) 2	聴力検査を説明できる。	耳鼻咽喉科 (稲本)
55	耳科領域 (機能と検査) 3	平衡機能検査を説明できる。	耳鼻咽喉科 (宮下)
56	中耳疾患 (診断と治療)	滲出性中耳炎、急性中耳炎と慢性中耳炎の原因、診断と治療を説明できる。	耳鼻咽喉科 (稲本)

57	内耳疾患 1 (診断と治療)	伝音難聴と感音難聴、迷路性と中枢性難聴を病態から鑑別し、治療を説明できる。	耳鼻咽喉科 (宮下)
58	皮膚の病理 (講義)	皮膚の母斑および腫瘍の代表的疾患を列举し、その組織学的特徴を説明できる。	腫瘍病理学 (今井田・他)
59	皮膚の病理 (実習)	1) 皮膚の組織構造を図示して説明できる。 2) 皮膚病理学的用語を列举し、説明できる。	腫瘍病理学 (今井田・他)
60	皮膚の病理 (実習)	1) 皮膚の組織構造を図示して説明できる。 2) 皮膚病理学的用語を列举し、説明できる。	腫瘍病理学 (今井田・他)
61	内耳疾患 2 (診断と治療)	末梢性顔面神経麻痺の原因、診断と治療を説明できる。	耳鼻咽喉科 (宮下)
62	鼻科領域 (機能と検査)	1) 鼻腔・副鼻腔の構造を図示できる。 2) 嗅覚の受容のしくみと伝導路を説明できる。 3) 嗅覚検査を説明できる。	耳鼻咽喉科 (秋山)
63	鼻・副鼻腔疾患 (診断と治療)	1) 鼻出血の好発部位と止血法を説明できる。 2) 副鼻腔炎の病態と治療を説明できる。	耳鼻咽喉科 (秋山)
64	咽喉頭領域 (形態・機能と検査)	1) 口腔・咽頭・喉頭の構造を図示できる。 2) 喉頭の機能と神経支配を説明できる。 3) 味覚の受容のしくみと伝導路を説明できる。	耳鼻咽喉科 (印藤)
65	咽喉頭疾患 (診断と治療)	1) 扁桃の炎症性疾患の病態と治療を説明できる。 2) 気管切開の適応を説明できる。	耳鼻咽喉科 (森 照茂)
66	頭頸部領域 (形態・機能と検査)	喉頭癌の症候、診断と治療を説明できる。	耳鼻咽喉科 (森 照茂)
67	免疫アレルギー疾患	1) アレルギー性鼻炎の発症機構を説明できる。	耳鼻咽喉科 (秋山)
68	頭頸部腫瘍 1 (診断と治療)	鼻腔・副鼻腔、口腔の悪性腫瘍の症候、診断と治療を説明できる。	耳鼻咽喉科 (星川)
69	頭頸部腫瘍 2 (診断と治療)	1) 咽頭の悪性腫瘍の症候、診断と治療を説明できる。 2) 唾液腺疾患を列举できる。	耳鼻咽喉科 (星川)
70	言語障害・構音障害	1) 言語障害と構音障害の違いを説明できる。 2) 障害に対する訓練や治療法を説明できる。	耳鼻咽喉科 (印藤)
71	頭頸部の診察	1) 耳 (外耳道、鼓膜、聴力) の診察ができる。 2) 口腔、鼻腔の診察ができる。 3) 甲状腺を含めた頸部の診察ができる。	耳鼻咽喉科 (星川)
72	咀嚼障害・嚥下障害 2	1) 耳鼻科領域の咀嚼障害や嚥下障害を説明できる。	耳鼻咽喉科 (印藤)

73	頭頸部の画像診断 1	1) 頭頸部領域の画像診断法を説明できる。 2) 眼窩・外耳・中耳・内耳・口腔・鼻腔・咽頭・喉頭の画像解剖を説明できる。	放射線医学 (木村)
74	頭頸部の画像診断 2	1) 外耳・中耳・内耳の構造を図示できる。 2) 口腔・鼻腔・咽頭・喉頭の構造を図示できる。 3) 画像から解剖学的構造物の説明ができる。	耳鼻咽喉科 (星川)
75	自主学習		
76	歯学概論・歯の発生・う蝕症	1) 医学における歯科医学の関連を説明できる。 2) 歯の発生、歯の発育異常、硬組織疾患について概説できる。	歯科口腔外科 (三宅)
77	咀嚼障害・嚥下障害 1	1) 咀嚼障害や嚥下障害の成因を説明できる。 2) 歯科口腔外科領域の咀嚼障害や嚥下障害を説明できる。	歯科口腔外科 (三宅)
78	歯周疾患と口腔清掃	歯周疾患の原因と治療について概説できる。	歯科口腔外科 (大林)
79	良性腫瘍	歯源性腫瘍および非歯源性腫瘍について発生、分類、治療法の概要を説明できる。	歯科口腔外科 (三宅)
80	外傷・顎関節・顎変形症	歯の外傷・顎骨骨折、顎関節症を説明できる。歯列不正・顎骨の発育異常について説明できる。	歯科口腔外科 (三宅)
81	頭頸部腫瘍の病理 (講義)	1) 頭頸部領域に発生する腫瘍を列記できる。	腫瘍病理学 (今井田・他)
82	頭頸部腫瘍の病理 (講義)	2) 部位別に特徴ある腫瘍を説明できる。	腫瘍病理学 (今井田・他)
83	頭頸部腫瘍の病理 (実習)	1) 聴器及び鼻咽腔に発生する腫瘍を列記できる。 2) 部位別に特徴ある腫瘍を説明できる。 3) 臨床的な特徴と病理学的な特徴を併せて説明できる。	腫瘍病理学 (今井田・他)
84	頭頸部腫瘍の病理 (実習)	1) 視器及び口腔領域に発生する腫瘍を列記できる。 2) 部位別に特徴ある腫瘍を説明できる。 3) 臨床的な特徴と病理学的な特徴を併せて説明できる。	腫瘍病理学 (今井田・他)
85	自主学習		
86	耳鼻咽喉科 PBL/Tu (課題 2)		耳鼻咽喉科
87	耳鼻咽喉科 PBL/Tu (課題 2)		耳鼻咽喉科
88	自主学習		
89	医学教育	スキルスラボ実習	医学教育学
90	医学教育	スキルスラボ実習	医学教育学

91	口腔内診査	口腔内の諸器官、歯列について診査を行い、その状態や異常を把握できる。	歯科口腔外科 (岩崎)
92	粘膜疾患・悪性腫瘍	口腔粘膜疾患についてその特徴や頻度、治療の概要が説明できる。 口腔悪性腫瘍の発生や組織型、治療法を説明できる。	歯科口腔外科
93	歯性炎症	歯性炎症の経過を説明できる。顎骨骨膜炎と顎骨骨髓炎を鑑別し、治療法を説明できる。	歯科口腔外科 (岩崎)
94	神経疾患・唾液腺疾患・嚢胞	顔面神経麻痺・三叉神経痛の特徴を説明できる。唾液腺疾患、歯源性嚢胞の種類を説明できる。	歯科口腔外科 (大林)
95	病院歯科における口腔外科臨床	地域の病院における口腔外科的疾患の治療の役割と現状を説明できる。	歯科口腔外科
96 ～98	自主学習		
99	総括(課題2)耳鼻咽喉科		耳鼻咽喉科
100	総括(課題2)耳鼻咽喉科		耳鼻咽喉科
101 ～ 106	自主学習		
107	腫瘍病理実習試験		腫瘍病理学
108 ～ 116	自主学習		
117 ・118	総合評価試験		耳鼻咽喉科/歯科 口腔外科/眼科/ 神経機能形態学/ 細胞情報生理学/ 放射線医学
119 ～ 140	自主学習		

教科書・参考書等

【神経機能形態学】

1. ムアー臨床解剖学 第2版 坂井建雄訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル
2. 解剖学講義 伊藤 隆著 南山堂
3. Human Embryology & Teratology, O'rahilly R and Muller F, Wiley-Liss

【細胞情報生理学】

1. 標準生理学 本郷他編 医学書院
2. Physiology Berne & Levy Mosby
3. 新生理学 関田, 内藤編 医学書院
4. Molecular Biology of the Cell Alberts et al. Garland
5. Review of Medical Physiology Ganong 丸善出版
6. 脳の分子生物学 Zach W. Hall メディカル・サイエンス・インターナショナル

【腫瘍病理学】

1. ロビンス基礎病理学 廣川書店
2. 標準病理学 医学書院
3. Lever's Histopathology of the Skin (8th edition)

【皮膚科】

1. 池田重雄 他 編集 標準皮膚科学 医学書院 (6版)
2. Rook, Wilkinson & Ebling Textbook of Dermatology (sixth edition)
3. Fitzpatrick, et al Dermatology in General Medicine (third edition)
4. Elder, et al "Lever's Histopathology of the Skin" (eighth edition)

【形成外科】

1. Plastic Surgery William C. Grabb, James W. Smith Little, Brown and Comp.
2. TEXT 形成外科学 第2版 南山堂

【眼科】

1. 現代の眼科 所敬・金井淳編集 金原出版
2. 標準眼科 大野重昭・澤充・木下茂編集 医学書院

【耳鼻咽喉科】

1. 切替一郎他. 新耳鼻咽喉科学. 第10版, 東京, 南山堂, 2004年, 764ページ, 978-4-525-37020-6
2. 喜多村健, 森山寛. NEW 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学. 改訂第2版, 東京, 南江堂, 2007年, 326ページ, 978-4-524-23999-3
3. 森満保. イラスト耳鼻咽喉科. 第3版, 東京, 文光堂, 2004年, 978-4-8306-3327-0
4. 八木聡明他. 新図説耳鼻咽喉科・頭頸部外科講座. 第1巻～第5巻, 東京, メディカル・ビュー社, 2000年～2001年, 978-4-89553-848-0 他
5. 洲崎春海他. SUCCESS 耳鼻咽喉科. 第1版, 東京, 金原出版, 2007年, 232ページ, 978-4-307-37085-1
6. Kerr, Alan G. Scott-Brown's Otolaryngology. Sixth Edition, Butterworth Heinemann Medical, 9780750619356

【歯科口腔外科】

1. 口腔外科学 白砂兼光、古郷幹彦編 医歯薬出版 東京
2. 最新 口腔外科学 総論・各論 塩田重利、富田喜内監 医歯薬出版 東京
3. 口腔顎顔面外科治療学 塩田重利監 永末書店 東京
4. 日本老年歯科医学会監修 口腔ケアガイドブック 下山和弘、他編 口腔保険協会 東京

【放射線医学】

1. 頭頸部のCT、MR 多田・黒崎編 メディカル・サイエンス・インターナショナル
2. 頭頸部臨床画像診断学 尾尻博也著 南江堂

オフィスアワー

【神経機能形態学】

三木崇範：あらかじめメール等でアポイントを取ればいつでも対応
mikit@med.kagawa-u.ac.jp

【細胞情報生理学】

徳田雅明：あらかじめメール等でアポイントを取ればいつでも対応
tokuda@med.kagawa-u.ac.jp

【腫瘍病理学】

あらかじめメール等でアポイントを取ればいつでも対応
ichibyou@med.kagawa-u.ac.jp

【皮膚科】

あらかじめ担当各教員にアポイントをとれば、ユニット期間以外でもいつでも対応は可能
(内線 2665)

【形成外科学】

相談のある学生は各教員にアポイントを取って、日時を決定
(内線 2811)

【眼 科】

廣岡一行：全学期月曜日（17：00～18：00）

【耳鼻咽喉科】

相談のある学生は各教員にアポイントを取って、日時を決定
(内線 2872)

【歯科口腔外科】

三宅 実：dentmm@med.kagawa-u.ac.jp
大林由美子：yumiko@med.kagawa-u.ac.jp（メールでアポイントをお願いします。いつでも対応可能です。）

【放射線科】

相談のある学生は各教員にアポイントを取って、日時を決定

授業科目名

臨床総論講義

(英文併記 Introduction to Clinical Medicine)

科目区分 統合講義 授業コード 705086 DPコード bcxM

単位数 3 時間割 後期 対象年次及び学科 4 医学科

教員名

非常勤講師

白神 豪太郎 (教授: コーディネーター)

松田 和也 (医療法人社団 松田内科医院)

西山 佳宏 (教授: 副コーディネーター)

光岡 妙子 (医療法人 三和会 国吉病院)

舩形 尚 (教授: 副コーディネーター)

千田 彰一 (香川大学 名誉教授)

総論関連各講座・部局教員

授業の概要

近年の医学の進歩、知識或いはエビデンスの指数関数的蓄積により、医学の各領域は細分化され、臓器別専門診療の充実は時代の要請でもある。本学においてもカリキュラムの大幅な改変により臓器別診療を睨んだ講義、所謂統合講義が実践されているが、臓器・機能別の講義を十分理解するためには、その共通項としての総論的知識の習得・理解は不可欠であり、これは一方では医師が医師たるに必要な最低限の基本事項でもある。臨床総論講義では、各専門診療科の協力を得て、所謂「コア・カリキュラム」の概念にのっとり、医師として不可欠な総論的知識を習得し、臓器別講義の十分な理解を深める手助けとすることをその目的とする。なお、「モデル・コア・カリキュラム」の改訂を受け、本カリキュラムも随時最新のものに対応して編成されている。

授業の目的

良き医師となるために、各科共通且つ不可欠の医学総論的知識を習得する。

達成目標

1. コア・カリキュラム(A, B(一部), D(一部), E(一部), F)に示された行動目標を実践する。
2. 臓器・機能別ユニット講義内に包含されない、医師として必要な知識を列挙する。
3. 臓器・機能別ユニット講義の際に、関連した総論知識を述べる。

成績評価の方法と基準

出席及び客観試験(各講義担当講座より提出された試験問題で構成される試験)

授業計画並びに授業及び学習の方法

1回から45回は、3年次生で履修済み

46	診療の基本	基本的診療技能	基本的診療技能(内科系) (5)身体診察 ④泌尿生殖器(男性)	泌尿器科学
----	-------	---------	------------------------------------	-------

47	診療の基本	基本的診療技能	基本的診療技能(内科系) (5)身体診察 ④泌尿生殖器(女性)	周産期学婦人科学
48	診療の基本	基本的診療技能	基本的診療技能(内科系) (5)身体診察 ⑥四肢と脊柱	整形外科学
49	診療の基本	基本的診療知識	外傷学総論	整形外科学
50	診療の基本	基本的診療知識	基本的診療知識(11)リハビリテーション	リハビリテーション部
51	診療の基本	基本的診療知識	基本的診療知識(11)リハビリテーション	リハビリテーション部
52	診療の基本	基本的診療技能	基本的診療技能 (5)基本的診療技能⑦小児の診察	小児科学
53	診療の基本	基本的診療知識	小児外科学総論	小児外科学
54	診療の基本	基本的診療技能	基本的診療技能(内科系) (5)身体診察 ⑦小児の診察：小児固形腫瘍	小児外科学
55	診療の基本	基本的診療技能	基本的診療技能(内科系) (5)身体診察 ⑦小児の診察：胸壁/腹壁疾患	小児外科学
56	診療の基本	基本的診療技能	基本的外科診断法②(呼吸器・乳腺甲状腺)	呼吸器・乳腺内分泌外科学
57	診療の基本	基本的診療技能	基本的診療技能(外科系) (6)基本的臨床手技 外科手技①(消毒・清潔、直腸診察)	消化器外科学
58	診療の基本	基本的診療技能	形成外科的基本手技・美容外科	形成外科学
59	診療の基本	基本的診療知識	四肢・体幹部その他の形成外科	形成外科学
60	診療の基本	基本的診療知識	皮膚腫瘍・母斑の形成外科的治療、頭頸部その他悪性腫瘍切除後の再建手術	形成外科学
61	診療の基本	基本的診療知識	顔面の先天異常・顔面外傷・顔面骨折	形成外科学
62	診療の基本	基本的診療知識	放射線を用いる治療 1	放射線治療科
63	診療の基本	基本的診療知識	放射線を用いる診断 1	放射線医学
64	診療の基本	基本的診療知識	放射線を用いる診断の基礎	放射線医学
65	診療の基本	基本的診療知識	放射線を用いる診断 2	放射線医学
66	診療の基本	基本的診療知識	放射線を用いる診断 3	放射線医学
67	診療の基本	基本的診療知識	放射線を用いる診断 4	放射線医学
68	診療の基本	基本的診療知識	放射線を用いる診断 5	放射線医学
69	全身に及ぶ 生理的变化、 病態、診断、 治療		腫瘍 疫学、病理・病態、発生病因、予防	総合内科
70	全身に及ぶ 生理的变化、 病態、診断、 治療		腫瘍 症候および診断	消化器・神経内科学
71	全身に及ぶ		腫瘍 治療 化学療法および生物学的治療	呼吸器・乳腺内

	生理的变化、病態、診断、治療			分泌外科学
72	全身に及ぶ生理的变化、病態、診断、治療		腫瘍 治療 手術療法および集学的治療	消化器外科学
73	全身に及ぶ生理的变化、病態、診断、治療		放射線を用いる治療 2	放射線治療科
74	全身に及ぶ生理的变化、病態、診断、治療		腫瘍 治療 支持療法および緩和療法	非常勤講師
75	全身に及ぶ生理的变化、病態、診断、治療		腫瘍 チーム医療とバイオエシックス	総合内科
76	診療の基本	基本的診療知識	救急災害医学総論	救急災害医学
77	診療の基本	基本的診療技能	心停止・心肺脳蘇生	救急災害医学
78	診療の基本	基本的診療知識	熱傷の病態と治療	救急災害医学
79	診療の基本	基本的診療知識	脳神経外科救急疾患	救急災害医学
80	診療の基本	基本的診療知識	多発外傷	救急災害医学
81	診療の基本	基本的診療知識	中毒	救急災害医学
82	診療の基本	基本的診療知識	集中治療総論・院内感染症	麻酔学
83	診療の基本	基本的診療知識	静脈麻酔薬・筋弛緩薬	麻酔学
84	診療の基本	基本的診療知識	局所麻酔	麻酔学
85	診療の基本	基本的診療知識	小児麻酔・高齢者麻酔・特殊麻酔	麻酔学
86	診療の基本	基本的診療知識	多臓器不全・重症患者管理概論	麻酔学
87	診療の基本	基本的診療知識	ペインクリニック	麻酔学
88	診療の基本	基本的診療知識	災害医療	救急災害医学
89	診療の基本	基本的診療知識	口腔の構造・機能・生理 (1)	歯科口腔外科学
90	診療の基本	基本的診療知識	口腔の構造・機能・生理 (2)	歯科口腔外科学
91	診療の基本	基本的診療知識	薬物体内動態、therapeutic drug monitoring	薬剤部
92	診療の基本	基本的診療知識	麻薬の取り扱い	薬剤部
93	診療の基本	基本的診療知識・技能	漢方の実際 (1)	非常勤講師
94	診療の基本	基本的診療知識・技能	漢方の実際 (2)	非常勤講師

		能		
95	全身に及ぶ 生理的变化、 病態、診断、 治療		物理・化学的因子による疾患	法医学
96	全身に及ぶ 生理的变化、 病態、診断、 治療		人の死・死と法	法医学

教科書・参考書等

関連各講座によって指定された教科書

オフィスアワー

各担当教員参照

シラバス

5 年次生

児童精神医学Ⅱ

臨床病理検討会

医療管理学・診断学

地域医療実習 } (臨床実習実施要項参照)

医学実習Ⅰ } (年度末に統合試験を課す)

※6年次生と合同で「薬害被害者の声を直接聞く特別講義」を臨床講義棟2階
で実施する。(6月中の月曜V限の予定)

授業科目名

児童精神医学Ⅱ

(英文併記 ChildpsychiatryⅡ)

科目区分 総合保健福祉医療学

授業コード 703831

DPコード abcM

単位数 1 時間割 後期 対象年次及び学科 5 医学科

教員名

非常勤講師 平尾 文雄 (精神神経医学講座)

〃 根来 秀樹 (〃)

〃 安藤 悦子 (〃)

医員 木戸 瑞江 (〃)

授業の概要

児童精神医学Ⅱは、実際の臨床での応用段階を展開学習する。

授業の目的

子どもの心の診療を担う医師は主として、精神医学を修練する中で児童精神医学に興味をもつようになった児童精神科医と小児医学を修練するなかで子どもの心身症や中枢神経の発達的な障害に焦点をあててきた小児科医である。近年、「子どもの心の診療」についてのニーズが高まり、児童精神科医だけ、小児科医だけで担うことが困難になりつつあり、それら医師の連携はもとより、学校・園や行政、福祉などとの幅広いネットワークを構築することが必要となってきた。この授業ではこのような、幅広い視野を持つ医師を育てるための講義を行う。

達成目標

子どもの心を支えるための幅広い知識を身につけ、どの科の医師になっても、子どもの精神面に対し適切な対応ができる。

成績評価の方法と基準

出席および提出されたレポートにみられる理解度、講義内小テストおよび学期末試験で評価する。

授業計画並びに授業及び学習の方法

<総論>

子どもの面接・診断・評価の進め方

子どもの心の障害の治療

1. 精神療法の適応と留意点
2. 薬物療法
3. 家族への介入と他機関との連携
4. 入院治療

<各論>

気分障害

統合失調症

発達障害（自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動性障害等）

摂食障害

パーソナリティ障害

神経症（不安障害、強迫性障害、身体表現性障害、PTSD）

不登校

虐待

自傷行為

教科書・参考書等

R. グットマン, S. スコット. 氏家武ら監訳. 必携 児童精神医学. 岩崎学術出版社, 2010

青木省三・村上伸治編集. 専門医から学ぶ児童・青年期患者の診方と対応. 医学書院, 2012

根来秀樹. お母さんのための児童精神医学. じほう, 2010

齊藤万比古総編集. 子どもの心の診療シリーズ 1～8. 中山書店, 2009

高宮静男、渡邊直樹編集. 青春期精神医学. 診断と治療社, 2010

オフィスアワー

特に設けていない

授業科目名

臨床病理検討会 (5・6年)

(英文併記 Clinical Pathological Conference)

科目区分 臨床医学

授業コード 704700

DPコード bcdM

単位数 2 時間割 前期 対象年次及び学科 5・6 医学科

教員名

病理学講座

教授 今井田 克己

准教授 横 平 政 直

教授 上 野 正 樹

講 師 千 葉 陽 一

准教授 羽 場 礼 次 (病理診断科・病理部)

講 師 串 田 吉 生 (病理診断科・病理部)

(病院教授)

助 教 門 田 球 一 (病理診断科・病理部)

臨床講座

病院助教 香 月 奈穂美 (病理診断科・病理部)

教 授 ()

病院助教 宮 井 由 美 (病理診断科・病理部)

授業の概要

主として6年生(一部で5・6年合同)を対象として必修科目として設けられている授業科目である。

医学部全体の講義としての性格を有するものであるが、学生の臨床教育とともに病理解剖診断が最終結論として提示される関係上、病理が主体となって実施する。

また、病理解剖に関する基本的な知識、概略や、臨床病理検討会(CPC)の重要性についても併せて説明する。

授業の目的

各種の疾患の実態を病理解剖された症例について臨床所見、解剖所見を通じて学び、疾患を総合的に把握する。

達成目標

1. 臨床所見より考えられる診断を列挙することができる。
2. 臨床所見、考えられる診断より当該症例における疑問点を説明することができる。
3. 病理解剖所見を説明することができる。
4. 病理解剖所見より、臨床上の疑問点に解答をすることができる。

成績評価の方法と基準

出席を重視し、必要に応じてペーパーテストを実施する。

炎症病理学の担当回では検討会に先だってレポートを提出することも評価の対象となる。

授業計画並びに授業及び学習の方法

剖検症例を中心にして前もって臨床経過、検査結果等を含む資料を学生に配布しておき、当日は病理担当医、

主治医、特別助言者等よりなる教官と担当する学生が中心となって質疑応答を行う。臨床面ではカルテの記述理解、検査成績の分析、診断に至る思考過程、鑑別診断等について学生の習熟を図る。病理側からは剖検時の肉眼所見、病変の組織学的所見および最終的な病理解剖診断を提示する。これらを踏まえて生前の診断推定が正しかったかどうか、治療の適否と効果、副作用、気付かなかった病変の有無等を討論し検討する。

回	大項目	項目	内容	担当者
1			剖検症例の検討	腫瘍病理学
2			〃	炎症病理学
3			〃	病理診断科・病理部
4			〃	腫瘍病理学
5			〃	炎症病理学
6			〃	病理診断科・病理部
7			〃	腫瘍病理学
8			〃	炎症病理学

教科書・参考書等

オフィスアワー

随 時

授業科目名

医療管理学・診断学

(英文併記 Health Care Management and Practices of Medical Diagnosis)

科目区分 臨床医学 授業コード 704711 DPコード cbxM

単位数 2 時間割 通年 対象年次及び学科 5 医学科

教員名

教授 横井英人 (医療情報部)
教授 岡田宏基 (医学教育学)
准教授 上村幸司 (医療情報部)
准教授 西屋克己 (医学教育学)
病院准教授 舩形尚 (総合内科)
病院助教 泉川美晴 (血液・免疫・呼吸器内科学)
非常勤講師 中島弘 (大阪府立成人病センター特別研究員)

授業の概要

<電子カルテ使用方法の習得>

学生用電子カルテの使用方法について概説し、以後の実習において、各自がそれを利用できるように準備をします。

<医療管理学>

医療管理学は、医療システムとそのマネジメントに関する応用科学で、臨床医学、社会医学、政策工学、経営学などを含んだ学際的領域を形成しています。21世紀初頭から続く国家的構造変革のなか、限られた資源で最高の医療が求められており、国民の多くが何らかの慢性疾病を抱える高齢社会では、従来のシステムではうまく機能しなくなっています。また臨床の現場では、医療の質に対する国民的関心に答えるべく様々な活動やシステム変革が展開されており、個々の医療従事者が身につけるべきコンピテンシー (患者中心の医療サービスの提供、EBMに準拠した診療、質改善技術、情報関連技術、他職種とチームとして協働) の重要性が指摘されています。本講ではこのような問題に対応するための理論と具体的方法論について学習を行います。

授業は講義を中心に行い、適宜グループワークを織り交ぜる予定です。その内容は、医療安全対策、院内感染対策、慢性疾患管理、医師のキャリア形成および医療倫理からなり、将来医師になる者に必要な知識、技術、態度を習得します。

<診断学>

4年生までの総まとめとしてCBTを受験し、それに合格すると5年次に進級できることとなりますが、その時点では、それまでに身につけた医学的知識はまだ断片的で、主訴から医療面接を経て鑑別診断に至る過程が十分にトレーニングされているとは言えません。統合講義では、チュートリアルとして、ユニット内の課題については診断トレーニングを行います。複数のユニットにまたがるような課題には対応できていません。そこで、診断学としては、特にユニット横断的な愁訴に焦点を合わせた診断実習を行う予定です。診断学実習は、臨床実習の月曜日午後に行い、実習での小グループ単位が各回代表として担当教員とPBL形式でやりとりして診断に至

る演習を行う予定です。一部は反転授業形式を用いて行います。

授業の目的

<医療管理学>

良質の医療を実践するために、患者安全、医療の標準化の方法を理解し、適切な問題対応能力の基礎を身につける。

<診断学>

患者の愁訴に応じて、適切な医療面接ができ、必要な検査を選択し、それらを総合して正しい診断に至る能力を習得する。

達成目標

- (1) 学生用電子カルテを使うことができる。
- (2) 患者安全の基礎と実際について説明できる。
- (3) 感染症対策について説明できる。
- (4) 特に生活習慣病における患者管理の方法について説明できる。
- (5) 現代の医療に求められている医療倫理について概説し、それに対して自分の考えを述べることができる。
- (6) 医師のキャリア形成について理解し、自分自身のこととして考えることができる。
- (7) 愁訴から適切な診断過程を構築し、正しい診断に至ることができる。

成績評価の方法と基準

1. 授業参加の程度
2. 講義、実習時のレポート
3. 診断学実習への参加状況
4. 上記を総合して可否の判定を行います。

授業計画並びに授業及び学習の方法

講義内容、配布資料を中心に学習を行います。これまでに習得した臨床医学や社会医学の知識、経験を活用し、医療の現場で役に立つ知識や手法を身につけてください。また受講にあたっては推薦参考書やインターネットを利用した予習、復習が強く望まれます。

回	大項目	項目	内容	担当者
1	電子カルテ説明		学生用電子カルテについての概説	横井、上村
2	医療管理学	医療安全	医療安全概説	西屋
3		感染症対策	感染症対策の実際	西屋
4		慢性疾患管理	患者管理とは、呼吸器系・循環器系疾患の管理	岡田、舛形
5		医療倫理	現代医療に求められる医療倫理；具体例を通じて	中島
6		医師のキャリア形成	生涯を通じた医師のキャリア形成について	泉川
7	診断学	診断学総論	診断学についての基本的考え方、学び方	岡田、西屋

8～ 20		診断学実習 1～13	症例に基づいた診断学実習	岡田、西屋
----------	--	------------	--------------	-------

教科書

人は誰でも間違える 日本評論社 米国医療の質委員会 他著

医療の質—谷間を越えて 21 世紀システムへ 日本評論社 米国医療の質委員会著

医療事故—なぜ起こるのか、どうすれば防げるのか 朝日新聞社 山内桂子・山内隆久著

EBM の道具箱 EBM ライブラリー 中山書店 ダグラス・バデノック著

誰も教えてくれなかった診断学 医学書院 野口善令、福原俊一

内科診断学 金芳堂 吉利 和、黒川 清ら編著

内科診断学 医学書院 福井次矢編著

オフィスアワー

随 時

授業科目名

地域医療実習

(英文併記 Regional medical practice)

科目区分 臨床医学

授業コード 704730

DP コード cdbM

単位数 1 時間割 _____ 対象年次及び学科 5・6 医学科

成績評価の方法と基準

年度末に統合試験を実施する。

臨床実習実施要項参照

授業科目名

医学実習 I

科目区分 臨床医学

授業コード 704920

DP コード cbdM

単位数 _____ 時間割 _____ 対象年次及び学科 5・6 医学科

成績評価の方法と基準

年度末に統合試験を実施する。

臨床実習実施要項参照

シラバス

6 年次生

医学実習Ⅱ（医学実習Ⅱガイドブック参照）

医療総合講義

臨床病理検討会（5年次生シラバス参照）

以下の科目について卒業試験を課す

- ・内科学
- ・小児科学
- ・精神神経科学
- ・皮膚科学
- ・放射線医学
- ・放射線腫瘍学
- ・外科学
- ・脳神経外科学
- ・整形外科学
- ・形成外科学
- ・泌尿器科学
- ・眼科学
- ・耳鼻咽喉科学
- ・周産期学婦人科学
- ・小児外科学
- ・麻酔学
- ・救急災害医学
- ・歯科口腔外科学
- ・臨床検査医学
- ・総合診療医学
- ・地域医療学

卒業試験期間（9月4日（金）～11月13日（金））

※5年次生と合同で「薬害被害者の声を直接聞く特別講義」を臨床講義棟2階
で実施する。（6月中の月曜V限の予定）

授業科目名

医学実習Ⅱ

科目区分 臨床医学

授業コード 704720

単位数 4 時間割 _____ 対象年次及び学科 6 医学科

医学実習Ⅱガイドブック参照

授業科目名

医療総合講義

(英文併記 Introduction to Clinical Medicine)

科目区分 臨床医学 授業コード 704900 DPコード bcdM

単位数 2 時間割 前期 対象年次及び学科 6 医学科

教員名

本学教員, 特別講演講師, 非常勤講師

授業の概要

臨床医学における各専門分野の進歩に伴い, 専門領域が分化する一方で, 臨床各科にまたがる学際的領域の統合, 集学的治療の必要性が指摘されている。また, 新しい技術開発, 新たな疾患の発見等により登場する臨床各科に関連する課題に対しても, 医学教育は迅速に対応する必要がある。

専門分化により生ずる医学教育上の谷間を埋め, 再統合による疾患に対する総合的視野を広めるとともに, up-to-date なトピックスへも十分に対応できる授業科目として, 医療総合講義を実施する。

企画・運営

学務委員会 臨床系部会世話人

授業の目的

達成目標

成績評価の方法と基準

講義出席状況および6年次2学期末に実施する卒業試験による。

授業計画並びに授業及び学習の方法

[1 学期]

月日(曜日)	時限	講義項目	テーマ	責任講座
6月29日(月)	I		肝癌の内科的治療の進歩	消化器・神経内科学
6月29日(月)	II	病理診断学	術中迅速診断	病理診断科
6月29日(月)	III	感染対策	院内感染・外科的感染症	手術部
6月29日(月)	IV	血液製剤の使い方		輸血部

月日(曜日)	時限	講義項目	テーマ	責任講座
6月30日(火)	I		脳神経外科の最近の話題	脳神経外科学
6月30日(火)	II		C型肝炎の病態と治療	消化器・神経内科学
6月30日(火)	III	臓器移植	心臓移植・肺移植	呼吸器・乳腺内分泌外科学
6月30日(火)	IV	臓器移植	肝移植・膵移植	消化器外科学
7月1日(水)	I	安全管理(1)	手術室をめぐる安全管理	手術部
7月1日(水)	II	安全管理(2)	医療機器と安全管理	手術部
7月1日(水)	III	血液浄化療法	血液浄化療法	循環器・腎臓・脳卒中内科学
7月1日(水)	IV		B型肝炎の診断と治療	消化器・神経内科学
7月2日(木)	III		婦人科領域における画像診断	周産期学婦人科学
7月2日(木)	IV		グリア細胞の機能と病態	消化器・神経内科学
7月3日(金)	I	心不全の治療	1) 急性心不全の治療 2) 重症心不全の内科治療 3) 重症心不全の外科治療	循環器・腎臓・脳卒中内科学
7月3日(金)	III	小児臨床薬理学 総論・各論	「新生児へ薬物を使用する」	小児科学
7月3日(金)	IV	小児臨床薬理学 総論・各論	「新生児へ薬物を使用する」	小児科学
7月6日(月)	I	臓器移植	腎移植	泌尿器科学
7月6日(月)	IV	小児外科	小児消化管運動	小児外科学
7月8日(水)	I	救急治療・処置	熱傷治療	形成外科学
7月8日(水)	II	ショックとその治療	急性肝不全	消化器・神経内科学
7月8日(水)	III	造血幹細胞移植		血液・免疫・呼吸器内科学
7月9日(木)	II	病理診断学	細胞診断	病理診断科
7月9日(木)	III	臓器移植・組織移植	同種移植	形成外科学
7月10日(金)	IV		俊英が育つ卒後研修	消化器・神経内科学

[2学期]

月日(曜日)	時限	講義項目	テーマ	責任講座
9月7日(月)	II		東日本大震災から学ぶ災害救急 医学の重要性とこれからの医師 のありかた	救急災害医学
9月7日(月)	III	特別講義	間接リウマチにおけるリハビリ テーションの実際	血液・免疫・呼吸器内科学
9月7日(月)	IV	小児外科	小児輸液・栄養	小児外科学
9月8日(火)	II	甲状腺	甲状腺疾患の臨床	先端医療・臨床検査医学
9月8日(火)	III	糖尿病	生活習慣病の臨床	先端医療・臨床検査医学
9月8日(火)	IV	医事紛争	医師になる前に知っておくべき 法律問題	歯科口腔外科学
9月9日(水)	I	消化管・腹壁・腹膜	消化管出血	消化器・神経内科学
9月9日(水)	II	呼吸器・胸壁	肺癌の遺伝子治療	呼吸器・乳腺内分泌外科学
9月10日(木)	I	人工臓器	人工関節	整形外科
9月10日(木)	II	人工臓器	人工関節	整形外科
9月10日(木)	III		女性と漢方	周産期学婦人科学
9月11日(金)	III	医療総合講義	「地域に求められる医師像～在宅 医療・高齢者医療を中心に～」	地域医療教育支援センター
9月11日(金)	IV	医療総合講義	「地域に求められる医師像～在宅 医療・高齢者医療を中心に～」	地域医療教育支援センター
開講日時調整中				救急災害医学
開講日時調整中				救急災害医学

教科書・参考書等

オフィスアワー

講義・実習時間割表

平成27年度 講義・実習時間割 1年次生

1学期

	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
4月4日 土	10:00～入学式 (幸町キャンパス) 10:30～12:00全学共通科目ガイダンス		13:30～医学部ガイダンス (医学部キャンパス) 大学入門ゼミ用紙配布・回収		
4月6日 月	全学共通科目ガイダンス (幸町キャンパス) 大学入門ゼミ配属先周知 (研究交流棟1F: 修学支援グループに掲示を依頼)				
4月7日 火	13:00～定期健康診断 (幸町キャンパス) 13:00～17:00 新入生修学相談 (幸町キャンパス)				
4月8日 水	大学入門ゼミ	医学概論① 臨2 医療に携わった先輩からのメッセージ (長尾省吾 学長)	早期体験		情報メディアガイダンス
4月10日 金	医用物理学 はじめに (久富)	医用化学 I 概論 (和田)	医科生物学 イントロダクション 山本 (融)	医用物理学 質点の力学 (久富)	微分積分学 Landau信号 (上原)
4月15日 水	大学入門ゼミ	医学概論② 大D 医の倫理 (今井田克己 医学部長)	早期体験		情報メディアガイダンス 【予備】
4月17日 金	医用物理学 静力学 (久富)	医用化学 I 量と単位 (和田)	医科生物学 細胞の基本構造 山本 (融)	医用物理学 静力学 (久富)	微分積分学 微分 (上原)
4月22日 水	大学入門ゼミ	医学概論③ 臨2 (遠隔 チーム医療 (横見瀬裕保 病院長)	微分積分学 微分 (上原)	早期体験 (予備)	
4月24日 金	医用物理学 剛体の運動 (久富)	医用化学 I 原子の構造と性質 (1) (和田)	医科生物学 生命の成り立ち 山本 (融)	医用物理学 剛体の運動 (久富)	
4月29日 水	昭和の日				
5月1日 金	大学入門ゼミ	医学概論④ 大D 胎児のこころ (秦 利之 周産期学婦人科学)	微分積分学 平均値の定理 (上原)	早期体験 (予備)	
5月6日 水	憲法記念日の振替休日				
5月8日 金	医用物理学 弾性変形・塑性変形 (久富)	医用化学 I 原子の構造と性質 (2) (和田)	医科生物学 生体物質 山本 (融)	医用物理学 静止流体 (久富)	
5月13日 水	大学入門ゼミ	医学概論⑤ 臨2 (遠隔 医療従事者に求められるもの (筒井茂子 看護部長)	微分積分学 積分 (上原)	早期体験学習 (チュートリアル) 1	
5月15日 金	医用物理学 静止流体 (久富)	医用化学 I 原子から分子へ (1) (和田)	医科生物学 タンパク質の構造 山本 (融)	医用物理学 運動流体 (久富)	
5月20日 水	大学入門ゼミ	医学概論⑥ 臨2 乱用薬物の基礎知識 (芳地 一 薬剤部長)	微分積分学 積分 (上原)	早期体験学習 (チュートリアル) 2	
5月22日 金	医用物理学 単振動 (久富)	医用化学 I 原子から分子へ (2) (和田)	医科生物学 エネルギー産生 山本 (融)	医用物理学 波動 (久富)	
5月27日 水	大学入門ゼミ	医学概論⑦ 臨2 医学部生の心と体の健康 (永尾 幸 保健管理センター)	微分積分学 前半のまとめと中間試験 (上原)	早期体験学習 (チュートリアル) 3	
5月29日 金	医用物理学 波動 (久富)	医用化学 I 様々な結晶と半導体 (和田)	医科生物学 核酸の構造 山本 (融)	医用物理学 音波 (久富)	
6月3日 水	大学入門ゼミ	医学概論⑧ 大D 医療と地域社会 (岩井敏恭 小豆総合事務所)	微分積分学 偏微分と全微分 (上原)	早期体験学習 (チュートリアル) 4	
6月5日 金	医用物理学 音波 (久富)	医用化学 I 気体 (和田)	医科生物学 中間テスト 山本 (融)	医用物理学 光学 (久富)	

6月10日 水	大学入門ゼミ	医学概論⑨ 大D <small>国際化する医学教育：香川大学の現状と展開 (徳田雅明 国際交流委員長)</small>	微分積分学 極値問題 (上原)	早期体験学習（チュートリアル）5	
6月12日 金	医用物理学 光学 (久富)	医用化学 I 液体と固体 (和田)	医科生物学 これまでのまとめ 山本（融）	医用物理学 熱現象、熱力学 (久富)	
6月17日 水	大学入門ゼミ	医学概論⑩ 大D 医師としての生涯設計 <small>(松原修司 卒後臨床研修センター)</small>	微分積分学 極値問題 (上原)	早期体験学習（チュートリアル）6	
6月19日 金	医用物理学 熱現象、熱力学 (久富)	医用化学 I 熱力学の基礎(1) (和田)	医科生物学 遺伝子の構造 山本（融）	医用物理学 分子運動論 (久富)	
6月24日 水	大学入門ゼミ	医学概論⑪ 大D ITと医療 <small>(横井英人 医療情報部長)</small>	微分積分学 二重積分 (上原)	早期体験学習（チュートリアル）7	
6月26日 金	医用物理学 熱力学の応用 (久富)	医用化学 I 熱力学の基礎(2) (和田)	医科生物学 遺伝情報の複製 山本（融）	医用物理学 電場と電位 (久富)	
7月1日 水	大学入門ゼミ	医学概論⑫ 大D 医療安全 <small>(舛形 尚 医療安全管理部)</small>	微分積分学 二重積分 (上原)	早期体験学習（チュートリアル）8	
7月3日 金	医用物理学 電流現象、静磁場、 電流と磁場 (久富)	医用化学 I 化学平衡(1) (和田)	医科生物学 遺伝情報の発現 1 山本（融）	医用物理学 電磁誘導、電磁波 (久富)	
7月8日 水	大学入門ゼミ	医学概論⑬ 大D インフォームドコンセント <small>(鈴木康之 消化器外科)</small>	微分積分学 線積分 (上原)	早期体験学習（チュートリアル）9	
7月10日 金	医用物理学 電磁誘導、電磁波 (久富)	医用化学 I 化学平衡(2) (和田)	医科生物学 遺伝情報の発現 2 山本（融）	医用物理学 原子と原子核 (久富)	
7月15日 水	大学入門ゼミ	医学概論⑭ 大D 安楽死と尊厳死 <small>(木下博之 法医学)</small>	微分積分学 Gauss-Greenの定理 (上原)	早期体験学習（チュートリアル）10	
7月17日 金	医用物理学 電子と原子 (久富)	医用化学 I 酸と塩基 (和田)	医科生物学 遺伝情報の発現 3 山本（融）	医用物理学 原子核と素粒子 (久富)	
7月22日 水	大学入門ゼミ	医学概論⑮ 臨2 <small>大学生のジェンダー意識と互いの性の尊重 (長安めぐみ 群馬大学)</small>	微分積分学 まとめと演習 (上原)	早期体験学習（チュートリアル）【予備】	
7月24日 金	医用物理学 原子核と素粒子 (久富)	医用化学 I 中間まとめ (和田)	医科生物学 遺伝情報の修飾 山本（融）	医用物理学 X線、放射線 (久富)	微分積分学
7月29日 水	学期末試験期間				
7月30日 木	学期末試験期間				
7月31日 金	学期末試験期間				
8月3日 月	学期末試験期間				
8月4日 火	学期末試験期間				

2学期

10月1日 木	大学記念日（休業）			
10月2日 金	早期医学実習 IBコース（自由科目）	医用化学 I 反応速度	医療心理学 オリエンテーション	医科生物学
	全学共通科目（幸町キャンパス）			前期のまとめ
		（和田）	（長谷）	山本（融）
10月6日 火	全学共通科目（幸町キャンパス）			
	早期医学実習 IAコース（自由科目）			
10月7日 水	医療プロフェッショナルリズムの実践 I オリエンテーション 岡田	病気を知ろう 岡田	医用統計学 統計学 確率分布 （上原）	情報リテラシー
10月9日 金	早期医学実習 IBコース（自由科目）	医用化学 I 酸化と還元	医療心理学 知覚	医科生物学
	全学共通科目（幸町キャンパス）			細胞内情報伝達 1
		（和田）	（長谷）	山本（融）
10月13日 火	全学共通科目（幸町キャンパス）			
	早期医学実習 IAコース（自由科目）			
10月14日 水	医療プロフェッショナルリズムの実践 I 学外実習の説明 岡田	高齢者の介護福祉施設 川口 (MSW)	医用統計学 統計学 確率分布 （上原）	情報リテラシー
10月16日 金	早期医学実習 IBコース（自由科目）	医用化学 I 原子の構造と化学結合	医療心理学 記憶	医科生物学
	全学共通科目（幸町キャンパス）			細胞内情報伝達 2
		（和田）	（長谷）	山本（融）
10月20日 火	全学共通科目（幸町キャンパス）			
	早期医学実習 IAコース（自由科目）			
10月21日 水	医療プロフェッショナルリズムの実践 I 学外実習場所の選択 岡田・西屋・住谷		医用統計学 統計学 確率分布 （上原）	情報リテラシー
10月23日 金	早期医学実習 IBコース（自由科目）	医用化学 I アルカン(1)	医療心理学 認知・思考	医科生物学
	全学共通科目（幸町キャンパス）			細胞内情報伝達 3
		（和田）	（長谷）	山本（融）
10月27日 火	全学共通科目（幸町キャンパス）			
	早期医学実習 IAコース（自由科目）			
10月28日 水	医療プロフェッショナルリズムの実践 I 医療安全ノブライバシー保護 岡田・西屋・住谷	学外実習で学ぶことGW 岡田・西屋・住谷	医用統計学 統計学 確率分布 （上原）	情報リテラシー
10月30日 金	大学祭（臨時休業）			
11月3日 火	文化の日			
11月4日 水	医療プロフェッショナルリズムの実践 I ワーク・ライフ・バランス 泉川	情報リテラシー	医用統計学 統計学 確率分布 （上原）	医療プロフェッショナルリズムの実践 I 海外の学術調査について 村主
11月6日 金	早期医学実習 IBコース（自由科目）	医用化学 I アルカン(2)	医療心理学 動機づけ	医科生物学
	全学共通科目（幸町キャンパス）			細胞骨格形成と制御 1
		（和田）	（長谷）	山本（融）
11月10日 火	全学共通科目（幸町キャンパス）			
	早期医学実習 IAコース（自由科目）			
11月11日 水	医療プロフェッショナルリズムの実践 I 学外実習 1-1		医用統計学 統計学 確率分布 （上原）	情報リテラシー

11月13日 金	早期医学実習 I Bコース (自由科目)		医用化学 I アルケンとアルキン(1) (和田)	医療心理学 学習① (長谷)	医科生物学 細胞骨格形成と制御 2 山本 (融)
	全学共通科目 (幸町キャンパス)				
		医療と法規 (自由科目)			
11月17日 火	全学共通科目 (幸町キャンパス)				
	早期医学実習 I Aコース (自由科目)				
11月18日 水	医療プロフェッショナルリズムの実践 I 学外実習 1-2		医用統計学 統計学 前半のまとめ と中間試験 (上原)	情報リテラシー	
11月20日 金	早期医学実習 I Bコース (自由科目)		医用化学 I アルケンとアルキン(2) (和田)	医療心理学 学習② (長谷)	医科生物学 細胞周期と細胞分裂 1 山本 (融)
	全学共通科目 (幸町キャンパス)				
		医療と法規 (自由科目)			
11月24日 火	月曜授業振替日				
11月25日 水	医療プロフェッショナルリズムの実践 I 中山間地域の地域包括医療 菅原		医用統計学 推測統計学 推定と検定 (上原)	情報リテラシー	
11月27日 金	早期医学実習 I Bコース (自由科目)		医用化学 I 芳香族化合物(1) (和田)	医療心理学 ストレス (長谷)	医科生物学 細胞周期と細胞分裂 2 山本 (融)
	全学共通科目 (幸町キャンパス)				
		医療と法規 (自由科目)			
12月1日 火	全学共通科目 (幸町キャンパス)				
	早期医学実習 I Aコース (自由科目)				
12月2日 水	医療プロフェッショナルリズムの実践 I 学外実習 2-1		医用統計学 推測統計学 推定と検定 (上原)	情報リテラシー	
12月4日 金	早期医学実習 I Bコース (自由科目)		医用化学 I 芳香族化合物(2) (和田)	医療心理学 人格① (長谷)	医科生物学 非対称細胞分裂 山本 (融)
	全学共通科目 (幸町キャンパス)				
		医療と法規 (自由科目)			
12月8日 火	全学共通科目 (幸町キャンパス)				
	早期医学実習 I Aコース (自由科目)				
12月9日 水	医療プロフェッショナルリズムの実践 I 学外実習 2-2		医用統計学 推測統計学 推定と検定 (上原)	情報リテラシー	
12月11日 金	早期医学実習 I Bコース (自由科目)		医用化学 I 有機化合物の立体化学 (1) (和田)	医療心理学 人格② (長谷)	医科生物学 細胞間相互作用 山本 (融)
	全学共通科目 (幸町キャンパス)				
		医療と法規 (自由科目)			
12月15日 火	全学共通科目 (幸町キャンパス)				
	早期医学実習 I Aコース (自由科目)				
12月16日 水	医療プロフェッショナルリズムの実践 I 学外実習のまとめ 岡田・西屋		医用統計学 推測統計学 推定と検定 (上原)	情報リテラシー	
12月18日 金	早期医学実習 I Bコース (自由科目)		医用化学 I 有機化合物の立体化学 (2) (和田)	医療心理学 発達① (長谷)	医科生物学 細胞死 山本 (融)
	全学共通科目 (幸町キャンパス)				
		医療と法規 (自由科目)			
12月22日 火	全学共通科目 (幸町キャンパス)				
	早期医学実習 I Aコース (自由科目)				
12月23日 水	天皇誕生日				

1月8日 金	早期医学実習 IBコース (自由科目)	医用化学 I	医療心理学 発達②	医科生物学
	全学共通科目 (幸町キャンパス)	ハロゲン化アルキル(1)		初期発生 山本 (融)
	医療と法規 (自由科目)	(和田)	(長谷)	
1月12日 火	全学共通科目 (幸町キャンパス)			
	早期医学実習 I Aコース (自由科目)			
1月13日 水	医療プロフェッショナルリズムの実践 I 補完医療としての鍼灸 大麻	医用統計学 推測統計学 推定と検定 花房	情報リテラシー (上原)	
1月15日 金	センター試験会場設営 (臨時休業)			
1月19日 火	全学共通科目 (幸町キャンパス)			
	早期医学実習 I Aコース (自由科目)			
1月20日 水	医療プロフェッショナルリズムの実践 I 在宅医療の現状と実践例 三宅	医用統計学 推測統計学 推定と検定 (上原)	情報リテラシー	
1月22日 金	早期医学実習 IBコース (自由科目)	医用化学 I	医療心理学 対人関係①	医科生物学
	全学共通科目 (幸町キャンパス)	ハロゲン化アルキル(2)		群集と生態系 山本 (融)
	医療と法規 (自由科目)	(和田)	(長谷)	
1月26日 火	全学共通科目 (幸町キャンパス)			
	早期医学実習 I Aコース (自由科目)			
1月27日 水	医療プロフェッショナルリズムの実践 I 学外実習発表準備 岡田・西屋	医用統計学 推測統計学 推定と検定 (上原)	情報リテラシー	
	国際交流・渡航医学 徳田・新井・依田			
1月29日 金	早期医学実習 IBコース (自由科目)	医用化学 I	医療心理学 対人関係②	医科生物学
	全学共通科目 (幸町キャンパス)	アルコール, フェノール, エーテル(1)		創薬科学 山本 (融)
	医療と法規 (自由科目)	(和田)	(長谷)	
2月2日 火	全学共通科目 (幸町キャンパス)			
	早期医学実習 I Aコース (自由科目)			
2月3日 水	医療プロフェッショナルリズムの実践 I 学外実習発表会 1 岡田・西屋・住谷	医用統計学 推測統計学 推定と検定 (上原)	情報リテラシー	
	学外実習発表会 2			
2月5日 金	早期医学実習 IBコース (自由科目)	医用化学 I	医療心理学 まとめ	医科生物学
	全学共通科目 (幸町キャンパス)	アルコール, フェノール, エーテル(2)		漢方医学概論 永尾
	医療と法規 (自由科目)	(和田)	(長谷)	
2月9日 火	全学共通科目 (幸町キャンパス)			
	早期医学実習 I Aコース (自由科目)			
2月10日 水	学期末試験期間 (木曜日振替試験)			
2月12日 金	学期末試験期間			
2月15日 月	学期末試験期間			
2月16日 火	学期末試験期間			
2月17日 水	学期末試験期間			

平成27年度 講義・実習時間割 2年次生

第1学期

第1週

1	I	II	III	IV	V
		10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
3月30日 月	春期休業				
3月31日 火	春期休業				
4月1日 水	ガイダンス	分子遺伝学 遺伝情報伝達の基本的仕組み 竹崎	医療プロフェッショナルの実践Ⅱ オリエンテーション 岡田 宏基	カウンセリングの概要 竹森 元彦	
4月2日 木	細胞生物学 イントロダクション 山本 (融)	医用化学Ⅱ 概論1 (和田)	自然科学実習 総論 (和田, 山本(融), 久富)		
4月3日 金		細胞生物学 初期発生1 山本 (融)	早期医学実習Ⅱ【正課外科目】 1回目		

第2週

2	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
4月6日 月	分子遺伝学 遺伝情報と表現型I 竹崎	医用化学Ⅱ 概論2 (和田)	自然科学実習 物理・化学1 (久富, 和田)		
4月7日 火	分子生物学 アミノ酸とタンパク質の一次構造 アミノ酸の化学とペプチド (神鳥)	解剖学Ⅱ 解剖学講義 解剖学総論 荒木	解剖学Ⅱ 骨学講義 椎骨・胸郭 荒木	解剖学Ⅱ 骨学実習 椎骨・胸郭 荒木他	
4月8日 水	分子生物学 タンパク質の三次元構造 タンパク質の高次構造とフォールディング (神鳥)	分子遺伝学 遺伝情報と表現型Ⅱ 竹崎	医療プロフェッショナルの実践Ⅱ 行動科学概説 宮前 義和	コミュニケーション実習概論 西屋 克己	
4月9日 木	細胞生物学 初期発生2 山本 (融)	医用化学Ⅱ 構造決定1 (和田)	自然科学実習 物理・生物1 (久富, 山本(融))		
4月10日 金	全学共通科目 (英語) Communicative English III 長井, ウリ-, 中住, ヒル (医学部キャンパス)	細胞生物学 形態形成1 山本 (融)	早期医学実習Ⅱ【正課外科目】 2回目		

第3週

3	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
4月13日 月	分子遺伝学 細胞分裂/ヒトの染色体 竹崎	医用化学Ⅱ 構造決定2 (和田)	自然科学実習 生物1・化学1 (山本(融), 和田)		
4月14日 火	分子生物学 核酸の構造 DNAらせん, 染色体の構造 (神鳥)	解剖学Ⅱ 骨学講義 上肢帯・上肢骨 荒木	解剖学Ⅱ 骨学実習 上肢帯・上肢骨 荒木他		
4月15日 水	定期健康診断 (午前休講)		医療プロフェッショナルの実践Ⅱ コミュニケーション実習① 堀井他		
4月16日 木	細胞生物学 形態形成2 山本 (融)	医用化学Ⅱ アルデヒド、ケトン1 (和田)	自然科学実習 物理・化学2 (久富, 和田)		
4月17日 金	全学共通科目 (英語) Communicative English III 長井, ウリ-, 中住, ヒル (医学部キャンパス)	細胞生物学 組織形成1 山本 (融)	早期医学実習Ⅱ【正課外科目】 3回目		

第4週

4	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
4月20日 月	分子遺伝学 染色体異常 竹崎	医用化学Ⅱ アルデヒド・ケトン2 (和田)	自然科学実習 物理・生物2	(久富, 山本(融))	
4月21日 火	分子生物学 タンパク質の機能 <small>ミオグロビンとヘモグロビン, 筋肉収縮, 抗体</small> (神鳥)	解剖学Ⅱ 骨学講義 下肢帯・下肢骨 荒木	解剖学Ⅱ 骨学実習 下肢帯・下肢骨・骨盤計測 荒木他		
4月22日 水	分子生物学 単糖と多糖 単糖, 多糖, 糖タンパク質 (神鳥)	分子遺伝学 性染色体/連鎖 竹崎	医療プロフェッショナルの実践Ⅱ コミュニケーション実習② 堀井他		
4月23日 木	細胞生物学 組織形成2	医用化学Ⅱ カルボン酸1 (和田)	自然科学実習 生物2・化学2 (山本(融), 和田)		
4月24日 金	全学共通科目(英語) Communicative English III 長井, ウィリ, 中住, ヒル (医学部キャンパス)	細胞生物学 組織の維持	早期医学実習Ⅱ【正課外科目】 4回目		

第5週

5	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
4月27日 月	分子遺伝学 突然変異 竹崎	医用化学Ⅱ カルボン酸2 (和田)	自然科学実習 物理・化学3	(久富, 和田)	
4月28日 火	分子生物学 DNA:複製, 修復, 組換え(1) DNA複製の諸酵素 (吉田)	解剖学Ⅱ 骨学講義 頭蓋 荒木	解剖学Ⅱ 骨学実習 頭蓋 荒木他		
4月29日 水	昭和の日				
4月30日 木		医用化学Ⅱ カルボニル化合物1 (和田)	自然科学実習 物理・生物3 (久富, 山本(融))		
5月1日 金		細胞生物学 生殖系列	早期医学実習Ⅱ【正課外科目】 5回目		

第6週

6	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
5月4日 月	みどりの日				
5月5日 火	こどもの日				
5月6日 水	憲法記念日の振替休日				
5月7日 木		医用化学Ⅱ カルボニル化合物2 (和田)	自然科学実習 生物3・化学3 (山本(融), 和田)		
5月8日 金	全学共通科目(英語) Communicative English III 長井, ウィリ, 中住, ヒル (医学部キャンパス)	細胞生物学 細胞内物質輸送1	早期医学実習Ⅱ【正課外科目】 6回目		

第7週

7	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
5月11日 月	分子遺伝学 集団の遺伝情報の変化 竹崎	医用化学Ⅱ アミン (和田)	自然科学実習 物理・化学4 (久富, 和田)		
5月12日 火	分子生物学 脂質と生体膜 脂質の化学, 生体膜, 膜タンパク質 (神鳥)	解剖学Ⅱ 骨学講義 頭蓋 荒木	解剖学Ⅱ 骨学実習 頭蓋 荒木他		
5月13日 水	分子生物学 DNA:複製, 修復, 組換え(2) 原核・真核細胞のDNA複製 (吉田)	分子遺伝学 集団間の遺伝的違い 竹崎	医療プロフェッショナルの実践Ⅱ 県立保健医療大学における実習 那須他		
5月14日 木		医用化学Ⅱ 炭水化物 (和田)	自然科学実習 物理・生物4 (久富, 山本(融))		
5月15日 金	全学共通科目(英語) Communicative English III 長井, ウリ, 中住, ヒル (医学部キャンパス)	細胞生物学 細胞内物質輸送2	早期医学実習Ⅱ【正課外科目】 7回目		

第8週

8	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
5月18日 月	分子遺伝学 中間試験 竹崎	医用化学Ⅱ アミノ酸 (和田)	自然科学実習 生物4・化学4 (山本(融), 和田)		
5月19日 火	分子生物学 膜輸送 能動輸送, 受動輸送 (神鳥)	解剖学Ⅱ 骨学実習 頭蓋 荒木他			
5月20日 水	分子生物学 DNA:複製, 修復, 組換え(3) DNAの修復と組換えと可動遺伝子要素 (吉田)	分子遺伝学 連鎖解析の基礎 岩間	医療プロフェッショナルの実践Ⅱ チーム医療の実際① 附属病院講師	医療における コミュニケーションスキル 岡田 宏基	
5月21日 木	細胞生物学 細胞内物質輸送3	医用化学Ⅱ 脂質 (和田)	自然科学実習 予備日 (和田, 山本(融), 久富)		
5月22日 金	全学共通科目(英語) Communicative English III 長井, ウリ, 中住, ヒル (医学部キャンパス)	細胞生物学 細胞内物質輸送4	早期医学実習Ⅱ【正課外科目】 8回目		

第9週

9	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
5月25日 月	分子生物学 中間テスト (大C, 大D教室使用) (神鳥・吉田)	医用化学Ⅱ 代謝 (和田)			
5月26日 火	分子遺伝学 自習	解剖学Ⅱ 骨学実習 復習 荒木他			
5月27日 水	分子生物学 転写とRNAプロセッシング(1) タンパク合成におけるRNAの役割, RNAポリメラーゼ (吉田)	分子遺伝学 自習	医療プロフェッショナルの実践Ⅱ 徳島文理大学薬学部における実習 二宮他		
5月28日 木	細胞生物学 自習	医用化学Ⅱ 自習 (和田)			医用化学Ⅱ 試験 (和田)
5月29日 金	全学共通科目(英語) Communicative English III 長井, ウリ, 中住, ヒル (医学部キャンパス)			予備日	

第10週

10	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
6月1日 月	自習	自習	解剖学Ⅱ 骨学実習試問 担当教員全員		
6月2日 火	生理学Ⅰ 神経系/感覚系 徳田	解剖学Ⅰ 中枢神経学① 総論 鈴木	解剖学Ⅰ 中枢神経学② 脳室と脈管 鈴木	解剖学Ⅰ 脳実習①	全員
6月3日 水	分子生物学 酵素触媒 酵素の一般的性質と触媒反応機構 (神鳥)	分子遺伝学 連鎖解析の応用 岩間	医療プロフェッショナルの実践Ⅱ 看護・介護の基礎 清水 裕子		メディカルパフォーマンス オリエンテーション 西村他
6月4日 木	分子生物学 転写とRNAプロセッシング(2) 転写制御と転写後修飾 (吉田)	生理学Ⅱ① 自律機能 平野	自然科学実習 物理・化学・生物5 (久富, 和田, 山本(融))		
6月5日 金	全学共通科目(英語) Communicative English III 長井, ウィリ-, 中住, ヒル (医学部キャンパス)	解剖学Ⅰ 解剖学総論① 献体と倫理 三木	解剖学Ⅰ 解剖学総論② 体の仕組み 三木	早期医学実習Ⅱ【正課外科目】 9回目	

第11週

11	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
6月8日 月	生化学 生化学と医学 上田	生化学 生体物質(1) 上田	自然科学実習 物理・化学・生物5 (久富, 和田, 山本(融))		
6月9日 火	生理学Ⅰ 神経回路の特性 徳田	解剖学Ⅰ 中枢神経学③ 大脳 太田	解剖学Ⅰ 中枢神経学④ 大脳 太田	解剖学Ⅰ 脳実習②	全員
6月10日 水	分子生物学 酵素反応速度論 反応速度, 酵素の阻害 (神鳥)	分子遺伝学 量的形質座位(QTL) 岩間	医療プロフェッショナルの実践Ⅱ チーム医療の実際② 附属病院講師	メディカルパフォーマンス 実習① 西村他	
6月11日 木	分子生物学 翻訳(1) 遺伝暗号, 転移RNA, リボソーム (吉田)	生理学Ⅱ② 自律機能 平野	自然科学実習 物理・化学・生物5 (久富, 和田, 山本(融))		
6月12日 金	全学共通科目(英語) Communicative English III 長井, ウィリ-, 中住, ヒル (医学部キャンパス)	解剖学Ⅰ 解剖学総論③ 体の働き 三木	解剖学Ⅰ 解剖学総論④ 特別講義 三木	早期医学実習Ⅱ【正課外科目】 10回目	

第12週

12	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
6月15日 月	生化学 生体物質(2) 上田	生化学 生体物質(3) 上田	自然科学実習 物理・化学・生物6 (久富, 和田, 山本(融))		
6月16日 火	生理学Ⅰ 神経系のシグナル伝達 徳田	解剖学Ⅰ 中枢神経学⑤ 間脳 太田	解剖学Ⅰ 中枢神経学⑥ 脳幹(1) 三木	解剖学Ⅰ 脳実習③	全員
6月17日 水	分子生物学 翻訳(2) 真核生物の翻訳制御, 翻訳後修飾 (吉田)	分子遺伝学 多因子疾患 岩間	医療プロフェッショナルの実践Ⅱ チーム医療の実際③ 附属病院講師	メディカルパフォーマンス 実習② 西村他	
6月18日 木	分子生物学 遺伝子発現の調節(1) 原核生物の遺伝子発現調節 (吉田)	生理学Ⅱ③ 細胞情報伝達 平野	自然科学実習 物理・化学・生物6 (久富, 和田, 山本(融))		
6月19日 金	全学共通科目(英語) Communicative English III 長井, ウィリ-, 中住, ヒル (医学部キャンパス)	細胞生物学 品質管理	早期医学実習Ⅱ【正課外科目】 11回目		

第13週

13	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
6月22日 月	生化学 生体物質(4) 上田	生化学 酵素(1) 大西	自然科学実習 物理・化学・生物6 (久富, 和田, 山本(融))		
6月23日 火	生理学 I 神経系のシグナル伝達 徳田	解剖学 I 中枢神経学⑦ 脳幹(2) 三木	解剖学 I 中枢神経学⑧ 小脳 三木	解剖学 I 脳実習④	全員
6月24日 水	医療プロフェッショナルの実践 II チーム医療実習(看護)① 附属病院(前半) 看護部		医療プロフェッショナルの実践 II メディカルパフォーマンス 実習③ 西村他		
6月25日 木	分子生物学 予備日 (神鳥・吉田)	生理学 II ④ 細胞情報伝達 平野	生理学 I 静止膜電位 山口	生理学 I 活動電位 山口	
6月26日 金	全学共通科目(英語) Communicative English III 長井, ウィー, 中住, ヒル (医学部キャンパス)	細胞生物学 細胞形態の形成と移動 1	早期医学実習 II【正課外科目】 1 2 回目		

14	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
6月29日 月	生化学 酵素(2) 大西	生化学 酵素(3) 大西	自然科学実習 予備 (和田, 山本(融), 久富)		医用化学 II 予備 (和田)
6月30日 火	生理学 I 活動電位 山口	解剖学 I 中枢神経学⑨ 伝導路 鈴木	解剖学 I 中枢神経学⑩ 脊髄 鈴木・太田	解剖学 I 脳実習⑤	全員
7月1日 水	医療プロフェッショナルの実践 II チーム医療実習(看護)② 附属病院(後半) 看護部		医療プロフェッショナルの実践 II チーム医療実習(看護)発表会準備		
7月2日 木	分子遺伝学 遺伝様式/リスク評価 岩間	生理学 II ⑤ 細胞情報伝達 平野	生理学 I 大脳皮質の区分と構造 機能局在 徳田	生理学 I 大脳皮質の区分と構造 機能局在 徳田	
7月3日 金	全学共通科目(英語) Communicative English III 長井, ウィー, 中住, ヒル (医学部キャンパス)	細胞生物学 細胞形態の形成と移動 2	早期医学実習 II【正課外科目】 1 3 回目		

第15週

15	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
7月6日 月	生化学 酵素(4) 大西	生化学 生体エネルギー・ 代謝概説(1) 大西	生理学 II 血液 平野	生理学 II 血液 平野	
7月7日 火	生理学 I 大脳連合野、優位半球 徳田	解剖学 I 脳実習⑥			
7月8日 水	分子生物学 シグナル伝達 ホルモン, 受容体タンパク質 (神鳥)	分子遺伝学 多数小家系の遺伝解析 岩間	医療プロフェッショナルの実践 II チーム医療実習(災害・救急)④ 中田 敬司		
7月9日 木	分子遺伝学 ハプロタイプと連鎖不平衡 岩間	生理学 II ⑥ 環境と生体 平野	生理学 I 大脳連合野 徳田		
7月10日 金	全学共通科目(英語) Communicative English III 長井, ウィー, 中住, ヒル (医学部キャンパス)	細胞生物学 まとめ	早期医学実習 II【正課外科目】 1 4 回目		

第16週

16	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
7月13日 月	生理学Ⅰ 優位半球・脳の性差 徳田	解剖学Ⅰ 中枢神経学試験・脳実習試験	全員		
7月14日 火	生化学 生体エネルギー・ 代謝概説(2) 大西	生化学 生体エネルギー・ 代謝概説(3) 大西	生理学Ⅱ 血液 平野	生理学Ⅱ 血液 平野	
7月15日 水	分子生物学 遺伝子発現の調節(2) 真核生物の遺伝子発現調節 (吉田)	分子遺伝学 関連解析とSNP 岩間	医療プロフェッショナルの実践Ⅱ チーム医療実習(看護)発表会		
7月16日 木	分子遺伝学 ゲノムワイドな解析 岩間	生理学Ⅱ⑦ 環境と生体 平野	生理学Ⅰ 先端研究 徳田		
7月17日 金	全学共通科目(英語) Communicative English III 長井, ウィリ, 中住, ヒル (医学部キャンパス)	細胞生物学 まとめ	早期医学実習Ⅱ【正課外科目】 15回目		

全学共通科目英語は7月24日(金)授業を行います。

第17週

17	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
9月7日 月	前期定期試験				
9月8日 火	前期定期試験				
9月9日 水	前期定期試験				
9月10日 木	前期定期試験				
9月11日 金	前期定期試験				

第18週

18	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
9月14日 月	前期定期試験				
9月15日 火	前期定期試験				
9月16日 水	前期定期試験				
9月17日 木	前期定期試験				
9月18日 金	前期定期試験				

第1週

1	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
9月21日 月	敬老の日				
9月22日 火	国民の休日				
9月23日 水	秋分の日				
9月24日 木	前期定期試験				
9月25日 金	前期定期試験				

第2学期

	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
9月28日 月	予備日				
9月29日 火	予備日				
9月30日 水	授業ガイダンス				
10月1日 木	大学記念日（休業）				
10月2日 金	生化学 糖代謝(1) 上田	解剖学Ⅱ 組織学講義 組織学総論序 荒木	解剖学Ⅱ 組織学講義 細胞① 荒木	解剖学Ⅱ 組織学実習 標本チェック 荒木他	

	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
10月5日 月		生化学 実習(1)			
10月6日 火	生理学Ⅱ 腎臓 五十嵐	生化学 実習(2)			
10月7日 水	生理学Ⅰ 視床の区分と働き 徳田	解剖学Ⅰ 脈管学① 総論・体表の脈管 鈴木	解剖学Ⅰ 末梢神経学① 総論 太田	解剖学Ⅰ 系統解剖実習①	全員
10月8日 木	生理学Ⅰ 自律神経系の働き 徳田	解剖学Ⅱ 組織学講義 細胞② 荒木	解剖学Ⅱ 組織学講義 細胞③ 荒木	解剖学Ⅱ 組織学実習 細胞 荒木他	
10月9日 金	生化学 糖代謝(2) 上田	解剖学Ⅱ 予備	医学部祭（午後休講）		

	I 8:50-10:20	II 10:30-12:00	III 13:00-14:30	IV 14:40-16:10	V 16:20-17:50
10月12日 月	体育の日				
10月13日 火	生理学Ⅱ 腎臓 五十嵐	生化学 実習(3)			
10月14日 水	生理学Ⅰ 視床下部の働き 徳田	解剖学Ⅰ 脈管学② 上肢・下肢の脈管 鈴木	解剖学Ⅰ 筋学 三木	解剖学Ⅰ 系統解剖実習②	全員
10月15日 木	生理学Ⅰ 視床下部の働き 徳田	解剖学Ⅱ 組織学講義 上皮組織 江上	解剖学Ⅱ 組織学講義 上皮組織 江上	解剖学Ⅱ 組織学実習 上皮組織 江上他	
10月16日 金	生化学 糖代謝(3) 上田	解剖学Ⅱ 組織学講義 結合組織① 川合	解剖学Ⅱ 組織学講義 結合組織① 川合	解剖学Ⅱ 組織学実習 結合組織① 川合他	

	I 8:50-10:20	II 10:30-12:00	III 13:00-14:30	IV 14:40-16:10	V 16:20-17:50
10月19日 月		生化学 実習(4)			
10月20日 火	生理学Ⅱ 腎臓 五十嵐	生化学 糖代謝(4) 上田	慰霊祭		
10月21日 水	生理学Ⅰ 視床下部の働き 徳田	解剖学Ⅰ 末梢神経学② 脊髓神経 太田	解剖学Ⅰ 系統解剖実習③		全員
10月22日 木	生理学Ⅰ 大脳辺縁系の働き 徳田	解剖学Ⅱ 組織学講義 結合組織② 川合	解剖学Ⅱ 組織学講義 結合組織② 川合	解剖学Ⅱ 組織学実習 結合組織② 川合他	
10月23日 金	生化学 糖代謝(5) 上田	解剖学Ⅱ 組織学講義 軟骨組織 三宅	解剖学Ⅱ 組織学講義 軟骨組織 三宅	解剖学Ⅱ 組織学実習 軟骨組織 三宅他	

	I 8:50-10:20	II 10:30-12:00	III 13:00-14:30	IV 14:40-16:10	V 16:20-17:50
10月26日 月		生化学 実習(5)			
10月27日 火	生理学Ⅱ 腎臓 五十嵐	生化学 実習(6)			
10月28日 水	生理学Ⅰ 大脳辺縁系の働き 徳田	解剖学Ⅰ 発生学① 総論(1) 三木	解剖学Ⅰ 内臓学① 循環器系 三木	解剖学Ⅰ 系統解剖実習④	全員
10月29日 木	生理学Ⅰ 脳波と睡眠 徳田	解剖学Ⅱ 組織学講義 骨組織 三宅	解剖学Ⅱ 組織学講義 骨組織 三宅	解剖学Ⅱ 組織学実習 骨組織 三宅他	
10月30日 金	生化学 糖代謝(6) 上田	解剖学Ⅱ 組織学講義 筋組織 荒木	解剖学Ⅱ 組織学講義 筋組織 荒木	解剖学Ⅱ 組織学実習 筋組織 荒木他	

	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
11月2日 月		生化学 実習(7)			
11月3日 火	文化の日				
11月4日 水	生理学 I 高次神経活動 I 徳田	解剖学 I 発生学② 総論(2) 三木	解剖学 I 内臓学② 呼吸器系 三木	解剖学 I 系統解剖実習⑤	全員
11月5日 木	生理学 I 高次神経活動 II 徳田	解剖学 II 組織学講義 神経組織 荒木	解剖学 II 組織学講義 神経組織 荒木	解剖学 II 組織学実習 神経組織 荒木他	
11月6日 金	生化学 糖代謝(7) 上田	解剖学 II 組織学講義 血液 三宅	解剖学 II 組織学講義 血液 三宅	解剖学 II 組織学実習 血液 三宅他	

	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
11月9日 月	解剖学 II 組織学総論試験 担当教員全員	生化学 実習(8)			
11月10日 火	生理学 II 予備	生化学 糖代謝(8) 上田	生化学 実習(9)		
11月11日 水	生理学 I 高次神経活動 III 徳田	解剖学 I 発生学③ 総論(3) 三木	解剖学 I 末梢神経学③ 脊髄神経 太田	解剖学 I 系統解剖実習⑥	全員
11月12日 木	生理学 I 先端研究 神鳥	解剖学 II 組織学講義 骨髄 三宅	解剖学 II 組織学講義 骨髄 三宅	解剖学 II 組織学実習 骨髄 三宅他	
11月13日 金	生化学 糖代謝(9) 上田	解剖学 II 組織学講義 脈管 三宅	解剖学 II 組織学講義 脈管 三宅	解剖学 II 組織学実習 脈管 三宅他	

	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
11月16日 月	生化学 試験B	生化学 (予備)	解剖学 I 発生学④ 総論(4) 三木	解剖学 I 脈管学③ 胸部の脈管 鈴木	
11月17日 火		生理学 II 予備	生化学 脂質代謝(1) 上田	生化学 脂質代謝(2) 上田	
11月18日 水	生理学 I 感覚生理総論 山口	解剖学 I 脈管学④ 心臓の構造 鈴木	解剖学 I 末梢神経学④ 自律神経 太田	解剖学 I 系統解剖実習⑦	全員
11月19日 木	生理学 I 感覚生理総論 山口	解剖学 II 組織学講義 防御系 三宅	解剖学 II 組織学講義 防御系 三宅	解剖学 II 組織学実習 防御系 三宅他	
11月20日 金	生化学 脂質代謝(3) 上田	解剖学 II 予備	推薦入試準備		

	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
11月23日 月	勤労感謝の日				
11月24日 火	生化学 試験 F	生化学 試験 F			
11月25日 水	生理学 I 視覚の生理 山口	解剖学 I 脈管学⑤ リンパ系・腹部の脈管(1) 鈴木	解剖学 I 系統解剖実習⑧ 全員		
11月26日 木	生理学 I 視覚の生理 山口	解剖学 II 組織学講義 消化器系① 荒木	解剖学 II 組織学講義 消化器系① 荒木	解剖学 II 組織学実習 消化器系① 荒木他	
11月27日 金	生化学 脂質代謝(4) 上田	解剖学 II 組織学講義 消化器系② 荒木	解剖学 II 組織学講義 消化器系② 荒木	解剖学 II 組織学実習 消化器系② 荒木他	

	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
11月30日 月		生理学 I	解剖学 I 内臓学③ 消化器系(1) 三木	解剖学 I 内臓学④ 消化器系(2) 三木	
12月1日 火	生理学 II 呼吸器 五十嵐	生理学 II 呼吸器 五十嵐	生化学 脂質代謝(5) 上田	生化学 脂質代謝(6) 大西	
12月2日 水		解剖学 I 内臓学⑤ 尿路系 三木	解剖学 I 系統解剖実習⑨ 全員		
12月3日 木	生理学 I 聴覚と平衡覚の生理 山口	解剖学 II 組織学講義 消化器系③ 荒木	解剖学 II 組織学講義 消化器系③ 荒木	解剖学 II 組織学実習 消化器系③ 荒木他	
12月4日 金	生理学 II 呼吸器 五十嵐	解剖学 II 組織学講義 消化器系④ 荒木	解剖学 II 組織学講義 消化器系④ 荒木	解剖学 II 組織学実習 消化器系④ 荒木他	

	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
12月7日 月	生化学 脂質代謝(7) 大西	生理学 II 呼吸器 五十嵐	解剖学 I 末梢神経学⑤ 自律神経 太田	解剖学 I 内臓学⑥ 生殖器系 三木	
12月8日 火	生理学 II 体液性調節 平野	生理学 II 体液性調節 平野	生化学 脂質代謝(8) 大西	生化学 脂質代謝(9) 大西	
12月9日 水	生理学 I 嗅覚と味覚の生理 山口	解剖学 I 脈管学⑥ 腹部の脈管(2) 鈴木	解剖学 I 系統解剖実習⑩ 全員		
12月10日 木	生理学 I 体性感覚の生理 山口	解剖学 II 組織学講義 呼吸器系 三宅	解剖学 II 組織学講義 呼吸器系 三宅	解剖学 II 組織学実習 呼吸器系 三宅他	
12月11日 金	生化学 特別講義(1)	解剖学 II 組織学講義 内分泌系 三宅	解剖学 II 組織学講義 内分泌系 三宅	解剖学 II 組織学実習 内分泌系 三宅他	

	I 8:50-10:20	II 10:30-12:00	III 13:00-14:30	IV 14:40-16:10	V 16:20-17:50
12月14日 月	解剖学Ⅰ 内臓学試験	生理学Ⅱ 体液性調節 平野	解剖学Ⅰ 脈管学⑦ 頭頸部の脈管 鈴木	解剖学Ⅰ 発生学⑤ 各論(1) 三木	解剖学Ⅰ 発生学⑥ 各論(2) 三木
12月15日 火	生理学Ⅱ 体液性調節 平野	生理学Ⅱ 先端研究 平野	生化学 特別講義(2)	生化学 特別講義(3)	
12月16日 水		解剖学Ⅰ 発生学⑦ 各論(3) 三木	解剖学Ⅰ 系統解剖実習⑪		全員
12月17日 木	生理学Ⅰ 先端研究 董	解剖学Ⅱ 組織学講義 泌尿器系① 荒木	解剖学Ⅱ 組織学講義 泌尿器系① 荒木	解剖学Ⅱ 組織学実習 泌尿器系① 荒木他	
12月18日 金	解剖学Ⅱ 組織学中間試験 担当教員全員	解剖学Ⅱ 組織学講義 泌尿器系② 荒木	解剖学Ⅱ 組織学講義 泌尿器系② 荒木	解剖学Ⅱ 組織学実習 泌尿器系② 荒木他	

(第3学期)

	I 8:50-10:20	II 10:30-12:00	III 13:00-14:30	IV 14:40-16:10	V 16:20-17:50
1月4日 月	生化学 試験C	生理学Ⅱ 酸塩基平衡 五十嵐	解剖学Ⅰ 発生学⑧ 各論(4) 三木	解剖学Ⅰ 発生学⑨ 各論(5) 三木	
1月5日 火	生理学Ⅱ 酸塩基平衡 五十嵐	生理学Ⅱ 消化器 五十嵐	生化学 アミノ酸代謝(1) 大西	生化学 アミノ酸代謝(2) 大西	
1月6日 水	生理学Ⅰ 筋肉生理学Ⅰ 山口	解剖学Ⅰ 末梢神経学⑥ 脳神経 太田	解剖学Ⅰ 系統解剖実習⑫		全員
1月7日 木	生理学Ⅰ 筋肉生理学Ⅱ 山口	解剖学+C764:E771Ⅱ 組織学講義 生殖器系① 江上	解剖学Ⅱ 組織学講義 生殖器系① 江上	解剖学Ⅱ 組織学実習 生殖器系① 江上他	
1月8日 金	生化学 アミノ酸代謝(3) 大西	解剖学Ⅱ 組織学講義 生殖器系② 江上	解剖学Ⅱ 組織学講義 生殖器系② 江上	解剖学Ⅱ 組織学実習 生殖器系② 江上他	

	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
1月11日 月	成人の日				
1月12日 火	生理学Ⅱ 消化器 五十嵐	生理学Ⅱ 消化器 五十嵐	生化学 アミノ酸代謝(4) 大西	生化学 アミノ酸代謝(5) 大西	
1月13日 水	生理学Ⅰ 脊髄の運動機能と反射 徳田	解剖学Ⅰ 末梢神経学⑦ 脳神経 太田	解剖学Ⅰ 系統解剖実習⑬		全員
1月14日 木	生理学Ⅰ 脊髄の運動機能と反射 徳田	解剖学Ⅱ 組織学講義 生殖器系③ 江上	解剖学Ⅱ 組織学講義 生殖器系③ 江上	解剖学Ⅱ 組織学実習 生殖器系③ 江上他	
1月15日 金	生化学 アミノ酸代謝(6) 大西	生化学 ポルフィリン代謝 大西	センター試験準備		

	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
1月18日 月	解剖学Ⅰ 脈管学試験	生理学Ⅱ 消化器 五十嵐	解剖学Ⅰ 特別講義 未定	解剖学Ⅰ 補講	
1月19日 火	生理学Ⅱ 消化器 五十嵐	生理学Ⅱ 先端研究 五十嵐	生化学 核酸代謝(1) 坪井	生化学 核酸代謝(2) 坪井	
1月20日 水	生理学Ⅰ 脳幹の運動機能 徳田	解剖学Ⅰ 末梢神経学⑧ 脳神経 太田	解剖学Ⅰ 系統解剖実習⑭		全員
1月21日 木	生理学Ⅰ 大脳運動野の働き 徳田	解剖学Ⅱ 組織学講義 生殖器系④ 江上	解剖学Ⅱ 組織学講義 生殖器系④ 江上	解剖学Ⅱ 組織学実習 生殖器系④ 江上他	
1月22日 金	生化学 核酸代謝(3) 坪井	解剖学Ⅱ 組織学講義 皮膚 川合	解剖学Ⅱ 組織学講義 皮膚 川合	解剖学Ⅱ 組織学実習 皮膚 川合他	

	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
1月25日 月	生化学 ビタミン(1) 上田	生理学Ⅱ 循環器 平野	解剖学Ⅰ 発生学⑩ 各論(6) 三木	解剖学Ⅰ 特別講義 未定	
1月26日 火	生理学Ⅱ 循環器 平野	生理学Ⅱ 循環器 平野	生化学 特別講義(4)	生化学 特別講義(5)	
1月27日 水	生理学Ⅰ 大脳基底核の働き 徳田	解剖学Ⅰ 末梢神経学⑨ 脳神経 太田	解剖学Ⅰ 系統解剖実習⑮		全員
1月28日 木	生理学Ⅰ 小脳の働きⅠ 徳田	解剖学Ⅱ 組織学講義 感覚器① 荒木	解剖学Ⅱ 組織学講義 感覚器① 荒木	解剖学Ⅱ 組織学実習 感覚器① 荒木他	
1月29日 金	生化学 ビタミン(2) 上田	解剖学Ⅰ 解剖学総論⑤ 臨床解剖学(1) 三木	解剖学Ⅰ 系統解剖実習⑯		全員

	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
2月1日 月		生理学Ⅱ 循環器 平野	解剖学Ⅰ 系統解剖実習⑪ 全員		解剖学Ⅰ *他の授業がない 場合はV時限も系 統解剖実習を行う
2月2日 火	生理学Ⅱ 循環器 平野	生理学Ⅱ 循環器 平野	生化学 特別講義(6)	生化学 特別講義(7)	
2月3日 水	生理学Ⅰ 小脳の働きⅡ 徳田	解剖学Ⅰ 解剖学総論⑥ 臨床解剖学(2) 三木	解剖学Ⅰ 系統解剖実習⑩		全員
2月4日 木		解剖学Ⅱ 組織学講義 感覚器② 荒木	解剖学Ⅱ 組織学講義 感覚器② 荒木	解剖学Ⅱ 組織学実習 感覚器② 荒木他	
2月5日 金	生化学 ビタミン(3) 上田	解剖学Ⅱ 復習	解剖学Ⅱ 復習		

	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
2月8日 月		解剖学Ⅰ 末梢神経学試験・系統解剖実習試験	解剖学Ⅰ		全員
2月9日 火	生理学Ⅱ 循環器 平野	生理学Ⅱ 先端研究 平野	生化学 ビタミン(4) 上田	生化学 フリーラジカルと 活性酵素 上田	
2月10日 水					
2月11日 木	建国記念日				
2月12日 金	後期定期試験				

	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
2月15日 月	後期定期試験				
2月16日 火	後期定期試験				
2月17日 水	後期定期試験				
2月18日 木	後期定期試験				
2月19日 金	後期定期試験				

	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
2月22日 月	後期定期試験				
2月23日 火			個別学力試験準備		
2月24日 水	個別学力試験（前期）				
2月25日 木	個別学力試験（前期）				
2月26日 金					

	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
2月29日 月					
3月1日 火					
3月2日 水					
3月3日 木					
3月4日 金					

	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
3月7日 月					
3月8日 火					
3月9日 水					
3月10日 木					
3月11日 金					

第1学期

第1週

1	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
3月30日 月	春期休業				
3月31日 火	春期休業				
4月1日 水	授業ガイダンス 大日	解剖学 I 発生学① 三木	解剖学 I 系統解剖実習①	全員	
4月2日 木	薬理学-1 薬理学とは 西山	薬理学-2 臨床薬理学総論 西山	実習 内分泌学実習 1	中村・西・小川・野中	
4月3日 金	医動物学-1 医動物学総論 新井	医療心理学-1 オリエンテーション (長谷)	実習 内分泌学実習 2	中村・西・小川・野中	

第2週

2	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
4月6日 月	免疫学-1 免疫学の基礎 星野	病理学 I-1	内分泌学 序論 中村	微生物学-1 微生物学の歴史 桑原	
4月7日 火	病理学 II-1	医学英語-1 Introductions Willey, Scanlon	免疫学-2 自然免疫 星野	医動物学-2 線虫類総論 線虫類(1) 新井	
4月8日 水	微生物学-2 細菌の分類と遺伝 鈴木	解剖学 I 発生学② 三木	解剖学 I 系統解剖実習②	全員	
4月9日 木	薬理学-3 薬物の用量と反応 吉栖	薬理学-4 薬物の体内動態 吉栖	実習 内分泌学実習 3	中村・西・小川・野中	
4月10日 金	医動物学-3 線虫類(2) 新井	医療心理学-2 知覚 (長谷)	実習 内分泌学実習 4	中村・西・小川・野中	

第3週

3	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
4月13日 月	免疫学-3 自然免疫の反応 財賀	病理学 I-2	内分泌学 ホルモンの分類 中村	微生物学-3 細菌の形態と構造 鈴木	全学共通科目 Advanced English I 医学部キャンパス Willey
4月14日 火	病理学 II-2	医学英語-2 PEIUM Willey, Scanlon	免疫学-4 B細胞受容体、T細胞 受容体による抗原の認識 仁木	医動物学-4 線虫類(3) 新井	
4月15日 水	微生物学-4 細菌の増殖・代謝 成谷	解剖学 I 発生学③ 三木	定期健康診断 (午後休講)		
4月16日 木	薬理学-5 受容体と情報伝達 チャンネルと薬理 中野	薬理学-6 薬の作用様式と 作用機序 中野	実習 内分泌学実習 5	中村・西・小川・野中	
4月17日 金	医動物学-5 線虫類(4) 新井	医療心理学-3 記憶 (長谷)	実習 内分泌学実習 6	中村・西・小川・野中	

第4週

4	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
4月20日 月	免疫学-5 抗原受容体のレパートリー形成1 仁木	病理学 I-3	内分泌学 ホルモンの 生合成と分泌 中村	微生物学-5 滅菌と消毒 鈴木	全学共通科目 Advanced English I 医学部キャンパス Willey
4月21日 火	病理学 II-3	医学英語-3 PEIUM Willey, Scanlon	免疫学-6 抗原受容体のレパートリー形成2 仁木	医動物学-6 線虫類(5) 新井	
4月22日 水	微生物学-6 抗菌薬の構造と作用 成谷	解剖学 I 発生学④ 三木	解剖学 I 系統解剖実習③		全員
4月23日 木	薬理学-7 レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系 小堀	薬理学-8	実習 内分泌学実習7	中村・西・小川・野中	
4月24日 金	医動物学-7 線虫類(6) 新井	医療心理学-4 認知・思考 (長谷)	実習 内分泌学実習8	中村・西・小川・野中	

第5週

5	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
4月27日 月	免疫学-7 T細胞への抗原提示1 仁木	病理学 I-4	内分泌学 ホルモン受容体1 中村	微生物学-7 薬剤感受性と薬剤耐性 成谷	全学共通科目 Advanced English I 医学部キャンパス Willey
4月28日 火	病理学 II-4	医学英語-4 PEIUM Willey, Scanlon	免疫学-8 T細胞への抗原提示2 仁木	医動物学-8 吸虫類総論 吸虫類(1) 新井	
4月29日 水	昭和の日				
4月30日 木	薬理学-9 抗炎症薬 中野	薬理学-10 麻薬性鎮痛剤・パーキンソン病治療薬 中野	実習 内分泌学実習9	中村・西・小川・野中	
5月1日 金	医動物学-9 吸虫類(2) 新井	医療心理学-5 動機づけ (長谷)	実習 内分泌学実習10(予備)	中村・西・小川・野中	

第6週

6	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
5月4日 月	みどりの日				
5月5日 火	こどもの日				
5月6日 水	憲法記念日の振替休日				
5月7日 木	薬理学-11 交換神経作動薬 人見	薬理学-12 交換神経遮断薬 人見	微生物学-8 グラム陽性球菌 成谷	微生物学-9 グラム陰性球菌 今大路	全学共通科目 Advanced English I 医学部キャンパス Willey
5月8日 金	医動物学-10 吸虫類(3) 新井	医療心理学-6 学習① (長谷)	実習 微生物学実習-1	細菌の形態, 細菌の同定(1)	桑原, 成谷, 今大路, 鈴木

第7週

7	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
5月11日 月	免疫学-9 T細胞受容体とB細胞受容体のシグナル伝達 星野	病理学 I-5	内分泌学 ホルモン受容体2 中村	微生物学-10 ウイルスの基本性状 桑原	全学共通科目 Advanced English I 医学部キャンパス Willey
5月12日 火	病理学 II-5	医学英語-5 PEIUM Willey, Scanlon	免疫学-10 リンパ球の発生・分化と維持1 星野	医動物学-11 吸虫類(4) 新井	
5月13日 水	微生物学-11 DNAウイルス(1) 桑原	解剖学 I 発生学⑤ 三木	解剖学 I 系統解剖実習④		全員
5月14日 木	薬理学-13 抗腫瘍薬	薬理学-14 小坂	実習 微生物学実習-2	細菌の同定(2), ウイルス感染価の測定	桑原, 成谷, 今大路, 鈴木
5月15日 金	医動物学-12 原虫類総論 原虫類(1) 新井	医療心理学-7 学習② (長谷)	微生物学-12 DNAウイルス(2) 小山	微生物学-13 DNAウイルス(3) 小山	

第8週

8	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
5月18日 月	免疫学-11 リンパ球の発生・分化と維持2 星野	病理学 I-6	内分泌学 ホルモンと受容体のキネティクス 中村	微生物学-14 グラム陽性無芽胞桿菌 成谷	全学共通科目 Advanced English I 医学部キャンパス Willey
5月19日 火	病理学 II-6	医学英語-6 PEIUM Willey, Scanlon	免疫学-12 T細胞の免疫応答 星野	医動物学-13 原虫類(2) 新井	
5月20日 水	微生物学-15 グラム陽性芽胞形成菌 鈴木	解剖学 I 発生学⑥ 三木	解剖学 I 系統解剖実習⑤		全員
5月21日 木	薬理学-15 漢方医学総論 レビュー(1) 小路	薬理学-16 漢方医学総論 レビュー(2) 小路	実習 微生物学実習-3	細菌の同定(3), 薬剤感受性試験(1) ブラックアッセイ(1)	桑原, 成谷, 今大路, 鈴木
5月22日 金	医動物学-14 原虫類(3) 新井	医療心理学-8 ストレス (長谷)	実習 微生物学実習-4	薬剤感受性試験(2), ブラックアッセイ(2)	桑原, 成谷, 今大路, 鈴木

第9週

9	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
5月25日 月	免疫学-13 B細胞の免疫応答1 仁木	病理学 I-7	内分泌学 ホルモンの定量法 中村	微生物学-16 偏性細胞内寄生細菌 今大路	全学共通科目 Advanced English I 医学部キャンパス Willey
5月26日 火	病理学 II-7	医学英語-7 Mid-term test Willey, Scanlon	免疫学-14 B細胞の免疫応答2 星野	医動物学-15 原虫類(4) 新井	
5月27日 水	微生物学-17 ブドウ糖非発酵菌 今大路	解剖学 I 発生学⑦ 三木	解剖学 I 系統解剖実習⑥		全員
5月28日 木	薬理学-17 神経筋遮断薬 中野	薬理学-18 神経筋接合部作用薬 中野	微生物学-18 腸内細菌科 鈴木	微生物学-19 ビブリオ科, パスツレラ科 鈴木	
5月29日 金	医動物学-16 原虫類(5) 新井	医療心理学-9 人格① (長谷)	解剖学 I 脳神経① 太田	解剖学 I 系統解剖実習⑦	全員

第10週

10	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
6月1日 月	免疫学-15 獲得免疫のダイナミクス 星野	病理学 I-8	内分泌学 膵内分泌 1 西	内分泌学 膵内分泌 2 西	全学共通科目 Advanced English I 医学部キャンパス Willey
6月2日 火	病理学 II-8	医学英語-8 PEIUM Willey, Scanlon	実習 医動物学実習-1 線虫類 新井・寺中		
6月3日 水	微生物学-20 らせん菌, スピロヘータ 今大路	解剖学 I 発生学⑧ 三木	解剖学 I 系統解剖実習⑧ 全員		
6月4日 木	薬理学-19 副交換神経作動薬 人見	薬理学-20 副交換神経遮断薬 人見	医動物学-17 原虫類(6) 新井	医動物学-18 原虫類(7) 新井	
6月5日 金	医動物学-19 条虫類総論 条虫類(1) 新井	医療心理学-10 人格② (長谷)	解剖学 I 脳神経② 太田	解剖学 I 系統解剖実習⑨ 全員	

第11週

11	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
6月8日 月	免疫学-16 粘膜免疫 星野	病理学 I-9	内分泌学 膵内分泌 3 西	内分泌学 甲状腺 1 中村	全学共通科目 Advanced English I 医学部キャンパス Willey
6月9日 火	病理学 II-9	医学英語-9 PEIUM: Notebook collection 1 Willey, Scanlon	実習 医動物学実習-2 吸虫類 新井・寺中		
6月10日 水	微生物学-21 RNAウイルス (1) 桑原	解剖学 I 脳神経③ 太田	解剖学 I 系統解剖実習⑩ 全員		
6月11日 木	薬理学-21 抗精神病薬 大野	薬理学-22 抗うつ薬 ・抗けいれん薬 大野	実習 免疫学実習-1 リンパ組織の観察 1、プラークアッセイ 1 星野、仁木、財賀		
6月12日 金	医動物学-20 条虫類(2) 新井	医療心理学-11 発達① (長谷)	実習 免疫学実習-2 リンパ球のフローサイトメトリー解析 1、赤血球凝集反応 1 星野、仁木、財賀		

第12週

12	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
6月15日 月	免疫学-17 宿主防御機構の破綻 1 星野	病理学 I-10	内分泌学 甲状腺 2 中村	内分泌学 幹細胞分化と内分泌 宮本	全学共通科目 Advanced English I 医学部キャンパス Willey
6月16日 火	病理学 II-10	医学英語-10 PEIUM Willey, Scanlon	微生物学-22 真菌の基本性状 成谷	医動物学-21 条虫類(3) 新井	
6月17日 水	微生物学-23 RNAウイルス (2) 桑原	解剖学 I 脳神経④ 太田	解剖学 I 系統解剖実習⑪ 全員		
6月18日 木	薬理学-23 漢方医学各論 レビュー (1) 小路	薬理学-24 漢方医学各論 レビュー (2) 小路	実習 免疫学実習-3 リンパ組織の観察 2、プラークアッセイ 2 星野、仁木、財賀		
6月19日 金	医動物学-22 衛生動物総論 衛生動物各論(1) 新井	医療心理学-12 発達② (長谷)	実習 免疫学実習-4 リンパ球のフローサイトメトリー解析 2、赤血球凝集反応 2 星野、仁木、財賀		

第13週

13	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
6月22日 月	免疫学-18 宿主防御機構の破綻2 星野	病理学 I-11	内分泌学 副甲状腺 中村	内分泌学 生殖腺1 中村	全学共通科目 Advanced English I 医学部キャンパス Willey
6月23日 火	病理学 II-11	医学英語-11 PEIUM Willey, Scanlon	実習 医動物学実習-3 原虫類 新井・寺中		
6月24日 水	微生物学-24 RNAウイルス (3) 桑原	解剖学 I 発生学⑨ 三木	解剖学 I 系統解剖実習⑫ 全員		
6月25日 木	薬理学-25 消化器薬理 西堀	薬理学-26 ヒスタミン 西堀	実習 病理学 II 実習-1		
6月26日 金	医動物学-23 衛生動物各論(2) 新井	医療心理学-13 対人関係① (長谷)	医動物学-24 検査法と治療 新井		

第14週

14	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
6月29日 月	免疫学-19 アレルギーと アレルギー疾患 財賀	病理学 I-12	内分泌学 生殖腺2 中村	内分泌学 副腎1 中村	全学共通科目 Advanced English I 医学部キャンパス Willey
6月30日 火	病理学 II-12	医学英語-12 PEIUM Willey, Scanlon	実習 医動物学実習-4 条虫類・衛生動物 新井・寺中		
7月1日 水	微生物学-25 肝炎ウイルス (1) 桑原	解剖学 I 脳神経⑤ 太田	解剖学 I 系統解剖実習⑬ 全員		
7月2日 木	薬理学-27 利尿薬 西山	薬理学-28 他、腎トランス ポーター作用薬 西山	実習 病理学 II 実習-2		
7月3日 金	医動物学-25 寄生虫感染免疫 新井	医療心理学-14 対人関係② (長谷)	実習 (予備)		

第15週

15	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
7月6日 月	免疫学-20 自己免疫疾患と 移植免疫 仁木	病理学 I-13	内分泌学 副腎2 中村	内分泌学 視床下部・下垂体 中村	全学共通科目 Advanced English I 医学部キャンパス Willey
7月7日 火	病理学 II-13	医学英語-13 PEIUM Willey, Scanlon	病理学 I-14	病理学 I-15	
7月8日 水	微生物学-26 肝炎ウイルス (2) 桑原	解剖学 I 内臓学2 三木	解剖学 I 系統解剖実習⑭ 全員		
7月9日 木	薬理学-29 補講	薬理学-30 補講	実習 病理学 II 実習-3		
7月10日 金	医動物学 予備	医療心理学-15 まとめ (長谷)	実習 (予備)		

第16週

16	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
7月13日 月	免疫学-21 免疫反応の人為的操作 星野	病理学 I -16	内分泌学 内分泌と分子異常 東海林	内分泌学 予備日 中村	全学共通科目 Advanced English I 医学部キャンパス Willey
7月14日 火	病理学 II -14	医学英語-14 Notebook collection 2 Willey, Scanlon	病理学 I 試験		
7月15日 水	微生物学-27 レトロウイルス 桑原	解剖学 I 脳神経学・系統解剖実習試験			全員
7月16日 木	薬理学-31 補講	薬理学-32 補講	病理学 II -15	実習 病理学 II 実習-4	
7月17日 金	医動物学 予備	医療心理学-16 予備 (長谷)	実習 (予備)		

全学共通科目 Advanced English I は7月27日(月)授業を行います。

第17週

17	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
9月7日 月	前期定期試験				
9月8日 火	前期定期試験				
9月9日 水	前期定期試験				
9月10日 木	前期定期試験				
9月11日 金	前期定期試験				

第18週

18	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
9月14日 月	前期定期試験				
9月15日 火	前期定期試験				
9月16日 水	前期定期試験				
9月17日 木	前期定期試験				
9月18日 金	前期定期試験				

平成27年度 講義・実習時間割 3年次

第2学期

臨床総論講義 第1週

	I 8:30-9:30	II 9:40-10:40	III 10:50-11:50	IV 12:50-13:50	V 14:00-15:00	VI 15:10-16:10	VII 16:20-17:20
9月28日 月	予備日						
9月29日 火	予備日						
9月30日 水	授業ガイダンス						
10月1日 木	大学記念日(休業)						
10月2日 金	臨床総論講義1 医の原則・医療における 安全性確保(医の原則) 総合内科	臨床総論講義2 医の原則・医療における安全 性確保(医療における安全性 確保) 総合内科	臨床総論講義3 医の原則・医療における安全 性確保(医療における安全性 確保) 総合内科	臨床総論講義4 コミュニケーションと チーム医療 総合内科	臨床総論講義5 課題探究・解決と学習の あり方 総合内科	臨床総論講義6 基本的診療知識:輸液療法 総合内科	臨床総論講義

臨床総論講義 第2週

	I 8:30-9:30	II 9:40-10:40	III 10:50-11:50	IV 12:50-13:50	V 14:00-15:00	VI 15:10-16:10	VII 16:20-17:20	
10月5日 月	臨床総論講義7 基本的診療知識:食事 (療法) 総合内科	臨床総論講義8 基本的診療知識:内視鏡 を用いる診断と治療 総合内科	臨床総論講義9 基本的診療知識:超音波 を用いる診断と治療 総合内科	臨床総論講義10 基本的診療知識:超音波 を用いる診断と治療 総合内科	臨床総論講義11 基本的診療知識:介護と 在宅医療 総合内科	臨床総論講義12 基本的診療知識:問題思考シ ステム・医療面接・診療記 録・臨床判断 総合内科	全学共通科目 Advanced English II 医学部キャンパス Willey	
10月6日 火	臨床総論講義13 腫瘍:支持療法および緩和 療法 非常勤講師	臨床総論講義14 腫瘍:症候及び診断 消化器・神経内科学	臨床総論講義15 基本的診療知識:臨床検査 先端医療・臨床検査医学	臨床総論講義16 基本的診療知識:臨床検査 先端医療・臨床検査医学	臨床総論講義17 病理組織診断学 病理診断科	臨床総論講義18 細胞診断学 病理診断科	臨床総論講義	
10月7日 水	臨床総論講義19 病因と病態:遺伝子異常 と疾患・発生発達障害 小児科学	臨床総論講義20 消化器外科学総論 消化器外科学	臨床総論講義21 腫瘍:手術療法及び集学的 治療 消化器外科学	臨床総論講義22 基本的外科診断法:呼吸 器・乳腺甲状腺 呼吸器・乳腺内分泌外科学	臨床総論講義23 基本的診療知識:東洋医 学漢方医学総論 非常勤講師	臨床総論講義24 基本的診療知識:東洋医 学漢方医学総論 非常勤講師	臨床総論講義25 緩和医療 非常勤講師	
10月8日 木	臨床総論講義26 基本的診療知識:医用機 器と人工臓器 心臓血管外科学	臨床総論講義27 小児外科学総論 小児外科学	臨床総論講義28 外傷学総論 整形外科	臨床総論講義29 専門医制度 非常勤講師	臨床総論講義30 専門医制度 非常勤講師	臨床総論講義31 基本的診療知識:移植 泌尿器科学	臨床総論講義	
10月9日 金	臨床総論講義32 基本的診療知識:超音波 を用いる診断と治療 周産期婦人科学	臨床総論講義33 病因と病態:炎症と創傷 治療等 形成外科学	臨床総論講義34 口腔の構造・機能・生理 歯科口腔外科学	医学部祭(午後休講)				

臨床総論講義 第3週

	I 8:30-9:30	II 9:40-10:40	III 10:50-11:50	IV 12:50-13:50	V 14:00-15:00	VI 15:10-16:10	VII 16:20-17:20
10月12日 月	体育の日						
10月13日 火	臨床総論講義35 基本的診療知識:薬物療 法の基本原則 薬剤部	臨床総論講義36 薬物体内動態・TDM 薬剤部	臨床総論講義37 麻薬の取り扱い 薬剤部	臨床総論講義38 基本的診療知識:輸血 輸血部	臨床総論講義39 基本的診療知識:リハビ リテーション リハビリテーション部	臨床総論講義40 医療情報とは・医療情報 の扱い方 医療情報部	臨床総論講義
10月14日 水	臨床総論講義41 遠隔診断システム・医療 情報ネットワーク 医療情報部	臨床総論講義42 物理・科学的因子による 疾患 法医学	臨床総論講義43 人の死・死と法 法医学	臨床総論講義44 臨床腫瘍学 臨床腫瘍学	臨床総論講義45 漢方の実際 非常勤講師	臨床総論講義46 漢方の実際 非常勤講師	臨床総論講義47 地域医療教育支援センタ
10月15日 木	臨床総論講義48 ワークライフバランス 血液・免疫・呼吸器内科学	臨床総論講義	臨床総論講義	臨床総論講義	臨床総論講義	臨床総論講義	臨床総論講義
10月16日 金	臨床総論講義	臨床総論講義	臨床総論講義	臨床総論講義	臨床総論講義	臨床総論講義	臨床総論講義

症候論 第1週

	I 8:30-9:30	II 9:40-10:40	III 10:50-11:50	IV 12:50-13:50	V 14:00-15:00	VI 15:10-16:10	VII 16:20-17:20
10月19日 月	臨床総論試験		症候論 授業準備	症候論 全身倦怠感 細胞情報生理学 総合内科	症候論 自習	症候論 自習	全学共通科目 Advanced English II 医学部キャンパス Willey
10月20日 火	症候論 自習	症候論 自習	慰霊祭				
10月21日 水	症候論 授業準備	症候論 胸痛 神経機能解剖学 循環器内科	症候論 動悸 自律機能生理学 循環器内科	症候論 自習	症候論 自習	症候論 自習	
10月22日 木	症候論 浮腫 自律機能生理学 腎臓内科	症候論 授業準備	症候論 脱水 総合内科	症候論 自習	症候論 自習	症候論 自習	
10月23日 金	症候論 授業準備	症候論 意識障害・失神 神経機能解剖学 精神科神経科	症候論 体重減少・増加 医学教育学	症候論 自習	症候論 自習	症候論 自習	

症候論 第2週

	I 8:30-9:30	II 9:40-10:40	III 10:50-11:50	IV 12:50-13:50	V 14:00-15:00	VI 15:10-16:10	VII 16:20-17:20
10月26日 月	症候論 授業準備	症候論 運動麻痺・筋力低下 神経機能解剖学 神経内科	症候論 自習	症候論 自習	症候論 自習	症候論 自習	全学共通科目 Advanced English II 医学部キャンパス Willey
10月27日 火	症候論 授業準備	症候論 頭痛 細胞情報生理学 脳神経外科	症候論 発熱 膠原病内科	症候論 自習	症候論 自習	症候論 自習	
10月28日 水	症候論 尿量・排尿の異常 泌尿器科	症候論 授業準備	症候論 咳嗽 自律機能生理学 呼吸器内科	症候論 自習	症候論 自習	症候論 自習	
10月29日 木	症候論 授業準備	症候論 授業準備	症候論 授業準備	症候論 出血傾向 医学教育学	症候論 めまい 細胞情報生理学 耳鼻咽喉科	症候論 自習	
10月30日 金	症候論 授業準備	症候論 食思不振・悪心嘔吐 医学教育学	症候論 リンパ節腫脹 総合内科	症候論 自習	症候論 自習	症候論 自習	

症候論 第3週

	I 8:30-9:30	II 9:40-10:40	III 10:50-11:50	IV 12:50-13:50	V 14:00-15:00	VI 15:10-16:10	VII 16:20-17:20
11月2日 月	症候論 授業準備	症候論 けいれん 細胞情報生理学 神経内科	症候論 自習	症候論 自習	症候論 自習	症候論 自習	症候論 自習
11月3日 火	文化の日						
11月4日 水	症候論 授業準備	症候論 腹痛 神経機能解剖学 消化器外科	症候論 呼吸困難 自律機能生理学 呼吸器内科	症候論 自習	症候論 自習	症候論 自習	
11月5日 木	症候論 関節痛・関節腫脹 整形外科	症候論 授業準備	症候論 授業準備	症候論 ショック 自律機能生理学 麻酔科	症候論 自習	症候論 自習	全学共通科目 Advanced English II 医学部キャンパス Willey
11月6日 金	症候論 自習	症候論 自習	症候論 自習	症候論 自習	症候論 自習	症候論 自習	症候論 自習

放射線ユニット 第1週

	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
11月9日 月	放射線ユニット 自主学習	放射線ユニット 診断総論 放射線医学	放射線ユニット 自主学習	放射線ユニット CT検査総論 放射線医学	放射線ユニット MRI検査総論 放射線医学	放射線ユニット 画像診断 (脳・脊髄) 放射線医学	全学共通科目 Advanced English II 医学部キャンパス Willey
11月10日 火	放射線ユニット 放射線腫瘍学 I 放射線治療科	放射線ユニット 放射線腫瘍学 II 放射線治療科	放射線ユニット 放射線生物学 放射線治療科	放射線ユニット 放射線治療計画総論 放射線治療科	放射線ユニット 画像診断 (副腎・女性器) 放射線医学	放射線ユニット 放射線障害・防護 ・安全管理 放射線部	放射線ユニット 自主学習
11月11日 水	放射線ユニット 画像診断 (肝・胆・脾・脾) 放射線医学	放射線ユニット IVR 1 放射線医学	放射線ユニット IVR 2 放射線医学	放射線ユニット 画像診断 (心臓・脈管) 放射線医学	放射線ユニット 画像診断 (頭頸部) 放射線医学	放射線ユニット 自主学習	放射線ユニット 自主学習
11月12日 木	放射線ユニット 自主学習	放射線ユニット 核医学検査総論 放射線医学	放射線ユニット 核医学 I 放射線医学	放射線ユニット 核医学 II 放射線医学	放射線ユニット 核医学 III 放射線医学	放射線ユニット 核医学 (RI内療法) 放射線医学	放射線ユニット 自主学習
11月13日 金	放射線ユニット 自主学習	放射線ユニット 画像診断 (胸部1) 放射線医学	放射線ユニット 画像診断 (胸部2) 放射線医学	放射線ユニット 画像診断 (消化管) 放射線医学	放射線ユニット 画像診断 (腎・尿路・男性器) 放射線医学	放射線ユニット 画像診断 (骨・関節・軟部組織) 放射線医学	放射線ユニット 自主学習

精神・神経、内分泌代謝ユニット 第1週

	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
11月16日 月	放射線ユニット試験	精神・神経、内分泌代謝ユニット 内分泌細胞の機能 I	精神・神経、内分泌代謝ユニット 内分泌細胞の機能 II	精神・神経、内分泌代謝ユニット 内分泌細胞の機能 III	精神・神経、内分泌代謝ユニット 内分泌代謝検査	精神・神経、内分泌代謝ユニット 脂質代謝・動脈硬化 I	全学共通科目 Advanced English II 医学部キャンパス Willey
11月17日 火	精神・神経、内分泌代謝ユニット 副腎の基礎 生化学	精神・神経、内分泌代謝ユニット 副腎疾患 I 先端医療	精神・神経、内分泌代謝ユニット 副腎疾患 II 先端医療	精神・神経、内分泌代謝ユニット 副腎疾患 III 先端医療	精神・神経、内分泌代謝ユニット 個体の機能 細胞情報生理学	精神・神経、内分泌代謝ユニット 副甲状腺疾患 先端医療	精神・神経、内分泌代謝ユニット
11月18日 水	精神・神経、内分泌代謝ユニット 副腎疾患の外科治療 泌尿器・副腎・腎移植外科学	精神・神経、内分泌代謝ユニット ポルフィリン代謝と ポルフィリア 生化学／先端医療	精神・神経、内分泌代謝ユニット 核酸代謝・痛風 生化学／先端医療	精神・神経、内分泌代謝ユニット	精神・神経、内分泌代謝ユニット 脂質代謝・動脈硬化 II 生化学	精神・神経、内分泌代謝ユニット 脂質代謝・動脈硬化 III 生化学	精神・神経、内分泌代謝ユニット
11月19日 木	内分泌病理学 炎症病理学	内分泌病理学 炎症病理学	精神・神経、内分泌代謝ユニット ホルモンと受容体 I 分子細胞機能学	精神・神経、内分泌代謝ユニット ホルモンと受容体 II 分子細胞機能学	精神・神経、内分泌代謝ユニット 生活習慣病と食育 I	精神・神経、内分泌代謝ユニット 生活習慣病と食育 II	精神・神経、内分泌代謝ユニット
11月20日 金	精神・神経、内分泌代謝ユニット	精神・神経、内分泌代謝ユニット 栄養学総論 I (特別講義) 竹谷 豊先生	精神・神経、内分泌代謝ユニット 栄養学総論 II (特別講義) 竹谷 豊先生	推薦入試準備			

精神・神経、内分泌代謝ユニット 第2週

	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
11月23日 月	勤労感謝の日						
11月24日 火	精神・神経、内分泌代謝ユニット 消化管ホルモン 分子細胞機能学	精神・神経、内分泌代謝ユニット 消化管ホルモン 先端医療	精神・神経、内分泌代謝ユニット 甲状腺機能の病態と疾患 I 先端医療	精神・神経、内分泌代謝ユニット 甲状腺機能の病態と疾患 II 先端医療	精神・神経、内分泌代謝ユニット 甲状腺機能の病態と疾患 III 先端医療	精神・神経、内分泌代謝ユニット ビタミンの基礎 I 生化学	全学共通科目 Advanced English II 医学部キャンパス Willey
11月25日 水	精神・神経、内分泌代謝ユニット ビタミンの基礎 II 生化学	精神・神経、内分泌代謝ユニット 多発性内分泌腺腫症 先端医療	精神・神経、内分泌代謝ユニット 骨粗鬆症 先端医療	精神・神経、内分泌代謝ユニット 糖尿病と社会学 衛生学	精神・神経、内分泌代謝ユニット 糖代謝 生化学	精神・神経、内分泌代謝ユニット 下垂体機能低下症 (先端医療特別講義) 先端医療(佐藤先生)	精神・神経、内分泌代謝ユニット
11月26日 木	内分泌病理学実習 炎症病理学	内分泌病理学実習 炎症病理学	精神・神経、内分泌代謝ユニット 東洋医学概論 先端医療	精神・神経、内分泌代謝ユニット 甲状腺疾患の外科治療 乳腺内分泌外科	精神・神経、内分泌代謝ユニット 乳癌の診断と治療 I 乳腺内分泌外科	精神・神経、内分泌代謝ユニット 乳癌の診断と治療 II 乳腺内分泌外科	精神・神経、内分泌代謝ユニット
11月27日 金	精神・神経、内分泌代謝ユニット 乳癌の放射線治療 放射線診療科	精神・神経、内分泌代謝ユニット 糖尿病 I 先端医療	精神・神経、内分泌代謝ユニット 糖尿病 II 先端医療	精神・神経、内分泌代謝ユニット	精神・神経、内分泌代謝ユニット 栄養学総論 I 臨床栄養部	精神・神経、内分泌代謝ユニット 栄養学総論 II 臨床栄養部	精神・神経、内分泌代謝ユニット

精神・神経、内分泌代謝ユニット 第3週

	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
11月30日 月	精神・神経、内分泌代謝ユニット 糖尿病Ⅲ 先端医療	精神・神経、内分泌代謝ユニット 糖尿病Ⅳ (運動療法) リハビリテーション部	精神・神経、内分泌代謝ユニット アミロイドーシス 生化学/先端医療	精神・神経、内分泌代謝ユニット	精神・神経、内分泌代謝ユニット 症例検討Ⅰ 先端医療	精神・神経、内分泌代謝ユニット 症例検討Ⅱ 先端医療	全学共通科目 Advanced English II 医学部キャンパス Willey
12月1日 火	精神・神経、内分泌代謝ユニット	精神・神経、内分泌代謝ユニット 糖尿病Ⅴ 先端医療	精神・神経、内分泌代謝ユニット 糖尿病Ⅵ 先端医療	精神・神経、内分泌代謝ユニット 乳腺の病理学 炎症病理学	精神・神経、内分泌代謝ユニット 乳腺の病理学 炎症病理学	精神・神経、内分泌代謝ユニット 乳腺の病理学 炎症病理学	精神・神経、内分泌代謝ユニット
12月2日 水	精神・神経、内分泌代謝ユニット 診断と検査の基本 消化器・神経内科	精神・神経、内分泌代謝ユニット 肥満とやせⅠ 先端医療	精神・神経、内分泌代謝ユニット 肥満とやせⅡ 精神神経医学	精神・神経、内分泌代謝ユニット 精神医学的症候と状態像 精神神経医学	精神・神経、内分泌代謝ユニット 神経心理学的症候・ 脳の局在症状 精神神経医学	精神・神経、内分泌代謝ユニット	精神・神経、内分泌代謝ユニット 頭痛 消化器・神経内科
12月3日 木	精神・神経、内分泌代謝ユニット 変性疾患および認知症(1) 出口一志	精神・神経、内分泌代謝ユニット 中枢神経系の病理学 炎症病理学	精神・神経、内分泌代謝ユニット	精神・神経、内分泌代謝ユニット	精神・神経、内分泌代謝ユニット 変性疾患および認知症(3) 消化器・神経内科	精神・神経、内分泌代謝ユニット 下垂体後葉疾患 (先端医療特別講義) 柳瀬先生	精神・神経、内分泌代謝ユニット 神経症候学 消化器・神経内科
12月4日 金	精神・神経、内分泌代謝ユニット 神経感染症・中毒(1) 消化器・神経内科	精神・神経、内分泌代謝ユニット 神経感染症・中毒(2) 消化器・神経内科	精神・神経、内分泌代謝ユニット	精神・神経、内分泌代謝ユニット 精神科面接・ 診断分類法 精神神経医学	精神・神経、内分泌代謝ユニット 神経感染症・中毒 精神神経医学	精神・神経、内分泌代謝ユニット	精神・神経、内分泌代謝ユニット 変性疾患および認知症(2) 消化器・神経内科

精神・神経、内分泌代謝ユニット 第4週

	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
12月7日 月	精神・神経、内分泌代謝ユニット 中枢神経系の病理学 炎症病理学	精神・神経、内分泌代謝ユニット 中枢神経系の病理学 炎症病理学	精神・神経、内分泌代謝ユニット 脱髄疾患 消化器・神経内科	精神・神経、内分泌代謝ユニット 統合失調症(急性期) 精神神経医学	精神・神経、内分泌代謝ユニット 統合失調症(慢性期) 精神神経医学	精神・神経、内分泌代謝ユニット	全学共通科目 Advanced English II 医学部キャンパス Willey
12月8日 火	精神・神経、内分泌代謝ユニット	精神・神経、内分泌代謝ユニット アルコール・薬物依存の 病態と診断 精神神経医学	精神・神経、内分泌代謝ユニット てんかん(成人) 精神神経医学	精神・神経、内分泌代謝ユニット 中枢神経系の病理学 炎症病理学	精神・神経、内分泌代謝ユニット 中枢神経系の病理学 炎症病理学	精神・神経、内分泌代謝ユニット 中枢神経系の病理学 炎症病理学	精神・神経、内分泌代謝ユニット
12月9日 水	精神・神経、内分泌代謝ユニット	精神・神経、内分泌代謝ユニット	精神・神経、内分泌代謝ユニット	精神・神経、内分泌代謝ユニット	精神・神経、内分泌代謝ユニット 認知症 精神神経医学	精神・神経、内分泌代謝ユニット 精神科医療の法と倫理 精神神経医学	精神・神経、内分泌代謝ユニット
12月10日 木	精神・神経、内分泌代謝ユニット	精神・神経、内分泌代謝ユニット	精神・神経、内分泌代謝ユニット	精神・神経、内分泌代謝ユニット	精神・神経、内分泌代謝ユニット ミオパチー(1) 消化器・神経内科	精神・神経、内分泌代謝ユニット 不随意運動の診断と治療 (特別講義) 消化器・神経内科	精神・神経、内分泌代謝ユニット
12月11日 金	精神・神経、内分泌代謝ユニット 末梢神経障害(1) 消化器・神経内科	精神・神経、内分泌代謝ユニット 末梢神経障害(2) 消化器・神経内科	精神・神経、内分泌代謝ユニット 特別講義 炎症病理学	精神・神経、内分泌代謝ユニット	精神・神経、内分泌代謝ユニット 症状精神病の概念と診断 精神神経医学	精神・神経、内分泌代謝ユニット 心身症(摂食障害含む) 精神神経医学	精神・神経、内分泌代謝ユニット ミオパチー(2) 消化器・神経内科

精神・神経、内分泌代謝ユニット 第5週

	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
12月14日 月	精神・神経、内分泌代謝ユニット	精神・神経、内分泌代謝ユニット 不安性障害・ 解離性障害 精神神経医学	精神・神経、内分泌代謝ユニット 脊髄・脊椎疾患 消化器・神経内科	精神・神経、内分泌代謝ユニット 気分障害 うつ病の症候と診断 精神神経医学	精神・神経、内分泌代謝ユニット 気分障害 双極性の症候と診断 精神神経医学	精神・神経、内分泌代謝ユニット	全学共通科目 Advanced English II 医学部キャンパス Willey
12月15日 火	精神・神経、内分泌代謝ユニット 先天性代謝障害 消化器・神経内科	精神・神経、内分泌代謝ユニット コンサルテーション・ リエゾン精神医学 精神神経医学	精神・神経、内分泌代謝ユニット 精神療法・ 認知行動療法 精神神経医学	精神・神経、内分泌代謝ユニット 筋疾患の病理学 炎症病理学	精神・神経、内分泌代謝ユニット 筋疾患の病理学 炎症病理学	精神・神経、内分泌代謝ユニット 筋疾患の病理学 炎症病理学	精神・神経、内分泌代謝ユニット
12月16日 水	精神・神経、内分泌代謝ユニット	精神・神経、内分泌代謝ユニット	精神・神経、内分泌代謝ユニット ミオパチー(3) 消化器・神経内科	精神・神経、内分泌代謝ユニット ミオパチー(4) 消化器・神経内科	精神・神経、内分泌代謝ユニット 児童精神医学 精神神経医学	精神・神経、内分泌代謝ユニット	精神・神経、内分泌代謝ユニット
12月17日 木	精神・神経、内分泌代謝ユニット	精神・神経、内分泌代謝ユニット	精神・神経、内分泌代謝ユニット	精神・神経、内分泌代謝ユニット	精神・神経、内分泌代謝ユニット	精神・神経、内分泌代謝ユニット	精神・神経、内分泌代謝ユニット
12月18日 金	精神・神経、内分泌代謝ユニット	精神・神経、内分泌代謝ユニット	精神・神経、内分泌代謝ユニット	精神・神経、内分泌代謝ユニット	精神・神経、内分泌代謝ユニット	精神・神経、内分泌代謝ユニット	精神・神経、内分泌代謝ユニット

麻酔・救急ユニット 第1週

	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
12月21日 月	精神神経ユニット試験	内分泌代謝ユニット試験	麻酔・救急ユニット 救急災害医学 ①救急集中治療総論 (黒田)	麻酔・救急ユニット 救急災害医学 ②心停止・心肺蘇生 (高野Dr)	麻酔・救急ユニット 麻酔・周術期医学① 麻酔・周術期医学総論 (白神)	麻酔・救急ユニット	全学共通科目 Advanced English II 医学部キャンパス Willey
12月22日 火	麻酔・救急ユニット	麻酔・救急ユニット	麻酔・救急ユニット 救急災害医学 ③多発外傷 (篠原Dr)	麻酔・救急ユニット 救急災害医学 ④脳神経外科救急疾患 (河北Dr)	麻酔・救急ユニット 麻酔・周術期医学② 局所区域麻酔 (小野Dr)	麻酔・救急ユニット 麻酔・周術期医学③ 痛み医学 (野萱Dr)	麻酔・救急ユニット
12月23日 水	麻酔・救急ユニット 天皇誕生日	麻酔・救急ユニット 天皇誕生日	麻酔・救急ユニット 天皇誕生日	麻酔・救急ユニット 天皇誕生日	麻酔・救急ユニット 天皇誕生日	麻酔・救急ユニット 天皇誕生日	麻酔・救急ユニット 天皇誕生日
12月24日 木	麻酔・救急ユニット	麻酔・救急ユニット	麻酔・救急ユニット 救急災害医学 ⑤熱傷の病態と治療 (阿部Dr)	麻酔・救急ユニット 救急災害医学 ⑥中毒 (定光Dr)	麻酔・救急ユニット 麻酔・周術期医学④ 周術期全身管理 (宮脇Dr)	麻酔・救急ユニット 麻酔・周術期医学⑤ 麻酔薬理学 (穴吹Dr)	麻酔・救急ユニット
12月25日 金	麻酔・救急ユニット	麻酔・救急ユニット 麻酔・周術期医学⑥ 特殊麻酔 (武田Dr)	麻酔・救急ユニット 麻酔・周術期医学⑦ 集中治療医学①総論 (田家Dr)	麻酔・救急ユニット 救急災害医学 ⑦災害医療 (大友Dr)	麻酔・救急ユニット 麻酔・周術期医学⑧ 集中治療医学②重症患者管理 (浅賀Dr)	麻酔・救急ユニット	麻酔・救急ユニット

脳外科・整形、消化器ユニット 第1週

	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
1月4日 月	麻酔・救急ユニット試験	脳外科・整形、消化器ユニット 消化器内視鏡学 消化器・神経内科	脳外科・整形、消化器ユニット 消化器内視鏡治療 消化器・神経内科	脳外科・整形、消化器ユニット 食道静脈瘤、 食道悪性腫瘍 消化器・神経内科	脳外科・整形、消化器ユニット 食道炎・ 食道アカラシア 消化器・神経内科	脳外科・整形、消化器ユニット 胃良性腫瘍、 胃悪性腫瘍 消化器・神経内科	
1月5日 火	脳外科・整形、消化器ユニット 消化器外科総論 消化器外科	脳外科・整形、消化器ユニット 消化器外科における 術前後管理 消化器外科	脳外科・整形、消化器ユニット 食道疾患の外科治療 消化器外科	脳外科・整形、消化器ユニット 炎症病理講義	脳外科・整形、消化器ユニット 炎症病理実習	脳外科・整形、消化器ユニット 炎症病理実習	脳外科・整形、消化器ユニット 胃疾患の外科治療 消化器外科
1月6日 水	脳外科・整形、消化器ユニット 急性腹症、腸閉塞 消化器外科	脳外科・整形、消化器ユニット 大腸の外科治療 消化器外科	脳外科・整形、消化器ユニット 消化管の病理1 腫瘍病理学	脳外科・整形、消化器ユニット 消化管の病理1 腫瘍病理学	脳外科・整形、消化器ユニット 消化管の病理1 実習 腫瘍病理学	脳外科・整形、消化器ユニット 消化管の病理1 実習 腫瘍病理学	脳外科・整形、消化器ユニット 消化管の病理1 実習 腫瘍病理学
1月7日 木	脳外科・整形、消化器ユニット 胃炎、消化性潰瘍 消化器・神経内科	脳外科・整形、消化器ユニット 消化器作用薬 消化器・神経内科	脳外科・整形、消化器ユニット 大腸の炎症性疾患 消化器・神経内科	脳外科・整形、消化器ユニット 大腸ポリープ 消化器・神経内科	脳外科・整形、消化器ユニット 消化器疾患に対する 放射線治療 放射線治療科 消化器外科	脳外科・整形、消化器ユニット 小腸、虫垂、 肛門病変の外科治療 消化器外科	脳外科・整形、消化器ユニット 腸壁、横隔膜疾患 消化器外科
1月8日 金	脳外科・整形、消化器ユニット 大腸癌 消化器・神経内科	脳外科・整形、消化器ユニット 潰瘍性大腸炎、 クローン病 消化器・神経内科	脳外科・整形、消化器ユニット 小腸疾患 消化器・神経内科	脳外科・整形、消化器ユニット 過敏性腸症候群、 大腸憩室 消化器・神経内科	脳外科・整形、消化器ユニット 肝疾患総論 消化器・神経内科	脳外科・整形、消化器ユニット 症候II(腹痛、吐血、 下血、悪心、嘔吐) 消化器・神経内科	脳外科・整形、消化器ユニット 自己免疫性肝炎、 原発性胆汁性肝硬変 消化器・神経内科

脳外科・整形、消化器ユニット 第2週

	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
1月11日 月	成人の日						
1月12日 火	脳外科・整形、消化器ユニット 症候I(黄疸、 腹部膨隆、腹部腫瘍) 消化器・神経内科	脳外科・整形、消化器ユニット 低侵襲下外科治療 消化器外科	脳外科・整形、消化器ユニット 肝、脾、門脈の 外科治療I 消化器外科	脳外科・整形、消化器ユニット 炎症病理講義	脳外科・整形、消化器ユニット 炎症病理実習	脳外科・整形、消化器ユニット 炎症病理実習	脳外科・整形、消化器ユニット 肝、脾、門脈の 外科治療II 消化器外科
1月13日 水	脳外科・整形、消化器ユニット 肝移植と膵移植 消化器外科	脳外科・整形、消化器ユニット ウイルス性肝炎I 消化器・神経内科	脳外科・整形、消化器ユニット 消化管の病理2 腫瘍病理学	脳外科・整形、消化器ユニット 消化管の病理2 腫瘍病理学	脳外科・整形、消化器ユニット 消化管の病理2 実習 腫瘍病理学	脳外科・整形、消化器ユニット 消化管の病理2 実習 腫瘍病理学	脳外科・整形、消化器ユニット 消化管の病理2 実習 腫瘍病理学
1月14日 木	脳外科・整形、消化器ユニット 肝硬変 消化器・神経内科	脳外科・整形、消化器ユニット 急性肝炎、慢性肝炎 消化器・神経内科	脳外科・整形、消化器ユニット 原発性肝癌 消化器・神経内科	脳外科・整形、消化器ユニット 劇症肝炎 消化器・神経内科	脳外科・整形、消化器ユニット 膵・胆道疾患の 外科治療I 消化器外科	脳外科・整形、消化器ユニット 膵・胆道疾患の 外科治療II 消化器外科	脳外科・整形、消化器ユニット 膵・胆道疾患の 外科治療III 消化器外科
1月15日 金	脳外科・整形、消化器ユニット ウイルス性肝炎II 消化器・神経内科	脳外科・整形、消化器ユニット 診断と検査の基本 (田宮)	脳外科・整形、消化器ユニット 肝胆膵の超音波検査 消化器・神経内科	センター試験準備			

脳外科・整形、消化器ユニット 第3週

	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
1月18日 月	脳外科・整形、消化器ユニット 急性肺炎、慢性肺炎 消化器・神経内科	脳外科・整形、消化器ユニット 頭蓋内圧亢進症・ 脳ヘルニア (岡内)	脳外科・整形、消化器ユニット 胆道感染症 消化器・神経内科	脳外科・整形、消化器ユニット 先天奇形 (畠山)	脳外科・整形、消化器ユニット 脊髄・脊椎疾患 (岡田)	脳外科・整形、消化器ユニット その他の肝疾患 消化器・神経内科	全学共通科目 Advanced English II 医学部キャンパス Willey
1月19日 火	脳外科・整形、消化器ユニット	脳外科・整形、消化器ユニット 脳腫瘍の分類 Glioma (田宮)	脳外科・整形、消化器ユニット 鞍上部・松果体腫瘍 (田宮)	炎症病理講義	炎症病理実習	炎症病理実習	脳外科・整形、消化器ユニット 腭腫瘍 消化器・神経内科
1月20日 水	脳外科・整形、消化器ユニット 脳梗塞 (川西)	脳外科・整形、消化器ユニット 脳出血・AVM・AVF・IVR (川西)	肝胆膵の病理 腫瘍病理学	肝胆膵の病理 腫瘍病理学	肝胆膵の病理 実習 腫瘍病理学	肝胆膵の病理 実習 腫瘍病理学	肝胆膵の病理 実習 腫瘍病理学
1月21日 木	脳外科・整形、消化器ユニット 髄膜腫 (三宅)	脳外科・整形、消化器ユニット 後頭蓋窩腫瘍 (三宅)	脳外科・整形、消化器ユニット 変性疾患 (機能的脳神経外科) (三宅)	脳外科・整形、消化器ユニット 胆道腫瘍 消化器・神経内科	脳外科・整形、消化器ユニット 胆膵その他 消化器・神経内科	脳外科・整形、消化器ユニット	脳外科・整形、消化器ユニット
1月22日 金	脳外科・整形、消化器ユニット	脳外科・整形、消化器ユニット 頭部外傷(急性期) (新堂)	脳外科・整形、消化器ユニット 頭部外傷(慢性期) (新堂)	脳外科・整形、消化器ユニット くも膜下出血 (川西)	脳外科・整形、消化器ユニット 特別講義 未定	脳外科・整形、消化器ユニット 特別講義 消化器・神経内科	脳外科・整形、消化器ユニット

脳外科・整形、消化器ユニット 第4週

	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
1月25日 月	脳外科・整形、消化器ユニット	脳外科・整形、消化器ユニット	脳外科・整形、消化器ユニット	脳外科・整形、消化器ユニット	脳外科・整形、消化器ユニット 整形外科 診断と検査の基本 森	脳外科・整形、消化器ユニット 整形外科 股関節疾患 岩田	全学共通科目 Advanced English II 医学部キャンパス Willey
1月26日 火	脳外科・整形、消化器ユニット	脳外科・整形、消化器ユニット	脳外科・整形、消化器ユニット 整形外科 関節疾患総論 真柴	炎症病理講義	炎症病理実習	炎症病理実習	脳外科・整形、消化器ユニット
1月27日 水	脳外科・整形、消化器ユニット	脳外科・整形、消化器ユニット 整形外科 末梢神経疾患 加地	脳外科・整形、消化器ユニット 整形外科 上肢疾患 加地	脳外科・整形、消化器ユニット	脳外科・整形、消化器ユニット 整形外科 骨軟部腫瘍1 山本	脳外科・整形、消化器ユニット 整形外科 肩関節疾患 中溝	脳外科・整形、消化器ユニット 整形外科 脊椎・脊髄疾患 小松原
1月28日 木	脳外科・整形、消化器ユニット	脳外科・整形、消化器ユニット 整形外科 リウマチ性疾患 今泉	脳外科・整形、消化器ユニット 整形外科 骨軟部腫瘍2 山本	脳外科・整形、消化器ユニット 整形外科 膝・足関節疾患 真柴	脳外科・整形、消化器ユニット 整形外科 下肢の外傷 真柴	脳外科・整形、消化器ユニット	脳外科・整形、消化器ユニット
1月29日 金	脳外科・整形、消化器ユニット	脳外科・整形、消化器ユニット	脳外科・整形、消化器ユニット	脳外科・整形、消化器ユニット	脳外科・整形、消化器ユニット 整形外科 上肢の外傷 山本	脳外科・整形、消化器ユニット 整形外科 骨代謝性疾患 岩田	脳外科・整形、消化器ユニット 整形外科 脊椎・脊髄疾患 小松原

脳外科・整形、消化器ユニット 第5週

	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	12:50-13:50	14:00-15:00	15:10-16:10	16:20-17:20
2月1日 月	脳外科・整形、消化器ユニット	脳外科・整形、消化器ユニット	脳外科・整形、消化器ユニット	脳外科・整形、消化器ユニット	脳外科・整形、消化器ユニット	脳外科・整形、消化器ユニット	全学共通科目 Advanced English II 医学部キャンパス Willey
2月2日 火	脳外科・整形、消化器ユニット	脳外科・整形、消化器ユニット	脳外科・整形、消化器ユニット	脳外科・整形、消化器ユニット	脳外科・整形、消化器ユニット	脳外科・整形、消化器ユニット	脳外科・整形、消化器ユニット
2月3日 水	脳外科・整形、消化器ユニット	脳外科・整形、消化器ユニット	脳外科・整形、消化器ユニット	病理学実習試験 腫瘍病理学	病理学実習試験 腫瘍病理学	脳外科・整形、消化器ユニット	脳外科・整形、消化器ユニット
2月4日 木	脳外科・整形、消化器ユニット	脳外科・整形、消化器ユニット	脳外科・整形、消化器ユニット	脳外科・整形、消化器ユニット 消化器ユニット試験	脳外科・整形、消化器ユニット 消化器ユニット試験	脳外科・整形、消化器ユニット	脳外科・整形、消化器ユニット
2月5日 金	脳外科・整形、消化器ユニット	脳外科・整形、消化器ユニット	脳外科・整形、消化器ユニット	脳外科・整形、消化器ユニット	脳外科・整形、消化器ユニット	脳外科・整形、消化器ユニット	脳外科・整形、消化器ユニット

課題実習 第1週

	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	13:00-14:00	14:10-15:10	15:20-16:20	16:30-17:30
2月8日 月	課題実習						
2月9日 火	課題実習						
2月10日 水	課題実習						
2月11日 木	建国記念日						
2月12日 金	課題実習						

課題実習 第2週

	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	13:00-14:00	14:10-15:10	15:20-16:20	16:30-17:30
2月15日 月	課題実習						
2月16日 火	課題実習						
2月17日 水	課題実習						
2月18日 木	課題実習						
2月19日 金	課題実習						

課題実習 第3週

	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	13:00-14:00	14:10-15:10	15:20-16:20	16:30-17:30
2月22日 月	課題実習						
2月23日 火	課題実習						
2月24日 水	課題実習						
2月25日 木	課題実習						
2月26日 金	課題実習						

課題実習 第4週

	I	II	III	IV	V	VI	VII
	8:30-9:30	9:40-10:40	10:50-11:50	13:00-14:00	14:10-15:10	15:20-16:20	16:30-17:30
2月29日 月	課題実習						
3月1日 火	課題実習						
3月2日 水	課題実習						
3月3日 木	課題実習						
3月4日 金	課題実習						

平成27年度 講義・実習時間割 4年次生

第1学期 第3ユニット第1週

1	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
3月30日 月	春期休業					
3月31日 火	春期休業					
4月1日 水	第三ユニットB 1	第三ユニットB 2	第三ユニットB 3	第三ユニットB 4	第三ユニットB 5	
	腎・尿路系の病理 (腫瘍病理)			腎・尿路系の病理実習 (腫瘍病理)		
4月2日 木	第三ユニットB 6	第三ユニットB 7	生理・薬理学実習 1	生理・薬理学実習 2	生理・薬理学実習 3	生理・薬理学実習 4
	症候論1 血尿・蛋白尿(検尿異常) (循・腎・脳内科) 西島	急性腎不全 (循・腎・脳内科) 尾崎	説明会	生理学・薬理学実習 (I-1)		
4月3日 金	公衆衛生学 オリエンテーション、総論 平尾	公衆衛生学 健康と政策(1) 平尾	公衆衛生学 健康と政策(2) 平尾	衛生学 オリエンテーション、疫学(1) 宮武	衛生学 疫学(2) 宮武	

第3ユニット第2週

2	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
4月6日 月	第三ユニットB 8	第三ユニットB 9	第三ユニットB 10	生理・薬理学実習 5	生理・薬理学実習 6	生理・薬理学実習 7
	チュートリアル 課題(血尿)-1	腎臓の生理 (自機生)		生理学・薬理学実習 (I-2)		
4月7日 火	第三ユニットB 11	第三ユニットB 12	第三ユニットB 13	生理・薬理学実習 8	生理・薬理学実習 9	生理・薬理学実習 10
	腎臓の生理 (自機生)			生理学・薬理学実習 (I-3)		
4月8日 水	第三ユニットB 14	第三ユニットB 15	第三ユニットB 16	第三ユニットB 17	第三ユニットB 18	
	腎・尿路系の病理 (腫瘍病理)			腎・尿路系の病理実習 (腫瘍病理)		
4月9日 木	第三ユニットB 19	第三ユニットB 20	第三ユニットB 21	生理・薬理学実習 11	生理・薬理学実習 12	生理・薬理学実習 13
	尿細管機能異常 (循・腎・脳内科) 西島	高血圧と腎臓病態論 (薬理)		生理学・薬理学実習 (II-1)		
4月10日 金	公衆衛生学 医療制度 平尾	公衆衛生学 社会保障 平尾	公衆衛生学 医療保障 依田	衛生学 疫学(3) 宮武	衛生学 疫学(4) 宮武	

第3ユニット第3週

第3週

3	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
4月13日 月	第三ユニットB 22	第三ユニットB 23	第三ユニットB 24	生理・薬理学実習 14	生理・薬理学実習 15	生理・薬理学実習 16
	チュートリアル 課題(血尿)-2	ネフローゼ症候群 (循・腎・脳内科) 河上	学校検尿 (小児)	生理学・薬理学実習 (II-2)		
4月14日 火	第三ユニットB 25	第三ユニットB 26	第三ユニットB 27	生理・薬理学実習 17	生理・薬理学実習 18	生理・薬理学実習 19
	尿路結石 (泌尿器) 杉元	慢性腎不全 血液浄化療法 (循・腎・脳内科) 祖父江	尿量・排尿の異常 (泌尿器) 田岡	生理学・薬理学実習 (II-3)		
4月15日 水	第三ユニットB 28	第三ユニットB 29	第三ユニットB 30	定期健康診断		
	先天異常 (小児)	腎機能検査 水・電解質代謝異常 (循・腎・脳内科) 清元				
4月16日 木	第三ユニットB 31	第三ユニットB 32	第三ユニットB 33	生理・薬理学実習 20	生理・薬理学実習 21	生理・薬理学実習 22
	原発性糸球体疾患 (循・腎・脳内科) 西島		排尿障害 (泌尿器) 松木	生理学・薬理学実習 (III-1)		
4月17日 金	公衆衛生学 地域保健 依田	公衆衛生学 高齢者保健(1) 平尾	公衆衛生学 高齢者保健(2) 平尾	衛生学 疫学(5) 宮武、坂野	衛生学 疫学(6) 宮武、坂野	

第3ユニット第4週

第4週

4	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
4月20日 月	第三ユニットB 34 チュートリアル 課題(血尿)-3	第三ユニットB 35 グループワーキング (発表準備)	第三ユニットB 36 補講	生理・薬理学実習 23	生理・薬理学実習 24	生理・薬理学実習 25
4月21日 火	第三ユニットB 37 全身疾患と腎 (循・腎・脳内科)	第三ユニットB 38 守時	第三ユニットB 39 診断と検査 腎・尿路系の画像診断 (放射線医学)	生理・薬理学実習 26	生理・薬理学実習 27	生理・薬理学実習 28
4月22日 水	第三ユニットB 40 腎・尿路系の病理 (腫瘍病理)	第三ユニットB 41	第三ユニットB 42 腎・尿路系実習 (腫瘍病理)	第三ユニットB 43	第三ユニットB 44 腫瘍 (泌尿器)	第三ユニットB 45 算
4月23日 木	第三ユニットB 46 外傷 (泌尿器) 常森	第三ユニットB 47 女性泌尿器 (泌尿器) 平間	第三ユニットB 48 肉眼的血尿 (泌尿器) 武田	第三ユニットB 49 泌尿器腫瘍に対する 放射線治療 (放射線治療科)	第三ユニットB 50 全身疾患と腎 (周産期婦人)	第三ユニットB 51 慢性腎不全・移植 (泌尿器) 林田
4月24日 金	公衆衛生学 母子保健 鈴木	公衆衛生学 感染症対策 依田	衛生学 人口・保健統計 宮武	衛生学 産業保健(1) 宮武	スキルスラボ実習 説明会	

第3ユニット第5週

第5週

5	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
4月27日 月	第三ユニットB 52 チュートリアル(発表会) 課題(血尿)-4	第三ユニットB 53	第三ユニットB 54	第三ユニットB 55 酸塩基平衡・電解質代謝異常 (麻酔)	第三ユニットB 56	
4月28日 火	第三ユニットB 57 補講	第三ユニットB 58 実習試験 (腫瘍病理)	第三ユニットB 59	第三ユニットB 60 補講	第三ユニットB 61	
4月29日 水	昭和の日					
4月30日 木	第三ユニットB 62	第三ユニットB 63	第三ユニットB 64	第三ユニットB 65	第三ユニットB 66	試験
5月1日 金	公衆衛生学 学校保健 鈴木	公衆衛生学 精神保健 鈴木	衛生学 環境保健(1) 浅川	衛生学 産業保健(2) 菅沼		

第3ユニット第6週

第6週

6	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
5月4日 月	みどりの日					
5月5日 火	こどもの日					
5月6日 水	憲法記念日の振替休日					
5月7日 木	第三ユニットA 1 構造と機能 心臓の解剖 (神経機能形態) 三木	第三ユニットA 2 構造と機能 血管の解剖 (神経機能形態) 三木	第三ユニットA 3 診断と検査 心血管の画像診断 (放射線医学) 則兼	第三ユニットA 4 構造と機能 心臓の生理 (自律機能生理) 平野	第三ユニットA 5	
5月8日 金	衛生学 環境保健(2) 坂野	公衆衛生学 がん対策 依田	衛生学 環境保健(3) 竹内	衛生学 環境測定実習(1) 宮武、坂野他	衛生学 環境測定実習(2) 宮武、坂野他	衛生学 環境測定実習(3) 宮武、坂野他

第3ユニット第7週

第7週

7	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
5月11日 月	第三ユニットA 6 チュートリアル 課題(胸痛)-1	第三ユニットA 7 構造と機能 血管の生理 (自律機能生理) 平野	第三ユニットA 8	第三ユニットA 9 診断と検査 心電図 (循・腎・脳内科) 石澤	第三ユニットA 10	第三ユニットA 11 症候論I 動悸(精神科) (精神科) 安藤
5月12日 火	第三ユニットA 12 診断と検査 循環器超音波検査 (循・腎・脳内科) 石川(か)	第三ユニットA 13 診断と検査 循環器疾患検査値 (検査部) 高島	第三ユニットA 14 診断と検査 心カテーテル検査 (循・腎・脳内科) 河上	第三ユニットA 15	第三ユニットA 16 診断と検査 心臓核医学 (放射線医学) 西山	
5月13日 水	第三ユニットA 17 心疾患の病理 (炎症病理)	第三ユニットA 18	第三ユニットA 19	第三ユニットA 20	第三ユニットA 21 心臓病理学実習 (炎症病理)	
5月14日 木	第三ユニットA 22 狭心症薬・抗血栓治療薬 (薬理) 中野	第三ユニットA 23 循環器外科総論 (心臓血管外科) 山下	第三ユニットA 24 虚血性心疾患 外科的治療 (心臓血管外科) 堀井	第三ユニットA 25	第三ユニットA 26 虚血性心疾患 (循・腎・脳内科)	第三ユニットA 27 村上
5月15日 金	衛生学 栄養・食品保健 須那	公衆衛生学 行政医師の仕事 星川	公衆衛生学 地域医療 住友			

第3ユニット第8週

第8週

8	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
5月18日 月	第三ユニットA 28 チュートリアル 課題(胸痛)-2	第三ユニットA 29 補講	第三ユニットA 30 弁膜疾患の病態・診断 (循・腎・脳内科)	第三ユニットA 31	第三ユニットA 32 感染性心内膜炎 (循・腎・脳内科)	
5月19日 火	第三ユニットA 33 弁膜疾患の外科治療 (心臓血管外科) 堀井	第三ユニットA 34	第三ユニットA 35 心膜疾患・ 腫瘍外科 (心臓血管外科) 堀井	第三ユニットA 36 心筋・心膜疾患 (循・腎・脳内科)	第三ユニットA 37 石原(靖)	
5月20日 水	第三ユニットA 38 心疾患の病理 (炎症病理)	第三ユニットA 39	第三ユニットA 40	第三ユニットA 41	第三ユニットA 42 心臓病理学実習 (炎症病理)	
5月21日 木	第三ユニットA 43 成人先天性心疾患 (循・腎・脳内科) 石原(尚)	第三ユニットA 44 先天性心疾患の外科治療 (心臓血管外科) 堀井	第三ユニットA 45 川崎病 (小児科) 西庄	第三ユニットA 46	第三ユニットA 47 先天性心疾患 (小児科) 加藤	
5月22日 金	第三ユニットA 48 心腎連関 (薬理) 東北大学伊藤教授	第三ユニットA 49	衛生学 実地見学 宮武他	衛生学 実地見学 宮武他	衛生学 実地見学 宮武他	衛生学 実地見学 宮武他

第3ユニット第9週

第9週

9	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
5月25日 月	第三ユニットA 50 チュートリアル 課題(胸痛)-3	第三ユニットA 51 チュートリアル グループワーク	第三ユニットA 52 不整脈 (循・腎・脳内科)	第三ユニットA 53	第三ユニットA 54 抗不整脈薬 (薬理) 小坂	
5月26日 火	第三ユニットA 55 心不全 (循・腎・脳内科) 野間	第三ユニットA 56	第三ユニットA 57 心不全治療薬 (薬理) 小坂	第三ユニットA 58 降圧薬 (薬理) 西山	第三ユニットA 59 肺塞栓症 (循・腎・脳内科) 長谷川	
5月27日 水	第三ユニットA 60 血管の病理 (炎症病理)	第三ユニットA 61	第三ユニットA 62	第三ユニットA 63	第三ユニットA 64 血管病理学実習 (炎症病理)	
5月28日 木	第三ユニットA 65 大動脈・末梢動脈疾患 (循・腎・脳内科) 斧田	第三ユニットA 66 動脈疾患・外傷 (心臓血管外科) 山下	第三ユニットA 67 静脈・リンパ管 (心臓血管外科) 山下	第三ユニットA 68 静脈・リンパ管 (循・腎・脳内科) 石川(か)	スキルスラボ実習	
5月29日 金	衛生学 疫学(7) 河島	公衆衛生学 生活習慣病対策 依田	公衆衛生学 国際保健 依田	公衆衛生学 社会医学実習班分け	公衆衛生学 循環器の疫学 万波	

第3ユニット第10週

第10週

10	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
6月1日 月	第三ユニットA 69 チュートリアル発表会 課題(胸痛)-4	第三ユニットA 70	第三ユニットA 71 補講	第三ユニットA 72 本態性高血圧 (循・腎・脳内科) 河野	第三ユニットA 73 二次性高血圧 (循・腎・脳内科) 河野	
6月2日 火	第三ユニットA 74 補講	第三ユニットA 75 高血圧と心臓 (循・腎・脳内科) 石原(靖)	第三ユニットA 76 症候論5 心原性ショック (循・腎・脳内科) 石原(靖)	第三ユニットA 77 症候論4 外傷・出血・敗血症性 ショック(救急災害医学) 黒田	第三ユニットA 78 症候論6 産科ショック (周産期婦人) 田中	
6月3日 水	第三ユニットA 79 症候論2 動悸・息切れ(循環器) (循・腎・脳内科)石川(か)	第三ユニットA 80 症候論3 息切れ・チアノーゼ(呼吸器) (血免呼内科)石井	第三ユニットA 81 補講	スキルスラボ実習		
6月4日 木	第三ユニットA 82	第三ユニットA 83	第三ユニットA 84	第三ユニットA 85	第三ユニットA 86	
6月5日 金	公衆衛生学 医療関連法規と倫理 依田	公衆衛生学 災害・危機対応と公衆衛生 平尾	公衆衛生学 医療の質 平尾	衛生学 社会医学実習 全員	衛生学 社会医学実習 全員	衛生学 社会医学実習 全員

第5ユニット第1週

第11週

11	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
6月8日 月	第五ユニット1 呼吸器生理 呼吸器・乳腺内分泌外科 中野 淳	第五ユニット2 呼吸器の構造 組織細胞生物学 三宅 克也	第五ユニット3 実習(呼吸器生理・血液ガス分析) 血液免疫呼吸器内科 石井 知也	第五ユニット4 呼吸器画像診断(1) 放射線医学 室田 真希子	第五ユニット5 呼吸器画像診断(2) 放射線医学 室田 真希子	
6月9日 火	第五ユニット6 呼吸器作動薬 薬理学 中野 大介	第五ユニット7 チュートリアル 課題1 チューターあり	第五ユニット8 閉塞性肺疾患、COPD 血液免疫呼吸器内科 金地 伸拓	第五ユニット9 呼吸器画像診断(3) 放射線医学 室田 真希子	第五ユニット10 呼吸器画像診断(4) 放射線医学 室田 真希子	
6月10日 水	第五ユニット11 小児呼吸器疾患 小児科 西庄 佐恵	第五ユニット12 喘息アレルギー(1) 血液免疫呼吸器内科 坂東 修二	第五ユニット13 喘息アレルギー(2) 血液免疫呼吸器内科 坂東 修二	第五ユニット14 喘息アレルギー(3) 小児科 西庄 佐恵	第五ユニット15 自主学習 (講義予備日)	
6月11日 木	第五ユニット16 肺癌外科療法 呼吸器・乳腺内分泌外科 横見瀬 裕保	第五ユニット17 肺感染症の外科 呼吸器・乳腺内分泌外科 奥田昌也	第五ユニット18 小児呼吸器感染症 小児科 西庄 佐恵	第五ユニット19 気管支鏡・胸腔鏡・ステント・レーザー 呼吸器・乳腺内分泌外科 呉 哲彦	スキルスラボ	スキルスラボ
6月12日 金	公衆衛生学 社会医学実習 全員	公衆衛生学 社会学実習 全員	公衆衛生学 社会学実習 全員	衛生学 社会医学実習 全員	衛生学 社会学実習 全員	衛生学 社会学実習 全員

第5ユニット第2週

第12週

12	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
6月15日 月	第五ユニット20 呼吸器感染症(1) 血液免疫呼吸器内科 石井 知也	第五ユニット21 呼吸器感染症(2) 血液免疫呼吸器内科 石井 知也	第五ユニット22 喀痰細菌検査(1) 分子微生物学講座 桑原 知巳	第五ユニット23 喀痰細菌検査(2) 分子微生物学講座 今大路 治之	第五ユニット24 喀痰病理 病理診断科 羽場 礼次	
6月16日 火	第五ユニット25 チュートリアル 課題2 チューターあり	第五ユニット26 呼吸器核医学 放射線医学 山本 由佳	第五ユニット27 呼吸循環器障害 血液免疫呼吸器内科 金地伸拓	第五ユニット28 胸膜疾患 呼吸器・乳腺内分泌外科 笠井 由隆	第五ユニット29 縦隔疾患 呼吸器・乳腺内分泌外科 中野 淳	
6月17日 水	第五ユニット30 呼吸不全(1) 血液免疫呼吸器内科 坂東 修二	第五ユニット31 異常呼吸 血液免疫呼吸器内科 坂東 修二	第五ユニット32 呼吸理学療法 リハビリテーション部 森田 伸	第五ユニット33 呼吸器感染症の病理 腫瘍病理学 今井田 克己 他	第五ユニット34 実習(呼吸器感染症) 腫瘍病理学 今井田 克己 他	
6月18日 木	第五ユニット35 肺癌 放射線療法 放射線治療科 柴田 徹	第五ユニット36 拘束性肺疾患、間質性肺炎 血液免疫呼吸器内科 金地伸拓	第五ユニット37 びまん性肺疾患 血液免疫呼吸器内科 金地伸拓	第五ユニット38 胸部外傷 呼吸器・乳腺内分泌外科 松浦奈都美	スキルスラボ	スキルスラボ
6月19日 金	公衆衛生学 社会医学実習 全員	公衆衛生学 社会学実習 全員	公衆衛生学 社会学実習 全員	衛生学 社会医学実習 全員	衛生学 社会学実習 全員	衛生学 社会学実習 全員

第5ユニット第3週

第13週

13	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
6月22日 月	第五ユニット 39 自主学習 (講義予備日)	第五ユニット 40 肺癌 内科療法 血液免疫呼吸器内科 石井 知也	第五ユニット 41 閉塞性拘束性疾患 腫瘍病理学 今井田 克己 他	第五ユニット 42 実習(閉塞性拘束性疾患) 腫瘍病理学 今井田 克己 他	第五ユニット 43 実習(閉塞性拘束性疾患) 腫瘍病理学 今井田 克己 他	
6月23日 火	第五ユニット 44 チュートリアル 発表準備(1) チューターなし	第五ユニット 45 チュートリアル 発表準備(2) チューターなし	第五ユニット 46 肺癌の病理 腫瘍病理学 今井田 克己 他	第五ユニット 47 実習(肺癌) 腫瘍病理学 今井田 克己 他	第五ユニット 48 実習(肺癌) 腫瘍病理学 今井田 克己 他	
6月24日 水	第五ユニット 49 呼吸不全(2) 麻酔学 別宮 小由理	第五ユニット 50 呼吸不全(3) 麻酔学 別宮 小由理	第五ユニット 51 喫煙と健康被害 血液免疫呼吸器内科 坂東 修二	第五ユニット 52 チュートリアル発表 呼吸器・乳腺内分泌外科 奥田昌也	第五ユニット 53 チュートリアル発表 呼吸器・乳腺内分泌外科 奥田昌也	
6月25日 木	第五ユニット 54 塵肺(1) 血液免疫呼吸器内科 香川芳炎 多田 慎也	第五ユニット 55 塵肺(2) 血液免疫呼吸器内科 香川芳炎 多田 慎也	第五ユニット 56 喘息アレルギー(4) 免疫学 星野克明	第五ユニット 57 小児外科呼吸器疾患 小児外科 下野隆一	スキルスラボ (予備)	スキルスラボ (予備)
6月26日 金	公衆衛生学 社会医学実習 全員	公衆衛生学 社会学実習 全員	公衆衛生学 社会学実習 全員	衛生学 社会医学実習 全員	衛生学 社会学実習 全員	衛生学 社会学実習 全員

第5ユニット第4週

第14週

14	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
6月29日 月	第五ユニット 58 自主学習	第五ユニット 59 自主学習	第五ユニット 60 自主学習	第五ユニット 61 自主学習	第五ユニット 62 自主学習	
6月30日 火	第五ユニット 63 自主学習	第五ユニット 64 自主学習	第五ユニット 65 自主学習	第五ユニット 66 実習試験 腫瘍病理学 今井田 克己 他	第五ユニット 67 実習試験 腫瘍病理学 今井田 克己 他	
7月1日 水	第五ユニット 68 自主学習	第五ユニット 69 自主学習	第五ユニット 70 自主学習	第五ユニット 71 自主学習	第五ユニット 72 自主学習	
7月2日 木	第五ユニット 73 自主学習	第五ユニット 74 自主学習	第五ユニット 75 自主学習	第五ユニット 76 試験 血液免疫呼吸器内科	第五ユニット 77 試験 血液免疫呼吸器内科	
7月3日 金	公衆衛生学 社会医学実習(発表会) 全員	公衆衛生学 社会医学実習(発表会) 全員	公衆衛生学 社会医学実習(発表会) 全員	衛生学 社会医学実習(発表会) 全員	衛生学 社会医学実習(発表会) 全員	衛生学 社会医学実習(発表会) 全員

臨床総論講義第1週

第15週

15	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
7月6日 月	臨床総論講義46 基本的診療技能(内科系) (5) 身体診察 (4) 泌尿生殖器(男性) 泌尿器科学	臨床総論講義47 基本的診療技能(内科系) (5) 身体診察 (4) 泌尿生殖器(女性) 周産期学婦人科学	臨床総論講義48 基本的診療技能(内科系) (5) 身体診察(6)四肢と脊柱 整形外科科学	臨床総論講義49 外傷学総論 整形外科科学	臨床総論講義50 基本的診療知識(11) リハビリテーション リハビリテーション部	臨床総論講義
7月7日 火	臨床総論講義51 基本的診療知識(11) リハビリテーション リハビリテーション部	臨床総論講義52 基本的診療技能(5)基本的診療技能(7)小児の診察 小児科学	臨床総論講義53 小児外科学総論 小児外科学	臨床総論講義54 基本的診療技能(内科系) (5) 身体診察 (7)小児の診察:小児固形腫瘍 小児外科学	臨床総論講義55 基本的診療技能(内科系) (5) 身体診察 (7)小児の診察:胸壁/腹壁疾患 小児外科学	臨床英語 Introductions, PEIUM Willey, McCrohan
7月8日 水	臨床総論講義56 基本的外科診断法②(呼吸器・乳腺甲状腺) 呼吸器・乳腺内分泌外科科学	臨床総論講義57 基本的診療技能(外科系) (6) 基本的臨床手技 外科手技①(消毒・清潔・直腸診察) 消化器外科科学	臨床総論講義58 形成外科の基本手技・美容外科 形成外科科学	臨床総論講義59 四肢・体幹部その他の形成外科 形成外科科学	臨床総論講義60 皮膚腫瘍・母斑の形成外科的治療・頭頸部その他悪性腫瘍切除後の再建手術 形成外科科学	臨床総論講義
7月9日 木	臨床総論講義61 顔面の先天異常・顔面外傷・顔面骨折 形成外科科学	臨床総論講義62 放射線を用いる治療1 放射線治療科	臨床総論講義63 放射線を用いる診断1 放射線医学	臨床総論講義64 放射線を用いる診断の基礎 放射線医学	臨床総論講義65 放射線を用いる診断2 放射線医学	特別講義 地域包括医療学
7月10日 金		公衆衛生学 試験	衛生学 試験			

臨床総論講義第2週

第16週

16	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
7月13日 月	臨床総論講義66 放射線を用いる診断3 放射線医学	臨床総論講義67 放射線を用いる診断4 放射線医学	臨床総論講義68 放射線を用いる診断5 放射線医学	臨床総論講義69 腫瘍 疫学、病理・病態、発生病因、予防 総合内科	臨床総論講義70 腫瘍 症候および診断 消化器・神経内科学	臨床総論講義
7月14日 火	臨床総論講義71 腫瘍 治療 化学療法および生物学的治療 呼吸器・乳腺内分泌外科学	臨床総論講義72 腫瘍 治療 手術療法および集学的治療 消化器外科学	臨床総論講義73 放射線を用いる治療2 放射線治療科	臨床総論講義74 腫瘍 治療 支持療法および緩和療法 非常勤講師	臨床総論講義75 腫瘍 チーム医療とバイオエシックス 総合内科	臨床英語 PEIUM Willey, McCrohan
7月15日 水	臨床総論講義76 救急災害医学総論 救急災害医学	臨床総論講義77 心停止・心肺脳蘇生 救急災害医学	臨床総論講義78 熱傷の病態と治療 救急災害医学	臨床総論講義79 脳神経外科救急疾患 救急災害医学	臨床総論講義80 多発外傷 救急災害医学	臨床総論講義
7月16日 木	臨床総論講義81 中毒 救急災害医学	臨床総論講義82 集中治療総論・院内感染症 麻酔学	臨床総論講義83 静脈麻酔薬・筋弛緩薬 麻酔学	臨床総論講義84 局所麻酔 麻酔学	臨床総論講義85 小児麻酔・高齢者麻酔・特殊麻酔 麻酔学	臨床総論講義
7月17日 金	衛生学・公衆衛生学	衛生学・公衆衛生学	衛生学・公衆衛生学	衛生学・公衆衛生学	衛生学・公衆衛生学	衛生学・公衆衛生学

臨床総論講義第3週

第17週

17	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
7月20日 月	海の日					
7月21日 火	臨床総論講義86 多臓器不全・重症患者管理概論 麻酔学	臨床総論講義87 ペインクリニック 麻酔学	臨床総論講義88 災害医療 救急災害医学	臨床総論講義89 口腔の構造・機能・生理 (1) 歯科口腔外科学	臨床総論講義90 口腔の構造・機能・生理 (2) 歯科口腔外科学	臨床英語 PEIUM Willey, McCrohan
7月22日 水	臨床総論講義91 薬物体内動態、therapeutic drug monitoring 薬剤部	臨床総論講義92 麻薬の取り扱い 薬剤部	臨床総論講義93 漢方の実際 (1) 非常勤講師	臨床総論講義94 漢方の実際 (2) 非常勤講師	臨床総論講義95 物理・化学的因子による疾患 法医学	臨床総論講義
7月23日 木	臨床総論講義96 人の死・死と法 法医学	特別講義 地域医療教育支援センター	臨床総論講義	臨床総論講義	臨床総論講義	臨床総論講義
7月24日 金	臨床総論講義	臨床総論講義	臨床総論講義	臨床総論講義 試験	臨床総論講義	臨床総論講義

第18週

18	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
8月24日 月	夏季休業					
8月25日 火	夏季休業					
8月26日 水	夏季休業					
8月27日 木	夏季休業					
8月28日 金	法医学 総論 法医学とは 木下	法医学 総論 解剖、検案、死の判定 木下	法医学 中毒 総論 鮎野	法医学 中毒 医薬品 鮎野	法医学 中毒 アルコール 鮎野	法医学 法医学と社会 死亡診断書等 木下

第4ユニット第1週

第1週

1	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
8月31日 月	第四ユニット1 多剤耐性菌感染症 分子微生物学 桑原	第四ユニット2 菌交代症・日和見感染症 分子微生物学 桑原	第四ユニット3 アレルギー疾患概要 免疫学 星野	第四ユニット4 アナフィラキシー・薬物アレルギー 免疫学 星野	第四ユニット5 予備	第四ユニット6 予備
9月1日 火	第四ユニット7 予備	第四ユニット8 自己抗体 血液免疫呼吸器	第四ユニット9 自己免疫疾患概論 血液免疫呼吸器	第四ユニット10 血液・造血器・リンパ系の構造と機能 血液免疫呼吸器	第四ユニット11 造血システム・貧血の鑑別診断・鉄欠乏性貧血 血液免疫呼吸器	臨床英語 PEIUM Willey, McCrohan
9月2日 水	第四ユニット12 遺伝性血液疾患：血友病など 小児科	第四ユニット13 再生不良性貧血・赤芽球病 血液免疫呼吸器	第四ユニット14 発作性夜間血色素尿症 血液免疫呼吸器	第四ユニット15 溶血性貧血・巨赤芽球性貧血 血液免疫呼吸器	第四ユニット16 SLE病態・症候 血液免疫呼吸器	第四ユニット17 SLE治療・抗リン脂質抗体症候群 血液免疫呼吸器
9月3日 木	第四ユニット18 らせん菌・スピロヘータ感染症 分子微生物学 今大路	第四ユニット19 眼感染症 分子微生物学 江口	第四ユニット20 抗菌薬(1) 感染症講座 横田	第四ユニット21 小児発疹性疾患(1) 小児科	第四ユニット22 小児発疹性疾患(2) 小児科	第四ユニット23 予備
9月4日 金	法医学 中毒 有機溶剤 飴野	法医学 中毒 一酸化炭素 飴野	法医学 血液型・個人識別 ABO式、Rh式 田中	法医学 実習講義 実習講義 全員	法医学 中毒 農薬 飴野	法医学 死体現象 早期死体現象 木下

第4ユニット第2週

第2週

2	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
9月7日 月	第四ユニット24 リケッチャ感染症 分子微生物学 今大路	第四ユニット25 微生物診断法 分子微生物学 桑原	第四ユニット26 感染免疫(1) 免疫学 星野	第四ユニット27 感染免疫(2) 免疫学 星野	第四ユニット28 予備	第四ユニット29 予備
9月8日 火	第四ユニット30 骨髄異形成症候群 血液免疫呼吸器	第四ユニット31 急性骨髄性白血病 血液免疫呼吸器	第四ユニット32 予備	第四ユニット33 婦人科領域のSTD 周産期学婦人科学 田中	第四ユニット34 泌尿器科領域のSTD 泌尿器科 佐藤	臨床英語 PEIUM Willey, McCrohan
9月9日 水	第四ユニット35 強皮症 血液免疫呼吸器	第四ユニット36 多発筋炎・皮膚筋炎 血液免疫呼吸器	第四ユニット37 ウイルス呼吸器感染症 血液免疫呼吸器	第四ユニット38 予備	第四ユニット39 チュートリアル(1) 全員	第四ユニット40 予備
9月10日 木	第四ユニット41 抗菌薬(2) 感染症講座 横田	第四ユニット42 消化器系以外の寄生虫症(1) 国際医動物学 新井	第四ユニット43 消化器系以外の寄生虫症(2) 国際医動物学 新井	第四ユニット44 リンパ節炎の病理 炎症病理	第四ユニット45 特別講義 造血幹細胞移植(1) 高松赤十字病院 大西宏明先生	第四ユニット46 特別講義 造血幹細胞移植(2) 高松赤十字病院 大西宏明先生
9月11日 金	法医学 死体現象 晚期死体現象 木下	法医学 法医学と社会 医師に期待される役割 山本	法医学 窒息 窒息総論 木下	法医学 実習 全員	法医学 実習 全員	法医学 実習 全員

第4ユニット第3週

第3週

3	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
9月14日 月	第四ユニット47 予備	第四ユニット48 予防接種 小児科	第四ユニット49 急性リンパ性白血病 血液免疫呼吸器	第四ユニット50 症候学： リンパ節腫脹・脾腫 血液免疫呼吸器	第四ユニット51 特別講義 血液がんに対する薬物療法(1) 香川県立中央病院 川上公宏先生	第四ユニット52 特別講義 血液がんに対する薬物療法(2) 香川県立中央病院 川上公宏先生
9月15日 火	第四ユニット53 特別講義 院内感染(1) 坂出市立病院 中村洋之先生	第四ユニット54 特別講義 院内感染(2) 坂出市立病院 中村洋之先生	第四ユニット55 白血病・悪性リンパ腫の病理(1) 炎症病理	第四ユニット56 白血病・悪性リンパ腫の病理(2) 炎症病理 東海大学医学部付属東英病院 小川高史先生	第四ユニット57 悪性リンパ腫(1) 血液免疫呼吸器	臨床英語 PEIUM Willey, McCrohan
9月16日 水	第四ユニット58 症候学：不明熱 血液免疫呼吸器	第四ユニット59 症候学：関節痛 血液免疫呼吸器	第四ユニット60 先天性免疫不全症候群 小児科	第四ユニット61 チュートリアル(2) 泌尿器科 野村	第四ユニット62 尿路感染症 泌尿器科 野村	第四ユニット63 予備
9月17日 木	第四ユニット64 予備	第四ユニット65 自己免疫疾患概論 免疫学 星野	第四ユニット66 腫瘍免疫 免疫学 星野	第四ユニット67 小児皮膚筋炎・若年性関節リウマチ 小児科	第四ユニット68 悪性リンパ腫(2) 血液免疫呼吸器	第四ユニット69 予備
9月18日 金	法医学 窒息 縊死 浅野	法医学 窒息 絞死、扼死 浅野	法医学 トピックス 最近の話題 木下	法医学 実習 全員	法医学 実習 全員	法医学 実習 全員

第4ユニット第4週							第4週
4	I	II	III	IV	V	VI	
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35	
9月21日 月	敬老の日						
9月22日 火	国民の休日						
9月23日 水	秋分の日						
9月24日 木	第四ユニット 70 白血病・ 悪性リンパ腫の病理 (3) 炎症病理	第四ユニット 71 白血病・ 悪性リンパ腫の病理 (4) 炎症病理	第四ユニット 72 予備	第四ユニット 73 チュートリアル 発表会 血液免疫呼吸器	スキルスラボ実習 (1-1)	スキルスラボ実習 (1-2)	
9月25日 金	法医学 窒息 溺死 木下	法医学 法医学と社会 矯正医療 木下	法医学 トピックス 最近の話題 木下	法医学 実習 全員	法医学 実習 全員	法医学 実習 全員	

第4ユニット第5週							第5週
5	I	II	III	IV	V	VI	
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35	
9月28日 月	第四ユニット 74 予備	第四ユニット 75 垂直感染症 小児科	第四ユニット 76 悪性関節リウマチ・ 成人ステイル病 血液免疫呼吸器	第四ユニット 77 血管炎症候群 (1) 血液免疫呼吸器	第四ユニット 78 症候学: 出血傾向 血液免疫呼吸器	第四ユニット 79 血流感染症・SIRS 感染症 横田	
9月29日 火	第四ユニット 80 予備	第四ユニット 81 止血・凝固 (1) 血液免疫呼吸器	第四ユニット 82 止血・凝固 (2) 血液免疫呼吸器	第四ユニット 83 血液病理学実習 炎症病理	第四ユニット 84 血液病理学実習 炎症病理	臨床英語 PEIUM (Mid-term exam) Willey, McCrohan	
9月30日 水	第四ユニット 85 その他の小児感染症 小児科	第四ユニット 86 小児造血器腫瘍 小児科	第四ユニット 87 多発性骨髄腫・ 単クローン性免疫グロブリン血症 血液免疫呼吸器	第四ユニット 88 慢性骨髄性白血病 血液免疫呼吸器	第四ユニット 89 自己炎症症候群 血液免疫呼吸器	第四ユニット 90 予備	
10月1日 木	大学記念日						
10月2日 金	法医学 異常環境 温度異常 木下	法医学 異常環境 感電、熱中症、その他 木下	法医学 法医学と社会 検案の実際 木下	法医学 実習 全員	法医学 実習 全員	法医学 実習 全員	

第4ユニット第6週							第6週
6	I	II	III	IV	V	VI	
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35	
10月5日 月	第四ユニット 91 血管炎症候群 (2) 血液免疫呼吸器	第四ユニット 92 ブドウ球菌・ 溶連菌感染症 感染症 横田	第四ユニット 93 エイズ 地域包括医療学	第四ユニット 94 混合性結合組織病・ シェーグレン症候群 血液免疫呼吸器	第四ユニット 95 予備	第四ユニット 96 予備	
10月6日 火	第四ユニット 97 予備	第四ユニット 98 関節リウマチ病態・症候 血液免疫呼吸器	第四ユニット 99 関節リウマチ薬物治療 血液免疫呼吸器	スキルスラボ実習 (2-1)	スキルスラボ実習 (2-2)	臨床英語 PEIUM Willey, McCrohan	
10月7日 水	第四ユニット 101 予備	第四ユニット 102 予備	第四ユニット 103 予備	第四ユニット 104 予備	第四ユニット 105 予備	第四ユニット 106 予備	
10月8日 木	第四ユニット 107 予備	第四ユニット 108 予備	第四ユニット 109 予備	第四ユニット 110 ユニット 4 試験	第四ユニット 111 ユニット 4 試験	第四ユニット 112 予備	
10月9日 金	法医学 予備日	法医学 予備日	法医学 予備日	医学部祭 (午後休講)			

第7ユニット第1週

第7週

7	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
10月12日 月	体育の日					
10月13日 火	第7ユニット1 構造と機能① 胎児・新生児 神経機能形態学	第7ユニット2 胎児・新生児 用語の定義・適応生理 小児科学	第7ユニット3 男性生殖器 (陰茎、精巣前立腺)の病理 炎症病理	第7ユニット4 男性生殖器疾患 (陰茎、精巣)の病理 炎症病理	第7ユニット5 男性生殖器疾患 (陰茎、精巣)の病理 炎症病理	臨床英語 PEIUM Willey, McCrohan
10月14日 水	第7ユニット6 構造と機能② 女性生殖器 組織細胞生物学	第7ユニット7 構造と機能② 男性生殖器 組織細胞生物学	第7ユニット8 胎児・新生児 新生児仮死 小児科学	第7ユニット9 症候 女性生殖器 周産期学婦人科学	第7ユニット10 診断と検査 産婦人科の問診及び診察法 周産期学婦人科学	
10月15日 木	第7ユニット11 診断と検査 婦人科疾患の診断 周産期学婦人科学	第7ユニット12 診断と検査 婦人科疾患の診断 周産期学婦人科学	第7ユニット13 胎児・新生児 診察法 小児科学	第7ユニット14 新生児・小児 消化器疾患 小児科学	第7ユニット15 スキルスラボ実習	スキルスラボ実習
10月16日 金	法医学 損傷 総論、創傷の観察 木下	法医学 法医学と社会 大災害と法医学 西村	法医学 法医学と社会 大災害と法医学 西村	法医学 法医学病態 中枢神経系の法病理 木下	法医学 法医学病態 中枢神経系の法病理 木下	法医学 予備

第7ユニット第2週

第8週

8	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
10月19日 月	第7ユニット16 女性生殖器疾患 子宮・卵巣の腫瘍 周産期学婦人科学	第7ユニット17 女性生殖器疾患 子宮・卵巣の腫瘍 周産期学婦人科学	第7ユニット18 女性生殖器疾患 子宮・卵巣の腫瘍 周産期学婦人科学	第7ユニット19 女性生殖器疾患 子宮・卵巣の腫瘍 周産期学婦人科学	第7ユニット20 女性生殖器疾患 外陰部・膣と骨盤内感染 周産期学婦人科学	
10月20日 火	第7ユニット21 主な女性生殖器 疾患の病因論と形態学 炎症病理	第7ユニット22 主な女性生殖器 疾患の病因論と形態学 炎症病理	第7ユニット23 主な女性生殖器 疾患の病因論と形態学 炎症病理	第7ユニット24 スキルスラボ実習	第7ユニット25 スキルスラボ実習	臨床英語 PEIUM Willey, McCrohan
10月21日 水	第7ユニット26 主な女性生殖器 疾患の病因論 炎症病理	第7ユニット27 主な女性生殖器 疾患の病因論 炎症病理	第7ユニット28 主な女性生殖器 疾患の病因論 炎症病理	第7ユニット29 Tutorial 課題1	第7ユニット30 Tutorial 課題1	
10月22日 木	第7ユニット31 生殖器 実習 炎症病理	第7ユニット32 生殖器 実習 炎症病理	第7ユニット33 自主学習	第7ユニット34 診断と検査 乳房腫瘍 呼吸器・乳腺内分泌外科学	第7ユニット35 診断と検査 良性乳腺疾患・乳癌 呼吸器・乳腺内分泌外科学	
10月23日 金	法医学 損傷 鋭器損傷、銃器損傷 木下	法医学 損傷 鈍器損傷 木下	法医学 損傷 交通事故損傷 木下	法医学 中毒 科学捜査 瀬戸	法医学 中毒 科学捜査 瀬戸	法医学 予備

第7ユニット第3週

第9週

9	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
10月26日 月	第7ユニット36 疾患 男性生殖器 泌尿器科学	第7ユニット37 疾患 男性生殖器 泌尿器科学	第7ユニット38 疾患 男性生殖器 泌尿器科学	第7ユニット39 疾患 男性生殖器 泌尿器科学	第7ユニット40 疾患 男性生殖器 泌尿器科学	
10月27日 火	第7ユニット41 正常妊娠・分娩・産褥 周産期学婦人科学	第7ユニット42 正常妊娠・分娩・産褥 周産期学婦人科学	第7ユニット43 正常妊娠・分娩・産褥 周産期学婦人科学	第7ユニット44 胎児・新生児 循環 小児科学	第7ユニット45 特別講義 海外での医療協力活動 小児科学	臨床英語 PEIUM Willey, McCrohan
10月28日 水	第7ユニット46 更年期 更年期障害の機序と診療 周産期学婦人科学	第7ユニット47 小児期 小児保健 「マスキング・統計」 小児科学	第7ユニット48 小児治療学 薬物代謝 小児科学	第7ユニット49 Tutorial 課題2	第7ユニット50 Tutorial 課題2	
10月29日 木	第7ユニット51 小児期 乳児健診・育児相談 小児科学	第7ユニット52 疾患 異常分娩・産褥 周産期学婦人科学	第7ユニット53 疾患 異常分娩・産褥 周産期学婦人科学	第7ユニット54 特別講義 経験に基づいた症例報告 小児科学	第7ユニット55 胎児・新生児 新生児黄疸の鑑別と治療 小児科学	
10月30日 金	法医学 小児の法医学 嬰児殺、児童虐待 木下	法医学 法医学と社会 国際疾病分類 及川	法医学 トピックス 最近の話題 木下	法医学 予備	法医学 予備	法医学 予備

第7ユニット第4週

第10週

10	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
11月2日 月	第7ユニット 56 疾患 異常妊娠 周産期学婦人科学	第7ユニット 57 胎児・新生児 新生児呼吸障害 小児科学	第7ユニット 58 自主学習	第7ユニット 59 自主学習	第7ユニット 60 自主学習	
11月3日 火	文化の日					
11月4日 水	第7ユニット 61 疾患 異常妊娠 周産期学婦人科学	第7ユニット 62 疾患 異常妊娠 周産期学婦人科学	第7ユニット 63 乳児 染色体異常と先天奇形 小児科学	第7ユニット 64 発表会	第7ユニット 65 発表会	
11月5日 木	第7ユニット 66 疾患 異常妊娠・産褥 周産期学婦人科学	第7ユニット 67 疾患 異常妊娠・産褥 周産期学婦人科学	第7ユニット 68 自主学習	第7ユニット 69 疾患 不妊症の病態および治療 周産期学婦人科学	第7ユニット 70 疾患 不妊症の病態および治療 周産期学婦人科学	
11月6日 金	法医学 内因死 内因性急死 木下	法医学 血液型・個人識別 DNA型による個人識別 山田	法医学 血液型・個人識別 歯による個人識別 山田	法医学 血液型・個人識別 個人識別 木下	法医学 法医学と社会 事例検討 田中	法医学 予備

第7ユニット第5週

第11週

11	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
11月9日 月	第7ユニット 71 乳児 乳児の発達 小児科学	第7ユニット 72 小児期 小児の発達障害 小児科学	第7ユニット 73 小児期 小児心身症 小児科学	第7ユニット 74 自主学習	第7ユニット 75 自主学習	
11月10日 火	第7ユニット 76 自主学習	第7ユニット 77 新生児・乳児 母子相互作用 小児科学	第7ユニット 78 新生児 母乳育児 小児科学	第7ユニット 79 疾患 異常妊娠・産褥 周産期学婦人科学	第7ユニット 80 疾患 異常妊娠・産褥 周産期学婦人科学	臨床英語 PEIUM Willey, McCrohan
11月11日 水	第7ユニット 81 自主学習	第7ユニット 82 自主学習	第7ユニット 83 自主学習	第7ユニット 84 自主学習	第7ユニット 85 自主学習	
11月12日 木	第7ユニット 86 自主学習	第7ユニット 87 自主学習	第7ユニット 88 自主学習	第7ユニット 89 試験	第7ユニット 90 試験	
11月13日 金	法医学	法医学 試験	法医学 試験	法医学	法医学	法医学

第8ユニット第1週

第12週

12	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
11月16日 月	第8ユニット 1 オリエンテーション 感覚系の構造と機能1 (神経機能形態学)	第8ユニット 2 感覚系の構造と機能1 (神経機能形態学)	第8ユニット 3 感覚系の構造と機能2 皮膚感覚 (細胞情報生理学)	第8ユニット 4 皮膚科総論 1 構造と機能 (皮膚科)	第8ユニット 5 皮膚科総論 2 発疹学と検査 (皮膚科)	
11月17日 火	第8ユニット 6 皮膚科各論 1 皮膚癌、メラノーマ (皮膚科)	第8ユニット 7 皮膚科各論 2 母斑、色素異常 (皮膚科)	第8ユニット 8 皮膚科各論 3 脱毛症と皮膚附属器疾患 (皮膚科)	第8ユニット 9 皮膚科各論 4 乾癬、角化症 (皮膚科)	第8ユニット 10 皮膚科各論 5 水疱症と膿疱症 (皮膚科)	臨床英語 PEIUM Willey, McCrohan
11月18日 水	第8ユニット 11 皮膚科各論 6 湿疹、蕁麻疹、薬疹 (皮膚科)	第8ユニット 12 皮膚科各論 7 血管炎、肉芽腫症 (皮膚科)	第8ユニット 13 皮膚科各論 8 感染症(1) (皮膚科)	第8ユニット 14 皮膚科各論 9 感染症(2)(性病も) (皮膚科)	第8ユニット 15 皮膚科各論 10 全身と皮膚 (皮膚科)	
11月19日 木	第8ユニット 16 自主学習	第8ユニット 17 形成外科各論1 顔面の発生・先天異常 (形成外科)	第8ユニット 18 形成外科各論2 皮膚腫瘍・母斑・血管腫 (形成外科)	第8ユニット 19 形成外科各論3 美容外科 (形成外科)	第8ユニット 20 形成外科各論4 四肢・体幹部・その他 (形成外科)	
11月20日 金	第8ユニット 21 課題 1 (形成外科)	第8ユニット 22 課題 1 (形成外科)	第8ユニット 23 形成外科各論5 腫瘍切除後再建 (形成外科)	第8ユニット 24 形成外科各論6 顔面外傷・顔面骨折 (形成外科)	第8ユニット 25 形成外科各論7 組織の再生・創傷治癒 (形成外科)	

84ユニット第2週

第13週

13	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
11月23日 月	勤労感謝の日					
11月24日 火	第八ユニット 26 自主学習	第八ユニット 27 自主学習	第八ユニット 28 自主学習	第八ユニット 29 課題1:総括 (形成外科)	第八ユニット 30 課題1:総括 (形成外科)	臨床英語 PEIUM Willey, McCrohan
11月25日 水	第八ユニット 31 皮膚の病理 講義 (腫瘍病理学)	第八ユニット 32 皮膚の病理 講義 (腫瘍病理学)	第八ユニット 33 皮膚の病理 実習 (腫瘍病理学)	第八ユニット 34 皮膚の病理 実習 (腫瘍病理学)	第八ユニット 35 皮膚の病理 実習 (腫瘍病理学)	
11月26日 木	第八ユニット 36 眼科総論1 (眼科)	第八ユニット 37 感覚系の構造と機能3 平衡覚・味覚・嗅覚 (細胞情報生理学)	第八ユニット 38 感覚系の構造と機能4 平衡覚・味覚・嗅覚 (細胞情報生理学)	第八ユニット 39 スキルスラボ実習 (医学教育)	第八ユニット 40 スキルスラボ実習 (医学教育)	
11月27日 金	第八ユニット 41 眼科総論2 (眼科)	第八ユニット 42 眼科総論3 (眼科)	第八ユニット 43 眼科各論1 (眼科)	第八ユニット 44 眼科各論2 (眼科)	第八ユニット 45 眼科各論3 (眼科)	

(第3学期) 第8ユニット第3週

第14週

14	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
11月30日 月	第八ユニット 46 皮膚科・形成外科試験	第八ユニット 47 自主学習	第八ユニット 48 眼科各論4 (眼科)	第八ユニット 49 眼科各論5 (眼科)	第八ユニット 50 眼科各論6 (眼科)	
12月1日 火	第八ユニット 51 眼科各論7 (眼科)	第八ユニット 52 眼科各論8 (眼科)	第八ユニット 53 耳鼻咽喉科総論1 耳科領域1 (耳鼻咽喉科)	第八ユニット 54 耳鼻咽喉科総論2 耳科領域2 (耳鼻咽喉科)	第八ユニット 55 耳鼻咽喉科総論3 耳科領域3 (耳鼻咽喉科)	臨床英語 Final projects due Willey, McCrohan
12月2日 水	第八ユニット 56 耳鼻咽喉科各論1 中耳疾患 (耳鼻咽喉科)	第八ユニット 57 耳鼻咽喉科各論2 内耳疾患1 (耳鼻咽喉科)	第八ユニット 58 皮膚の病理 講義 (腫瘍病理学)	第八ユニット 59 皮膚の病理 実習 (腫瘍病理学)	第八ユニット 60 皮膚の病理 実習 (腫瘍病理学)	
12月3日 木	第八ユニット 61 耳鼻咽喉科各論3 内耳疾患2 (耳鼻咽喉科)	第八ユニット 62 耳鼻咽喉科総論4 鼻科領域 (耳鼻咽喉科)	第八ユニット 63 耳鼻咽喉科各論4 鼻副鼻腔疾患 (耳鼻咽喉科)	第八ユニット 64 耳鼻咽喉科総論5 咽喉頭領域 (耳鼻咽喉科)	第八ユニット 65 耳鼻咽喉科各論5 咽喉頭疾患 (耳鼻咽喉科)	
12月4日 金	第八ユニット 66 耳鼻咽喉科総論6 頭頸部領域 (耳鼻咽喉科)	第八ユニット 67 耳鼻咽喉科各論6 免疫アレルギー疾患 (耳鼻咽喉科)	第八ユニット 68 耳鼻咽喉科各論7 頭頸部腫瘍1 (耳鼻咽喉科)	第八ユニット 69 耳鼻咽喉科各論8 頭頸部腫瘍2 (耳鼻咽喉科)	第八ユニット 70 耳鼻咽喉科各論9 言語障害・構音障害 (耳鼻咽喉科)	

第8ユニット第4週

第15週

15	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
12月7日 月	第八ユニット 71 耳鼻咽喉科各論10 頭頸部の診察 (耳鼻咽喉科)	第八ユニット 72 咀嚼障害・嚥下障害1 (耳鼻咽喉科)	第八ユニット 73 頭頸部の画像診断1 (放射線医学)	第八ユニット 74 頭頸部の画像診断2 (耳鼻咽喉科)	第八ユニット 75 自主学習	
12月8日 火	第八ユニット 76 歯科口腔外科総論 歯学概論・歯の発生・う蝕症 (歯科口腔外科)	第八ユニット 77 咀嚼障害・嚥下障害2 (歯科口腔外科)	第八ユニット 78 歯科口腔外科各論1 歯周疾患と口腔清掃 (歯科口腔外科)	第八ユニット 79 歯科口腔外科各論2 良性腫瘍 (歯科口腔外科)	第八ユニット 80 歯科口腔外科各論3 外傷・顎関節・顎変形症 (歯科口腔外科)	臨床英語 予備 Willey, McCrohan
12月9日 水	第八ユニット 81 頭頸部腫瘍の病理 講義 (腫瘍病理学)	第八ユニット 82 頭頸部腫瘍の病理 講義 (腫瘍病理学)	第八ユニット 83 頭頸部腫瘍の病理 実習 (腫瘍病理学)	第八ユニット 84 頭頸部腫瘍の病理 実習 (腫瘍病理学)	第八ユニット 85 自主学習	
12月10日 木	第八ユニット 86 課題2 (耳鼻咽喉科)	第八ユニット 87 課題2 (耳鼻咽喉科)	第八ユニット 88 自主学習	第八ユニット 89 スキルスラボ実習 (医学教育)	第八ユニット 90 スキルスラボ実習 (医学教育)	
12月11日 金	第八ユニット 91 歯科口腔外科各論4 頭頸部の診察(口腔内診査) (歯科口腔外科)	第八ユニット 92 歯科口腔外科各論5 粘膜疾患・悪性腫瘍 (歯科口腔外科)	第八ユニット 93 歯科口腔外科各論6 歯性炎症 (歯科口腔外科)	第八ユニット 94 歯科口腔外科各論7 神経疾患・唾液腺・嚢胞 (歯科口腔外科)	第八ユニット 95 歯科口腔外科各論8 病院歯科における口腔外科臨床 (歯科口腔外科)	

第8ユニット第5週

第16週

16	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
12月14日 月	第八ユニット 96 自主学習	第八ユニット 97 自主学習	第八ユニット 98 自主学習	第八ユニット 99 課題2:総括 (耳鼻咽喉科)	第八ユニット 100 課題2:総括 (耳鼻咽喉科)	
12月15日 火	第八ユニット 101 自主学習	第八ユニット 102 自主学習	第八ユニット 103 自主学習	第八ユニット 104 自主学習	第八ユニット 105 自主学習	臨床英語 予備 Willey, McCrohan
12月16日 水	第八ユニット 106 自主学習	第八ユニット 107 腫瘍病理実習試験	第八ユニット 108 自主学習	第八ユニット 109 自主学習	第八ユニット 110 自主学習	
12月17日 木	第八ユニット 111 自主学習	第八ユニット 112 自主学習	第八ユニット 113 自主学習	第八ユニット 114 自主学習	第八ユニット 115 自主学習	
12月18日 金	第八ユニット 116 自主学習	第八ユニット 117 総合評価試験	第八ユニット 118 総合評価試験	第八ユニット 119 自主学習	第八ユニット 120 自主学習	

第8ユニット第6週

第17週

17	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
12月21日 月	第八ユニット 121 自主学習	第八ユニット 122 自主学習	第八ユニット 123 自主学習	第八ユニット 124 自主学習	第八ユニット 125 自主学習	
12月22日 火	第八ユニット 126 自主学習	第八ユニット 127 自主学習	第八ユニット 128 自主学習	第八ユニット 129 自主学習	第八ユニット 130 自主学習	
12月23日 水	天皇誕生日					
12月24日 木	第八ユニット 131 自主学習	第八ユニット 132 自主学習	第八ユニット 133 自主学習	第八ユニット 134 自主学習	第八ユニット 135 自主学習	
12月25日 金	第八ユニット 136 自主学習	第八ユニット 137 自主学習	第八ユニット 138 自主学習	第八ユニット 139 自主学習	第八ユニット 140 自主学習	

第18週

18	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
1月4日 月	共用試験準備					
1月5日 火	共用試験準備					
1月6日 水	共用試験準備					
1月7日 木	共用試験準備					
1月8日 金	共用試験準備					

第19週

19	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
1月11日 月	成人の日					
1月12日 火	共用試験準備					
1月13日 水	共用試験準備					
1月14日 木	共用試験準備					
1月15日 金	共用試験準備					

第20週

20	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
1月18日 月	共用試験準備					
1月19日 火	共用試験準備					
1月20日 水	共用試験準備					
1月21日 木	共用試験準備					
1月22日 金	CBT試験（予定）					

第21週

21	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
1月25日 月	臨床実習講義					
1月26日 火	臨床実習講義					
1月27日 水	臨床実習講義					
1月28日 木	臨床実習講義					
1月29日 金	臨床実習講義					

第22週

22	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
2月1日 月	臨床実習講義					
2月2日 火	臨床実習講義					
2月3日 水	臨床実習講義					
2月4日 木	臨床実習講義					
2月5日 金	臨床実習講義					

第23週

23	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
2月8日 月	臨床実習講義					
2月9日 火	臨床実習講義					
2月10日 水	臨床実習講義					
2月11日 木	建国記念日					
2月12日 金	臨床実習講義					
2月13日 土	OSCE (予定)					

第24週

24	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
2月15日 月						
2月16日 火						
2月17日 水						
2月18日 木						
2月19日 金	CBT再試験 (予定)					

第25週

25	I	II	III	IV	V	VI
	8 : 30-9 : 45	9 : 55-11 : 10	11 : 20-12 : 35	13 : 30-14 : 45	14 : 55-16 : 10	16 : 20-17 : 35
2月22日 月						
2月23日 火						
2月24日 水						
2月25日 木						
2月26日 金						

平成27年度 講義・実習時間割 5年次生

第1学期

第1週

1	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
3月30日 月	春期休業					
3月31日 火	春期休業					
4月1日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
4月2日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
4月3日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第2週

2	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
4月6日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）				医療管理学・診断学	
4月7日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
4月8日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
4月9日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
4月10日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第3週

3	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
4月13日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）				医療管理学・診断学	
4月14日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）			定期健康診断（午後休講）		
4月15日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
4月16日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
4月17日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第4週

4	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
4月20日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）				医療管理学・診断学	
4月21日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
4月22日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
4月23日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
4月24日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第5週

5	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
4月27日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）				医療管理学・診断学	
4月28日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
4月29日 水	昭和の日					
4月30日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
5月1日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第6週

6	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
5月4日 月	みどりの日					
5月5日 火	こどもの日					
5月6日 水	憲法記念日の振替休日					
5月7日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
5月8日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第7週

7	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
5月11日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）					臨床病理検討会 炎症病理学
5月12日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
5月13日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
5月14日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
5月15日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第8週

8	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
5月18日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）					臨床病理検討会 病理診断科・病理部
5月19日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
5月20日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
5月21日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
5月22日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第9週

9	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
5月25日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）					臨床病理検討会 腫瘍病理学
5月26日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
5月27日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
5月28日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
5月29日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第10週

10	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
6月1日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）					臨床病理検討会 炎症病理学
6月2日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
6月3日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
6月4日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
6月5日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第11週

11	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
6月8日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）					臨床病理検討会 病理診断科・病理部
6月9日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
6月10日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
6月11日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
6月12日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第12週

12	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
6月15日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）					臨床病理検討会 腫瘍病理学
6月16日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
6月17日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
6月18日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
6月19日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第13週

13	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
6月22日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）					臨床病理検討会 炎症病理学
6月23日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
6月24日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
6月25日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
6月26日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第14週

14	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
6月29日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）				医療管理学・診断学	
6月30日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
7月1日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
7月2日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
7月3日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第15週

15	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
7月6日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）				医療管理学・診断学	
7月7日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
7月8日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
7月9日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
7月10日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第16週

16	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
7月13日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）				医療管理学・診断学	
7月14日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
7月15日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
7月16日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
7月17日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第17週

17	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
7月20日 月	海の日					
7月21日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
7月22日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
7月23日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
7月24日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第18週

18	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
8月24日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）				児童精神医学Ⅱ 総論	児童精神医学Ⅱ 各論
8月25日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
8月26日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
8月27日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
8月28日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第1週

1	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
8月31日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）				児童精神医学Ⅱ 各論 根來	児童精神医学Ⅱ 各論 根來
9月1日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
9月2日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
9月3日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
9月4日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第2週

2	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
9月7日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）				児童精神医学Ⅱ 各論 安藤	児童精神医学Ⅱ 各論 安藤
9月8日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
9月9日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
9月10日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
9月11日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第3週

3	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
9月14日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）				医療管理学・診断学 各論 木戸	児童精神医学Ⅱ 各論 木戸
9月15日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
9月16日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
9月17日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
9月18日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第4週

4	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
9月21日 月	敬老の日					
9月22日 火	国民の休日					
9月23日 水	秋分の日					
9月24日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
9月25日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第5週

5	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
9月28日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）				医療管理学・診断学	児童精神医学Ⅱ
9月29日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
9月30日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
10月1日 木	大学記念日（休業）					
10月2日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第6週

6	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
10月5日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）				医療管理学・診断学	児童精神医学Ⅱ
10月6日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
10月7日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
10月8日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
10月9日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第7週

7	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
10月12日 月	体育の日					
10月13日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
10月14日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
10月15日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
10月16日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第8週

8	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
10月19日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）				医療管理学・診断学	児童精神医学Ⅱ
10月20日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
10月21日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
10月22日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
10月23日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第9週

9	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
10月26日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）				医療管理学・診断学	児童精神医学Ⅱ
10月27日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
10月28日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
10月29日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
10月30日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第10週

10	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
11月2日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）				医療管理学・診断学	児童精神医学Ⅱ
11月3日 火	文化の日					
11月4日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
11月5日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
11月6日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第11週

11	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
11月9日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）				医療管理学・診断学	児童精神医学Ⅱ
11月10日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
11月11日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
11月12日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
11月13日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第12週

12	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
11月16日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）				医療管理学・診断学	児童精神医学Ⅱ
11月17日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
11月18日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
11月19日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
11月20日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第13週

13	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
11月23日 月	勤労感謝の日					
11月24日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
11月25日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
11月26日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
11月27日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

(第3学期)

第14週

14	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
11月30日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）				医療管理学・診断学	児童精神医学Ⅱ
12月1日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
12月2日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
12月3日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
12月4日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第15週

15	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
12月7日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）				医療管理学・診断学	児童精神医学Ⅱ
12月8日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
12月9日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
12月10日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
12月11日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第16週

16	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
12月14日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）				児童精神医学Ⅱ 各論 安藤	児童精神医学Ⅱ 各論 安藤
12月15日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
12月16日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
12月17日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
12月18日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第17週

17	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
12月21日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）				医療管理学・診断学	児童精神医学Ⅱ
12月22日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
12月23日 水	天皇誕生日					
12月24日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
12月25日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第18週

18	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
1月4日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）				医療管理学・診断学	児童精神医学Ⅱ
1月5日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
1月6日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
1月7日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
1月8日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第19週

19	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
1月11日 月	成人の日					
1月12日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
1月13日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
1月14日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
1月15日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第20週

20	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
1月18日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）				医療管理学・診断学	児童精神医学Ⅱ
1月19日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
1月20日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
1月21日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
1月22日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第21週

21	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
1月25日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）				医療管理学・診断学	児童精神医学Ⅱ
1月26日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
1月27日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
1月28日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
1月29日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第22週

22	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
2月1日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）				医療管理学・診断学	児童精神医学Ⅱ
2月2日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
2月3日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
2月4日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
2月5日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第23週

23	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
2月8日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）				医療管理学・診断学	児童精神医学Ⅱ
2月9日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
2月10日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
2月11日 木	建国記念の日					
2月12日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第24週

24	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
2月15日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）					児童精神医学Ⅱ
2月16日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
2月17日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
2月18日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
2月19日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第25週

25	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
2月22日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）					児童精神医学Ⅱ
2月23日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
2月24日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
2月25日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
2月26日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

第26週

26	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
2月29日 月	臨床実習（医学実習Ⅰ）					児童精神医学Ⅱ
3月1日 火	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
3月2日 水	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
3月3日 木	臨床実習（医学実習Ⅰ）					
3月4日 金	臨床実習（医学実習Ⅰ）					

平成27年度 講義・実習時間割 6年次生

第1学期

第1週

1	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
3月30日 月	春期休業					
3月31日 火	春期休業					
4月1日 水	医学実習Ⅱ					
4月2日 木	医学実習Ⅱ					
4月3日 金	医学実習Ⅱ					

第1週

2	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
4月6日 月	医学実習Ⅱ					
4月7日 火	医学実習Ⅱ					
4月8日 水	医学実習Ⅱ					
4月9日 木	医学実習Ⅱ					
4月10日 金	医学実習Ⅱ					

第3週

3	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
4月13日 月	医学実習Ⅱ					
4月14日 火	医学実習Ⅱ			定期健康診断		
4月15日 水	医学実習Ⅱ			臨時健康診断		
4月16日 木	医学実習Ⅱ					
4月17日 金	医学実習Ⅱ					

第4週

4	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
4月20日 月	医学実習Ⅱ					
4月21日 火	医学実習Ⅱ					
4月22日 水	医学実習Ⅱ					
4月23日 木	医学実習Ⅱ					
4月24日 金	医学実習Ⅱ					

※4月23日（午後）は健康診断予備日

第5週

5	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
4月27日 月	医学実習Ⅱ					臨床病理検討会 腫瘍病理学
4月28日 火	医学実習Ⅱ					
4月29日 水	昭和の日					
4月30日 木	医学実習Ⅱ					
5月1日 金	医学実習Ⅱ					

第6週

6	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-17:35
5月4日 月	みどりの日					
5月5日 火	こどもの日					
5月6日 水	憲法記念日の振替休日					
5月7日 木						
5月8日 金						

第7週

7	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
5月11日 月	医学実習Ⅱ					臨床病理検討会 炎症病理学
5月12日 火	医学実習Ⅱ					
5月13日 水	医学実習Ⅱ					
5月14日 木	医学実習Ⅱ					
5月15日 金	医学実習Ⅱ					

第8週

8	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
5月18日 月	医学実習Ⅱ					臨床病理検討会 病理診断科・病理部
5月19日 火	医学実習Ⅱ					
5月20日 水	医学実習Ⅱ					
5月21日 木	医学実習Ⅱ					
5月22日 金	医学実習Ⅱ					

第9週

9	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
5月25日 月	医学実習Ⅱ					臨床病理検討会 腫瘍病理学
5月26日 火	医学実習Ⅱ					
5月27日 水	医学実習Ⅱ					
5月28日 木	医学実習Ⅱ					
5月29日 金	医学実習Ⅱ					

第10週

10	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
6月1日 月	医学実習Ⅱ					臨床病理検討会 炎症病理学
6月2日 火	医学実習Ⅱ					
6月3日 水	医学実習Ⅱ					
6月4日 木	医学実習Ⅱ					
6月5日 金	医学実習Ⅱ					

第11週

11	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
6月8日 月	医学実習Ⅱ					臨床病理検討会 病理診断科・病理部
6月9日 火	医学実習Ⅱ					
6月10日 水	医学実習Ⅱ					
6月11日 木	医学実習Ⅱ					
6月12日 金	医学実習Ⅱ					

第12週

12	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
6月15日 月	医学実習Ⅱ					臨床病理検討会 腫瘍病理学
6月16日 火	医学実習Ⅱ					
6月17日 水	医学実習Ⅱ					
6月18日 木	医学実習Ⅱ					
6月19日 金	医学実習Ⅱ					

第13週

13	I	II	III	IV	V	VI
	8:30-9:45	9:55-11:10	11:20-12:35	13:30-14:45	14:55-16:10	16:20-18:00
6月22日 月	医学実習Ⅱ					臨床病理検討会 炎症病理学
6月23日 火	医学実習Ⅱ					
6月24日 水	医学実習Ⅱ					
6月25日 木	医学実習Ⅱ					
6月26日 金	医学実習Ⅱ					

第1学期

14	I	II	III	IV
	8:30-10:10	10:40-12:20	13:30-15:10	15:20-17:00
6月29日 月	医療総合講義 肝癌の内科的治療の進歩 消化器・神経内科	医療総合講義 病理診断学 術中迅速診断 病理診断科	医療総合講義 感染対策 院内感染・外科的感染症 手術部	医療総合講義 血液製剤の使い方 輸血部
6月30日 火	医療総合講義 脳神経外科の最近の話題 脳神経外科学	医療総合講義 C型肝炎の病態と治療 消化器・神経内科	医療総合講義 臓器移植 心臓移植・肺移植 呼吸器・乳腺内分泌外科	医療総合講義 臓器移植 肝移植・膵移植 消化器外科学
7月1日 水	医療総合講義 安全管理(1) 手術室をめぐる安全管理 手術部	医療総合講義 安全管理(2) 医療機器と安全管理 手術部	医療総合講義 血液浄化療法 血液浄化療法 循環器・腎臓・脳卒中内科学	医療総合講義 B型肝炎の診断と治療 消化器・神経内科
7月2日 木	医療総合講義	医療総合講義	医療総合講義 婦人科領域における画像診断 周産期学婦人科学	医療総合講義 グリ7細胞の機能と病態 消化器・神経内科
7月3日 金	医療総合講義 心不全の治療 循環器・腎臓・脳卒中内科学	医療総合講義	医療総合講義 小児臨床薬理学 総論・各論 「新生児へ薬物を使用する」 小児科学	医療総合講義 小児臨床薬理学 総論・各論 「新生児へ薬物を使用する」 小児科学

15	I	II	III	IV
	8:30-10:10	10:40-12:20	13:30-15:10	15:20-17:00
7月6日 月	医療総合講義 臓器移植 腎移植 泌尿器科	医療総合講義	医療総合講義	医療総合講義 小児外科 小児消化管運動 小児外科
7月7日 火	医療総合講義	医療総合講義	医療総合講義	医療総合講義
7月8日 水	医療総合講義 救急治療・処置 熱傷治療 形成外科学	医療総合講義 ショックとその治療 急性肝不全 消化器・神経内科	医療総合講義 造血幹細胞移植 血液・免疫・呼吸器内科	医療総合講義
7月9日 木	医療総合講義	医療総合講義 病理診断学 細胞診断 病理診断科	医療総合講義 臓器移植・組織移植 同種移植 形成外科学	医療総合講義
7月10日 金	医療総合講義	医療総合講義	医療総合講義	医療総合講義 俊英が育つ卒後臨床 消化器・神経内科

第2学期

1	I	II	III	IV
	8:30-10:10	10:40-12:20	13:30-15:10	15:20-17:00
8月24日 月	医療総合講義 自主学習	医療総合講義 自主学習	医療総合講義 自主学習	医療総合講義 自主学習
8月25日 火	医療総合講義 自主学習	医療総合講義 自主学習	医療総合講義 自主学習	医療総合講義 自主学習
8月26日 水	医療総合講義 自主学習	医療総合講義 自主学習	医療総合講義 自主学習	医療総合講義 自主学習
8月27日 木	医療総合講義 自主学習	医療総合講義 自主学習	医療総合講義 自主学習	医療総合講義 自主学習
8月28日 金	医療総合講義 自主学習	医療総合講義 自主学習	医療総合講義 自主学習	医療総合講義 自主学習

2	I	II	III	IV
	8:30-10:10	10:40-12:20	13:30-15:10	15:20-17:00
8月31日 月	医療総合講義 自主学習	医療総合講義 自主学習	医療総合講義 自主学習	医療総合講義 自主学習
9月1日 火	医療総合講義 自主学習	医療総合講義 自主学習	医療総合講義 自主学習	医療総合講義 自主学習
9月2日 水	医療総合講義 自主学習	医療総合講義 自主学習	医療総合講義 自主学習	医療総合講義 自主学習
9月3日 木	医療総合講義 自主学習	医療総合講義 自主学習	医療総合講義 自主学習	医療総合講義 自主学習
9月4日 金	医療総合講義 自主学習	医療総合講義 自主学習	医療総合講義 自主学習	医療総合講義 自主学習

3	I	II	III	IV
	8:30-10:10	10:40-12:20	13:30-15:10	15:20-17:00
9月7日 月	医療総合講義	医療総合講義 東日本大震災から学ぶ災害救急医学の重要性とこれからの医師のありかた 救急災害医学	医療総合講義 関節リウマチにおけるリハビリテーションの実際 血液・免疫・呼吸器内科	医療総合講義 小児外科 小児輸液・栄養 小児外科
9月8日 火	医療総合講義	医療総合講義 甲状腺 甲状腺疾患の臨床 先端医療・臨床検査	医療総合講義 糖尿病 生活習慣病の臨床 先端医療・臨床検査	医療総合講義 医事紛争 医師になる前に 知っておくべき法律問題 歯科口腔外科学
9月9日 水	医療総合講義 消化管・腹壁・腹膜 消化管出血 消化器・神経内科	医療総合講義 呼吸器・胸壁 肺癌の遺伝子治療 呼吸器・乳腺内分泌外科	医療総合講義	医療総合講義
9月10日 木	医療総合講義 人工臓器 人工関節 整形外科科学	医療総合講義 人工臓器 人工関節 整形外科科学	医療総合講義 女性と漢方 周産期学婦人科学	医療総合講義
9月11日 金	医療総合講義	医療総合講義	医療総合講義 「地域に求められる医師像～在宅医療、高齢者医療を中心に～」 地域医療教育支援センター	医療総合講義 「地域に求められる医師像～在宅医療、高齢者医療を中心に～」 地域医療教育支援センター



**KAGAWA
UNIVERSITY**

Faculty of Medicine

2015